

UFOと宇宙

UFOs & SPACE

隔月刊・1976・2月号

UFOと宇宙科学

★★★★★★★★★★

No. 16

三原市の驚異コンタクト事件 日本列島は沈没する！

テレポーテーションとテレパシー 平野威馬雄 Ⅲ中学生にもわかる微分積分(完)

✻**聖書の予言とスペースプログラム** 完 今世紀末の混乱期に他の惑星から偉大な人類が大挙して飛来するという聖書の予言は真実か？

X博士の怪UFO事件 ミシエル 2つの物体が私の目の前で合体した！

多摩湖畔のUFO!

右側の光体がUFO。池田雅行氏撮影。詳細は84頁。

空飛ぶ円盤シリーズ

空飛ぶ円盤と宇宙人

黒沼健著

円盤の存在とその出発地をさぐり、古代科学と円盤についてのかかわりあいを興味深く論証す。 三四〇頁 九五〇円

空飛ぶ円盤騒ぎの発端

高梨純一著

アーノルドの目撃からワシントン上空の円盤の乱舞まで、円盤研究の歴史と成果をまとめる。 二四八頁 九〇〇円

空飛ぶ円盤の跳梁

高梨純一著

円盤の出現と共に激増する放射能。謎の物質エンゼルス・ヘア等重要にして興味ある事項を網羅。 二四八頁 八五〇円

空飛ぶ円盤実在の証拠

高梨純一著

多くの貴重なデータにもとづき、科学的方法をもって円盤の実在を見事に証明した注目の書。 二四六頁 九〇〇円

ヒューマンノイド

空飛ぶ円盤搭乗者 平野威馬雄編

円盤着陸とその搭乗者に関する科学的究明と宇宙人の来訪、及びその活動ぶりをまとめる。 二四〇頁 九八〇円

空飛ぶ円盤の謎と怪奇

黒沼健著

円盤襲撃に関するノストラダムスの大予言にはじまり、世界各地における目にもみえない宇宙人の攻撃をまとめる。 二六〇頁 九八〇円

空飛ぶ円盤とアダムスキ

空飛ぶ円盤実見記

久保田八郎編

G・アダムスキ・D・レスリー 九八〇円

空飛ぶ円盤のすべて

空飛ぶ円盤同乗記

平野威馬雄編著

G・アダムスキ・久保田八郎 九八〇円

アポロと空飛ぶ円盤

空飛ぶ円盤の真相

平野威馬雄・荒井欣一著

G・アダムスキ・久保田八郎 九〇〇円

空飛ぶ円盤は実在する

空飛ぶ円盤の秘密

A・ミンデル・由辺貞之助訳 九〇〇円

T・ペーラム・久保田八郎 八五〇円

●東京 文京 本郷5-30 振東141750●

高文社

●京都 左京 百万遍 振京23523●

全国書店で絶賛発売中!! ★★ ★ 《ユニバースUFOシリーズ》第1弾!

海外の著名なUFO関係図書をUFO問題に精通した名訳者の集団による流麗な日本語版として全国UFOファンに贈る《ユニバースUFOシリーズ》。以後続々刊行の予定。

私は円盤に乗った! 驚異のホワイトサンズ事件 ¥750
¥160
 ダニエル・フライ / 久保田八郎訳

(付録) 宇宙人アランのメッセージ / 進歩の曲がり道 / 原子・銀河系・理解 ダニエル・フライ / 藤間弘道訳

1950年7月4日夜、米ニューメキシコ州ホワイトサンズのロケット実験場に突如一機の円盤が着陸し、内部から響く不思議な声に誘われて乗り込んだ科学者フライは、ニューヨーク上空までを30分間で往復する! その間、円盤の推進法や宇宙人の故郷と超絶した科学、哀れな地球の現状等を知らされるといふこの驚異的事実物語は、本誌第2号に掲載されて当時の読者を熱狂せしめたが、いま新装なった単行本として同著者によるすばらしい関連記事3篇をあわせ収録し、あらためて読者に贈る! UFO研究者必読の書。

パプア島の円盤騒動 宇宙人の劇的出現事件 ¥750
¥160
 ノーマン・クラットウェル神父 / 増野一郎訳

(付録) フランスの怪奇・火の玉UFO事件 / 多条光線を放つ円盤 F・ラカルト / 久保田八郎訳
 ゴードン・クレイトン

ニューギニア島パプアで1959年に一大UFO出現ブームが発生した。島内の各所に円盤が低空で降下し、堂々と姿を現したが、特にポイアナイにおける出現は劇的であった。地上数十メートルの位置に停止した円盤の上部から数名の“人間”が、歓声をあげて手を振る島民たちに手を振ってこたえる。この驚異的事実を現地在住のクラットウェル神父が徹底的に調査報告し、大事件の全貌を克明に伝えたすばらしいドキュメント! 更にフランスで発生した世にも不思議な「火の玉UFO事件」と「多条光線を放つ円盤」の他4篇を掲載してUFO研究者必備の資料とした!

書店で入手できない場合は、直接当社へ現金書留か振替でご注文下さい。
 〒110 東京都台東区秋葉原3-3 アキバビル 振替東京1-119478 ☎(255)8784(代表) **ユニバース出版社**



本誌特別取材

三原市の驚異コンタクト事件 8

日本列島の大部分は沈没する！ 不思議な宇宙人の言葉は何を意味するのか？ 高徳の大僧正が真夏の深夜体験された大事件をここに一挙公開！

〈写真〉月面の人工トンネル？——ガッセンディー・クレーターの謎！ 17

テレポーテーションとテレパシー 18
平野威馬雄

名古屋市上空に円盤大挙出現！

名古屋市の田中博人君（12歳）は、昨年1年間に円盤を50枚以上の写真に撮った。母船から発射される3機の小型円盤、地上低く舞い降りるアダムスキー型円盤など見る者を驚嘆させる写真ばかりだ。



「名古屋市上空に円盤大挙出現」（P24）より

聖書の予言とスペース・プログラム(完) 30
キャロル・A・ハニー

今世紀末、地球大変動のときに偉大な人類が飛来するという予言は真実か？

UFOと日本列島構造線 渡辺喜一 35

米下院におけるアレン・ハイネック博士の声明

宇宙交流時代——UFOシンポジウム—— 36

——描線の不一致から仮説をたてて—— 高橋洋一

作図によるアダムスキー型円盤解析の試み 42

球型コンデンサーと回転磁場 藤井信之 50

金星は生きている 52

UFO情報 54

UFO目撃レポート 60

科学ニュース 68

■ 科学教養講座 ■ 三好要市

中学生にもわかる微分積分(完) 82

〈写真〉菊池市のUFO——中学生が撮影 83

〈表紙写真説明〉多摩湖畔のUFO！ 84

南フランスにおけるUFO目撃・調査

X博士の怪UFO事件 86

エーメ・ミシェル

（口絵写真）●カラー

富士中腹の怪物体
深夜の光体をキャッチ
運動会を観戦するUFO？
黒い影昭和新山から急上昇
函館の夜空をとぶ“火の玉”
ファントム戦闘機とUFO
発光体指宿上空をジグザグ飛行

声——OPINIONS 98

本文イラスト 池田雅行
目次イラスト 松岡吉樹
作 園 石坂 清



富士中腹の怪物体

静岡県・表富士



深夜の光体をキャッチ

写真上

富士山に近い甲府盆地では謎の飛行物体目撃報告が多い。山梨県中巨摩郡竜王町に住む会社役員・土橋桂さん(36歳)も目撃者のひとり。土橋さんは2月28日の夜、オレンジ色の光体の飛行を見たが写真撮影に失敗、翌3月1日、今度は夕方から6×7の大型カメラをセットして再度撮影に挑戦し、見事に下の写真を撮影した。はじめ流星かと思われた光体は一瞬大きくなって上空で静止し赤紫色の光を放っていたが、間もなくUターンし、稲妻のような速さで消滅した、という。土橋さんはその後も何度か光体を見ており「もう一度カメラにとらえたい」と意欲をもやしている。

写真右

これは静岡県伊東市の中学3年生・佐藤一也君が撮影に成功したUFOである。佐藤君は一昨年8月29日、御殿場側から富士山に登った。途中、ハーフサイズ・カメラで周囲の景色を写しながら登って行ったが、帰宅後そのフィルムを現像すると、中の1枚が右のような物体をとらえていることを発見した。場所は五合目から六合目にかけての山道で、時刻は午後3時頃であったという。これはカメラが偶然とらえたもので肉眼では見ていないが、同君はこの物体がUFOではないかという疑問を抱きつづけ、最近になって本誌に鑑定を依頼してきた。



右の写真を拡大したもの

運動会を観戦するUFO?

10月10日—その日、福岡県久留米市立西国分小学校は秋期運動会を開催していた。近くの中3生・松野君(15歳)はこの運動会を見に行き、愛用のポケットカメラで何枚か写真を撮った。フィルムを現像してみると中に下のような写真が入っていたためUFOに関心をもっている友人の相良英典君に鑑定を依頼、相良君が本誌に送ってくれたものである。UFOが運動会の観戦に飛来したのだろうか?

撮影データ コダック・ポケットカメラ コダカラー・フィルム



福岡県・久留米



撮影データ アサヒペンタックス F3.5
50mm 距離無限大 サクラカラーN100

北海道・函館

黒い影 昭和新山 から急上昇!



北海道・昭和新山

北海道紋別郡上湧別町の中学生・河瀬万寿夫君（14歳）は昨春、修学旅行で洞爺湖方面を回っていた。6月2日午後3時半頃、彼は同級生たちと一緒に昭和新山の向かいの山にかかるロープウェイに乗り窓ガラス越しに洞爺湖を撮影した。帰宅後フィルムを現像すると、この時の風景の中に奇妙なかけが写っていた。それは今しも昭和新山から飛びたったUFOが急上昇しているように見える。空はどんより曇っていたという。

撮影データ ヤシカエレクトロロ35G
露出オート フジカラーFII ASA

これも北海道における目撃報告である。函館市豊川町に住む理容師・小山彰さんは昨年6月19日の夜9時過ぎ、天体写真を撮影中に西の空を飛んでいく“火の玉”を発見、かたわらの望遠鏡にとりつけてあったカメラで撮影した。光体は西から東にジェット機の2～3倍の速さで移動しており、5秒位たって突如消えたという。カメラを望遠鏡の上に固定しレリーズを使用したのでカメラのブレはないはずだという。

函館の夜空をとぶ“火の玉”



上の写真は甲府市の高校2年生・津金治君が撮影したものである。10月10日、茨城県小川町の航空自衛隊百里基地では航空祭が開かれていた。飛行機好きの津金君もはるばる甲府からカメラを下げて見物に行き、さかんにシャッターを切った。帰宅後フィルムをプリントすると、中の1枚に自衛隊機といっしょに奇妙な物体が写っていた。写真の自衛隊機は午後1時から始まった対地攻撃訓練に登場したF4EJファントムであることから、撮影時刻もその頃と思われる。津金君はこの物体の正体をF4Jの落としもの、気球、ゴミ、雲、空挺部隊の降下、オモチャの落下傘のいずれかではないかとも考えたが、当時の状況からいずれも否定的で、結局これはUFOではないかという。

撮影データ キヤノンFT 500分の1秒 F11 距離無限大 フジカラーFII

ファントム戦闘機とUFO

茨城県・小川町

撮影データ ユニコート 135mmF3.5 B1-5秒 サクラカラー-ASA100



10月12日午後6時半頃、鹿児島県指宿市上空を発光物体が飛行し、同市喜入町役場職員・上吹越昭さん(26才)が写真撮影に成功した。この目撃事件は地元の新報にも掲載され、上吹越さんの話として『ソンプレ口型の発光体が知林ヶ島上空を上下左右にふわふわ乱舞したあと錦江湾上空を何度もジグザグ飛行し、大隅半島の空へ消えた』と伝えている。上吹越さんはカメラを三脚に固定し135mmレンズで20枚撮影、うち2枚が光体をとらえていた。

発光体、指宿上空をジグザグ飛行

本誌特別取材

三原市の驚異コンタクト事件

●日本列島の大部分は沈没する！ 不思議な宇宙人の言葉は何を意味するのか？
高徳の大僧正が真夏の深夜体験された大事件をここに「拳公開」

●コンタクター＝北野恵宝師



世にも不思議な事件が広島県で発生した。山中に着陸した円盤から出てきた宇宙人との一時間半にわたるコンタクト事件である。しかもコンタクトティは姫路市在住の真言宗金剛院派の大僧正・北野恵宝師（八〇歳）で、学識・人格とも抜群、三十歳すぎにはチベットの秘境で偉大な聖者の指導下に四年間の修業を積み、透視力・テレバシー等の超能力を開発された現代まれにみる高德の士とくるから、こたえられない。本誌は久保田社長の友人・九州大学名誉教授・塩谷勉農学博士から寄せられた情報により、姫路市へ記者を派遣してインタビューし、直接に師から詳細をお聞きした。塩谷博士は北野師の友人でもあり、いち早く本誌へ報告されたご厚意に深甚の謝意を表する次第である。

☆事件の概要

昨年（一九七五年）七月二日の午前一時から二時半頃までの深夜、所用あつて広島県三原市の禪宗大本山仏通寺に滞在していた姫路市の真言宗本覚寺の住職・北野恵宝師は、仏通寺の上空に円を描いて出現した円盤が仏通寺山の八合目あたりにある大きな岩の上に着陸したのを目撃した。その前に、どこからともなく不思議な声が聞こえて眠っていた師は眼を覚ましたのである。「友よ、友よ、起きなさい」と日本語で呼びかける。昼間の執筆の疲れで熟睡していたものの、起き上がった師が、ふと何かを感じて顔を窓の方に向けてと、カーテンを透して差し込む強烈なライトに気づいた。驚いた師の耳元に「カーテンをあげなさい」と

ふたたび声が響いてくる。不思議に思いながらカーテンをあげてなにげなく夏の夜空を見ると、東方から奇妙な光体が飛んで来るのが見える。星か、人工衛星かと、いぶかりながら見つめている北野師の方へ、光体は音もなく一直線に近づいて来た。

光体は師が部屋をとった深山荘（仏通寺の境内にある山荘）の上空を一周して向かい側の山にある大きな岩の上へ急速に着陸した。当夜は満月が皓々と輝いて遠くまでよく見通せた。その距離はかなり遠方であることが翌朝判明したが（三〇〇ないし五〇〇メートル）、どういいうわけか一〇〇メートルばかりの近距離のような感じがして、あとに続く会話の声も間近で話すよう

に聞こえたという。

光体をよく見ると、噂に聞く、空飛ぶ円盤らしい。すると上部のドアが開いて出て来る人影が見える。驚いたことに我々と同じ人間なのだ。焦げ茶色の長いガウンのようなものを着ている。身長は普通人と変わらないし、歩き方にも特に変な様子はない。

この「宇宙人」らしき人間は見かけ上、約一〇〇メートル離れた岩上から

☆円盤は数機来ていた

以下は記者との対談である。

—その宇宙人は日本人のようなタイプでしたか、それとも白人に似ていましたか。

—日本人のようだったか、白人のようだったかは、少し離れていたからわかりませんが、髪の毛は黒くなかったように思う。

—宇宙人は一人だけですか。

—いいや、円盤の中にまだ何人かいるようでした。少なくとも四、五人はいたりしている影が見えるのです。ですから円盤は小さな物ではないですよ。そうとう大きな物ですよ。

—直径が一〇メートルも二〇メートルもあるような物ですか。

師に向かって呼びかけたが、その声は電話で聞くようなはつきりした声で、はるか彼方から大声で呼びかけるような調子ではなかった。これも不思議な現象である。

宇宙人は師に向かって筆記するよう命じて、わけのわからぬ奇妙な言葉を発し続けた。そして多くの驚くべき情報を伝えて、やがて円盤に入り、黒の空に飛び去った。

「そのくらいはあると思いますね」

—着陸するときには何か足のような物を出しましたか。

—足も何も出しません。サーッと飛んで来て、サーッと岩の上に乗りました。私が見た物は——

—円盤はそれ一機だけですか。

—いいえ、その上空の近くにもう三機くらいいるんですよ。人工衛星ならサーッと動くらうし。星よりもだいぶ大きく見えるんですよ。

—恐怖感はなかったですか。

—ええ、恐怖感はなかったです。最初自分の体に電気が通ったようですね。しびれていたんですが、だんだん話をしているうちにスーッとなくなってきました。最初は気圧が変わったよう



●姫路市の本覚寺

☆宇宙人の不思議な言葉

さて北野師は宇宙人から何を聞いて書き取ったのか。その奇妙きまでれたつな言葉を全文紹介しよう。

- | | | | |
|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 「ググジャラー ドバーシャジーラ | アンバツパー ニギツタ ベヤツチザ | 「ググジャラー ドバーシャジーラ | アンバツパー ニギツタ ベヤツチザ |
| ーザ オジャーマ カギ ドバ ジジ | メー ムーザー ギツチャータ アバ | ーザ オジャーマ カギ ドバ ジジ | メー ムーザー ギツチャータ アバ |
| ギジャラー ドギーミ アシューマ | ホバホバー タベツギ ブニヤーム | ギジャラー ドギーミ アシューマ | ホバホバー タベツギ ブニヤーム |
| ハバツペー ガザツシュー ラバツボ | ボヤーホーバ アンダダール ベツチ | ハバツペー ガザツシュー ラバツボ | ボヤーホーバ アンダダール ベツチ |
| ヤームーギギ ジャンババミ ムギツ | チバヤーガメラツポー ニューシジツ | ヤームーギギ ジャンババミ ムギツ | チバヤーガメラツポー ニューシジツ |
| ラー ポポー ドヨツパーバ ジジツ | ケヤームーグ ポニツギ アニツチャ | ラー ポポー ドヨツパーバ ジジツ | ケヤームーグ ポニツギ アニツチャ |
| ームム ガガツニユーフミフラー | ババー チオンチュエーラ ゲツギー | ームム ガガツニユーフミフラー | ババー チオンチュエーラ ゲツギー |
| ラ ニニーバーバ ガラベンバーラ | ニジャー メームーラ アルルッチ | ラ ニニーバーバ ガラベンバーラ | ニジャー メームーラ アルルッチ |
| タムグーガタヒグーガ グラツポーム | アムーチ ダベダベダ ニニツチャ | タムグーガタヒグーガ グラツポーム | アムーチ ダベダベダ ニニツチャ |
| ーハニヤンガ アビアビーガダメルン | グーグ シューシャラーラグジツギ | ーハニヤンガ アビアビーガダメルン | グーグ シューシャラーラグジツギ |
| ーラ ニニブームーグーグ ドツチ | ヤームーガ パヤツギ ポニツグ ラ | ーラ ニニブームーグーグ ドツチ | ヤームーガ パヤツギ ポニツグ ラ |
| パーパーツギ チャガメーンプ | チ | パーパーツギ チャガメーンプ | チ |
-
- | | | | |
|-------------------|--------------------|-------------------|--------------------|
| ヤンプーラ ポニツ チャームーム | メグツチエーム アムーギツチ ラグ | ヤンプーラ ポニツ チャームーム | メグツチエーム アムーギツチ ラグ |
| ーム ラグーム デューメンギー | ダブダブダークール アギツタマポー | ーム ラグーム デューメンギー | ダブダブダークール アギツタマポー |
| ラ ヒューミツチャーテムボンバーラ | ギチャーメメンダーヒーガ チャンボン | ラ ヒューミツチャーテムボンバーラ | ギチャーメメンダーヒーガ チャンボン |
| ーガーガ ドラツシャームーガ ニギ | タベツーサ ジャンプーガ バニヤ | ーガーガ ドラツシャームーガ ニギ | タベツーサ ジャンプーガ バニヤ |
| ーガバニヤガ アムアームンユース | ヤンガーモ ポロンバーム ランブン | ーガバニヤガ アムアームンユース | ヤンガーモ ポロンバーム ランブン |
| ラーガ ドロツプーニーガ ジャユツ | ーバ ハニツラツギ ジャメーム プ | ラーガ ドロツプーニーガ ジャユツ | ーバ ハニツラツギ ジャメーム プ |
| ラツシャンパーバ インダングトル | ルノベツチアニツパーバ ジャコーメ | ラツシャンパーバ インダングトル | ルノベツチアニツパーバ ジャコーメ |
| ニーラ ポロンガミー ベツチーヤ | ムーガーガ チャップーム バシヤッ | ニーラ ポロンガミー ベツチーヤ | ムーガーガ チャップーム バシヤッ |
| ガヒ ジューヒーラ オバツプフラー | ラ ロニンガチー ニバツタタタ | ガヒ ジューヒーラ オバツプフラー | ラ ロニンガチー ニバツタタタ |
| ルベンパール グシャー シャンパー | ニベロツギーガビツチタムーミ ア | ルベンパール グシャー シャンパー | ニベロツギーガビツチタムーミ ア |
| ラーン ハーニメ マーシューガド | ヤツポーラ チガツパニヤツギー | ラーン ハーニメ マーシューガド | ヤツポーラ チガツパニヤツギー |
| ツチョーグ バガツチニニール ヨロ | ンバーム ガザツチーミヒーラ コー | ツチョーグ バガツチニニール ヨロ | ンバーム ガザツチーミヒーラ コー |
| バンパーラ ドニツギガヒーバ ソモ | ロンダール アニヤツチーバーバ | バンパーラ ドニツギガヒーバ ソモ | ロンダール アニヤツチーバーバ |
| ルングベヤー チャー ガニツチー | | ルングベヤー チャー ガニツチー | |

にブワーとなりましたが——。それで宇宙人からノートを出しなさいと言われ原稿用紙を出したんですよ。そうしてあれを書いたんです。原稿用紙一九ページ書きました」

——宇宙人の言葉を書きつづつたものですね。あれはのときに書いたものですか。

「そうです。そのときに書いたものです。本当に私が書いたんですよ。その意味がわからないですよ。チベット語でもないし、英語でもないし。それで『どんな意味かわかりません』と言うと、今はわからなくともいずれこれを解説する者が出てくるから、ただ言われたまま書けばよいと話なんです」

——それでは北野先生は田盤の着陸し

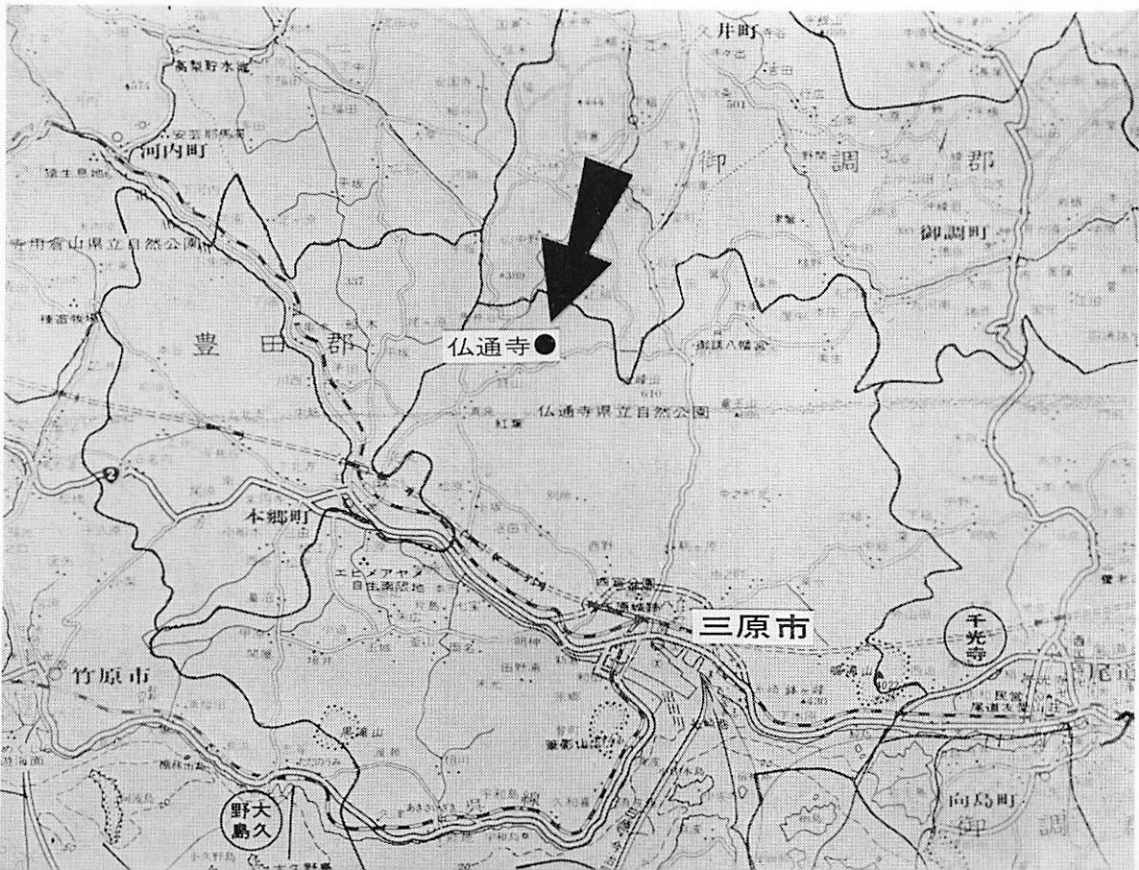
た所まで登って行って、面と向かい合って話されたのですね。

「いいえ。それが不思議なんですよ。朝、起きてその夜田盤が着陸した所を見たらかなり離れているんですね。どういうわけかもっと近くで話したように思うし、その声ももっと近くで聞いたように思えるんです。まるで電話しているようでした。それでいて、聞き取れないところは二度繰り返してくれました。とてもやさしい口調でした」

正座した、背の低い、小肥りの、がっちりした体格の老師は、ていねいな言葉で高齢とは思えない熱のこもった話を続ける。作り事のような調子は、みじんもない。

ダ ブーダブーダブー ブロン グニ
 ーム ラバッチャーム グニッチャー
 マ ホヤックグバーバ ドロンチャサー
 ニ ヤガングーラ ホベホベツーチ
 ニニームベーラ オギメンターム プ
 ッチャーマーム ロヂャーシャムーガ
 ジュブーグーラ ロベッタラバジ
 ヤメンガ ハロンバーバ ドヂャンガ
 ーチ ベニツギーガ バヤップモヤ
 ーラ チューギューラ バニンギジャ
 ルーグ オヤツチャチャーム ポワッ
 ビーラ オロンバ シワッパブルグ
 ギーラ ベニツチワー オモツプー
 ギジャメンーダ ドドロンガ バヤ
 ギージ チヤメング ロンバーモーシ
 ヤーガ ギギッパーム グヨナーガ
 ーラ ドロモツチ シーバ グラン シ
 ヤールール モメツチャーム ヨザツ
 チガガーム ムラーガ ドヤツガーム
 ハルメラーチャー イヂャンパーラ
 ニニシューグーラ ビョンギーガ ア
 ラツチャーム ドラツギヤツチー パ
 ニツグーラ ロロンバーバ ヒメムメ
 ーガ ビピングーラ ビャージャヤー
 ーラ メロンツバーラ ムメンチャ
 ーラ ドロングーシャ ニガツチーマ
 アババーム メニツギダーム ホロ
 ッパマーム ユービシャーニニ ニジ
 ヤーガーガラ デュームメーラ ハ
 バツチャーフーラーロバツチマ アメ
 リジャームーグ ドラメガツパー ロ
 ヒンバーニ ジャムーシューシャーラ
 ニギツチャーム ナラツパーラ ヨ
 ダーギラフーム オメツパーム ギン
 ランギーチャー フムームーヒ ソル
 ベツーチャンミ ニジャンガ
 マモツパームメーラ パンバニャーガ
 ニニツチアバーラ ドジツギラーラ
 ズツギチーム アメリカンガポロ
 シンバーマ ロモツチャーム ドヂャ
 ー ガーニ バヤツチラーム オンヂ
 ヤーガメラーラ ポボツチ ヤムヤム
 ーグーラ バヤツギーシャムーガ ド
 ニツパー チュープーラ グランギ
 ーラ ジャシャーメラーラ オビツチ
 ーガ ヤメツガームーム ロロンバ
 ー アビアビーチャララ フヒメンバ
 ヤツーチ ムメラング ドロツプー
 バメラメーガ バヤツギー シバツ
 ブルーガ ジャガンチーミーフル
 フルーラ ジツパースロンモンバ
 バニ ドロニングーガ チャームーガ
 チャームガ バヤツギヤーム ドロン
 モチャーグ バモンー ググツチャ
 モンバーニニニ モロンチャーム
 ガ ヤニンギリ ソベツチャララ ギ
 ヤジャメンダロバツチコーララ アム
 ーメー パンバーラーラ イギダビ
 ーダ ソギツチャームームー コービ
 ガンーグーガ バンガツチャー シュ
 ーチューム ベバツパーム ドムドム
 ドムーグ ベベツギ アバーバラ ビ
 ンボラツプハニャーヂヂーラ ドヤツ
 ガーム チャガンバーマ メニツツ
 チュ

●三原市の地図。(昭文社版エアリアマップ「広島県」より)





北野師が描かれた円盤の図。岩の上に着陸した光景。

ーム ベランガーチャーム ニジャッ
 チャーム ハニッギーラ チャンプ
 ンキーギシモール ドロンブンク
 ダブツーチ ダブツーチ ヤギーラ
 ビカーニチーム ドドッチャ シヤン
 パーラ ニニッギチャームール オヨ
 ビンダー ラグニール ハヤベツチャ
 ームール ビヤングーラフラメルグ
 ドヤッギー ブベツチャーム アバ
 チャー ギルダングー ポロングーデ
 ャーロバーメ ヨザッチャール ギモ
 ツチャムグ ダベダベーカー ニモン

チ アバームドモツチラー ヤガメン
 チャー ギラベルグ ニヤサンヂデ
 ーラ ゴルメギツチ ハジコラ ロ
 ルメンダグーチヤームメーガ ジャゴ
 ンブーラーガ ドロングーチャー
 パブーパブー ガザッチバーム ニサ
 メガーム ハザミメーラ トニツチャ
 ーガーム ドロングーバ ジャガール
 ラベツチ ヤメンケール ハルバル
 グ ヤガメンダー ザンビンガー
 ニヤラメラーム トンロングー チャ
 メラップー ギロンブーラ メチャー

ムーガーニ マザツータチャラ ニポ
 ンツチ マメッガーム ドヤツパー
 パメメラーマ ヤギンダールーム ロ
 パニヤーム メロンガ ジャ シヤ
 メラーム ホロンギー ヤモツチャー
 カーラ ロビンケール ラバールバ
 チヤムトンガニモツチーラ ポヤ
 ニギーム ドマツチラニシヤーム ロ
 ロンクーラ ヤチェンダー モンジャ
 ミーム ニギツチャー ポチャムーム
 ガギツザーチャーニギチャーユーム
 メローマロン マモツケール ラバ
 ラバードニツグ ヤモラソバール
 ポロンクーラジャシヤール オヨツビ
 ツチャー ヒメランバー ハヤッガ
 ザ ヨヨメラーム ザロンクーラ
 ヤブーラ ゴロメツチャーム ビヤ
 ジャメンダー ボロングー クルモメ
 ーラ ヤギツチーラ ダムメラーラ
 アララツチャー サローグーム ラシ
 ヤモンクーラドビニ デヂーメ ラモ
 ングー パヤツチアササ ゴラメラ
 ーフクラ ヨロンクーラニヤールガ
 ジャブシラ ジャブシラ ドヤッ
 ガーザ ジャコメンケ ブラッーガ
 ーガ ドヂーメガーム ニヤンヒール
 ポニツシヤール ガチャンパーラ
 サロンケール ニニメラール ザ
 ザザーラペラーロギーチャーム シ
 シヤームムラ ドロンバヤール シヤ
 ノムランバ ロジャメラールガバチャ
 ボーム ガラメラール ホベツチャー

ギチャラーガ ドヤンケール パチャ
 ーメンガ グルッタータ ジャメンダ
 ーガ ロベツチロームーガ メンダン
 ーラーラ ポムツチャームーギ ジ
 ヤガメンダーニヤヤ ブッギヤーム
 ーラ ポニヤンガール ポニヤンガ
 ーラ ポニヤンガール ジャメロール
 ポニヤンガール ポニヤンガール パ
 ーラ ムメツチユーガ ポニヤン
 ガール ジャバツパー ジャバツパー
 ダダツチャー ムロヂャーガールメ ポ
 ニヤンガール ヤムヤムームール ラ
 ランババメロー アビシヤームール
 ゴジツチャー ヤムルー ギチャーメ
 ンダー ユーゲー ニルンダーラ ポ
 ロンチャーガメンダー アムツチャ
 メンダ ニギツチヒメーヤーム ドロ
 ーバロム ハニヤール シヤベン
 ーダ ギロニール ハンパーラ ダ
 ムメラーガ ロジャールメンダー ラ
 ベツチー シヤールラ ロバツチーラ
 ギヤサンヤームーム ドモロツチャー
 ムーグ イランバー シュームグ
 ビラペラツパードビダガーン ビラ
 ペラツパー ムザーメラーム ヨーム
 パラメラーギ ヤガメンチャームー
 ムヤロンパー ム ジャメンダーガ
 ガ ポニツチャーームメンケー ニゴッ
 キーニチャーラー ロマンバーム ヤ
 ヨツチミザーザ ギロンンチャーパ
 ムツチヤールム ポロボンダーメ
 メ ヤギンダール ポヤボヤツシヤ

ールーム ニンダンギ ボラーム ア
メニダールグ グモンヂャーラ
ヤミッチーラ ドラッターム アジャ
メンーガ ハブバブグ ドランプー
ラグヨミッパラー ヤラッパラー
ニジャングーム ホロロンパー

ルイチダヤッチャー アンーアンー
シー」

何という意味なのかさっぱりわから
ない。だれか解説できる人はいないだ
ろうか。

☆太陽は熱を持たない

—その他、宇宙人が教えてくれたこ
とはありませんか。

「ええ、宇宙人は我々だけではない、
どこの星にもいるぞ、と言うのです。
これからだんだん円盤の現れる数が多
くなるぞ、とも言っていました。それ
から私の聞いた話では、いくら原子爆
弾を爆発させても地球が変わったりし
ない。宇宙はものすごい力を持っている
ので、そんなものを吸収するのはわ
けはない。けれども人間が地球を破壊
させる恐れがあるぞと言うのです。そ
れが私にわからないんです。また地の
底に資源は無限じゃないぞとも言っ
てます」

—資源を他の物に求めようと言うの
ですか。

「そうです。そう言うのです。結局い
まのまま資源を使っていると、公害の
ことは心配ないけれど、地球は風船玉
のようになるぞと言うんです」

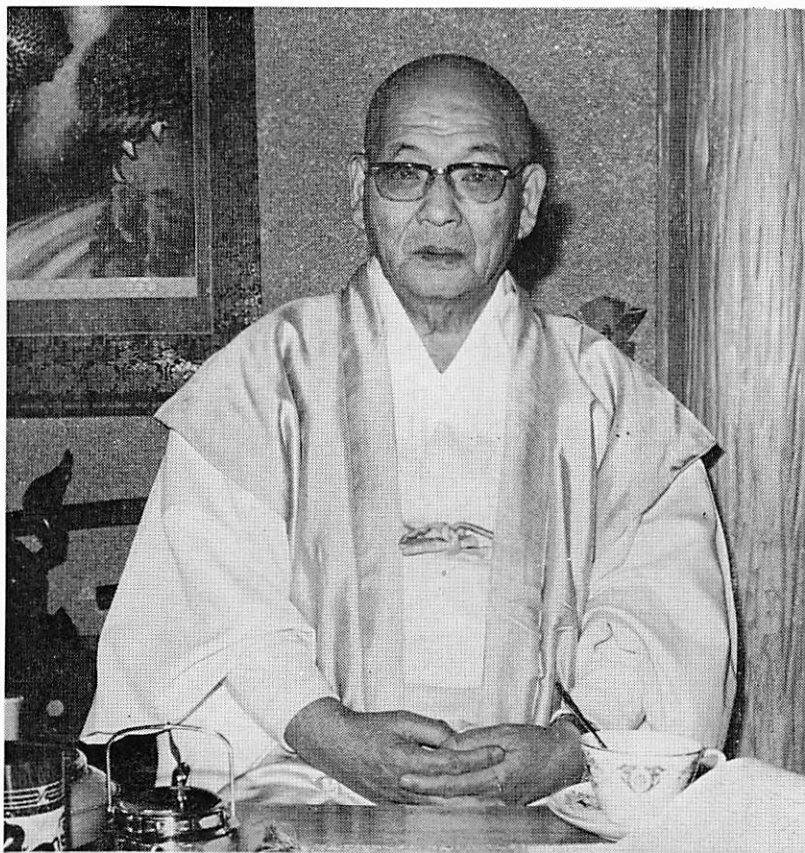
—人口が増えすぎるといふことでは
か。

「そうです。ですから地球のどこかで
『ノアの洪水』のようなものが起こ
るのでしょうね。また『地球は無限で
か』と尋ねたら『地球は無限ではな
い』と答えたですよ。おもしろいこ
とに太陽は熱ではないと言うのです。宇
宙人がね。こんなこと話したら人に笑
われたけど。やはり太陽は膨張し
たり収縮したり呼吸するんですね。そ
れでね、地球は一年に一回呼吸するだ
けだと言うのです。地球も生きてるか
ら一回吸って一回吐いて呼吸すると言
うのです。おもしろいこと話してくれ
たんです」

—太陽が熱ではないというのはおも
しろい話ですね。

「ええ、それでね。円盤を見たとき、
音がするのかと思っていたら音がしな
かったので、私が尋ねてみたんです。

●熱をこめて語る北野忠宝師。(本覚寺にて)



『飛行機に追跡されたら追いつかれる
のですか?』と。そうしたら燃料のい
らない宇宙の波に乗るから、いくらジ
ェット機が来ようが追いつかれる心配
はないと言うのです。それで火星人で
すか木星人ですかと尋ねても返事がな
いのです。この太陽系か他の太陽系か
もわからないのです」

—どこの太陽系かもわからないので
すか。

「この太陽系ではないような気がする
んです。そして、『友よ! 友よ!』

と私のことを呼ぶくらいですから神や
仏でもないのですね。それで私が
『仏ですか。神様ですか』と尋ねたら
『仏でも神でもない。宇宙人です』と
答えたのです」

—自分で『宇宙人です』と答えたん
ですか。

「自分でそう言ったんです。それで、
『金星ですか。この太陽系ですか』と
尋ねても返事がない。『あなたは世界
中の言葉は何でもわかるのですか』と
尋ねたら『はい、わかります』と答え

たです。ドイツ語でもフランス語でも英語でも何でもわかると言うのです。ですから『あなたと話すときも日本語で話しているんです』と流暢な日本語ではないが覚えてたの口調で答えるのです。男の声でも女の声でもなく、やさしい声ですよ。ですから幾分は肉声でないような部分があるんです』

——それでは何かの装置を使っている

——宇宙人の性格についてはどのよう

に感じましたか。

「そうですね。おだやかな、あたたかみのある人格です。私にとっては神様よりも仏さんぼつさんのようですね。月に住んでいるんですかと尋ねても『そうでない、そうでない』というやわらかな口調でしたね』

——月に人間が住んでいるようなことは話さなかったんですか。

「それは聞かなかったが、他の惑星には住んでいるらしいですね。地球の科学者が考えているような、あんな殺風景なものじゃないらしいね』

——この太陽系の各惑星に人間が住んでいると語ったのですか。

「そうです。まだ地球人の知らない惑星がもう二つこの太陽系内にあるよと

のでしょうか。

「私もそうだと思うのです。『友が日本語で話しても私はこれでわかるんです』と言うのです。おそらく円盤の中に装置があるんでしょうね。私がそれはコンピューターですかと尋ねると『そんなに遅れた物ではない』と言うのです』

不思議な機械があるものだ。

☆他の惑星にも人類がいる

も言っていましたよ。『どうして一個あるんですか』と尋ねたら、一一個ないと自動調整ができないと言っていました』

——その他に何か——。

「ええ、宇宙空間を何光年もかけて地球に来たのでしょうから、私は『寿命はあるんですか』と尋ねたら『寿命は無限です。死ぬことはありません』と答えました。また『友よ。あなた方も長生きしたいなら、煮た物を食べさせなければどうにもなる』と言いました』

——つまり生の物を食べるということですか。

「はい。生の物をね。ですから宇宙人は粗末な物を食べているんだね。『美食したりすると命が短くなる』と言っ

ていました。また、おもしろいことに

『友は近い内に救急車に乗るぞ！ ただし、命に別条はない』と言われたのです。そのときはそんな馬鹿なことはないと思いましたが、交通事故にあつたら大変と、怖くて自動車に乗れなかつたんですが、九州で藤原弘達さんと講演した後、魚の骨がノドにささりましてね。ノドがものすごくはれたんですわ。それであわてて救急車を呼んでくれたんですが、そのときに円盤から出てきた宇宙人が話したことを思い出しまして『あっ、このことか！』と思いついて『命に別条はない。すぐに治る』と聞いていたもので安心して病院に行きました。まわりの人が心配したそうなんですが、『宇宙人に、すぐに治るから大丈夫と聞いているんだから』と話してやりましたわ。ですから、自分の身のまわりのことまでこまごまと教えてくれたんですが、みな当たっているんで氣味が悪いんです……。まだもう一つあるんですよ。『友の一番親

☆日本列島の大部分は

沈没する！

——何ですかそれは？

『ラーマン大統領が殺される』と教えてくれたんです。パングラデシユの——。それで私のまわりの人にもそう

しい人が亡くなる』と教えてくれたんです。ところがちょうど二カ月後に急に私の親しい人が亡くなったのですよ。何もかも教えてくれたことが当てるので恐ろしいような気がするのです。ですから私は、たとえ人が何と言おうと宇宙人を信じるようになりまして。地球人が何をしようと思んなわかつてしまうのだから——。円盤が存在することも信じます。だれが何と言っても私は実際に見たんだから——。科学を私は否定しませんが、地球上の科学なんて、進んでいる、進んでいる、というけれど、まだまだですね。地球上の科学を信用できなくなりました。宇宙人にくらべると子供みたいなものですよ』

——宇宙人には未来の出来事がすべてわかるんですか。

「わかるんですね。いくつか大きなことを教えてくれました。一つはすでに起こったんですよ。宇宙人も『これはすぐに起こるぞ』と言っていました』

話しておいたんですが、その暗殺事件を知ったときにはびっくりしました。まわりの人も当たった、当たった、本当に当たったわい、と言っていました。ま

たこんなことも言っていましたよ。『外側地震帯が伸びていって、四国と九州の間（豊後水道）を通過して山口県から日本海に抜けて頭を上げる。それが第一の変動だ』と言うのです。私にも信じられないんですが、聞いたことは聞いたんです」

——どうしてそうなるんですか。

「それがね。地球の地軸がだんだん傾いてくるのだからそうなのですよ。そして『やがて地球にも大変動が起こるぞ』と言っています。そうすれば地球上の様子も今とはだいぶ変わって、海底であった所も隆起するだろうし、今の世界地図を全く描き変えることになるでしょう」

——日本列島についてはどうですか。

「私はこのように聞きました。『西に高く、東に低く沈む』と。結局、豊後水道の辺が頭を上げるらしいからね。それでも全部沈むことはないと言っていましたわ。それに人間全部が死ぬようなこともないらしいね」

記者はいささか興奮して尋ねた。
——それはいつ頃に起こるんですか。
「今すぐにはないらしいが、もう少し先のことでしょう」

——宇宙人の来た目的は何ですか。
「それでね。私があることを尋ねたんです。そうしたら『人類救済のためです』と答えたんです。地球人を滅ぼすためではないんですよ。そうして、い

ろいろ話を聞いているうちにアッと言う間に時間がたつてね。『友よ。さようなら、また会いましょう』と言って手を振りながら円盤の中に入って行きました。円盤が飛び立つときには真上に上昇してから着陸したときと全く同じコースを通過して帰って行きました。フツと気づいて時計を見ると二時半になっていましたよ。私にはもう一度あの宇宙人に会える気がするんですがね」

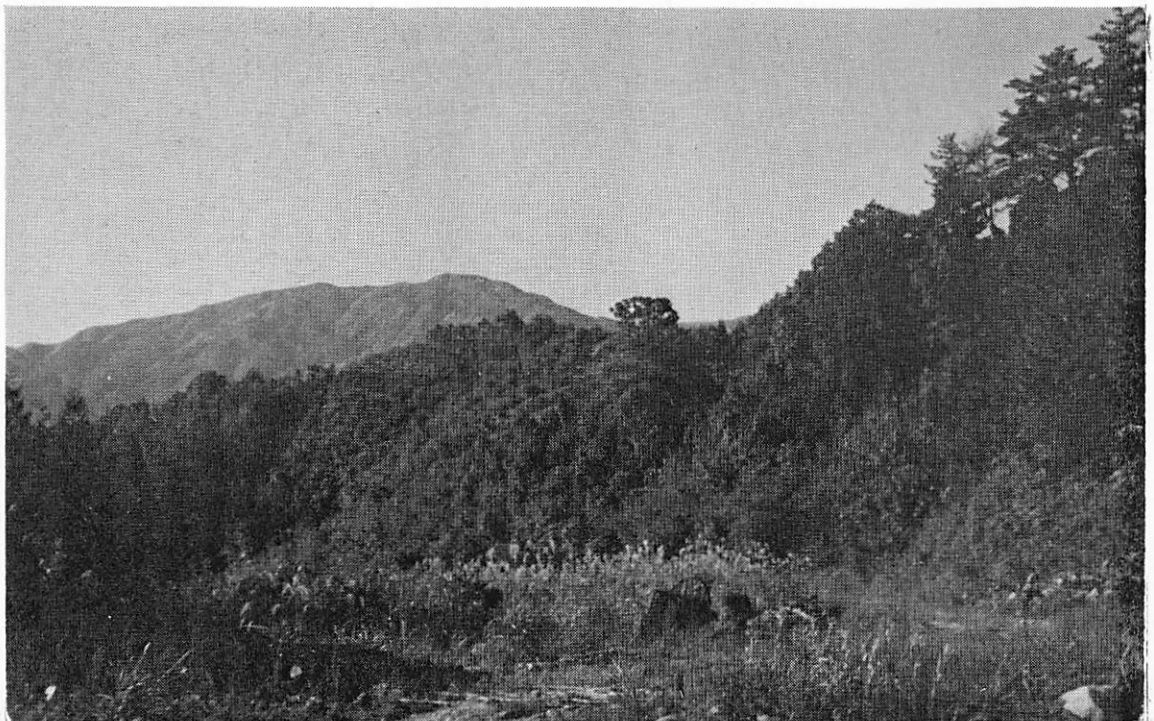
——宇宙人の伝えた言葉の意味内容についてはどのようにお考えですか。
「私には全くわかりませんが、これを解読するものが必ず出てくると思うのです。おそらく大変動のことを書いた予言的なものではないか、と思うのだけれど——」

——その他、何か宇宙人は話しましたか。
「三つほど大きなことを教えてくれました。それが現実になるまで発表しないつもりですが、一つはその後すぐに現実のものとなりました」

——それは何ですか？
「先ほど話したバングラデシユのラーマン大統領が殺されるという予言です。それがピッタリと当たったんですわ。気味が悪くなりますよ」

（注）元アワミ連合総裁でバングラデシユ大統領になったラーマン氏は昨年八月一五日のクーデターで殺された）

●北野師がコンタクトされた三原市、仏通寺山（手前の山）。円盤が着陸した場所は画面外の少し右手になる。ここは市内の奥地で、遠方の山は中国山脈。



☆チベットで修業中 額に宝石をつけた

——北野先生はチベットで修業された
と聞きましたが。

「修業しました。四年間ね。仏教ヨガ
ですが。テレバシーなどの超能力を
開発する業をしましたが、宇宙人にく
らべたら問題にならないね。私を教え
てくれたラバニナル・グレンダとい
う方は四〇〇歳です」

——四〇〇歳ですか！

驚いた様子を見ると写真に撮った姿
を参考にして作った人形があるからと
言って隣室まで案内された。四方をカ
ラスで囲んだ木箱の中に高さ四〇セン
チほどの人形(博多人形らしい)が置
いてある。色黒で眼が異様に大きく、
前方を見つめる鋭いまなざしである。
あごには短いヒゲをたくわえて、白い
布をまとい、素足で直立している立派
な姿である。

「これが私の師匠です」

——この方の能力はどうですか。

「テレバシー、透視、予知など何でも
できます。山すそからバツと行きます
しね。峯から峯へも空中をスーッと行
きます。私が一〇日もかかって歩く道
のりを一〇分間で行きます」

——その他には？

「過去を透視しますね。自分の前生の
ことも話してくれました」

——人間の生まれ変わりのことでは
ね。

「はい」

——この方のような能力者はチベット
にたくさんいるんですか。

「いますね。こういう人は山から下り
ないんです。一般の人々と混ざると能
力が落ちるから……」

——額の額に宝石を埋め込む風習があ
るそうですが？

「そうですね。この人はつけませんが、私
はここに付けてます」

額を指さしてさわるようにとじくさ
をして見せる。伝統的なヨガの修業者
は超能力を開発するために額の中央に
宝石を埋め込むとは聞いているが、ま
さかこの先生が——と一瞬驚いた(頭

の内部にある松果体を刺激することに
よって超能力が開発できるといわれて
いる)。おそるおそる額に手を当てる
と、たしかに一四玉くらいの平らかな
たまりがそこに盛り上がっている。表
皮の中に閉じ込めてあるらしい。

——どんな石を漬けていらっしゃるの
ですか。

「青いような白いような色の石です。
修業僧が漬けるんですがね」

ラピス・ラズリのことだろうか。こ
の石を額につければ超能力が出るとエ
ドガー・ケーシーも言っている。

——超能力は出てきましたか。

「ぼちぼち出てきましたが、宇宙人に
くらべたら問題になりません。テレバ
シーや透視の練習もしましたがね」

——イエス・キリストの能力について
はどうですか。

「彼は先天的な能力者ですね。本当に
能力があったと思います。彼もヨガの
修業者だからね」

——釈尊についてはどうですか

「(イエスは) 釈尊以上の能力者だと
思います。私のチベットでの神秘体験
は釈尊でなくイエス様です。イエス様
が現れたんですね。私がヒマラヤで修
業をした洞窟はイエスもマホメットも
ヨハネも修業したんです。イエス様も
宇宙人に会ったことがあるように思
いますね。ヒマラヤには宇宙人が降りて
来るといふ所があるんですがね。ララ
ザンといってね、テッサンの西の方に
……私の会った宇宙人はこんなことを
言っていましたよ。『地球の人間は悪い。
悪い人間だ!』。また、こんなことも
言っていました。『地球人の中に、たと
えば日本では日本人のような姿をして
いる宇宙人がいる』

——宇宙人の来た目的はやはり地球救
済ですか。

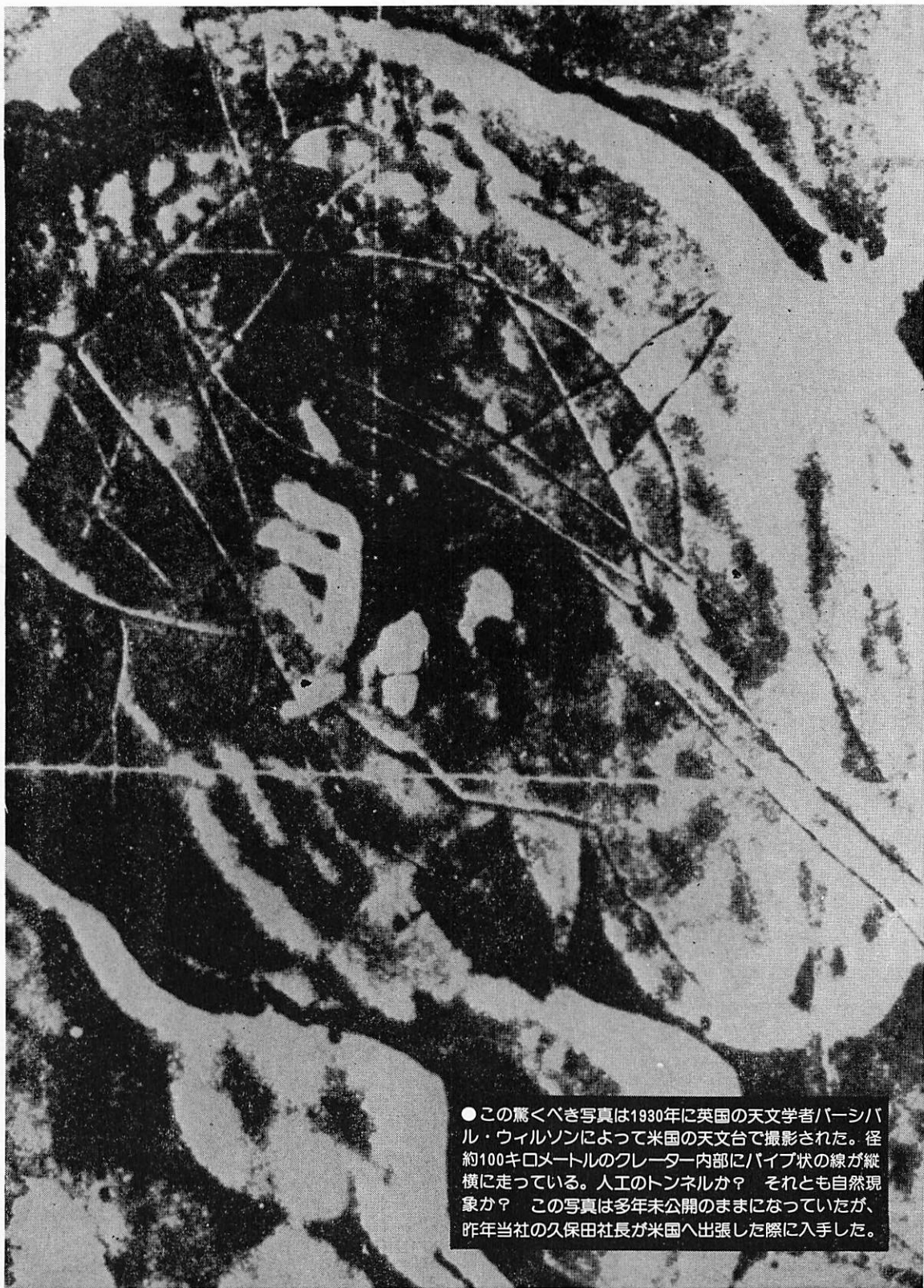
「そうです。地球救済です。とにかく
この事件で感じたことは、地球の科学
者の考える視野が狭いことですね。も
っと宇宙に目を向けるべきですよ。私
は誇大妄想といわれるかもしれない
が、何ごとでも誇大妄想的なところが
あって文化が発展するのではないでし
ょうか。もう寿命なんて問題ではない
ね。死ぬことはあっても命は永遠だと
いうし——。やはり死んで他の惑星に
生まれ変わることもあるらしいです
ね。その人のレベルに応じて——」

北野師のごとき人格高潔な方がフィ
クシオンを話されるとは考えられな
い。してみるとこれはきわめて意味深
長な重大事件である。しかも日本の運
命まではっきりと予言されたのだ。師
はどうやらその時期をご存知のようだ
が、パニックが起るのを警戒して秘
しておられるようにも見受けられる。

その他にも驚異的な情報を伝えられた
ようだが、やはり明言はされない。賢
者は卓越した洞察力で一般大衆の精神
の状態と社会への影響を見抜いている
のだから。秘しておかれるのがよいの
かもしれない。それが賢明な態度なの
だ。大脳首部がUFO問題の真相を
容易に公表しない理由にも一脈通じる
ものがある。何も知らぬ一般大衆こ
そ、むしろ、しあわせ、なのだろう。

月面の人エトンネル?

ガッセンディー・クレーターの謎!



●この驚くべき写真は1930年に英国の天文学者パーシバル・ウィルソンによって米国の天文台で撮影された。径約100キロメートルのクレーター内部にパイプ状の線が縦横に走っている。人工のトンネルか？ それとも自然現象か？ この写真は多年未公開のままになっていたが、昨年当社の久保田社長が米国へ出張した際に入手した。

テレポーテーションと テレパシー

UFOの作用か？ 不気味な雲の出現と 不思議な瞬間遠隔移動

平野威馬雄

UFOについてのいろいろな研究のなかで、ちょっと風変わりというか、ある意味ではもっともまともなぶつかり方をしている一人にトレンチがいる。周知の如く、円盤出現の頻度に比して、その目撃例が目を追って顕著な数にのぼるにつれて、世間での取り沙汰とは没交渉に、いろいろな国の政府、当局者は、手をかえ品をかえて、なんとしてでもUFOの実在性を否定しようとするようになって、あれは自然

現象の一つだとか、ヒステリーの産物であるとか、全くとるに足らぬナンセンスだとか言いつづけたが、どんなにごまかし、無視しようとも、UFOの飛来ということは、疑いきれぬ『現代の最大の神秘』であることに間違いないのである。

トレンチはその著「永遠の主題」の中でこの神秘性に体当たりしている。この人はUFO運動の世界的なチェアマンといわれているほど、UFOの神

秘と物理的現象との間の関連性を深刻に追求した第一人者である。一体、我々人類は他の遊星からばらまかれた「種」から成長したのだろうか？我々は、その意味での混成、体なのだろうか？ UFOの法外もない執念深さの背後にはどのような意図がかくされているのだろうか……など、など、などの疑問に、大胆な推理と臆断をかまえてかかるこの人の縦横無尽の追求ほど痛快なものはない。

どの辞書をみてもテレポーテーションにはっきりした定義はない。それどころか、テレパシーにしたって、まだ科学的にはっきりとした「了解」は得ていない。

だが、R・タンプリングという人はその「かれらはどこから来たか？」という著書の中でテレポーテーションに次の様な定義をつけて、「物理的關係なしに、物体がある一点から他の一点に移動すること……これをテレポーテーションという」と言っている。

つまり、なんら外的作用もなく物体が遠隔の地にひとりで移行することである。

そこです、およそ四世紀ほどさかのぼった、ある時、突然この現象が起こった事実からおはなしよう。UFOと必ずしも関連があるとは断言でき

ないにしても、実に心惹くに足りる程興味深い真実なのである。とにかく、話の主人公が、フィリッピン島のマニラからメキシコシティまで瞬時に移動されたのだから面白い。四世紀も昔にテレポートされたこの人物についてしらべていくと、どうやらUFOがからんでいるのしか思われないのである。してみると、テレポーテーションということは、必ずしも今世紀乃至現代に限ったものではないということが納得されると思うのである。

そこで、ゴールドン・クレイトンが、フライイング・ソーサー誌(Vol. 11・No. 2・三月―四月―一九六五)に発表した非常に興味あるレポートの紹介からはじめよう。

一五九三年一〇月二五日の朝、スペインの兵士が突然メキシコシティの目ぬきの場所、ブラザ・メーヤー広場に姿を現した。かれはその所属する部隊の記章をつけていた。しかも、その部隊はその時点において、はるか彼方のフィリッピン島なるマニラの城市を守護中であった。太平洋をへだててはるか九千マイルの彼方なのである。この兵士はどうやってメキシコシティにやって来たのだろうか？ 実際のところ、当人にも何のことやらわからなかったのである。かれの知っていることといえば、いつの間にか、自分はマニ

ラならぬメキシコに来ていた……というだけでなのである。けれども、彼が知っていたある一つの事があった事も事実だった。……それは、フィリップスの総督ドン・ゴメス・ペレス・ダスマリナス閣下が亡くなったというところである。これはたしかに前後転倒も甚だしいばかりで噂にちがいない。だが、この噂はメキシコの首都一杯、野火の早さでパッと拡がったのである。

この兵士が、自分の軍服にシミ一つつけずござっぱりとした姿で、あの長い道のりを旅してきたなんてどう考えても説明のしようがないことだ。そこでスペイン当局は直ちにかれをマニラの守備隊から無断脱走してきたものとして、牢にぶちこんだのである。これと一件落着きかのように一応はみられたのであるが……それから数週間が流れた。当時は電報も電信もなかったのだから、この兵士のことについて、マニラに問いあわせるにしても何カ月もかかったのだし、第一、メキシコでは、フィリップス総督の死なんてニュースは全然未着だったのだから、この兵士の言っていることは、たわごとか、うそっぱち、ぐらいいしか受けとっていかなかった。メキシコではまだゴメス総督が健在だと信じられていた。だから、この兵士を牢にぶちこんでおいて一方では、いろいろと手をかえ品をかえて、はるか太平洋の彼方からの

情報入手にやっきとなっていたわけである。一方、兵士の方は、牢の中で悶々としていた。自分では何もわるい事をしたつもりはなく、全く突然に、この国にいたのだから……。

とにかく、スペイン本国からの正規の航路でゆっくりと航行してくるガリオン船（これはマニラを通ってメキシコの西海岸アカapulコに港に入港することになっている）が着くまでは、何一つ、はっきりとしたことはわからなかったわけである。

さて、アカapulコに着港したガリオン船から飛脚が一気に大山脈やメキシコの大渓谷を越えて、ようやくメキシコシティにたどりついた……ところが、大麥、メキシコシティは、この最新のニュースによって、上を下への大さわぎとなったのである。というのは、スペイン王フィリップ二世治下において最も信任の厚かったフィリップス総督ドン・ゴメス・ペレス・ダスマリナス閣下が、モロッコ諸島への派遣軍をひきいての遠征航海に出ようというとき、プンタ・デ・アズニューフレ沖でシナの船員の反乱軍によって暗殺されたというニュースだったのである。しかもこれに加えて、さらに不可解千万なことは、この神秘的な兵士が突如メキシコシティのプラザ・メーヤー広場に姿を現したのが、総督暗殺の当日だったというのだ。

その頃は、魔女裁判がまだおこなわれていたので、さっそく、この神怪不可思議な事件はただごとではないというわけで、最も聖なる宗教裁判の法廷にもちだされたのである。そしていわゆるウィッチクラフト（魔法）とか、ディブラリア（悪魔の仕業）の証拠証明が開始されたのであった。

ところが兵士はあいかわらず自分がマニラからメキシコまでどうやってやってきたのか、どうしてもわからないと言いつづけた。そして、「それはアッという間のできごとだった」というのである。

裁判の結果、この兵士は直ちにマニラの軍隊にかえし、そちらで改めて審査するように……ということだった。

この件については決して架空の話ではない。そして、ついには本格的にサイキック・リサーチ（心靈学的探求）の場にもちこされ『テレポーターション』の典型的な一例として珍重されているのである。

さて、この、テレポーターションという現象が、UFO現象と切っても切れぬ関連性をもっていると思えない多くのデータの中で、不思議な『雲』が登場してくる。

UFO（？）にさらわれたとき、二度ともどってこなかった……という、群集や個人や物象の例が無数にあげら

れている。

聖書の中でもすでに、エノク、エゼキール、エリヤその他多くの聖書中の人物がこのカテゴリーに入っている。だが、ここではそんな気も遠くなるような古代にまで手をのばすかわりに、もっともっと手近な現代における例証をあげることにする。

そこで、ジャック・ヴァレーがその好著「マゴニアへの旅券」（一九七〇年・ロンドン、ネヴィル・スピアマン版）に書かれている第一次世界大戦時に起こった事実からはじめよう。

ごくかいつまんで書いてみるが……一九一五年八月二八日、スヴラ湾の『第六〇高地』における激戦の最後の日、つまり、ガリポリ遠征戦の最中（オーストラリア軍を相手の戦闘だったが）じつに奇想天外な事件がもたらされたのである。

この日、つまり、八月二八日は、天気晴朗、空には雲一つなく、まことに快適な日であったが、この『第六〇高地』の上空をパンをひきちぎったような雲のかたまりが七つ八つ、浮いていた。しかも、そのあたりの上空には、はげしい風が吹いていたのである。それにもかかわらず、その綿雲はびくともしないのだ。

ファースト・フォース・ノーフォークの英軍部隊の数百人からなる一隊は、そのとき『第六〇高地』めがけ

て、進軍をつづけて行った。ところが、その雲の一つが、部隊の行く手の道路上すれすれにさがって来た。

部隊はかまわずこの雲の中へと突きすすんで行った……ところが、雲の中に入ったきり、二度と姿をみせない……せつかく、『第六〇高地』で戦闘がつづいているのに、一向、姿を見せず、隊列の展開もなく……そのまま永久に雲の中に吸いこまれて消えてしまったのである。

ジャック・ヴァレーは、その著書の中に、この事件の目撃者や証人数名の詳細な報告や書簡をのせている。

「かくて、この部隊の最後の兵までが雲の中に吸いこまれてしまふや、雲は静かに静かに遠ざかって行った……そして、あの雲もそれについて、次第に天空へと浮かび上がって消えてしまった」と、ヴァレーは目撃談を紹介している。

とにかく「消えた部隊」「払拭し去られた連隊」という表題で、「一九一八年のトルコ降伏の件」についての書簡にしたがえば、戦闘後、勝ち残った英軍は、降服の条件の第一項目として「前記失踪部隊の所在地を明らかにし、かつ、すみやかに全員を帰還させよ」というきびしい通達を出している。

ところが、トルコ軍の方では、全く

寝耳に水の出来事なのだし、亡くなった英軍部隊の消息など一向に閑知していないことであり、我軍は、貴軍の諸部隊の一兵たりとも捕虜としたことはない。全くあずかり知らぬ事である」という返事をよこしたのである。

以上の事実は、現代における最も極端で最も不可思議で、説明のしようもない神秘なのである。こうして、八〇〇人から四〇〇〇人の兵員が次々と、怪しい雲にもっていかれてしまったのだ。

果たして、『第六〇高地』付近の陥没した道路の上空を飛ぶ雲の中にいた巨大なUFOのなせるわざだったのだろうか？ 英軍は全力をあげて捜査したが、結局、UFOのしわざと解する以外説明のつけようもない出来事だということになった。

だが、もし、果たしてそうだとしたら、ここにまた一つ、UFO雲の誘拐事件としての新しいレコードが生まれたことになる。

今日のユーフォロジイは、シガー型の雲とUFOとの密接な関係を承認している。

有名なフランスの著者、エメ・ミシエルは、フランスで目撃された多くの葉型雲の事件について述べている。

たとえば、一九五二年にはオルロン

やガイヤック、一九五四年の八月には、ヴェーケン、一九五四年の九月には、聖ブルーアン市の上空に、さらに各地の上空に、顕著な形で現れているのである。

ミシエルは、これらのリポートは「どうやらあの葉巻型の雲は『母船』で、それにはさらに動きの速い小型のUFOが付属していて母船から自由に出入りし、必要な行動をしているらしい……と書いてある。だから巨大な母船が見える限り必ずその周辺を多くのUFOが飛がまわっているはずで、それを見た人々の数もちょっと数え切れないほどである……と、むずんでいる。

ヴァレーは、そうした一連の事件の中で、とくに、エッソンヌ市や、サンファルジョー市やボンティエリー市の上空を飛んだ母船を各地ではっきり目撃した人々と直接会って、いろいろ貴重な資料をつくっている。

その一つ、さらに顕著な性質をそなえた目撃例をあげている。

一九五四年九月二日、水曜日の夜の、八時ちょっと前、ラボー氏が、北から南にむけ、ファルジョーとボンティエリー方向、国道七号線をドライブ中、かなり上方に雲がみえ、そのすこし下に巨大な光る物体があらわれた。同氏の表現によると、円形で赤く光った蒸気のようなものにかこまれていた。その蒸気体の色は、巨大な物体と

同色であった。

ここに、我々は、水平位置で「葉巻型」にくっついている物体の、一般的な形態を見るわけだ。しかも、それはつねに、一つの雲の中に現れるだけなのだ。自分は、自分自身の経験にてらしても、光り輝く雲のこの形の存在を断言できる。——と、かれは確言している。

さらに、一九六一年一月の夕方、私の先妻と私はロンドンのサウス・ケンシントンなる我家の台所の窓から、その一つをはっきりと目撃している。私の妻は非常に古めかしい形のとても大きな窓から、何かを見たらしく、いきなり大声で私を呼んだ。

窓からまともに見えたものは……：……あいにく、窓のそとはよその家の屋根がじゃまをしていて、ぐあいがあるかったが、ずっと左に寄って、はじめて屋根ごしに、何かを見ることができた。

段々とこちに近づいてくるビンのさきほどの光の点がかなり遠くに見える。それがガラスの反射光ではないことをたしかめると、いきをころしてじつと暗い天空をみつめた。暗かったが、暗れた夜であった。その物体はそろそろ近づいてくる……ジグザグに動きながらこちの方の方に近づいてくる。と、間もなく、非常に接近してきた。だが、夜のことだから、それとこ

ちらの間の距離を自測するのが困難だった。

それが、かなり近づいてくるや、こちらから左の方へ急に方向を変えた。よくみると、もうそれは輪形ではなく妙にいびつな楕円形になった。心もち、ほそながくみえた。音は全々しな

い。その物体は、はっきりと水蒸気みたいなものにつつまれていた。

ここで、我々の見たものと、ラボー氏の見たものが、ただ我々のUFOは色が赤くなかったこと、不気味な灰白色だったということ以外は、同じようなものだったことがわかる。

けれども、エメ・ミシエルは、ここで、UFOが色を刻々変化させる性質をもっているという事には言及している。そして、このことは、他の多くの目撃者たちの目撃報告の信憑性を裏づけている。

だが、さらにつけ加えて、UFOの周囲の蒸気あるいは雲のように見えるものの内部に何があるかということをはっきり見きわめてもらいたいのである。

それは、ごくゆるい速度で飛ぶ流星ごときのものでももちろんありえないし、気球のようなものとも考えることもできないのはもちろんである。

それが、飛行機だとか、その下方で明滅している灯が航空機の灯だという

ようなことも考えられない。

サウス・ケンシントンでは、ロンドン空港にむいて飛ぶ飛行機がほんの数分間、上空をとぶのが見られるにすぎない。

じっさいに、あの物体(UFO)が飛び去ってから約三〇秒後に、航空機がえらい爆音をたてて尾燈を明滅させながら夜空をかすめて行った。これではっきり、両者の相違が確実となった。

さらにもう一つのことがあった……UFOが行ってしまったあと、私の頭には万感が去来した。UFOに乗っている者からテレパシーでいろいろな思想をおくってくるという可能性が十分にあるはずだ……ということだ。

あのパラノーマルな(超常的な)外観を通して、さまざまな想像や創意や理論が湧いてくる……。

どうやら、このへんで、再び、テレポーターションに話題を戻した方がよさそうだ。

これらのUFO雲とテレポーターションとの間には、UFO学の上から考えて、切っても切れぬ深いつながりがあるとおもわれる。

これについては、『第六〇高地』におけるパンの切片に似た雲の現象によって一つの好例を見てきたはずだ。

さらにずっと前に出た本の中で、

我々はジェラルド・ヴィダル博士夫妻の驚くべき事件についてかなりつっこんだ追及をしている。

この学殖深い夫妻は、アルゼンチンのチャスコムスで家族そろってのパーティーを終え、家路を指してドライブした。ここでは、チャスコムスをはなれてまもなく、厚い霧の中に入ってしまった……とだけ言えば、あとは説明の要はあるまい。それから、ハッとして気がついたときまでは、もう、何が何やら全く無意識だった。霧の奥に車ごと吸いこまれてから何分たったか、何秒すぎたか……は、わからないが、気がついたときには、四・五〇マイルへだてたメキシコシティの舗装した道に、車ごと、テレポートされていたのである。

パーティーを出て四八時間後、ヴィダル博士は、『一体ここはどこなのか、どうしてこんなところに来ていたのか』をたずねるために、アルゼンチンにいる友人に電話をかけた。

ヴィダル夫妻は、この数時間の間どんな事があったのか、全く記憶になかった。

次に掲げるのは、フライング・ソーサー・レヴューにのっていた、めずらしい日本での例で、同じくUFO雲のいたずらに関する事件である。

一九六三年一月一九日午前八時をすこしまわったころ、木下氏(東京、富士銀行のカシカ支店の副頭取だった)は、藤代バイパスをドライブしていた。

木下氏は折から柏を通り松戸の町をすぎて東京へ戻るつもりだった。——水戸街道である。

茨城県の龍ヶ崎のゴルフコースからの掃り道だった。(この龍ヶ崎という所は、東京からやや北方に当たっている)。

車中には木下氏のほかに二人いた。齋藤氏(カシカ銀行の副支店長)と銀行の客が一人。

さて、車は金町をすぎ東京に近づいて行った。すると、同方向、前方一四〇メートルの路上を他の車が走っていた。行く先は同じく東京らしい。それは黒塗りのトヨベツト・ニュー・クラウン、東京ナンバーだったが、不幸にして後車の三人が三人ともその番号を記憶していない。

この黒塗りの車の左手の後部シートには、中年を越えた紳士が乗っていて、新聞を読んでいるのが、うしろからよく見えた。

我々はこの車を運転していた人がだれなのかまた、同乗していたのがどのような人なのか、全然報告されていない。

すると……突然、さーっとひとかた

まりのガス体のようなものが吹いてきた。それは白い煙か濃密な蒸気のようなものであった。それがどこから迫ってきたのか全然わからなかった……が、たちまち、前方の黒い車を包んでしまったのである。そして、このガス体のようなものが消えたときは（もの五秒とかからなかった）、黒い車もいっしょに消えていたのである。

かんじんの謎の車のナンバーをおぼえていなかったので、木下氏とその連れは、あとを追跡しようにも手がかりがなかった。だから中にどんな人がいたのか、また、一体どういふことになったのか……調べようもなかったのである。

この事実は、さっそくその日の毎日新聞の夕刊（一九六四年三月四日付）に出た（毎日新聞というのは日本の代表的な大新聞の一つである）。

新聞によれば、説明のつけようもない珍事件だから、あるいは、木下氏たちの幻想、妄想かともおもわれると言っている。だが、この三人の証人たちは、じつに健康な、しかも社会的地位ある人たちだから、妄想だの幻想だのと入りこむ余地はないと判断される、三人が三人とも、そうしたバカバカしい疑惑を真向から否定している。

近年になると、このようなテレポーションの事例が、ひんびんとして

くりかえし起こっている。

フラインク・ソーサー・レビュー誌は、じつに多くの海外でのデーターを集めて発表している。

一九六八年、新婚早々のブラジル人夫妻が新婚旅行に出立した。そして車での旅行の途次、ブラジルのリオ・グランデ・ド・スルという南部を通過して一休みした。

二人は車をとめて、のんびりあたりの景色をながめていた。車はフォルクスワーゲンの新車だった。と、このとき突然、二人は、強烈な睡魔におそわれたのである。（このような例は、後述するバーネー・ヒル事件にも出てくるが、まことに特殊なケースである）

二人が正気にかえったときは、いつの間にかメキシコに来ていた。前述したヴィダル夫妻の件例と、そっくりのプロセスだ）

つぎは、さらに興味ある事件で、アルチロ・フェーラズ夫妻にまつわる災難である。

アルチロ・フェーラズ氏はブラジルの大きな砂糖会社の重役である。この夫妻はブラジルのサンパウロをあとにドライブの途についた。

ブラジルとウルグアイの国境近くで、二人はごくあたりまえの『白い雲』を見た。見たとたん、二人がメキシコに来ているのを知るまで正気を失っていた

これらの二つのケースにおいて、二つの点に注意せざるにいられない。

その一つは……テレポートされた人が、一様にメキシコを終着点として運ばれたこと。このふしぎな片道通行について適当な説明がつかないものだろうか？ ただ、ああだこうだと我々は推測をするしかできない。どうやらヴォルテックスと何か関連があるのではなからうか……とも思われる。幸か不幸か、もしも君がUFOの雲の浮いているところにとびこんだとしたら……どうなるだろう？ 君はどんなにあれば、ひとりで、ある一室の場所につれて行かれるのだ。私はこのような事柄について専門的知識をもっていないが、読者のどなたか名答をあたえて下さるかもしれない。それを大いに期待している。我々が知らぬ事はあまりに多すぎる。だからこそ一層こうした事件に心ひかれ、夢中になって追及しなくなるのだ。

その二は、メキシコへの旅のケースのすべてに結婚した夫妻が関係していることに気がつくだろう。

そこでまた、ここで一つ、ささやかながら推理をはたらかしてみようではないか。だが、やたらに臆測や推理をはたらかせることは危険だといわれている。我々はもっぱら知られている真実だけを根拠にして考えをつみあげていかなばならない……と、教えられて

きた。だが、このどの件についてもポイントだけはちゃんとにぎられている筈だ。だから、やはり推理や臆測は大切だし、いずれも貴重で健康的なものだと言っている私の持論は、あなたが、まちがっていないと思う。多くの証人の集積の上に立ってする推理は、当然採用すべきである。ただやたらに、データーばかりあつめて、それだけで満足しているのではイミがない。

最後にまず、これまで述べたすべてのテレポーションのケースにもどり、そのほとんどが既婚の一对の上に起こったという事実をふりかえってみよう。そしてバーネー・ヒル夫妻の上にとどのようなことが起こったかをまず考えてみよう。この事件は広く知られ、各紙でも報道された周知の事実で、一九六一年のはじめ頃に起こったものである。

これはべつにテレポーションのケースではなかったが、その他の点では非常に多くの類似性があった。

この出来事は、すでに新聞雑誌やジョン・G・フラリーのすぐれた著者「邪魔された旅行」の中で、くわしく述べられている上に、多くの円盤専門家たちの著書でも引き合いに出されているほど有名な事件である。

だが、別の角度から研究してみる必要があるもので、一応、かいつまんでそ



●バーネー・ヒル夫妻

のあらましを記しておく。

まず、バーネー・ヒル氏とその妻君の二人が、ニュー・ハムプシャーのポーツマスにある我家へと車で帰還の途についていた。それは一九六一年九月一九日の夜のことであった。ドライブの最中、二人は天空はるかに異常な「星」を発見した。二人は互いに、あれはただの星だろうか……何だろうか……と、さかんに論判した。

もっとよく見ようと、車を片よせて、双眼鏡で、その物体を仔細に観察しはじめたのである。

見ていると、その星体は、次第と低く低くおりてきて、樹木のごずえすれすれのところまでさがってきた。バー

ネー氏は車から出て双眼鏡を眼にあてがったまま、もっとよく見ようと、近くの畑地に入って行った。

すると、その星体とみえた物体は、はっきりとした空飛ぶ円盤の形になり、円盤の窓から六人の人物らしいものが顔を出し、バーネー氏の方を、ものめずらしげに、じっと見つめていたのである。急に何だかおそろしくなり、バーネー氏は急いで車の方へもどっていった。

車にとびこむやいなや、ハンドルをにぎり猛スピードで現場から逃げ出した。すると、車の後部からビュービューという変てこな音がきこえてきた。と、このとき、急に猛烈な睡気がおそ

ってきた。(ここで、前述したフォルクスワーゲンで新婚旅行のブラジル人夫妻がおそわれた睡魔の例を想い出していたいただきたい。どこか似ているではありませんか)

それから大分時間がたつて、二人は再びその音を耳にした。そして、何という事だろう、もう午前五時になっていて、いつの間にか家の前に来ていたのである。

あとになって、ヒル夫妻は、いろいろと前後のことを思いあわせ、丸々二時間という時間のこと、そしておよそ三五マイルという距離が、その夜のうちに成立し得るとはどうしても考えられなかった。それにバーネー氏は、そのときからどうも健康をそこねたようであった。

とどのつまり、いろいろな医者に診てもらったあげく、二人は、当時有名な神経外科医として重きをなしていたベンジャミン・サイモンズ医博に相談することになった。

博士は二人をまず催眠療法にかけた。二人をべつべつの部屋に坐らせ、トランス状態にさせた。

すると、世にも不思議な事実が判明したのである。

つまり……

最初にあの変な音がしたとき、車のエンジンがとまった(車がUFOに接近した場合必ずエンジンがとまる。こ

れは別に珍しい事ではない。だから、明らかに、このときUFOが近づいていたのだ)。車は金しほりにあったように全く動かなくなった。ヒル夫妻はすでに地上に着陸していたUFOの中へ、だれかに誘導されて、連れ込まれたのである。

大きな円盤の中で二人はそれぞれ別室に案内され、医学的検査をうけた。

それからやっと再び車のなかにかえされた。車は、止まっていた地点より大分はなれたところであった。

催眠をかけられた夫妻が別々にぼつりぼつり語ったところは、以上の如き事実だった。

これによってみると、あのブラジルの新婚夫婦のヴァイダル夫妻のハネムーンの中の出来事と、じつによく似たケースである。いや、さらに、あのマルチロ・フェーラズ氏夫妻の上起こったことも、ほとんどこれと同ケースといえよう。

いざれも、テレポーションされている間の事は、一切、記憶になかったのである。

こうした出来事は今後もひんぱんにくりかえされるにちがいないのだから、宇宙人と、被害者の間の精神的交感を土台として、科学的証明を徹底する事によって、何らか謎の解明の糸口をつかむことができるだろう。

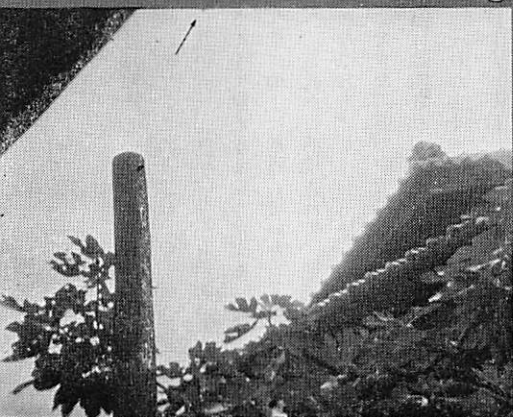
名古屋市の田中博人君(12歳)は、昨年1年間に円盤を50枚以上の写真に撮った。母盤から発射される3機の小型円盤地上低く舞い降りるアダムスキー型円盤など見る者を驚嘆させる写真ばかりだ。



⑥



⑦



⑧

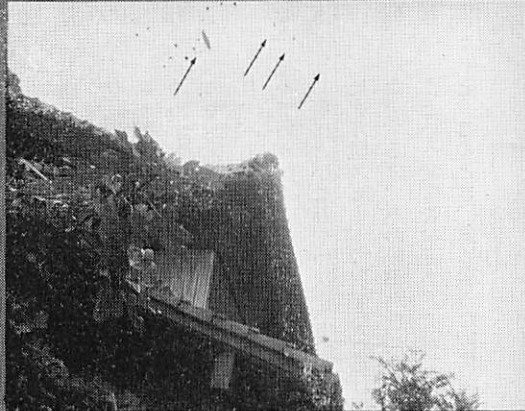
名古屋市上空に円盤大挙出現!



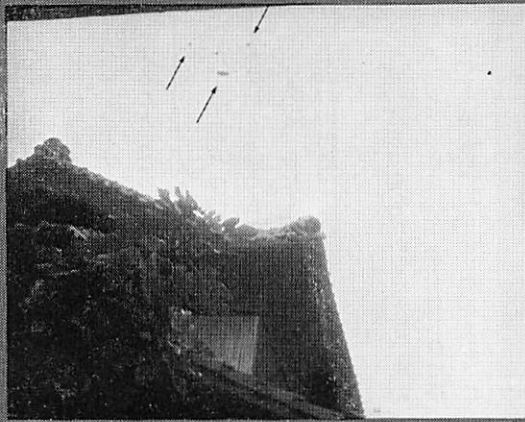
①

濃い黒点はネガのキズ。薄い部分が円盤。

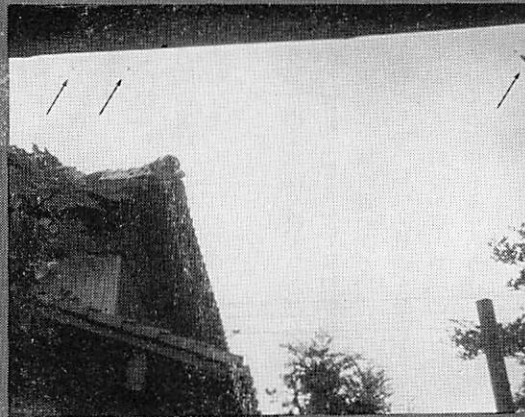
③



④



⑤



⑨



②

昨年9月3日午後2時30分頃、田中君宅の上空に現れた母船と三機の小型円盤。母船から発射された直後のもので、小型円盤はその後、地上低く降りてきた。その間、母船は一定の高度を保ちながらも、上空で時計の針が回る方向にゆっくりと回転していた。母船も小型円盤も、写真で見ると黒く見えた。

昨年一月に入ってまもない頃、名古屋の少年から編集部へ電話がかかってきた。UFOに対して非常に興味があるらしく、真剣な口調で話しかけてくる。どうも、いつものような読者からの質問めいた話の内容ではないらしい。しばらく話している内に、アダムスキー型の円盤を何度か撮影することに成功しているから、ぜひ一度見にきてくれないかということだった。話の内容ではかなり貴重な写真を撮っているように思えた。数日後に、その少年の自宅を訪ねてみた。この記事はそのときのルポである。

* * *

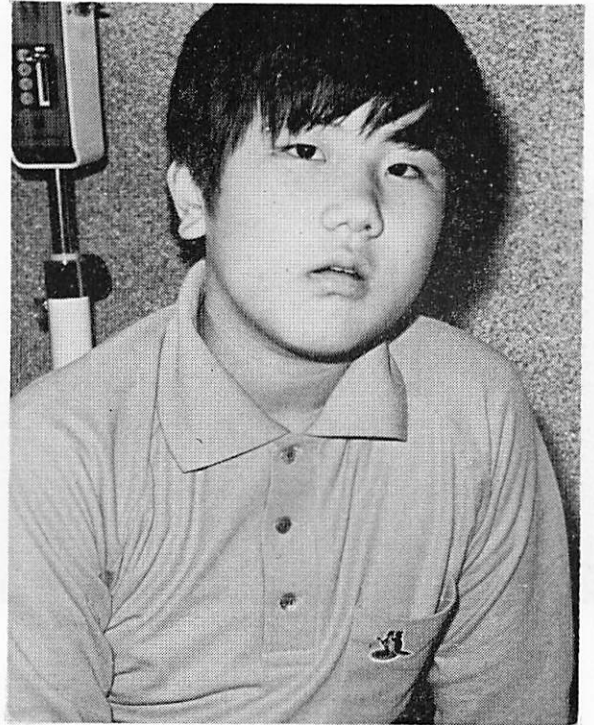
母船から三機の小型円盤が発射された

少年の名前は田中博人君（一二歳）愛知県名古屋昭和区の桜山中学校一年に在学している。田中君を訪ねると待っていたかのように、次から次へと今まで撮影に成功しているUFOの写真を見せてくれる。ざっと見積もっても四〇〜五〇枚はある。どれもUFOがはっきり写っている貴重な写真ばかりだ。どうしてこんな写真を撮ることができたのだろうか。たしかにUFOが写っている。トリックとは思えない。なかにはアダムスキー型円盤とわかるものもある。これは一体どういうわけなのだ。とにかく少年の話聞いてみることにした。

田中君が初めてUFOを目撃したのは小学校の3年生頃だったというが、一昨年の八月、偶然にUFOを見るまではそのことを忘れていた。それがきっかけとなってがぜんUFOを見始めるようになった。今日までの目撃回数は一〇〇回を越し、写真撮影は数十回という。UFOを目撃したことのない人にとっては、まことにうらやましい限りである。これほどまでにUFOを目撃するには何か特別なわけでも、と考えたくなるが、これまでに目

撃、撮影した場所は自宅からのものが多く、たまに家の東側に流れている川に出では見晴らしのよい土手に立って撮影したこともあるという。これほどまでに名古屋市内にUFOが現れるものだろうか。それとも田中君の眼の錯覚ではと疑いたくなる。

田中君の家族は四大家族であるが、父親の一郎さん（五二歳）を除いて母親の幸子さん（四六歳）兄の利幸君（一五歳）も田中君と共に十数回となく目撃している。近所の人々と共に目



●田中博人君

撃したこともあるらしい。学校の友達と一緒に目撃したこともある。どうやら田中君の眼の錯覚ではないらしい。どうしてそんなにもよくUFOを目撃できるのかと尋ねても、自分にもよくわからないが、ただUFOが自分の前に現れてくれるようにいつも空に向かってテレビシーを送り続けている。夜だったら自分以外に何人かいても（ただしUFOに対して疑いの心を持たない人たち）UFOを呼び出せることもあるという。とにかくUFOを見ようとするひたむきな努力と興味の度を越した情熱をもつように思えた。

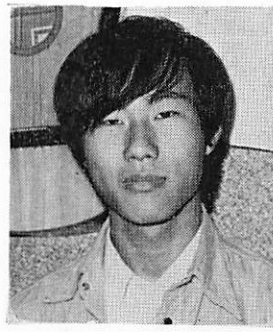
今までに見たUFOの種類はいろいろ

あるが、アダムスキー型や母船とよばれる葉巻型が多い。遠隔操作による偵察用の超小型円盤なども最近目撃している。

今までに見たものの中でもっとも迫力のあったUFOは？と尋ねると、昨年九月三日午後二時半頃、田中君の室の上空に葉巻型の母船が現れた。母船の下部後方から三機の小型円盤が音もなくスルスルと降りてきて、上空をしばらく舞った後、母船の上部前方に吸い込まれるようにして入って行った。その後すぐに母船は垂直に上昇して行ったそう、そのときの興奮が、いまだにさめやらぬ様子である。



●田中幸子さん（母）



●田中利幸君（兄）

田中君はアダムスキー型円盤についても、その船体細部まで見ている。

アダムスキー型円盤から エンゼル・ヘアー？が落とされた

円盤の下部に丸い物が三個ついているのがはっきりわかった。すごく大きかった。方角は東。

この他、取材した数日後に田中君はまたまた母船から小型円盤が発射される光景を目撃した。やはり早朝、眼がさめたのでトイレに行きながら何気なく窓の外に眼を向けると上空に巨大な母船が見える。右腕を伸ばして親指と人さし指の間一〇センチくらいの大きさに見えたという。かなり低空まで小

型円盤が降りてきたが、まもなく母船の中に入ってしまった。このときカメラにフィルムを入れておかなかったことを後悔している。葉巻型母船はアダムスキーが二十数年前にカリフォルニアで撮影した母船にそっくりで、船体の中央横一列に並んだ丸窓や、船体を輪切りにしたような何本かのミゾもあ

●田中君のUFO目撃日誌より抜粋

昭和五〇年三月二十六日朝五時半頃、トイレに行くとき胸騒ぎがしたので、変だと思い外に出て見た。そして体操をしながら川に行った。これはいつものくせが出てしまい、こんなことになったのだ。再び六時頃、川に行き空を見ていると動くものを見つけた。飛行機かと思ったが形が変だし動きもおかしいので、ずっと見ていると形が次第にはっきりしてきた。急いでカメラを持ってきて三枚撮った。そしてゆっくりと僕の方に近づいて来るのははっきりわかった。やがて僕の家を見学するかのよう飛んで行って、僕の方にもどってきてから東の空に飛んで行った。



●昨年10月4日午後2時頃、南西の方向に現れたアダムスキー型円盤。窓から撮影した。かなり地上低く降りてきたが、このとき木葉運動をしながらドーム上部の球体上方にエンゼル・ヘアーらしきものを放った。

り、円筒形の先のとがった両端を切り捨てたような船体である。下部後方に口を開けている小型円盤発射用のハッチは薄い灰色をしている。早朝、五時半頃とあって人々は寝静まっている。田中君の他に目撃者はいなかった。

田中君の目撃報告の話の中に一つおもしろいことがある。やはり昨年であるが、室の窓越し南西の方向にアダムスキー型円盤が現れ、かなり低空まで降りてきた。木の葉運動をくり返しなから、ドーム型の船体上方から白色に見える糸状のものを上空に放った(まるで噴水のように)。それも何十メートルに達するほどに。おそらくエンゼル・ヘアーと呼ばれているものではないかという。これが船体内部から放れたのか、円盤の推進方法に関係して船体周囲にできる物理的現象なのかは、今後の研究に期待しなければならぬが、今までに目撃されたことのない特異な報告である。

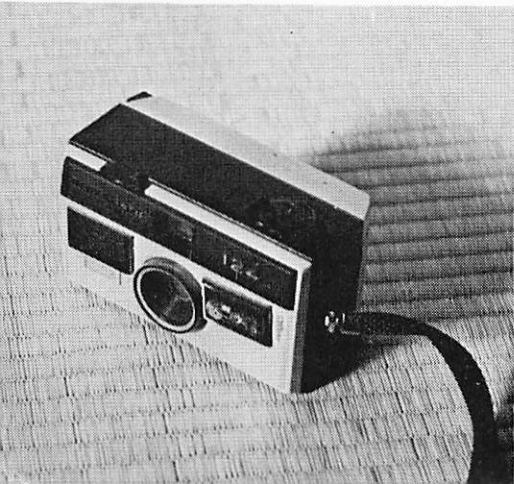
これほどまでに自分の眼前に円盤が現れると、いちまつの恐怖を抱くのが人の常だが、田中君にとって円盤は、この世に二人とない友人のようなもの。驚くことはあっても、恐怖心などはわかないと話す。これらの写真を本誌に掲載するにあたって、円盤との友好関係を断たれることを恐れて、ためらったほどだ。そのうちに円盤に乗

せてくれるのではという質問に、「着陸する場所がないため、望みがない」との返事が返ってきた。

円盤が現れるときには、いままでの例からいえば、急に寝床から起きてトイレに行きたくなる。また頭がツーンと奇妙な感じになったり、気分が悪くなったたりする。そういえば一昨年一〇月、広島県尾道市の高校生、藤松和彦君がアダムスキー型円盤と葉巻型母船を撮影したときもたしか、頭がツーンとなる奇妙な気分になっていた。円盤を撮影する人に特有のテレパシクな感覚なのか、円盤からの出現の合図なのだろうか。とにかくこの種の現象が他にもいくつがあるようだ。

使用しているカメラはコダックのインスタマチック。カセットフィルムを入れれば、あとはシャッターを押すだ

●撮影に使用したカメラ



けの簡単な構造のものである。これまでに撮った写真は、すべてこのカメラで撮影している。自分のカメラでなく兄のものであるところを見ると、カメラ操作に特に慣れているとはいえない。カメラを趣味にしている様子もない。カラー写真も何枚か写しているが、大半は白黒写真が多い。

撮影したフィルムは近くのカメラ屋に持って行くそうだが、当初、カメラ屋の主人も田中君の写した写真に対して、チリヤゴミではないかと信じられない様子だったが、最近はずっかり田中君の写真に興味を示してくれるそうだ。

田中君の撮影した写真を見て気がつくことは、二四年前に米国カリフォルニアの故アダムスキーによって撮影されたことのある円盤と全く同じ型の円盤が同君の手によって撮影されていることである。アダムスキー型円盤とその母船とよばれる葉巻型であることは、田中君の証言からも明白である。UFOファンの脳裏に深く焼き付けられた空飛ぶ円盤のイメージそのままを写しとった写真である。

アダムスキーについては田中君も、

テレビ、少年雑誌などを見たらしく知っていた。自分で円盤の写真撮るようになってから興味が変わり、自分なりに研究しているらしかったが、アダムスキー著の「空飛ぶ円盤同乗記」を知人から見せてもらった程度で、その他の著書については知らない様子だった。

* * *

田中君が話すには、円盤には地球を侵略するような意図はないという。

地球の文明の方がはるかに遅れているので、円盤に対する攻撃力を地球はもたないだろう。逆に円盤の方が、地球から攻撃されることを恐れているらしく、大衆の目を避けているように思える。だから、純粹で正直で攻撃的でない人のところに姿を現してくれるのではないだろうか。とにかく、何かを言わんとして現れて来るような気がしてならない。それが何であるかは自分にもわからないが、自分なりに解釈すると、これから起ころうとする地球上の危機を予知して、警告しているように思えてならない。何か重要な意味を含んでいるようだ。今後も円盤を観測し続けられれば、いつかその解答がわかるだろう、と田中君は語っている。

田中君は超能力をもっている

●昨年9月12日午後1時30分頃。西南西の方向に現れた7機編隊の小型円盤。自宅の窓から撮影。



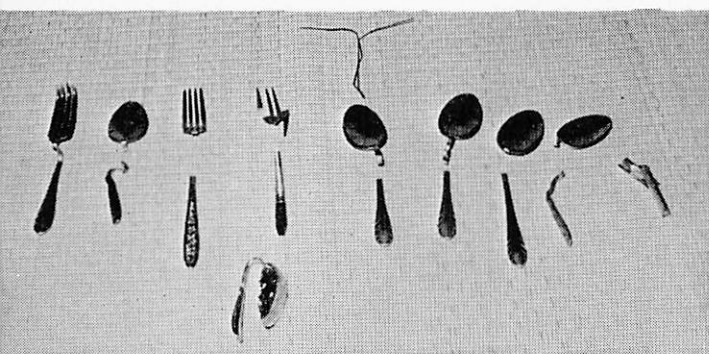
田中君は、すでにご存じのようによく円盤を目撃する少年ではあるが、その他に特殊な能力をもち合わせている。一昨年来、イスラエルのユリ・ゲラーが日本にきてから超能力ブームが日本全国に広がって、超能力少年が数多く現れたが、田中君もその一人である。超能力少年の関口淳君が出演するテレビ番組を見てから、スプーンが曲がるようになった。これまでに数十本のスプーンやカギを曲げているが、何気なく試みたときに一番よく曲がるらしい。私たちが取材に行ったときも、

スプーンを曲げて見せてくれた。スプーンを曲げたりするのは、念力によるものだといわれているが、田中君には念力以外に、テレパシー、透視、予知などの能力も多少あるらしい。ただし、超能力をもつ田中君だけに円盤を目撃することが可能だということではないだろうが、円盤を目撃する回数と超能力との相関関係については明白でない。

この他に田中君は大変に奇妙な体験をしているが、本人の意向でここには載せないことにした。



●撮影日時不明。アダムスキー型円盤が写っている。



●田中君が曲げたスプーン。手前のスプーンは取材に行ったときに曲げたもの。

●昨年12月8日午後2時頃、自宅の南西の方向に現れたアダムスキー型円盤。



聖書の

予言と

スペース・プログラム

(完)

ほとんどの歴史家はイスラエルの「失われた十部族」は忘却の彼方へ消え去ったのであって、その最後の運命や滅亡に関しては不明だと今なお言っている。これはもちろん真実ではない。その運命にたいする解答はわかっているし、選ばれた少数の人にはいつも知らされていたのだが、世間一般は知らなかったのであり、今後もおそらくわからないだろう。

新しい時代になるごとにきわめてわずかな知識が前代から伝えられる。数年たてば多くの驚くべき発見が歴史か

ら姿を消し、再発見されない限り永久に消滅する。

聖書中の予言類は暗号で書かれ隠されている

この好例は今日の大抵の考古学者に知られていないジェームズ・チャーチワード大佐の諸発見である。この諸発見が現代の学者の注意をうながしたとき「チャーチワード」という人のことなど聞いたことがない」というわけで相手にされなかった。それからほんの数

今世紀末に地球が大変動で混乱するとき、偉大な人類(スペース・プログラマー)が大学して、公然と飛来するという……その予言は真実か？

年たつてチャーチワードの諸発見は大体に世間から消えてしまった。

これと似たような状況は科学と学問のあらゆる分野に存在する。高度に発達した惑星(複数)から来た「指導者」たちによってこの地球上で遂行されている計画の場合にも同様の状況が存在する。加うるに地球上の諸状態が大きな変化を起こしたために、ときとして計画の延引が必要であった。しかしこの惑星にたいする総合的な計画は暗号で書かれ、時折ある「リーダーたち」か「指導者たち」へ伝えられたの

キヤロル・A・ハニー

であるが、それは暗号によって我々に伝えられたのであって、聖書の予言中にある「イスラエルの家」の物語に見い出されるのである。イスラエルの家(選ばれた人々)とはある特殊な運命を遂行するために地球で生まれたかまは地球へ連れて来られた人々の特殊なグループを意味する暗号である。彼らはこの記事の第二章に述べられた「太古の人間の墮落」に出て来る人々である。

この元の「墮落人間」たちには種々の指導者が遣わされていて、これが墮

落者たちの出身惑星から来る代表者たちと直接コンタクトしていた。旧約の時代にはこの指導者たちは「予言者」または「神の予言者」と呼ばれていた。後には最大の指導者が他の惑星からこの惑星で生まれかわってイエス・キリストとして知られた。

初期の教え（複数）（訳注―名詞の複数化の概念と記号とを持たぬ日本語は何という非論理的な言語だろう！）が地球人によってゆがめられ、「宗教」に変えられたのは実際不幸であるが、このこともすでに予知されていたし、適当な時機が来たときに遂行すべき正しいコースに関して諸計画がたてられたのである。その「行動の計画」は暗号で書かれて予言者たちに渡されたが、彼らの多くは何が渡されたのか理解しなかった。

第三章で約束したように、この記事ではイスラエルの家とユダの家（ユダヤ人）の最後の運命が書きとどめてある明確な箇所を示すことになっている。それは偏見や無知などで盲目にされていけない人ならだれでも今見ることでできるのである。たしかに多くの人々はこのことで示される諸事実を把握できるほどに進歩しないだろうが、時間を与えるならば結局は理解し始める地点にまで登るだろう。イエスが自分の述べた言葉にたいして人々がそれを受け入れる準備ができる前にほとんどの

人にわからせないようにしようとして寓話の中で話したように、予言類は暗号で隠されているのであって、選ばれた少数の人々だけがその意味を知り得るのである。予言類を理解すべきキイは現在まで、「世の終わり」の時代まで隠されていたのだ。

大抵の人は知らないけれども、聖書はイスラエルが歴史から消えたときにどこへ行ったかを語っている。このカギとしてサムエル記下七・一〇と歴代志上一七・九は「彼らを植えつけ、彼らを自分の所に住ませ、これ以上動くことのないようにしよう」と述べている。エレミヤ書三・一一―一二において我々は別なカギを見出す。エレミヤはイスラエルがユダよりも（ユダヤ人よりも）自分の罪の少ないことを示したと聞かされ北に向かって次のように言えと命じられる。「主は言われる。背信のイスラエルよ、帰れ。わたしは怒りの顔をあなたにたに向けたい」ここでイスラエルとユダは注意深く二つの民族に分けられていて、イスラエルは北方に位置しているのである。ホセア書二・一ではエフライム（イスラエルの一部）が西に向かっていることがわかる。エフライムは東風を追っているからだ。この二つの予言からみてイスラエルは北方と西方にいなければならず、しかもそれ以上動かないで、今日もなおそこにいることがわかる。

エレミヤ書の三・一八には最後の時代にはユダの家はイスラエルの家と一緒にあって、北の地から出て「わたしはあなたがたの先祖たちに相続財産として与えた地」に共に来るとある。

イザヤ書四九・一二には北と西という位置が再び出ている。イザヤ書の第四九章にはイスラエルが第一節において「海沿いの国々よ」と呼ばれ、第三節では「イスラエル」と呼ばれている。またエレミヤ書三一・九―一〇ではイスラエルを「遠い海沿いの地」と言っている。イスラエルは「遠い海沿いの地」にあるばかりでなく、主の言葉によれば「万国のかしら」なのである。イスラエルは「海の中（島々）」、北と西（北西）、万国のかしらと述べられている。読者もつと確認したければ、次の箇所を調べるとよい。詩篇八九・二五、ホセア書一一・八一―一〇、エレミヤ書三一・八、エレミヤ書三〇・二四、三一・一、三一・二―九、イザヤ書四九・三、六、一二。

ヨーロッパの地図をひろげてみると「聖地」の北西にある唯一の島々はイギリス諸島であることがわかる。更に証明するとブリティッシュ・ネームはヘブライ語に源を発するのである。イスラエルの家は「聖約の人々」として知られていた。原初ヘブライ語のつづりにおいては母音が与えられなかったし加うるにヘブライ人はh音を発音し

なかった。現代のユダヤ人もh音を発音しない。それは大方の読者が知っているように現代の英国の特色でもある。「聖約の人々」を意味するヘブライ語はプリト・イッシュと発音される（聖約がプリトで人はイッシュである）。

イスラエルは新しい名で知られることになり自分の身元がわからなくなるだろうという予言を思い出されたい。アモス書七・一六、新約のローマ人への手紙九・七、ヘブル人への手紙一一・一八では新しい名が与えられている。彼らは「イサクの家」と呼ばれることになり、イサクの子孫が「イサクの子」と呼ばれるだろうとある。ヘブライ語のつづりでは母音が用いられないので、新しい名は「サクの子（サク・ソンス）」となり、史書類が記しているように「サクソンス」となったのである。

このことはイェール大学のW・ホルト・イェイツ博士によって確認されている。それによると、サクソンという語は「イサクの子」の接頭辞「イ」を落とすことによってできたものであるという。

英国史を勉強する際にサクソンとノルマンについて読むときはサクソン人がイスラエルの家の一部で、イサクの子であったということを思い起こしていただきたい。

今ここでそれに深入りする余裕がな

いので、ヨーロッパの西北部とイギリス諸島に見い出される別な「ブライ語」名を簡単にあげてみよう。失われた十部族の一つである「ダン」はダン、デン、ディン、ドン、ドゥンという形で痕跡をとどめているが、これはすべて「ブライ語」から出たものである。スペインでは「メ」「デ」「イン」「ア」(メディナ)、シードン、イア(シドニア)、等がある。アイルランドにはトゥアサ・ド・ダナズというのがあるが、これは「ダンの種族」を意味する。アイルランドには「ブライ語」から出た地名が沢山ある。ダンズラーフ、ダンサワー、ダンダルク、ダンドラム、ドゥンエガル、ダンゲロウ、ロンド、ドゥンデリー、ドゥンケル、ダンズモアー等々。アイルランド名の「ダン」は「裁き人」を意味するが、「ブライ語」も「裁き人」を意味するのである。

ヨーロッパには次のような固有名詞がある。マケドニア(マケドニア)、ダン(ダン)、エルス(ダーダネルス)、ダン(ダン)、ユーブ(ダニユーブ)、ドゥン(ドゥン)、エプル(ドニエプル)、ドゥン(ドゥン)、イエスター(ドニエスター)、スカン(ドゥン)、イン(ドゥン)、アビア(スカンディナビア)、デン(デン)、マーク(デンマーク)等がある。デンマークは「ダンの名残り」を意味する。

イギリスには次の名称がある。ロン

ドゥン(ロンドン)、ダン(デンディー)、ダン(ダン)、カーク(ダン)、ダン(ダン)、バー(ダン)、エ(デン)、バラ(エディンバラ)等。

次のような興味ある事実がワース・スミスの著書「栄光の家(ニューヨーク、ワイズ社版)」に出ている。「だれも知っているようにアメリカという名は地理学者アメリカゴ・ビスプッチ(訳注一四五—一五二)イタリアの探険家)の名にちなんで付けられた。

ラテン語ではアメリカゴはアメリカで、それから出たアメリカは女性形である。アメリカという語の古代ゴート語では(ゴート人はイスラエルであった)「アメル・リク」といい、今でもドイツ語に残っていて、ゴート語形から少しくずれているが「エメリッヒ」という人名で残っている。注意深く観察すると「アメル」は天を意味し、「リク」は王国を意味する。現代ドイツ語ではそれが「ヒンメルライヒ」となり、天国または調和の国または祝福された平和の国を意味するのである。

イギリスで発行されている雑誌「ユース・メッセジ」によれば、次の事実も適切である。すなわち「ブライ語」の「王国」にあたる語は「メルク」または「アメルカ」である。故人の有名なオドラム教授によれば、「(アール)の字はあ

(「」を使用)」という語は「アメルカ(「」を使用)」と同じで、それがラテン語でアメリカとなる。そこで再び言う、異なる言語においてはアメリカは「調和の国」、「天国」、「祝福された平和の国」を意味するのである。

これまでの説明ではイスラエルがどこにあったかを明示している。すなわち海中の島々なのであるが、米國を意味する記事を示していない。読者は尋ねるだろう。「米國を意味する記事が聖書中にあるか? あるとすればどうしてそれがわかるのか?」と。

この記事の第三章で、聖書の予言を調べてみると「マナセが米國の暗号名であることがわかった」と述べた。エフライムは英國の暗号名であった。特殊な各帝国において遂行されてきた予言類を調べてみると、それらはエフライムとマナセにおいて遂行されることになっていた予言類と一致することがわかるだろう。

創世記四八・一六—二〇にはエフライムとマナセに関する限り予言が分けてあることがわかる。弟の子孫は「連邦」になることになり、長子は「大国」になることになっている。ヨセフは長子が最大の国家になることを考えて予言が反対になることを望んだ。しかしヤコブ(イスラエル)は弟がより大いなる祝福を受けることを主張した。

イザヤ書の第四十九章には米國の起源

に関する予言が与えられている。「あなたが子を(米國になった)二三の植民)失った後に生まれた子ら(植民)はなおあなたの耳に言う。「この所はわたしにせませざる。わたしのために住むべき所を得させよ」と。

右の第二〇節の前後の教節を読めば、「島々」のなかに位置するイスラエルはその最初の植民を失い、その後他の子孫たちが広がり、新しい地域で開拓者となり、新しい国々を作るということがわかる。このことをはっきり示す節は他にも多くあるが、それを指摘するかわりに、この問題を深く研究することに苦心のある読者は自身で調査されたい。

今世紀末にUFO群が大挙して飛来する

予言に関する本稿は全然宗教とは関係なく、また同じようなことを言っている他の宗教団体を支持するものでもない。私が言いたいのは、高度に発達した惑星群から人間が地球へ来るのは、旧約や新約聖書の予言類に暗号で書かれている一大総合計画に関連があるということである。そうした考え方で話を続ける前に、創世記第四八章その他多くの箇所が米英に関して実現していることを示す統計資料を少しあげてみたい。



全地球の耕地の半分以上は一九五〇年には米國と英國の所有になつてゐた。一九五〇年には米國は全世界の原油生産量の五〇パーセント以上を産出してゐた。英國と米國によつて生産される石炭は他のすべての國よりも一・五倍以上である。この二國は世界の鉄鋼の四分の三、世界のニッケルの九五パーセント、アルミニウムの八〇パーセント、亜鉛の七五パーセント、金

の三分の二を生産し、銅、鉛、ボーグサイト、スズその他の貴重な金属の生産においてリードしてゐる。またこの兩國は世界の電氣の三分の二を供給し、自動車の生産でリードしてゐる等々。こうした事のすべては後の時代にエフライムとマナセに属することになると予言された(申命記三三・一三—一七)。

それではこの古き世界地球に関する末来はどうか? さほど遠からぬ未来において恐るべき第三次世界大戦が発生するだろう。そのとき我々は(訳注||米國人は)現在友邦とみなしてゐる國々と戦ふことになり、現在敵となつてゐる(訳注||米國の敵)國々のなかには同盟國になるのがあるだろう。

予言で述べてあるように、その恐ろしい戦争は天空から来る人々の干渉によつて阻止されるだろう。(マタイの福音書二四・三〇)。そして他の惑星群からの文字通りの侵入が行われるだろう。その戦争や飢きんや大地震などをまぬがれて地上に残された生存者は、地球を引きついで宇宙の法則のもとに新しい文明を始める人々(訳注||他の惑星から来る人々)によつて統治されるだろう。この惑星人たちは、かつて地球への潜人者として地球へ派遣されてきた人々のすべてによつて援助されるだろう。

高度に進歩した惑星群から来るこの人々は多くの國で抵抗を受けるだろうが、結局は戦争を中止せざるを得なくなり、剣を打ち砕いて農耕具にし、訪れてくる新しい時代に従わねばならなくなるだろう。こうした出来事のすべては各種の宗教団体が言つてゐる「第二のキリストの到来」に関する予言を實現させることになるだろう。その予言が起るとき、各宗教は大衆と共にその「到来」に抵抗するだろう。宗教

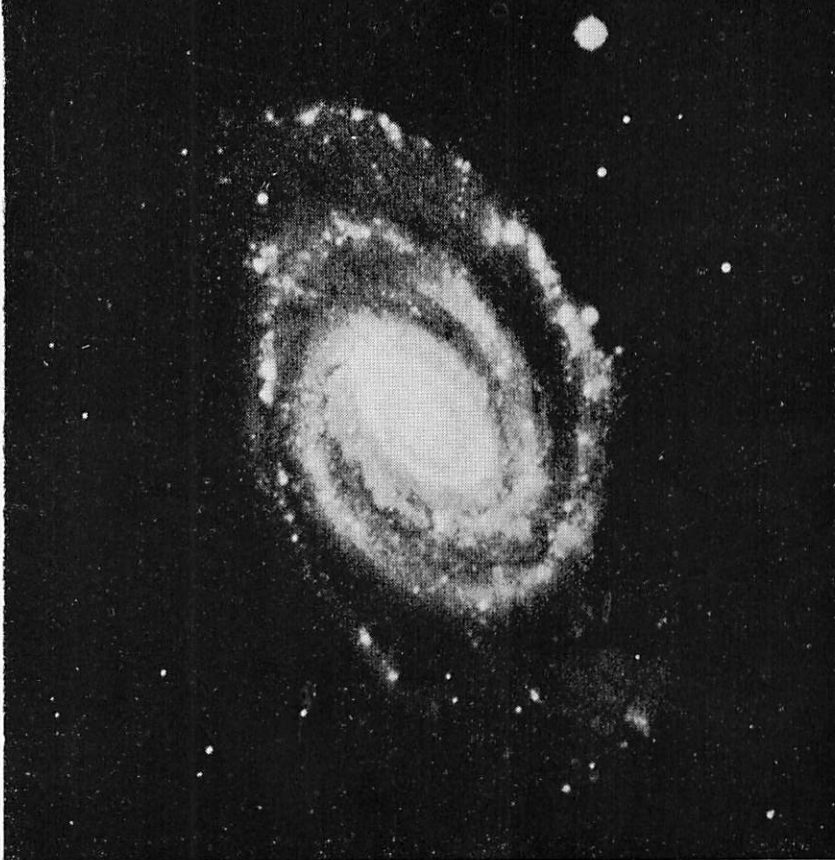
は予言の實現としての大田盤群の來訪を認めないからだ。過去にいくたびか大文明は自滅した。二/三の場合、その破壊は自然の原因によるものであった。たとえば地球の自転軸の変化が起る場合の大破壊などである。

今度は特に自然の大破壊が間もなく起ることになつてゐるし、同時に人間は自身の手でこの惑星上のあらゆる生命を破壊する能力を持つてゐるの

で、地球上のあらゆる知識や科学的な發達が失われないうちに他の惑星からの干渉が行われるだろう。現文明のあとに來るその新文明はいわばさい先のよいスタートを切るだろう。地上に残つた人々は後に來る世代にたいし助言として役立つ貴重なレッスンを學ぶだろう。そのとき地球は眞の黄金時代すなわち予言されている至福一千年の時代に入るのである。そして初めて宇宙の法則下に生きるこの世界は現状に比べて一つの理想世界になるだろう。

最近(一九六七年一〇月二七日—二十九日)起つた出来事のために、私は予言に関する本稿を短縮することにし、あとは読者個人の研究にまかせることにした。先に与えた「キイ」から鋭敏な読者ならば現在の事件(複數)と予言とを合致させることができるだろう。更に未來に起る出来事を予知することも可能となるだろう。(完)

久保田八郎訳



●おとめ座

— UFOと日本列島構造線 —

渡辺喜一

最近国内で急増しているUFO目撃事件について重大な発見をした。

すでに知られているように、日本列島は環太平洋造山帯に属しており、非常に変化に富んだ地質構造をもっている。断層地形もそのひとつで、日本列島は構造線によって地質上の区分が成されている。

ところが、地質構造図を拡げて、最近UFO騒動の起きている地域を調べてみると、この構造線によって散在した地域が系統づけられていることがわかった。

まず日本を横断している糸魚川—静岡線をみると裏日本では富山県下新川郡（白馬岳）、表日本では富士、静岡周辺がUFO目撃地域として知られている。下新川郡付近には内帯中央線など2本の構造線もみられる。糸魚川—静岡線に沿った松本、甲府でもUFOは多く目撃されている。

次に西日本を2分する中央構造線に沿って、岡崎—津—名張—和歌山—鳴門、板野郡—新居浜—松山—阿蘇と、UFO多発地域が1列に並んでいる。

中央構造線のすぐ上に並行して走っている構造線では、恵那—豊田—鈴鹿—大阪周辺—

瀬戸内—大牟田、そのすぐ下に並行する御荷鉾線では四国山地—八幡浜を結んで阿蘇で中央構造線と合流する。

さらに仏像線では、伊勢—日高郡（和歌山）—高岡郡日高町（高知）—延岡—人吉。最下段の中村線上には、四日市、南部川村（和歌山）—海部郡（高知）—宿毛—宮崎—桜島が位置している。

このほか、中国・中部地方のUFO目撃地域も、構造線付近にあることがわかる。また、富士火山帯と碓氷峠—利根川線によって区切られた関東地方や東北、北海道方面も、火山帯・褶曲等の地質構造にUFOが関係していると思われる。

これらのことから、日本におけるUFO目撃報告の急増は、地殻変動と関係があるのではないかと推測されるわけである。

エドガー・ケイシーの予言は別にしても、最近の魚異常をみると日本列島の地殻変動は近いと思われる。我々より進んだ宇宙人がこれを予知し、地質調査のため、あるいは警告のために出沒しているのであれば、その範囲からみても局地的な大地震ではなく、おそらく日本沈没の大変動と考えてもいいと思う。私は地学関係の本を読んでいて、ふとUFOの出現は地殻の変動に関係があるのではないかと思いつき、各地に散在するUFOのメッカを調べてみたのだが、あまりにも系統づけられて構造線上に並ぶので驚いた。

この事実を知ってから、私は毎日にをなすべきかを考えている。日本沈没を目前に控えて我々の科学はまったく無力である。他国へ避難したとしても地球そのものの異変（地軸の変動）が迫っているとすれば、人間はいったいどうすればいいのであろうか。

UFOに乗った宇宙人は地球の文明をはるかに超えた存在である。手前勝手な考えかも知れないが、日本に飛来し、基地を設けているのも、地変の危機から我々を援助、救出しようとする意志があるからではないだろうか。

彼らを受け入れるにはあまりにも無知・無理解な地球だが、この危機に直面して我々ひとりひとりが周囲を説得し、彼らを受け入れる素地をつくっていくことが大事だと思う。今の私にはこれだけしか言えないのだが—

主要地質構造線

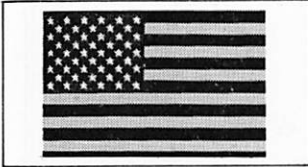


a-a 糸魚川—静岡線
b-b 中央構造線

宇宙交流時代

—UFOシンポジウム—

米下院公聴会におけるアレン・ハイネック博士の声明



●アレン・ハイネック博士

一九六八年七月二十九日、委員会は定刻午前一〇時〇五分レイバン下院ビル二二一八号室で開かれた。議事進行はエドワード・ルーシユ・ルーシユ。「本日の下院宇宙科学委員会はきわめて特殊なものでUFOシンポジウムであります。この問題は今まで無関心のまま放置され、それゆえに我々ももっと多くを知る必要に迫られています。いまだ結論は出ていませんが、これを純粹に科学的の問題として取り上げ、質疑を開始致します。」

この現象は依然として信頼に足る人々から報告されていますので、厳格な我々の科学理論はたしかにこの性質を調査しなければなりません。重要な点は、いわば検査や分析の可能な金属物質を伴う目撃報告が見当たらないということです。そういう訳で、我々はこれを様々な憶説として処理してきました。ある種の幻覚といった純粹な心理現象・自然物理現象・地球外知性の高度な技術機械といったものです。

そういったことをこれから説明してもらうために、本日六名の著名な科学者を招いております。物理学・心理学・社会学および技術データを取り扱ってきた方々です。彼らを迎え、迎しその所見を期待したい。また、他の数名の科学者には論文形式で意見を述べてもらい、公開議事録に付け加えます。

実際のところ、我々は当問題について判断の下し方がありません。本日の会合は、科学者の所見や諸提言を傾聴するためであった。この理由から我々の判断や行動は十分に信頼できる専門筋の情報に基づいていることとなります。ここではとにかく話を聞こう。

「すべての偉大な科学的進歩は斬新な突拍子もない着想から生まれた」我が国の哲学者ジョージ・デュメイのこの名訓は、過去半世紀の間の出来事にたしかに立証されている。ゆえに、本日は寛容な態度で耳を傾けたい。

科学者諸君を紹介します。ノースウエスタン大学天文学部長アレン・ハイネック博士、アリゾナ大学大気物理学部のジェイムズ・マクドナルド博士、コーネル大学空中・天文学専攻カール・サガン博士、シカゴ、イリノイ大学社会学部長ロバート・ホール博士、カリフォルニア大学土木工学准教授ジェイムズ・ハーダー博士、それにコンピュータシステム研究の長老ロバート・パーカー博士です。

皆さんの説明を歓迎します。最初にハイネック博士、次にマクドナルド博士それからサガン博士の順に、午後の部はホール博士、ハーダー博士、パーカー博士にお願いします。

説明の順は主題によってきめました。我々は、当委員会の後で六名の皆さんが円卓会議を開き、提出資料について討議されることを期待します。

当委員会の総括議長はジョージ・ミラー氏です。

議長ミラー。「本日にここに皆さんをお迎えしたいんうれしい。皆さんがここに来られたのは、空軍の今までの活動を非難することではないと確信致します。空軍は、当問題を処理せねばならない特別の使命を帯びた機関なのです。

不幸なことに「空軍はこの問題を徹底的に調査してこなかった」と語

るきわめて批判的な人々がいいます。法律上は空軍に属するけれども、いかにしてこの分野を取り扱ったらよいか我々にわからぬというところを皆さんに理解してもらいたい、そういう訳です。空軍のやっていることを批判してはいけないと思います。

我々は、あらゆる角度からこの問題を討議し、ゆえに本日の会議の意義はここにあると思います。我々は空軍の活動を非難するために集まったのではないということを再度指摘したい。ありがとう。」

ルーシユ。「ハイネック博士の紹介は、我々の同僚のランズフェルド氏にお願いした方が一番よいと思います。

ランズフェルド君」

ランズフェルド。「ありがとう。本日、名のある方々、特にアレン・ハイネック博士をお迎えできたことはたいへんうれしい。博士はイリノイ出身で、現在天文学を専攻され、リンドハイマー天文研究所長でもあります。また、博士は数多くの科学社交会のメンバーでもあり、学会のみならず政府の仕事にも従事してきました。紹介を承った議員として、私はこのメンバーに博士が招かれたことを喜ぶものです。博士の所見に期待するところ、大いなるものがあると思います。ありがとう。」

ルーシユ。「ハイネック博士、どうぞ。」

アレン・ハイネック博士の経歴

天体物理学観測所副所長、上層大気学・衛星追跡担当、ハーバード大学客員講師。

一九六〇/六八年（現在）、ノースウエスタン大学天文学部長。デアボン天文台長。

一九四四年、アメリカ海軍民間軍属。四二/四六年、ジョンホプキンズ大学応用物理学研究所技術論文指導。三五/五六年、オハイオ州パーキング天文台天体科学者。五〇/五三年、大学院副学部長。

アレン・ハイネック博士の声明

「ありがとう。私はアレン・ハイネック博士です。現在、ノースウエスタン大学の天文学教授、学部長ならびにリンドハイマー天文研究センターの所長を兼ねております。今もそうですが、私は多年空軍の科学顧問として、未確認飛行物体、すなわちUFOの調査にかかわってきました。しかし本日は、空軍を代表した発言ではなく、一市民としてかつ一科学者としてお話し申し上げます。

UFO現象は科学的に価値があるか

我々は、UFO現象が科学的立場から価値あるものかどうか、真剣に検討する目的でここに集まっています。それで、自分の発言が当問題についての皆さんの理解を深め、最終的判断に導く手助けになればと思います。

多年我々と共に存在したこのUFO関係ほど、世界中の報道界をにぎわせ、道行く人々の話題となり、かつまたこれほど多年にわたって多くの人々のイマジンを駆り立てたものはないと見当りません。UFOという言葉あるいはフライング・ソーサーは、あらゆる国民の言語や辞書に見られ、かりに、過去二〇年間に出版された新聞・雑誌・書籍中の単語をすべて拾い集めるとすればその数の多さに全く参ってしまわうでしょう。

最近、国会図書館で編集された「UFO関連文獻録」は最も感動的なドキュメントであり、科学者よりも一足先に図書館員の方がこれを重要視してきたことを物語っています。御存じのとおり、科学界というところは正確な計算・量のデータ・コントロールされた研究実験の世界であり、また十分に納得されている法則と理論の世界でもあります。UFO現象はこの科学界に不適当かのように見える。UFOは、我々の現代の科学の前で「これ見よがし」と言わんばかりに振舞っている感があるからです。

UFO問題は、ある部所で過度に感情的反応を起し、冷静な配慮よりもむしろ過熱した論議をしばしば発生させました。それゆえ、ほとんどの科学者はその論争を傍観し、打ちのめされないかたしめておむろに飛びかかる」といった諷刺にあらうような危険を犯したのです。空軍からも正式に調査の依頼がなかつたならば、私はこのUFO現象の研究に携わるようなことはなかつたでしょう。たぶん私は一しぼらくの間はそう考えていましたが一しぼらくの間は全くナンセンスだ、新聞の夏枯れ時の作り話にすぎない、特にアメリカ人好みの熱狂的な流行だろう、程度にしか考えなかつたでしょう。

二〇年前に空軍から依頼を受けた私は、天文学者として、UFOレポートから惑星・恒星・流星・その他天体現象を除去する作業を手伝ってきました。その結果、当時の事例の三〇パーセントは天文的原因であると判断しましたが、私の好奇心は、天文現象としては決して説明することができない残りのレポートに向けられたのです。

こういった事例は、心理学者コンサルタントによって表面的に説明されましたが、その場合しばしば私は魔術師が女性を切断する場面と同様の感じを受けました。彼がいかにそ

れをなしたかは私の能力のおよぶところではありませんが、しかし私は彼のこの振舞いに対し疑惑さえも起こりませんでした。そうでは、魔術師が実際に彼女を切断しなかつたのだと確信しているからです。

このようにして、天文学的事象以外のレポートを調査すべきだという好奇心に駆られるや、その努力は、多年にわたって続けられました。その間私は、我が国や海外諸国から寄せられてくる沢山の奇妙な報告類の洪水を前にして、しばらく思案しました。UFO現象に関するクレームはアメリカ国内だけではないのだからわかつたからです。最も興味を惹き立てた一今もそうですがこのような報告類は、全く明らかにまじめな理路整然とした人々によつて書かれたもので、それにもかかわらず、偶然にこの問題にかかわるようになったすべての科学者は、愚かしいことにせせら笑うようにして手を引いてしまつたのです。

事実を裏証しようと努めるのが科学者の義務

しかしながら、このような不可解な報告類は、全体の中のみならず部分にしか相当しません。今日、空中で行われている山々にして当然の説明がつく沢山の事柄に気づかない目撃者が明らかに誤認したとして、私はその報告類とは関係なかつたし、現在でもそうです。こういった例のものは、眼科医かもし、社会学者を除いてはほとんど科学的価値のないものです。一〇〇万人か一〇〇万人の人が人工衛星を見てもかかぬ確証に失敗したというようなことが問題なのでありません。

私の考えでは、潜在的に科学的価値のあるUFO報告類は、このことが我々にとってUFO研究の意義をもつていますが、ありきたりの科学的な手段ではどうしても説明できない空

中現象の例です。大部分の科学者、すなわち真剣にUFOデータに取り組もうとしない科学者は、高度な科学的研究を否定し、データの妥当性を確立すべく努力しません。そういう訳で、綿密かつまじめな組織的研究はまだ達成されていないのです。

科学界がまじめ顔をして、空港の新聞売店やペーパーバックの棚の料金を受けるようなことを期待するのとはとも無理なことです。「なぜあなたは、空軍の科学顧問として、UFO問題の重大性を科学界に警告しなかつたのですか？」とある人々から質問されてきました。答えはかんたんです。事実を裏証しようとするのが科学者の義務であるからです。「一匹の狼がいる」と説明できるほどに確信がなければ「狼だ」と叫んではいけません。

資金不足

つかみどころのないUFOデータ逸話の多いUFOレポート、報告類の継続的かつ真剣な調査不足一ただし、こういうことは多くの科学者スタッフが十分な資金が必要とされますが、申し分のない証写真の欠如、それに科学者の研究環境の一部を構成する量的データの全体的な不足などについて今までは私は痛感してきましたし、現在でもそうです。

科学者を引きつけるには、永久保存されるほどの重要な意味をもつデータが必要であると感じ、他方、信頼のおける目撃者からの疑う余地のない報告類が増大しているにもかかわらず、このような重要なデータ一度だけ、決着をつけるためにその事件を検討しなければならぬことを確保できるほどの十分な資金が用意されていませんでした。こういった理由で、私の沈黙は用心深く判断された決心に基づいて行われていたのです。

UFO問題の分析について現在の

私は、申し分ない名声と、有能であることと確信できる数名の目撃者の多量に情報を含んだ報告類に対して特に留意をします。たとえば、国立の最重要科学研究所の一つに属する同僚の科学指導者とその家族による詳細な報告書を取り上げることもできるとは、かような報告類は、いわば金星をふらついている宇宙機と誤認し、つけ込むようなカテゴリーとは明らかに違っています。

また他方では、一人以上のはっきりと信頼できる人々が次のようなことを報告した場合これはしばしば起こっていることですが、それはまぶしい話に話に違つてきます。それはまぶしいほどの光体が自家用車の上空七、八〇メートルのところをふらついで、ヘッドライトが点滅を繰り返して、ラジオ放送は中断、しかるにUFOが消え去つてからは元の状態に回復したと報じているのです。

いかなる権利で我々は彼らの証言を軽しく無視し、誤認だとか明らかに嘘をついているのだと主張し得るのでしょうか？ もし法廷で宣誓証言されたならば、彼らを嘘つきだと笑い飛ばすことができますか？

また、以下今日まで世界中の信頼できる人々から数多くの情報が提供されているのですが、明らかに我々は注意を払う必要があるのです。それは、静かな心持ちで家にいる人が、中庭の動物たちが騒ぐのに気づいて外に出たときに、パニック状態の動物たちの上を無音の状態に赤色光線を放つている発光物体を目撃したうらなるような音をする場合も時々ありますが、と報じている例のもので、そこでは、まさにきわめて重大なる事件が進行していたかもしれないのです。

UFOレポートの作成はタブー

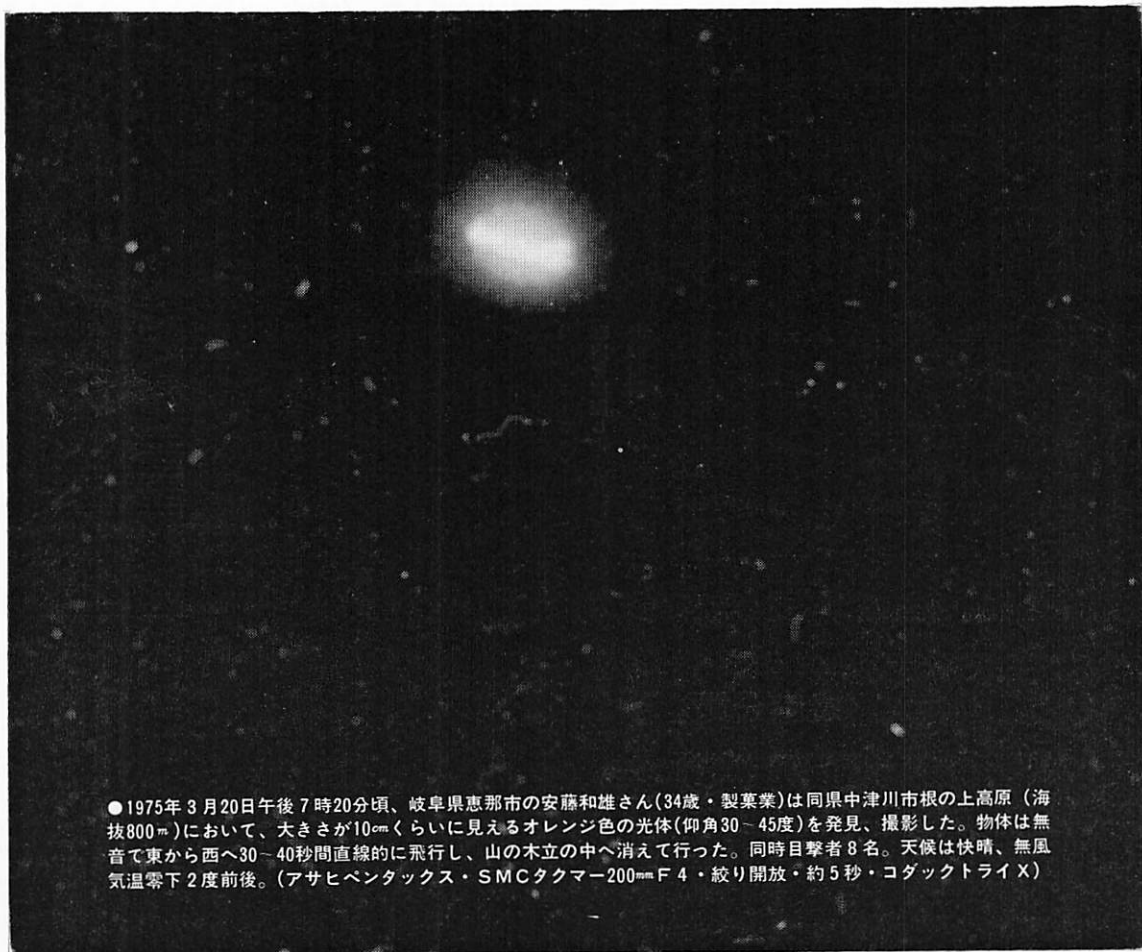
さて、ご理解いたいただきました科学界におきましては、顕著な事件が発見された場合、すみやかに科学者委員会が催されて、この問題についての説明がなされます。そして適切なジャーナルに発表される目撃者のしかしながら、信頼に足る目撃者の異常なUFOレポートの場合はそのかぎりではありません。科学界にあることさえタブーのように見受けられます。まじめな科学的作業はこのようなタブーが除去されて初めて遂行され得ることは明らかです。電磁気現象が見られたという論文が公表できるような尊敬に値するメカニズムが存在しなければなりません。

このようなUFO論文をアメリカ物理学会やアメリカ天文学会に提供しようとするのは、きわめて愚かなやり方です。科学的データとして提示される報告類が、逸話的で不完全で数値的性質のものでないならば、その論文は物笑いの種にされてしまふでしょう。

その結果、説明不可能なUFO事例報告類は、著者が金もうけをする場合は別として、うかつりするような空想的なタイトルをつけて、少なくともざらざらした安物雑誌やペーパーバックに見られることになるのです。

実際、三、四のUFO報告類に関して申せば、その正確性や証拠固めが全く無視されて、しばしば新聞売店等で一面記事にでかかると公表掲載され、世間を騒がせています。いやしくも、かりに科学者がそれに目を通すことがあるならば、その後で悪感を覚えるこの問題を全くとるに足らないものとして無視してしまふことにならざるべきでしょう。

これが、UFO現象を目撃した科学者の遭遇する最初の問題です。ほとんど確実に言えることは、彼が公表した価値ある報告資料は、現実の



●1975年3月20日午後7時20分頃、岐阜県恵那市の安藤和雄さん(34歳・製菓業)は同県中津川市根の上高原(海拔800m)において、大きさが10cmくらいに見えるオレンジ色の光体(仰角30-45度)を発見、撮影した。物体は無音で東から西へ30-40秒間直線的に飛行し、山の木立の中へ消えて行った。同時目撃者8名。天候は快晴、無風。気温零下2度前後。(アサヒペンタックス・SMCタクマー200mmF4・絞り開放・約5秒・コダックトライX)

出来事であったかもしれないが、それがセンサーショナルな終わってしまおうということ。このことは、ちょうど原住民が初めてヘリコプターというものを見たとき、あるいは皆既日食を体験した場合に報告される内容ときわめてよく似ています。まじめな科学者が意義深く重要だと見なしているデータに現に、同じくらい核心的でかつまた数量的であることがUFO現象それ自体に示されている—を探求すべきよりどころとなるものがどこにもないのです。

いかにして科学的研究に要するデータを手に入れるか

ここにおいて我々は、科学者とUFOの関係という難解な問題にやってきました。もちろんUFOとは何であるかといった根本的問題です。しかし、重要かつ決定的問題は、いかなる方法に従えば、我々は科学的研究に要するデータを入手し得るかということ。この問題は、もともとUFO報告書には本質的な価値はなく、それゆえに時間と金をかけることはムダであるといつた仮説—彼らにとって有効な、きわめて貧弱なデータに基づいて唱えられた仮説—のために多大の困難に直面してきている。

この奇妙な態度—しかしながら、その環境下にあつては十分理解できるのですが—そのことはちょうどはるかかなたに輝く星々は我々の幻覚にすぎず、明らかに物的存在ではないのだから、そのことのために天文台や望遠鏡を設置するのはよそうというのとよく似ています。

さいわいなことに、数世紀前に好奇心の強い一団の人々がいて、星は天空の結晶の幻想的な輝きなりという考えに容易に同調しませんでしたし、また多くの人々においては表面上、実行不可能なムダな冒険に思われましたが、しかし彼らはこの

星々の研究を十分に価値あるものと判断したので。表面上実行不可能な、たぶん報いを受けることもない天体研究とそれに関連した科学追跡は今日では我々にきわめて高度な科学技術界を提供してくれ、高水準の生活をエンジョイしているのです。それは、科学の目が決して天空に向けられることなかつた小作的社会にあつては、全く不可能と思われた水準なので。

大衆は知りたがっている

天空のUFO現象に目を転じてみようという勇氣が湧きませんか？きわめて重大なかつ不可能事ではない突破作戦をあえて無視されませんか？話は変わりますが、大衆は今や我慢できなくなっています。もう大衆は、二〇年後のUFO決議等は望んではいません。彼らは、このUFOの問題に何があるのか本当に知りたがっているのです。皆さんにはつきり申し上げられるのは、大衆は今まで与えられた解答では決して満足していないということです。普通大衆というものは科学的方法に関しては単純ではありますが、まじめな科学的接近と、ひやかし半分で大衆を茶化すようなやり方を区別する不思議な能力をもっています。

正直なところ、我々は科学者としてこの国際的なUFO現象に科学的価値があるかどうか調査してみたいと思います。しかし、この価値を発見するためには、我々は真剣にUFO問題を研究せねばなりません。また、この真剣な研究活動を可能ならしめるためには、有能な科学者、技術者、そして心理学者や社会学者をも含めた専門家を寄せ集めることが必要です。

立ち返ってみると、このことは、受容的な科学的風潮のみならず、資金が必要なのです。私は今まで、科学的汚名が除去されれば、ただちに積極的姿勢をもってUFO問題に取

り組みたいと、私に対して関心を寄せている多くの科学者を個人的に知っています。

しかし、未確認であるとの推定行為が、あらゆるUFO現象は、日々のかたんな合理的説明でこみれりということに強力に同調する限り個人で明瞭に要求された風潮は決して進展しないでしょう。

私は、ある以前の当時ベンタゴンの主任科学者であった人との出合いを思い出します。彼は、我々は一切どれほどの期間この物体と付き合っても見えないかかと私に尋ねました。私は、自分たちは本当にこれをいまだ見ていないのだと彼に気づかせました。すなわちその意味で、いわば、FBIは人さらいや銀行強盗、それに麻薬集団といったものを追いつけているのですから。

にせ宗教団体に利用されているUFO現象

この指摘と並行して私は、UFO現象を科学的研究の本格的な資料として受け止める姿勢に対して、大きな障害となっている別の事柄について討論を行いませんでした。

私は、大衆のある部分が彼らの特殊な目的のためにUFO現象を遠慮しているということに言及します。まさに、当初から精神的にアンパラスな人々や熱狂的なせ宗教団体が存在しておりまして—今日では彼らは力によって主張していますが—UFO写真に彼らの宗教的宇宙や宗教的信条のよりどころを見いだしていますし、また、地球救助という唯一の目的をもって友好的なスペース・ブラザーズがUFOに乗ってやってくるという敬虔な信念の中に自らの愚めや希望を発見しているのです。

このような人々は、ドキュメントや科学的研究それに批判的な注意深い思慮といいたものにはほとんど注意を払おうとはしません。彼らの備す

会議やミーティング、調達された文献類は、人々からあざ笑われるような主題ばかりであります。ある人々を、UFO現象のこのような不幸な面を、理路整然とした報告の手によるものであって、自分たちの体験の原因を知ることが、一市民としての義務であり、かつまた、市民としての権利でもあるという立場から記されている—と混同してしまふことこそ、最も重大な誤りであると私は強調したいのであります。

ついでに申し上げるならば、丁度今、私が言及した信者はめつたにUFOレポートを作成しません。彼らの信念は、実際のな支持を必要としないのです。他方、全く不可解なUFO現象のレポーターは、きわめてしばしば公平無私な、ときによっては、自分たちが目撃した体験に驚いている懐疑論者なのです。

願わくは、UFO現象に関する適切かつ明確なる公聴会の開かれんことを。そしてそのときに、科学団体に對して偏見なくUFOレポートの性質についての学問的論文が提示されますように。過去の当問題に対する科学的姿勢にもかかわらず、一九五二年、私はあえて、科学者団体にUFO短編を提示しようとした決心しました。すなわち、UFO現象の中きわめて重大な問題を取り扱おうという科学的直感を含んで。

私の論文は、一九五二年頃の数多くのケースに言及しておりますが、それは天文学的なものではなく、また、論理的に十分な説明のできないものであります。私は、UFO現象—それは当時大衆な興味を引き起こしましたが—を指摘する一方、当時の嘲笑的な流行姿勢に対して警告致しました。そして、問題をアタックする場合の、科学的方法の効果を大衆に論証すべき前代未聞の機会があると断言しました。ごまかしが科学的の分野であつた、ごまかしが科学的、また大衆はこのことを受け入れ

るべきではないと申しました。このときからずっと私は、繰り返して空軍にUFO現象の報告のやり方を格上げするよう求めてきました。一九六〇年、スマート委員会の公聴会で、私はUFO報告の調査のために緊要なる行動に移るよう主張しました。しかしながら、その提案は、拍手喝采を受けたにもかかわらず、基金は設立されませんでした。

大きな思い違い

UFO現象に科学的公聴会を、という科学的環境の受容性が高揚しつつあるとき、私は、サイエンスの一九六六年一月二日号に書簡を公表致しました。それは、決して難解なものではなく、その中で私はUFOについての一般的な思い違いを指摘しました。この手紙を記録の一部にされることを期待せず。書簡は次のとおりです。(UFOの科学的研究のメトリックと題して……略)

大きな思い違いとは、UFO現象の報告はUFO狂だけがやっているということ。それは、丁度UFOの報告が、信ずるに足らない精神の不安定な無教養な人々から来ているといった思い違いと同じく、事実上は全く正反対なのです。少なくとも私が受け取っているこの種の大部分の報告郵便物は、きわめて理路整然としたものだからです。

もう一つの思い違いは、UFO現象は、科学的に訓練された人々から決して報告されなかつた、決して近くで目撃されなかつた、決してレジャーに映らなかつた、決して科学カメラに撮られなかつたということ。適切に研究された後でさえも、これらの空中現象報告類が形式的な科学的用語による説明を拒み続けているといつた明らかさ。UFOは我々々に気づかせています。他の点に関心があるなどと申しはいけません。航空機か気球、流星、それに突入しつ

つある人工衛星といった夜間の光体すべては確認飛行物体のカテゴリーに十分分類されるのですから。換言すれば本当に未確認のケースに限って関心をもつべきなのです。空軍は明らかに空軍自身の未確認飛行物体のケースを保有しています。それは何百という数にのぼっています。空軍が目撃されたものを未確認と呼ぶのは、報告類がすべての適切なデータが明らかでない場合です。—それは、報告の原因もしくは説明については根拠ある仮説が示唆されているもので、反面、物体の記述もしくは行動が、いかなる既存の物体または現象に関係していないのです。

徹底的かつ広範囲にわたる研究努力が、なぜ空軍の未確認飛行物体のファイルによって換起されなかつたのかと尋ねることばきわめて論理的だと思います。答えは複雑です。UFOは国家の安全性にとって何ら脅威となるものではないというのが空軍の立場です。したがって、ファイルの立場にせよ、索するのには空軍の任務ではないのです。

適当に研究された空軍の数多くの未確認飛行物体は、つまるところ、確認飛行物体であつたということにされるでしょう。しかしながら、このことが、すべての未確認飛行物体にあってはまると考えるのは非論理的です。未確認飛行物体のケースが存在する限り、定義によればまさに未確認飛行物体ですが、我々はそれらの正体を知らないし、またはそのことは、科学に對する重大な挑戦と探求意欲への心広い誘いを示しているように感じます。

しかしながら、UFO情報の性質について、科学者の思い違いが全体に強力なもので、研究に対する驚くほどの無気力と無感動が広がっています。この無感動さは、科学の Handbook にはないでしょうし、大衆の信頼にそむくことにもなりません。

まさに過去数年間たぶん我が国や他の諸国からしつこく寄せられるUFOレポート—一九六六年と六七年の報告類が物語るにいたるが—のために、ますます多くの科学者や技師、専門家たちがこのUFO問題に對し積極的の取り組もうと、非公式ながら熱意を示し始めています。報告できるのは関心の的になると思えます。このように増大しつつある一団の適格な人々にとっては、結論は二〇年後に持ち越しなどということはますます非合理と受けとめることになるでしょう。

我々、魚釣りをするのか、それとも、餌を取ってしまうのかいづれかに決定すべきであるという感情が明らかに高まりつつあります。換言すれば、まじめに適当な一団の科学者と研究者を動員して基金によつて臨機体制を敷くのか、それともやめてしまふのかという問題です。私の提案とはまさに魚を釣ることなのです。

一科学者として、私は、本当に信頼できる科学的データから結論を粗み立て、それに基づいて行動することとができます。すでに指摘したとおり、このようなデータはUFO分野においてはきわめてまれにしか存在しません。それに、全問題に對する結論がすでに前もって出されてきたので、データ収集のプロセスを改めることが価値あると見做して考えられることはあります。しかしながら、一科学者として、私は科学的直感を認めてきましたし、この分野における恐ろしいばかりの科学界の泥水にもかわからず、しばしばこの直感が私に語りかけてきました。世界中的あらゆる地域の、それを報告することによって何ら益することもない—実際は科学的にたぶらん途方ないほどの価値があると思

る。多くの科学者が熱意を示し始めています。まさに過去数年間たぶん我が国や他の諸国からしつこく寄せられるUFOレポート—一九六六年と六七年の報告類が物語るにいたるが—のために、ますます多くの科学者や技師、専門家たちがこのUFO問題に對し積極的の取り組もうと、非公式ながら熱意を示し始めています。報告できるのは関心の的になると思えます。このように増大しつつある一団の適格な人々にとっては、結論は二〇年後に持ち越しなどということはますます非合理と受けとめることになるでしょう。

われる。高い名声の人々から、絶え間なく寄せられる未確認飛行物体に関する報告類を前にして、我々は今まで以上に、巨大なスケールの科学的努力を傾注し、当問題に向かって真正面から登っていかねばならないのです。

こういうわけですから、私のことをフライング・ソーサーの信奉者などと呼ぶわけにはいかないでしょう。ミシガンのUFOの論戦で、私があるは沼地のガスであると記録していることは、このような考えをめぐり去るに十分と思えます。しかしながら、たとえこれが科学的状態の分野であるとしても、その徴候は、解明されなければならない神秘として示唆し続けています。国家にとつてきわめて重要な価値ある問題を、我々はあえて無視できませんか？

私は、フェラデーが研究室で電気誘導の実験にとりかかっていたときに、当研究室を訪れた国會議員との話を思い出します。一体このことがどんな価値を生み出すのかと議員が尋ねると、フェラデーは、「先生、あなたはいつかこれに課税することになりますよ」と答えたのであります。

博士の提案

このような動機とは別に、私は次のような提案をしたいと思えます。第一に、現代科学で可能なあらゆる手段を駆使し、世界中、特にアメリカの信頼度の高い人々から寄せられる報告類を分析し、そこからもち出される問題を適切に研究し得る機構をつくり上げることです。このことによって、研究にふさわしい科学的尊敬が与えられ、あざ笑いが姿を消すことになるのです。その結果、適切な研究が、科学的努力の極致をもってしても無益に思われる様々な手段によって自由に遂行されます。

UFO現象の徹底的研究という特別の使命のため、議会による財団方



●カナダの円盤

●1974年10月15日、カナダ、サーレーの11歳になる小学生デービッド・クナツツェンが自宅(アパート)の外に飛んでいる円形UFOを、台所の窓からコダック・インスタマチック・カメラで見事キャッチした。物体はかすかなブーンという音をたてており、全体に黒色だったが、周囲のフチのあたりは細い青色の輝きを帯びていた。直径は約15mで、数秒間目撃したあと、猛烈なスピードで飛び去ったという。

式のUFO科学研究団体の設立こそこの問題を解決し得るということと私は断言しておきたい。

第二に申し上げたいことは、我々は国連と協力して、UFO情報の公明かつ自由な国家間交流をめざしたある方法を確立することです。一種の国際情報交換所とも言うべきもので、その理由は、UFO現象が世界的規模になつてきているので、あたかも一國だけの気象報告だけでは世界の気象研究が意味をなさないので同じく、他国の気象協力なくしてはこの問題を研究することは不可能であるからです。

未来の科学世代のために

さて、UFO問題は、我々の時代においては緊急に決着できないかもしれないと考へてみることもよろしいでしょう。これは、我々が想像している以上に多岐にわたる複雑かつまやかしな問題に決着をつけようとする努力することは、一〇〇年前の北極光を解決したときほどの生産的な意味をもたないかもしれません。北極光の原因は、一八六六年の科学機構では解決できませんでした。当時の科学知識はその現象を取り囲むには不十分だったのです。

同様に、我々の今日における科学知識も、UFO現象によって示される問題を取り囲むには、全体的に不十分かもしれません。それにもかかわらず、深遠な科学的責任というものは、未来の科学世代のために、最善をつくして可能な限りデータを収集しなければならぬのです。

要約しますと、二〇年間のUFO報告網の研究および目撃者とのインタビューから、今の私は最初この問題に取りかかったときに達しているものと全く違った結論に達しています。当初は、数量データの不足、逸話的性質、とりわけ金属物質の欠如、それに信びよう性の疑わしい写真、有益性のない報告記録等の低い

科学的内容のために、私はあまり感動しませんでした。

今でもなお、私はきわめて重要なデータが不足していると感じていますが、しかし、そのときに私はこれを集めようとして本当に努力してきました。余地のない人々のグループからの絶え間なく累積する報告書、不可解な航空機と近傍通過、ならびに動物たち、自動車・植物それらに地上上の物理的影響といったものを伴った報告類は、私をしてしびせようと、UFO現象報告書には科学的価値が存するか、もしくは、あらゆる点で分別に富み理路整然とした評判の高い人々が風している世界社会とも言うべきものを、UFO現象を報告したために無視してしまふか、二者択一という結論に到達させたのです。

いづれにしてもこの研究には大変な価値があると私は感じられています。何のためにだ、とも尋ねられる方がおられれば、私は、科学的研究がいつかへ向かうとしていられるかをいかにして知っているかでございます。たとえお答えするだけであります。もし、このような研究が人類の好奇心を満足させ、未知のものを探り、知的冒険をあてがうためのものならば、それは科学が表象しようとしていられるものと同じ線上にあります。

たとえ、フアラデーやキュリー夫人、ハーン、パスツール、ゴダードその他多くのパイオニアたちが自ら示した道がいつかへ向かうかはほとんど理解できなかったとしても、これらの科学的研究は現在では十分に報われているのです。

UFOに関する限り、この全く不可解な現象の背後に横たわるものを知りたいという単純な理由、もっともあなたに申せば、その真相を見させたいという理由から、これを研究すべきであると私は信ずるものであります。どうもありがとうございます。

ルーシェ。「ありがたい、ハイネック博士。残った部分は、午後の四時会議で予定してあります。しかし、他の代議士諸君は用務のためにそれに出席するのはむづかしいかもしれません。

もし、代議士諸君の中で質問されたい方がおられれば、この場でそれを聞きましよう。しかしながら、あと午前中に二人、午後三人の語が残っていることに留意下さい。」

ルーシェ。「ヘクラール君」

ヘクラール。「まず最初に、ルーシェさんが当シンポジウムを用意されたそのインシテイツに対して心から喜ぶものです。

私は、ハイネック博士に次の点についてお尋ねしたい。博士の指摘された科学研究団体とは、報告書を作り上げるための二種のワンポイント的なものなんでしょうか。それとも、空軍によるように、UFO現象の調査・報告・分析を行う継続的な組織をお考えなのですか。あなたの憶説からこのことを考えれば、空軍は国家安全を強調するあまり、UFO現象の徹底的な科学分析に合致した行動をとらなかつたということになりますか。」

ハイネック博士。「よろしいお答えします。最初の質問に対してはこのことと同程度の複雑な問題がワンショットで十分であるはずがありません。この研究団体については、世界人口問題、汚染問題、世界健康等々の研究組織と同じ意味で、継続性のあるものでなければならぬと思います。次の質問、そのことをここで話すために招待されたようなものですが、我々はこの問題を空軍関係者と討論したことはありません。それゆゑ、話す意思のないことを強く申し述べさせていただきます。」

ルーシェ。「あなたがとう、ランズフェルド君」

ランズフェルド。「そのためにあなかも午後は忙しいように見られていますけれど、私は残りの討論には出席できないでしょう。願わくは、ハイネック博士が論文で申されて

いる二つの提案に関し、委員会の他のメンバーの方が意見を語られんことを。さらに、午後の部において、各自が問題の重要点にしばって説明されんことを。せん越ながら、特別に研究の余地があるというハイネック博士の判断にある意味の賛意を禁じ得ません。もちろんその場合国会の論点は、何が優先されるべきかという点にあります。これは、むしろユニークな立場、有益性を想像し得る時代に先がけて一般に広がった科学的質問でもあります。多くの場合、科学的努力というものは、それが功をなさない限り、一般大衆に広く知れわたらないのです。

皆さん各自が理論のエキスパートなものですから、特別基金問題について数多くのショッピング・リストをお持ちであると確信致します。私は、ここで示された努力が皆さんのリストによってどのように優先的に適応していくか期待を抱く者です。ありがとうございます。」

ルーシェ。「あなたがとう、ランズフェルド君」

議長ミラー。「博士、あなたはさういふ多くのことを話されました。少なくとも人口問題研究。こういってこれるのではなくて、国立科学財団、国立科学アカデミーあるいは独自の科学団体によってなされています。」

これは、単に一示唆として申し上げますが、あなたは科学コミュニニティが、努めて国立科学財団やその他の科学団体に対し、当問題のインシテイツをとるよう勧めるお考えですか。それとも、インシテイツを政府が握るのを待っていると思いませんか。」

ハイネック博士。「もちろん、あなたが申された大部分の団体は、いづれにしても政府によって援助されています。今日の我々の科学研究の大部分、いやほとんどは、そうあらねばなりません。個人のよりどころはたらしかに限界があるからです。それゆゑに、だれがそれをなすがむしろ学問的に大きな価値を決定するのです。だれが犠牲を払ってそれを行おうとしているかがむしろ問題なのです。」

ランズフェルド議員が、すでに指摘されたとおり、我々はむしろ興味ある立場に立たないで、馬の前の車という奇妙な立場で、このことは、普通科学研究所において示されますが、ついに、その科学的研究の成果が大衆の関心の的になるのです。」

議長ミラー。「不幸にして我々のある問題では、たとえばNASAの例を上げれば、そこでは大衆は、廃棄物処理、汚染問題、健康とといったものに関心を抱こうとはしません。彼らは全く無関心であり、このことを時々知らせるだけでも大変な努力を要します。委員会はこういってこれを嫌々場合に学んできました。しかし、普通我々の背後には、圧力を与え、圧力を起こし、圧力を実行する一団の科学コミュニニティといったものが存在します。」

ハイネック博士。「本日の声明は一団の科学者がこのことを始めようとしているということを皆さんに知らせることにあります。事実、私の声明で申し上げているとおり、関心を寄せている膨大な科学者からの個人的な情報私には所持しているのです。」

議長ミラー。「本日のシンポジウムの意義はそのことだと思えます。」

森脇十九男

作図によるアダムスキー型 円盤解析の試み

描線の不一致から仮説をたてて

●●● 高橋 洋一

最近、新聞に「アダムスキー型円盤はニセモノで、実はびん冷却器だった」という内容の記事があった。以前にもA型円盤に対する種々の批判があった。はたして真偽は——。これは写真解析による円盤実在立証の試みである。

った。永い間だまされて彼には全く脱帽します」というような告白めいた記事が載せられていた。

ロジャーズ会長がロンドンの小さなカフェで発見したというびん冷却器が、実際どんな型をしていたのか知る由もないが、多分今度もまた間違っていたことがやがてわかるだろう。

ずっと以前にも、「真空掃除器の写真にすぎない」とか「台所用品やビンボン玉の組み合わせだろう」とかいろいろな批判があったと伝え聞くが、自身は自己流の写真解析でそうではないという結論に達している。

これは、写真を単に肉眼で観察するだけでなく、作図し合理的に推測する

ことから初めて可能になっている。

既にL・G・クランプ氏などの場合は、彼独特の正投影図法によって、アダムスキー型円盤とコンiston円盤の同一性を証明したばかりでなく、この種の円盤の底部がバラボラ構造を呈していたことまで発見している。

これは大した成果だと思ふ。たった一葉の写真からそこまで出すためには、やはり肉眼本位の観察だけでは、文字通り駄目だということであろうか。

私などつい最近まで、円盤の底部は三層に色相の異なる連続した帯状のリングから形成されているものとばかり思っていた。というのも、A氏の第二部作（空飛ぶ円盤同乗記・邦訳）の巻頭を飾っている図解には不連続なバラボラ構造などどこにも描かれてなかったからだ。私は、これをすっかり鵜呑みにしていたのである。

おそらく、著書の図解はA氏自身によるものではなく、彼がイラストレー

ターに口頭で説明しながら描かせたものであろう。そのために途中で手違いが生じたと思われる。

とにかく、円盤の底部がバラボラを成していたということを発見したのは、いずれ何らかの意義や説明と結びついていくと考えられる。その意味で重大な意義があるといえる。

A型円盤の底部は楕円型

さて、いよいよ本題に入ろうと思うが、その前に私自身、この種の円盤について最初どのようなイメージを抱いていたか述べておこう。というのも、これはこれから紹介することと対比の上で役立つだけでなく、おそらくはアダムスキー型円盤について、今日読者が抱いている一般的な通念を代弁するものであり、その意味で読者自身の認識との比較になると思われるからである。

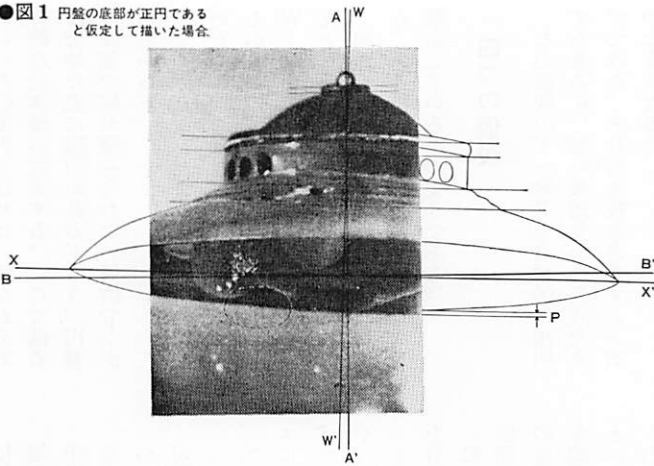
A氏が世界に提供した何枚かの円盤写真を一度ならずご覧になった方は、すでにお気付きのことと思うが、これらの写真の中には円盤自体が奇妙に歪んで見えるものがある。

造詣の深い読者の中には、円盤のフォースフィールド（力場）の作用によって映像が屈折し、それで歪んで見えるなどという解釈をされた方も、何人かおられるのではないだろうか。

このフォースフィールドの作用につ

今年の九月二一日付毎日新聞の「海外こぼれ話」というコラムに、英国未確認飛行物体協会のロジャーズ会長なる人物の、今から二三年前米アリゾナ州でG・アダムスキー氏（以後A氏とする）によって撮影されたという、いわゆる有名なアダムスキー型円盤は実はニセモノで、「その昔、英北部の工場で造られたことのあるびん冷却器だ

● 図1 円盤の底部が正円である
と仮定して描いた場合



いては今のところ何ともいえないが、実をいうと私もそのように考えたことがあって、それで万事謎を解決したつもりでいた。ところが、ある友人が私に紹介してくれたフランスの雑誌に、本誌でもお馴染みのL・G・克蘭プ氏のアダムスキー型円盤の正投影図が記載されていて、これに刺激されて私も類似の図面を他の写真から作成してみようと思立ち、何度か思考錯誤する内に、ある程度はフォースフィールドなどという難かしい概念を導入しなくとも、円盤の歪みを説明できるとい

ことに気付いた。そればかりではなく、その過程でかつて想像だにできなかった、この種の円盤の独特の機能と構造を発見することができたのである。それは、私がアダムスキー型円盤に関して最初に抱いたイメージ、つまり円盤の底部は真円形などの部分も中心から同心円状に固定配置されているといった先入観を、根本から覆す内容をもったものだった。そして、それを知って以来ア氏によって世界に紹介された、いわゆるアダムスキー型円盤の実在性に関する認識をますます深めるようになった。

いるのだ。結局無駄な行為ではあったが。ここで結論の要点を述べておこう。アダムスキー型円盤の底部は楕円型を成している。それも水平面に対して平行な楕円ではなく、幾分か彎曲しており、丁度消防士の消火帽のように片方ないし両方の縁が垂れ下がったような輪郭をもっている。第二点は、スカート状フランジ（外縁部）とそれに接続した丸窓のついた円筒型ドームが、丸屋根ドーム以下のキャビンに対し可動するということである。これに関しては、ボールベアリングを外側から包囲するカバー部品のうちに、その周囲をグアラングアランと動くようなモデルを考えれば良い。第三点は、フランジの内側の層、つまり克蘭プ氏によってパラボラ式になっていると指摘された内周が、それぞれ独立して駆動するという点である。

はこの部分を頂上部大レンズと述べている（を参考に二本の平行線を引き、それに直交させるようにして求めてある（線A-A'）。この線はキャビンの中心線だと思っ頂きたい。この線によって円筒型ドームとフランジがある方向に傾斜しているのが判然としてくる。図面ではスカート状フランジの中心線W-W'も描いてあるが、この方法については写真のコピーを二枚用意し、P氏がパワーコイルと述べている部分のシルエットの曲率を利用して求めたものである。フランジの中心線がわかれば左右のトリミングされている部分の大マカな様子が描けるようになる。問題は円盤の底部の直径がどの程度かということのだが、これはさして難かしくはない。この写真の円盤と同一物を、同日同時時間帯に撮影したという他の写真からそれが割り出せるからだ。

誤解のなきよう述べておかねばならないが、これは決して意図した計画ではない。そもそも当初は、アダムスキー型円盤の実在性を証明する意志なども毛頭なかったし、これから述べることはあくまで偶然裡に発見されたことなのだから。その発見の幾つかは、卒直にいうと私の嗜好に合わぬものも含まれている。例えば、この種の円盤の底部は真円形の方が美しいし、またそうあるべきだという意見を私はもっていた。そして、事実がそれを裏切った時、何度も作図し直して自分の好みに合わせようとまでして

これから本題になるが、退屈な文面が綿々と続いている。少々くどいような箇所もあると思うが、これは一応論文の体裁をとってあるので、その辺はご了承願いたい。

作図で非対称構造発見

まず、図1に注目されたい。最初に図心（中心線）の求め方だが、これは円盤の頂点にある球状物体のすぐ下にある座金か台座とおぼしき部分（ア氏

ここまでくれば、後は中心軸W-W'を

から一八〇度折り返せば、すなわち対称的な全体像が完成する。ここで読者は奇妙な点に気づかれるだろう。円盤の底部で線が噛み合わない箇所(P)があるからだ。

全く折り返したように左右対称に描いたのに、これはどうしてだろうか。しかもこのズレは、フランジの中心線W-W'を左右に二、三度移動させてみたところで解消はしない。

何か、円盤に今まで予想もしなかった、ある種の非対称構造があることを暗示しているかのようなのである。

四つの仮説

この描線の不一致Pを合理的に説明するために、初め幾通りかの仮説を立ててみた。それらを抜き書きすると次のようになる。

- ①円盤の底部の輪郭(以下、単に円盤底部ないしフランジとする)は水平だが、完全な円ではなく僅かに楕円状になっている。これらには正楕円、まゆ型楕円、卵型楕円、四角張った変型楕円など色々考えられる。
- ②円盤底部は水平だが、右端のトリミングされている部分の径が大きいの。この場合円筒型ドームの中心が、フランジの中心より偏心してなければならない。
- ③円盤底部は楕円状で、しかもその

周縁が水平ではなく、片方ないし両端が垂れ下っている。

④円盤底部は水平で正円だが、円筒型ドームを含むスカート状フランジが、キャビンの中心に対して傾斜、可動する。

この四番目の仮説に関しては面白いエピソードがある。この仮説は図1ですでに応用してしまっているものだが、実をいうとこれに気づいたのはずっと後、図2の中で使用している写真を分析してからだ。

私は円盤の底部が正円であるという信仰を捨てきれなかったので、四番目の仮説ならば図1での描線の不一致Pを説明できると思い込んでしまった。ところが完全な円というのは、キャビンの中心軸に対して余分に傾斜しているようにと、写真に撮る時には常に正楕円として映像化するのである。つまり、楕円の最も厚みのある部分が常に映像の中心にこなければならないし、対称に折り込んだ図面に描線の不一致など生ずる理由がないのである。そこで何を考えたかという点、撮影者のA氏がフランジの中心から何度かずれた方向に視線をもたせて、円盤を撮影したという仮説である。実際幾何学的に完全な円でも、その中心から外れた方向に真直ぐに視線をもたせた場合は、中心から視線が外れた割合だけ

反対方向に僅かなふくらみを楕円が映像化するのである。これはわざわざカメラで実験まで試みている。

これらの行為が全く徒勞にすぎなかったとわかったのは、図2の写真を更に深く分析してからだ。

外周フランジor 球形ギヤーは可動性

図2の円盤の図心は、やはりこれも写真のコピーを用意してシルエットを重ね合わせてゆく方法を使用した。

最初はフランジの縦の中心線A-A'だが、これには最外縁のシルエットの曲率を利用している。ここでは見事に重なるべき位置が見い出された。

この折り込みから底部を二等分する水平線X-X'を描き、そこから再び折ってみる。ここでもシルエットはうまく具合に重なる。一見どこにも非対称な部分は存在しないかのようである。

この縦横の基準線を引いてみて初めて気づいたのだが、着陸球型ギヤーと呼ばれる部分を乗せたフランジ内側の層が、これらの基準に対して何となく前傾しているように見えるではないか。

線B-B'とY-Y'はこの内周の基準線だが、ここでもシルエットを利用した折り込み作業で描いてある。

パラボラ式に分離しているフランジの内層が、常時同心上に固定配列されているのならば、こうした事は決して起こり得ないはずである。とりわけ縦軸がずれているのはおかしい。水平軸はフランジの水平の基準線X-X'からずれているのが当然としても、互いに平行にならないのは奇妙である。

ここから推測できる唯一の可能性は、円盤が最初から歪んだ型式で造られているのではなく、外周フランジの部分かあるいは球型ギヤーを乗せた内周のどちらかが、円盤キャビンの中心軸に対して可動するということだけである。

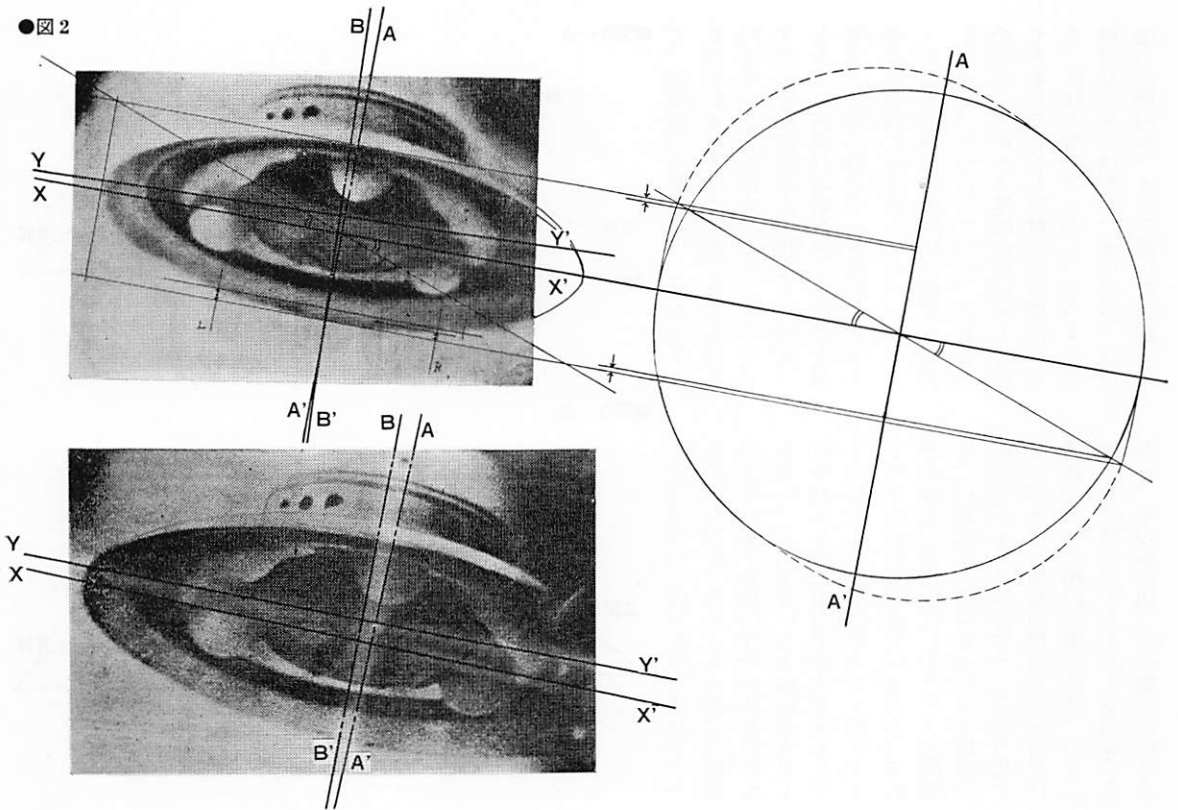
しかし、写真Aではフランジの中心線A-A'が丸屋根の上にある球状物体の上にはほぼ重なり合っている。ということは、ここでは内周が前傾していることになる。

では、このように可動するのは円盤の内周だけなのだろうか。これを明らかにしているのが写真Bである。

右端のトリミング部の描線は省略してあるが、この写真の図線はすべてAと同じ条件で描いてある。ご覧のように丸屋根上の球状物体に対して、外周も内周もすべて傾斜している。しかも互いに相反する方向にある。

A氏が、この二枚の写真を取める間に、円盤は緩やかに各部の位置を変えていたのだ。最初から歪んだ型式で造

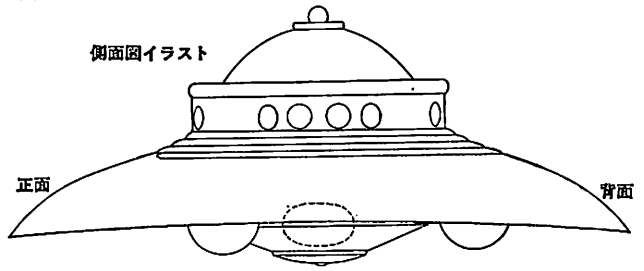
●図2



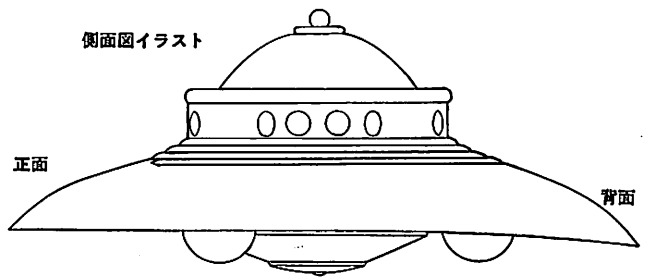
られているのではない。
 この新事実を発見してから、私は狂喜して図1のズレPを何とか説明しようと努力した。その顛末は先述の通り無駄なことだった。
 皮肉なことに私を狂喜せしめる事実を知らせた同じ写真(A)によって、アダムスキー円盤底部の非対称構造が明らかになってしまったからである。その作図が図2写真Aの傍らに描いてある。
 実線で描かれた円は、円盤の遠近法に関係しない直径(水平軸X-X'間)で描いてある。この円に写真Aの円盤と同じ角度をもたせた時、遠近法に關係した直径(縦軸A-A'間)と見事に一致すれば、円盤の底部は疑いもなく正円だと断定できる。
 そこで、水平線X-X'を基準として円盤底部の傾斜角度を調べると、これが約二〇度。この角度を平行移動させて、実線で描いた円の内部に描き込み、交わる点から平行線を二本引いて写真の方向へ伸ばす。
 結果は、私にしてみれば全く意外という他なかった。円盤の遠近法に關係した直径と一致しないからである。これは先にも述べたように、円盤の底部は正円の方が理想的であるといった固定観念から私が充分に脱しきれなかったばかりに、何とか一致させようとして何度も根本から作図し直してい

る。だが、結局再三にわたるその試みはついに成功しなかった。
 合法的に一致させようと思えば、実線で作図してある円そのものを書き変えなければならぬ。これは自明だった。
 遠近法に關係しない円の直径に手を加えてはいけない。これはこのままだからだ。遠近法に關係する円の直径を延長する必要がある。
 破線で示してある円周はその延長の大体の度合を示し、これは円盤底部の最外周が真上ないし真下から見ても、破線で示したような場合に一つの可能性として写真Aのように撮影され得ることを示唆してある。この他には、図線では示してはいないが、片方だけ長い丁度まゆ型のような、あるいは卵型のような楕円の可能性も考えられる。
 以上の事から疑問の余地なく、この円盤底部はA-A'間の径よりも長いということが判明する。実際的には、かなりの誤差をもって、中心軸A-A'を基準としてフランジ外縁の上端部で左寄り、下端部で右寄りの径が最も長いのかも知れない。
 そして、この事実がいとも簡単に図1における描線の不一致Pを説明していると思われるのである。
 だが、その前に確認すべき多くの事項がある。当初の予定では、円盤の底部が完全な正円であることを証明し

●図3-A



●図3-B



て、先の四つの懸案の内三つから早々に逃がれるつもりでいた。ところが正円でないことが逆に明らかとなって、すべてを保留せざるを得なくなった。しかも、四番目の新仮説こそはPを説明する主役と信じていたのに、どうも単なる脇役にすぎぬらしい。

すると、四つの仮説中一体どれが正しいのか。一つか、二つか、それとも全部か。とにかく第四仮説は正しいのである。それから円盤底部が楕円である。これも事実。しかし、どのような楕円なのか。卵型か、まゆ型か、四角張った楕円か、また三番目の仮説のよ

うに片方ないし両方が少々垂れ下がった楕円なのか、それとも一番目の仮説のように水平な楕円なのかそれがわからない。正円でないことははっきりしたのだから第二案の半分は意味を失なう。しかし、後半のキャビンがフランジの中心に据えられているのか、それとも偏心しているのかといった問題は、円盤底部の楕円がどういふ種類の楕円なのかその答によって相対化する。例えば、卵型の楕円とか片方だけ垂れ下がった楕円の場合には、明らかに一方の径が長くなることを意味するから、その場合第二案の後半部はある

程度正当化できるが、両端が垂れ下がった楕円、まゆ型の楕円などの場合には否定される。

これらのことを逐一証明するのは、ほとんど不可能に近い作業といってしまうだろう。しかし、少なくとももう一つの事実は追加できそうである。

それは、A氏が他日撮影したと伝えられている母船と小型機の写真(次頁)の中に見られる。この写真の一番右下にある円盤に注目されたい。

機体の輪郭は、イオン化したフォースフィールドによって見えなくなっているが、その元の外形はおおよそ見当がつく。臆測にすぎないが、これによる限り円盤の底部は彎曲しているようである。いや、彎曲した機種もあるといった方がより正確であろう。しかし、彎面といっても片方だけ余計に垂れ下がっているのか、それとも両方なのかはわからない。

図2の写真Aで、中心線A-Aを挟んでLとRで指示して置いた箇所がある。この指示はLよりもRの部分の方が幾分か幅を有していることを示すものだが、もし、円盤の底部が両端に垂れ下がっているものなら、その対角線の方向に最も幅をもった部分があるはずである。言い替えれば、底部楕円の長軸がその方向に面しているということだ。

また片方だけ垂れ下がっているのな

ら、Rで指示して置いたあたりが一番中心からの長い径をもっているといえる。

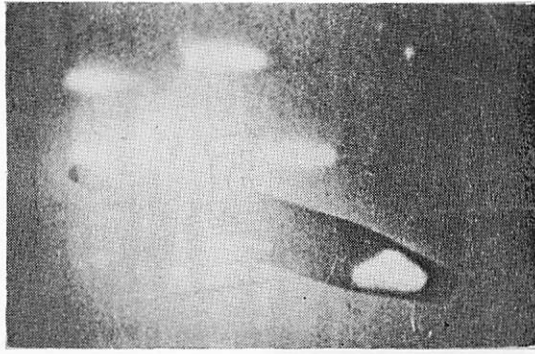
現在、二つの可能性を私は考えているので、それらのイラストを紹介しよう(図3A・B)。このイラストではコンデンサーコイルと呼ばれている部分が四層に描いてあるが、これは写真によれば五層にもなって見えるところがあるのでそうしたまでにすぎない。

一般にコンデンサーコイルは三層でそれぞれ独立しているかのように思われているが、写真で途中で切れているかのように見える所がある。もしかすると、これはレコード盤の溝のように本来一本の層が上から下まで巻かれていたのかも知れない。

これらイラストの内Aを参考にし、図1の描線の不一致Pを再吟味してみよう。図4を見ていただきたい。

破線で囲んだ所がある。この部分は、写真ではわかりにくいかもしれないが、負の方向に反り返ったように見えるのである。トリミング部の少ない同一の写真を参照すれば、それがはっきりとわかる。

ここで、負の方向といっているのは、普通円盤の底部が正円型、楕円型のいずれであっても水平面に平行になっっているならば、その輪縁の曲率は必ず正の方向に閉じるはずである。ところが、水平面に平行でない部分がある



●写真1

場合、例えば底部が彎曲している場合などには、その逆の方向の曲率を示す部分が出てくることを意味している。そこで、私は図3のイラストAの破線で囲んだ部分の向こう側の端が、写真の中の破線で囲んだ部分に該当するのではないかと考えた。すると非常に難かしい角度ではあるが、トリミングされた部分の大体の像をイラストできるようになる。

外縁の垂れ下がった一方の端を仮りに円盤の正面とするならば、写真ではA氏がこの正面から右寄りの位置で撮影している。円盤フランジのもう一方

の垂れ下がった端、つまり背面は正面の対角線の方向に該当する。

これで、図1における描線の不一致が何故生じたか、説明できるのではあるまいか。この正面と背面の方向、つまり楕円の長軸の方向は、図2の写真Aの所で暗示して置いた方向とほぼ一致していることに留意されたい。

図3のイラストBを参考にする場合には、図4の全体図はもっと簡単になる。これは読者にお任せしよう。

私の結論

さて、結論である。A氏の目撃した円盤は円筒型ドームとそれに接続した部分が、丸屋根ドームに対して可動する仕組みになっているばかりか、フランジの内側の層すらもキャビン真下の部分に対して可動するということがわかった。その上、円盤の底部は彎曲していたのである。

このような円盤の機能と構造は、おそらく機体にジャイロスコープ的な安定性をもたせるためではないかと考えられる。こうした可動部分に対し、円盤の中央部（キャビン）やA氏のいう磁気柱の存在するところは、地面に対して常に垂直を保ち続けていると思われる。

マデリン・ロードファー女史（以下マ女史とする）の撮影したアダムスキー型UFOは、A氏の目撃した円盤と全

く同一のものではないが、やはり外装が可動するようである。然も中心は常に不動のまま地面の方向を向いている。このような特性を見せる円盤写真は他にも数多くある。

私自身の分析では、マ女史の円盤はフランジ外周が水平ではなく、二つに折ったような構造になっているようだ。この奇妙な外観と外装が可動するという二点で、円盤自体が見る角度によつて異様に歪んだかのように見えるのである。

最後に、アダムスキー型円盤が偽物であるという説に対して反論を唱えておこう。既に材料は出揃っている。

最初に台所用品ピンポン玉による贗造物ではないかという説だが、もしA氏の目撃した円盤がそうしたガラクタから造られているとすれば、驚くほど精巧に造らなければならないという問題がある。先述のように、フランジやその内側の層部分まで可動するのである。このアイデアをどこから得てくるというのだろうか。それに彼が目撃した円盤は、球型車輪が上昇するに従って、地球上の一般の航空機のように内部にたたみ込まれるようにできているのである。

これだけの機能を模型に与えるには、まず第一に金がかかる。それに面倒なことだ。ごまかすつもりならば、

当時はだれも円盤のことなど知らなかったのだから、もっと単純な模型でそれができたはずである。

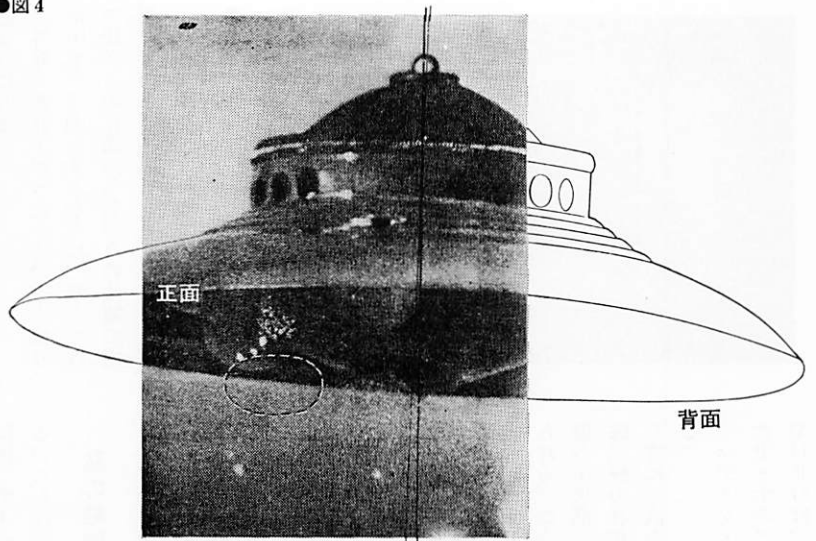
また、もしA氏が模型で世間を欺こうとしたのなら、フランジやその内層が可動するというメリットを最大限に利用してしかるべきである。しかるにA氏はそのことを一言も述べていない。

私心では、彼は円盤の外周その他が可動するという事実を確認できなかったのだ。自分で造った模型の機能自身が確認できない。そんな馬鹿なことが有り得ようか。

それと、マ女史の目撃した円盤との機能的特性の奇妙な符合点。これをどう説明するか。彼女はA氏による円盤写真を逐一分析して、似たような模型を造ったのだろうか。少なくともアダムスキー型円盤の各部分が可動するという事実は、肉眼による観察だけではなかなかわからないからだ。

真空掃除器ではないかという説に対しては次のように答えておこう。

A氏による何枚かの円盤写真の内には、円盤自体が彼自身も述べているように半透明のように見えるものがあるということだ。フランジを通して、球型ギヤーとそれを固定している内層のリングが、僅かに透けて見えるのである。真空掃除器のような铸件に、果たしてこんなことが出来るだろうか。そ



●図4

れと円盤の光沢である。

球型ギヤーがピンポン玉だとしたら、この真空掃除器は恐ろしく小さいといわねばならない。直径二五センチメートル弱の真空掃除器、果たしてそんなものがこの世に存在するだろうか。私は真空掃除器の専門家ではないので詳細は知らないが、それでもそうした類のモノはもっと大きく、しかも

旧式のモノははるかに吊鐘そのものに近い型をしていように思う。

英米確認飛行物体協会のロジャーズ会長が、偶然発見したというびん冷却器がどんな形をしていたのか知らないが、大体においてこういうものは安定性の問題から考えると底部は水平でなければならぬ。然るにア氏の撮影した円盤はその底部が彎曲している。

また正投影図を作ってみれば判然とするように、これはかなり横の方に拡がっている。びんを冷却するための装置に、フランジに見られるような横幅が一体必要だろうか。写真だけで、自分本位に円盤の形を想像するだけではないかに歪んだイメージが出来上がるか、それは私自身痛感している。

というのも、その昔私はアダムスキー型円盤というのは、もっとズングリ

した不恰好なものだと考えていたのである。当然私がアダムスキー型円盤を偽物であると主張しようと思えば、そうした自分の思考の中だけで自然膨脹したズングリしたモデルを捜すことになっただろう。

奇妙なことに、大気抵抗の問題からアダムスキー型円盤を否定する者がいる。もっとスマートで流線型的なイメージを彷彿とさせるものでなければ、高度な文明人が造る航空機として相応しくないというのである。しかし、流線型が文明進歩のバロメーターであるなどと一体だれが教えたのだろうか。

ひよっとすると流線型というのは、大気抵抗を処理できない事情の象徴ではないだろうか。周知のように、我々は大気抵抗を力学的にしか処理できない。だから乗物の高速化が進むにつれて、居住空間を切りつめても流線型になってゆかざるを得ない。これはただ単にデザイン上の問題ではなく、高速度に伴う純粋に機能的な問題であり、副次的結果として外観上の美しさをもたらずにすぎない。

もし、大気抵抗を処理しうるもつと別の手段があるならば、乗物の外観などはどうでも良くなるはずである。サイコロ型の航空機があっても少しもおかしくはない。

流線型という型式は嗜好上の問題を別にすれば、これからも続くであろう

永い航空史上の一時期を飾る型式、つまり過渡期の型式にすぎないのかも知れない。UFOのあの自由自在な型式を見ていると、どうもそんな気がしてくる。

円盤がどのように大気抵抗を処理しているか。この問題は関心の一つのスポットだが、ア氏自身による三部作や、他の記事による限りでは、円盤は極めて高い電圧下にある陰極線で、大気をイオン化し反発分解を進めて気体に対する抵抗を少なくしているらしい。

陰極線が大気を電離させることは、古くから知られているが、一気圧(通常大気圧)下でそれを行うには、ガイスラー管のような低気圧管の中で使用する電圧よりはるかに高い電圧・電流を要するだろう。

電離作用によって、円盤のフィールド内では相対的に電圧が低くなっていることが考えられる。フィールドの最も強力な部分、おそらく機体より数センチメートルの範囲では、真空に近い状態が達成されるかもしれない。大気抵抗を防ぐには、これだけで十分なはずである。

電離の際、大気分子は光を放出する。この光はオーロラ同様、日中観測するのはほとんど不可能である。夜間に円盤が輝光に包まれて見えたとという現象例の報告が多々あるが、これは電

離光が円盤の周囲を取り巻いているからだと考えるとある程度得心がゆく。

円盤が通過した後は、電離した気体分子が取り残されて、再び結合して安定した状態に戻ろうとする。この結合の際にも光を放出する。条件いかなりでは、円盤の背後に光の尾を曳いているように見えるかもしれない。

円盤にこうしたフィールドが必要なのは、何も大気圏内に限ったことではない。宇宙空間には微細な塵埃が充滿している。宇宙船がフィールドをもたずに高速で宇宙を通過するならば、まるで金剛砂をかけられたように、機体が摩滅してしまうだろうとア氏は述べている。

ここでいうフィールドが先述の陰極線のフィールドだけに限定されるものかどうか、大いに疑問のあるところだが、いずれにしても、基本的な考え方としては、ア氏の意見は卓見だと思ふ。

我々は人工衛星で、比較的近隣の諸惑星まで到達している。しかし、やがてもっと長距離の宇宙飛行が実現するときに、例えば光年単位の空間の彼方まで一足跳びに飛行するような場合には、ア氏の指摘した問題がそのまま現実になるような気がする。

いや、この現実的問題からして、他の遊星からはるばる訪問するだろう未知の宇宙船には、当然何らかの防禦フ

ールドシステムが備えられていなければならぬのだ。

蛇足になるが、幼い頃漫画でよく見かけた未来の乗物に関するイメージの中に、電磁バリヤーで機体の周囲を取り囲むというのがあった。電磁バリヤーの何たるかも知らず、当時私は、これを良しとし、好ましいイメージの中で吸収していた。

いったいだれが最初に電磁バリヤーなどという概念を思いついたのか。漫画家かそれともSF作家か。この問題はそもそも空飛ぶ円盤という概念自体空想の産物であったのか、それとも実際的原因があって、それから生じたのかという取り留めのない議論に似ていて、一説によると空想の方が最初だったといわれる。

円盤が世界に公的に知られるようになったのは、戦後のことである。しかし、戦前に漫画で見かけたという人物がいるのを私は知っている。実際の円盤現象と何ら縁もゆかりもない地球人自身の生み出した恐怖のタネ、空想の空飛ぶ円盤、それが突如戦後になって現実の舞台上で登場してきたとすれば、何と摩可不思議なことではあるまいか。空想とは本来、予感、創造性といったことと裏ハラなものなのだろうか。

一片の空想がいつの日か現実になる

という奇妙なパターンが、歴史の中に存在していることを我々は知っている。ロケット、人工衛星、熱線銃、すべて空想にすぎなかったものが今では現実だ。なぜ現実になるのかだれもわからない。おまけに異星人の空飛ぶ円盤という空想まである。そして電磁バリヤーだ。この予感めいた空想は、ア氏による円盤の周囲を包むフォースフィールドという概念と、どこかで暗合しているように思えてならないのである。

〔補稿〕

この論文の中では詳しく論究されていないが、レンズ収差による被写体の歪みという問題側面がある。案外、この問題の解明が最も重要なことなのかもしれない。例えば図5の写真の中に見られる底部大レンズと呼ばれている部分の異様な歪み、これは最後まで説明できなかった点である。これと円盤の頂点にある球体のすぐ真下の台座のような部分の傾きの方向を比較すると、あたかもコマ収差による歪像現象にすぎないようにも見受けられる。

映像の歪みを起こす原因はこの他にも考えられる。レンズの光軸が興行きをもった被写体の中心付近から著しくそれている場合、あるいはア氏の使用したカメラのピンホール板が歪んでい

た場合、写真乾板が正確にセットされなかった場合、同時使用の六インチ反射望遠鏡の凹面鏡の位置が不正確な場合、望遠鏡にカメラが正確にセットされなかった場合等々、この他にも種々の可能性が考えられる。写真をプリントする際でも映像の歪みは起こる。

しかし、これらの可能性を逐一確認するためには全く同一の条件で撮影されたア氏による円盤写真を、なるべくたくさん、それもトリミングされていない状態のまま入手する必要があるし、場合によっては、撮影当時の状態まで何もかも復元する必要があるかもしれない。

私は論旨が煮つめられていくことを期待している。アダムスキー型の円盤の構造に関して決定的な結論は出ないにしても、無数にある可能性をより限られた可能性に絞っていきたいのだ。

もしかすると、私はこの論文で写真中の円盤が歪んでいるという周知の事実を、より判り易く図式化しただけにすぎないのかもしれない。しかし、どこがどのように歪んでいるか完全ではないにしてもある程度明らかにすることは、今後アダムスキー型円盤の光学的分析を進める上で、とりわけレンズのくせを知る上で役に立つだろう。

この問題について、さらに深く追究されている読者からの御意見などあれば幸いである。

球型コンデンサーと回転電場

円盤工学試論

藤井 信之

の電圧をかけたとする。そうすると、
 $Q_A = C\psi_A$ 、 $Q_B = C\psi_B$ 、 $Q_C = C\psi_C$ となる。
 (ただし、Cは静電容量) ③

①、②、③より、

$$E_x = \frac{C}{4\pi\epsilon_0 a^2} \left\{ \psi_A \cos \frac{4}{3}\pi + \psi_B + \psi_C \cos \frac{2}{3}\pi \right\}$$

$$= \frac{C\psi_0}{4\pi\epsilon_0 a^2} \left\{ \cos \omega t \cdot \cos \frac{4}{3}\pi + \cos(\omega t + \frac{2}{3}\pi) + \cos(\omega t + \frac{4}{3}\pi) \cdot \cos \frac{2}{3}\pi \right\}$$

$$= \frac{C\psi_0}{4\pi\epsilon_0 a^2} \left\{ -\frac{1}{2} \cos(\omega t + \frac{2}{3}\pi) + \left[-\frac{1}{2} \cos(\omega t + \frac{4}{3}\pi) \right] \right\}$$

$$= \frac{3C\psi_0}{8\pi\epsilon_0 a^2} \left\{ -\cos \omega t - \cos \omega t - \cos \omega t \right\}$$

$$= -\frac{3C\psi_0}{8\pi\epsilon_0 a^2} \cos \omega t$$

同様にして電場ベクトル E_y, E_z は、

$$E_y = \frac{3C\psi_0}{8\pi\epsilon_0 a^2} \sin \omega t \quad E_z = -\frac{3C\psi_0}{8\pi\epsilon_0 a^2} \sin \omega t$$

$$\tan \theta = \frac{E_y}{E_x} = \tan \omega t \quad \therefore \theta = \omega t$$

$\therefore Q = \omega t$ となり、電場ベクトルは原点を中心に回転したことになる。

以上のように、円盤の中心軸の回りには回転電場がかかっていることがわかった。電気工学上、次に問題となるのは、どんな物質に回転電場をかけるかということである。

大学の工学部の人ならすでにおわか

球型コンデンサーというのは、アダ

ムスキー・タイプ円盤の底部にある三個の球型のもので、普通、着陸用ギヤ

とよばれる。図1のように、球型導体に+Q₀の電荷を与え、中心からrだけ離れた点Rでの電界の強さを求めてみよう。

i) r < a のとき、
 $E = 0$ となる。

ii) r ≧ a のとき、

$$E = \frac{Q}{4\pi\epsilon_0 r^2}$$

ϵ_0 : 真空の誘電率

$$\left(\text{電位 } V = \frac{Q}{4\pi\epsilon_0} \cdot \frac{1}{a} \right)$$

図2のようにUFOの三個の球型コンデンサーは三回対称になるようにお

かれています。球型コンデンサーAについて考えてみることにしよう。今、Aに+Q_{A0}の電荷があるとすると点Oでの電場Eのx成分E_xの強さは、

$$E_x = E_A \cos \left(\frac{4}{3}\pi \right)$$

$$= \frac{Q_A}{4\pi\epsilon_0 a^2} \cos \frac{4}{3}\pi$$

C、Bも同様にして、電場E_xは、

$$E_x = \frac{1}{4\pi\epsilon_0 a^2} \left\{ Q_A \cos \frac{4}{3}\pi + Q_B + Q_C \cos \frac{2}{3}\pi \right\} \quad \text{①}$$

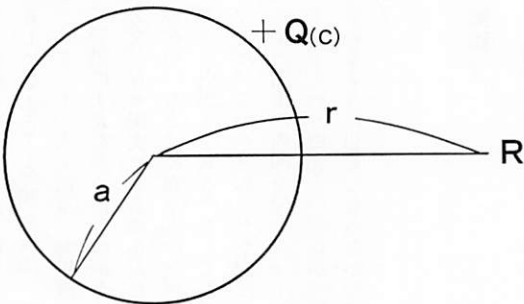
なお、コンデンサーA、B、Cの静電容量は同じである。今ここで、
 $Q_A = Q_B = Q_C$ としてみよう。

$$E_x = \frac{Q_A}{4\pi\epsilon_0 a^2} \left(\cos \frac{4}{3}\pi + 1 + \cos \frac{2}{3}\pi \right) = 0$$

となる。E_x = 0 となると電場は回転しなくなる。このとき、もちろんE_y = 0 となっている。つまりQ_A、Q_B、Q_C は三つとも同じ値をとらなるとしてよ

そう。そしてまた、電場を回転させるためにはコンデンサーA、B、Cに時間とともに変わる電圧をかけなければよいことになる。つまり、周期ずつ遅れて同じ電圧をかければうまいこと電場は回転する。

● 図1



りだろうと思うがこれはチタン酸バリウムである。チタン酸バリウムは誘電体の中でもとくに高い比誘電率(約五〇〇〇)をもつ誘電体である。チタバリのほかにもうひとつ、フェライトがある。(フェライトは磁性物質である)ところが、比誘電率や磁性というものは、円盤の原動機にはなにも関係ないところだ。

に磁気モーメント・ベクトル \mathbf{M} ができている。これはエネルギー状態が正のときである。ところが、スピンを回転電場で逆転させることができる。そして、 $\mathbf{M} + \Delta \mathbf{H}_0 = 0$ $\Delta \mathbf{H}_0$: 磁場方向の誘磁係数 γ : 電磁相互作用定数

図3を見ていただきたい。これは磁性体のスピン・ベクトル \mathbf{S} と逆の方向にある。このようにして円盤は負のエネルギーを作り出している。〔補説〕今までの説明の中でコンデンサーについて少しおかしいと思う人がいるだろう。コンデンサーは二枚の導体(板)を絶縁してはじめて役目を果たすものだから。図4のように同心球の球体二つ(半径 a 、 b は $a < b$)をとる。Aに $+\mathbf{Q}$ を加える。そしてBはアースしておく。

このときの両球間の電界の強さ E は、

$$E = \frac{Q}{4\pi \epsilon_0 r^2}$$

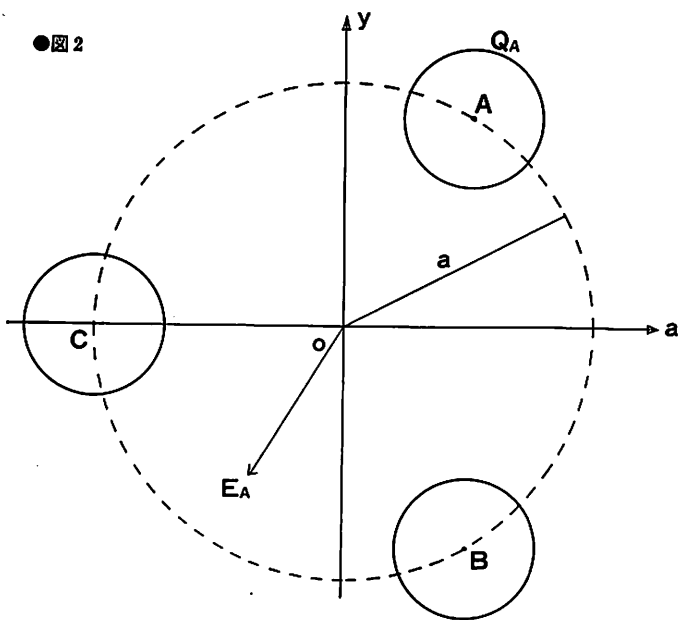
 したがって内球の電位 V は、

$$V = - \int_a^{\infty} E dr = - \frac{Q}{4\pi \epsilon_0} \left(\frac{1}{a} - \frac{1}{\infty} \right) = \frac{Q}{4\pi \epsilon_0 a}$$

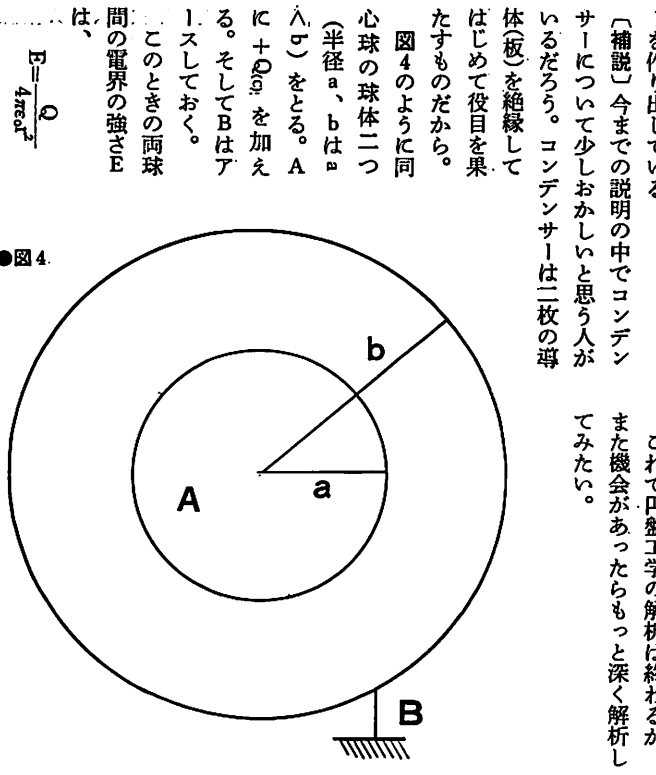
 図1の場合の電位 V は、

$$V = \frac{Q}{4\pi \epsilon_0} \cdot \frac{1}{a}$$

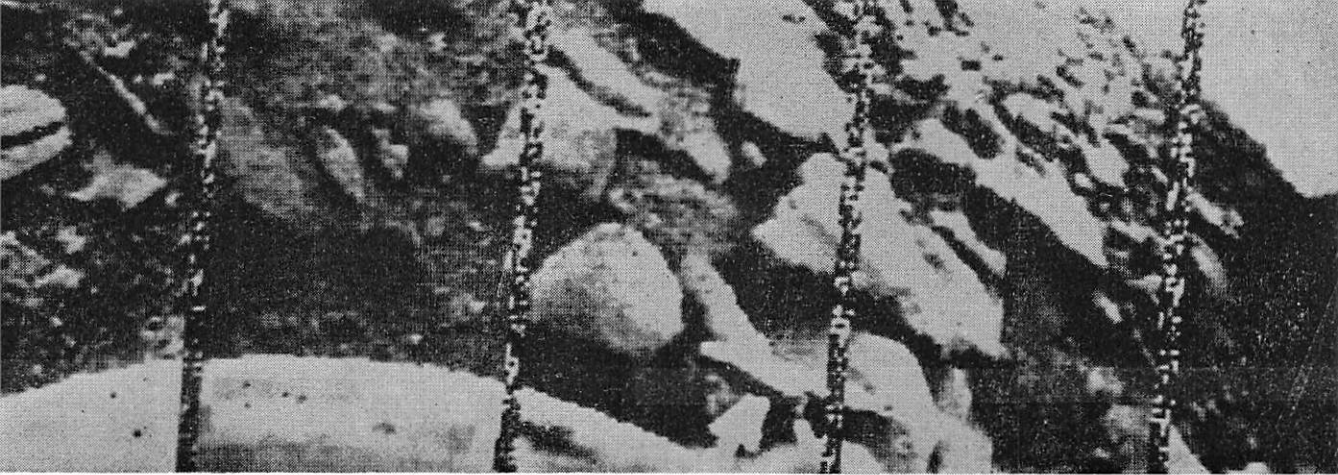
 ④式において $b \parallel \infty$ とすれば $V = V$ となる。すなわち、円盤の球型コンデンサーの外球は無遠限にあるのだ。これで円盤工学の解析は終わるが、また機会があったらもっと深く解析してみたい。



●図2



●図4



ため、暗黒であるべき表面の状態を地上から観測することは不可能だったが、発表された写真によると、岩石がごろごろしている様子がはっきり写っていた。レーダーによる金星観測で、すでに科学者の推測—地表には大きな浅いクレーターがあり、ときおり砂嵐がその上を吹き荒れている—が明白であることはわかっていたが、大きな鋭い角をもった石の存在は、考えられていたほど侵食作用が進んでいないことを示している。

軟着陸7時間後に出されたタスの発表によれば、着陸地点で“不思議な映像”が撮影されたが、これは直接に発表されていない。これらの写真は上空の母船を中継して送られたものである。モスクワの専門家筋は、観測機械がもっと長時間作動するだろう

とは考えたが、とにかくこの着陸は大きな成功だと語っている。下降部は2日前に母船から切り離され、金星大気中を毎秒10.7キロメートルで降下、大気との摩擦

により毎秒250メートルに減速され、パラシュートが開いて地表近くでは50メートルに落ちた。金星の大気はきわめて濃密なため、ここでパラシュートは切り離され、あとは滑空して着陸した。この着陸によって事実上金星探査はソ連の独占するところとなった。米国は3度金星に向けて打ち上げを行い、1973年が最後だったが、いずれも着陸ではなく通過であった。

金星9号、10号のこの成功—カプセルの作動状態については今後数週間経てみないと明らかな判断はできないが—昨年初頭4つの探査機が連続して火星に到達して以来の惑星到達である。しかし、つづげさまに機器が故障したため、またも科学者団は期待していた大量の資料入手ができなかった。

金星9号の到達は、アメリカが予定している火星着陸をも9カ月先んじた。2台の無人探査機が火星に着陸し、金星9号に近い方法でデータを送ってくることになっている。

今回はまた、ソ連の公的報道機関から予期しなかった情報も流され、これには内惑星通信センターからの初のTV中継をも含んでいるようである。

さらに、着陸船の構造においてはボール型の前のモデルとは大幅に設計変更が行われていることがわかる。前回の宇宙船は直径が1メートル程度であったが、9号は高さか約2メートルあり、金属網のエリに似た、おそらくはアンテナを備え、底部の周囲には空気ブレーキがスカート状についている。また着陸方法として2基のパラシュートが突入時の減速を行っており、最初にパラシュートが開き、次に50キロメートル上空で3個の大きな天蓋を切り離すという方法をとっている。

この金星9号、10号が送信してきたデータの結果、これまで金

星の表面は強い風による風化作用のため、砂丘の状態になると考えられていたが、この予測は完全にくつがえされたのである。しかも、送られてきたデータによると、風はそれほど強いものではない。また地平線も予想されたように高気圧による屈折作用のゆがみもなく、はっきりと写っている。そして金星表面はこれまで厚い雲に日光をさえぎられ“暗闇の世界”と想像されてきたが、遠景までとらえた写真撮影により、想像以上に“明るい世界”であることがわかったことも大きな収穫だった。

同年10月24日夜のモスクワ・テレビ番組に出演したソ連地球化学研究所のパディレフスキー博士は、金星9号が送ってきた金星の表面の写真を分析した結果として、金星内部が活動しており、最近、噴火ないし地震があった形跡があるとの新しい仮説を発表した。同博士によると、写真で見える限り、石は平らで鋭く、“若い石”であることがわかるが、これはもとの大きな石が割れて平らな石に分かれたものと見られ、成分は花こう岩の可能性があるという。このような石ができた理由として、噴火または地震が考えられ、最近起きた可能性が濃いという。

とにかく、金星の内部は活動していると推定されている。また同博士は、金星表面が全く新しい世界であることを強調して、“まだ何か重要なことを見落としている可能性もある”と意味深長だった。

同年10月26日付ソ連共産党機関紙プラウダはこの観測の結果を、金星の岩石は地球上のそれよりも数万年若いもののように、金星が生きていることを証明していると専門家の分析を紹介した。現時点では、金星の岩石は若く、これらの岩石の形成は今もなお進行中である。造岩作用の可能性としては、火山活動、爆発、地震などがある。

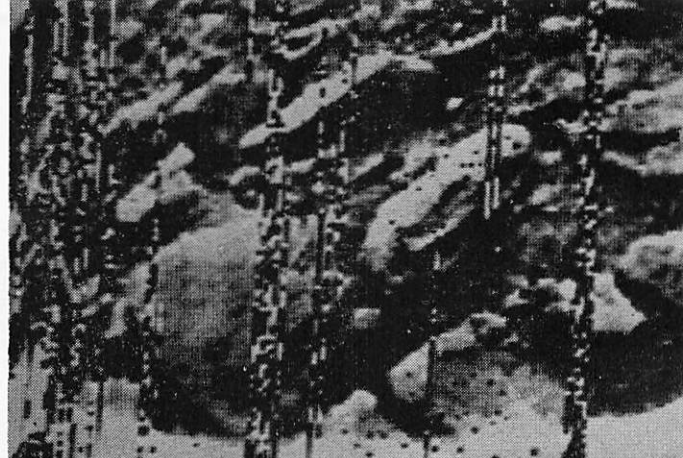
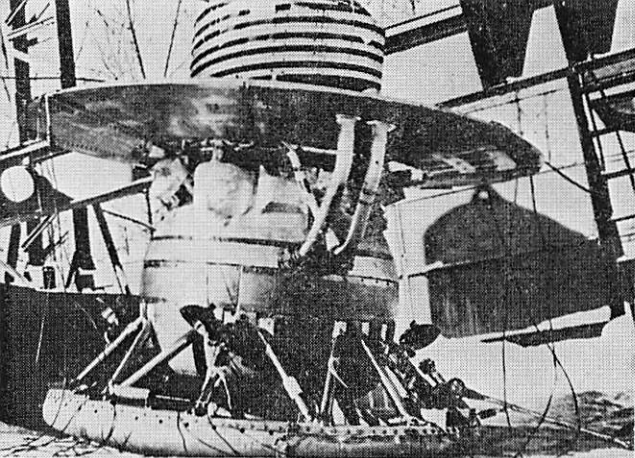
ひとつたしかなことは、金星からの初の写真によって、かつて我々が見たことがなく、今もって理解できないものが存在していることがわかったことだ。

同年10月27日のモスクワ放送によると、ソ連の著名な惑星学者ミハイル・マロフ博士は次のように述べた。金星表面のパノラマ写真は、これを惑星進化の尺度から見ると、金星が若く、まだ生きている惑星であることの動かし難い証拠である。角のとがった石は金星における活発な地殻運動を明白に物語っている。9号は金星の“海”に対する標高2500メートルの高山地域に着陸したが、10号は10平方メートルもあるかと思われ一枚岩に偶然にも着陸した。そこは砕かれた岩石の堆積の間に岩層の露頭をはっきりと識別でき、平地の典型的な風景を示している。

また、「金星表面には月や火星のようなホコリがない。これは金星の“すべて”を見ることを可能にしている重要な発見である」と述べたのは、宇宙ステーション用テレビシステムの開発に当たっているアルノルド・セリワノフ博士である。

きている





●金星表面に着陸したソ連の惑星間自動ステーション“金星9号、10号”と同型の降下船本体。(タス)

●金星に着陸したソ連の金星9号が撮影した金星の表面。下部の明るい部分は着陸船の一部。タテのシマ模様は、写真電送の観測データ等をテレビ画面と一緒に送信しているため。(共同提供)

金星—それは全天体のなかで太陽、月について3番目に明るく、そして地球にもっとも近い惑星である。木星のような衛星を持っておらず、土星のように環もなく、また火星のように氷の極冠もない。望遠鏡で認められるのは、表面をおおい隠しているやや黄色味をおびた明るい雲層くらいである。

それでも天文学者たちは、雲を透して見るのできるいろいろな道具を用いて、ようやく金星の謎を解き明かし始めている。レーダー、電波望遠鏡、赤外線測定器、宇宙船などによって得られるデータをもとにして、神秘に満ちた金星の姿をある程度描き出せるようになった。レーダーは雲にかくれて見えない部分の地形を教えてくれるだけでなく、金星が公転とは逆方向に自転していることや、金星の1日は地球の約117日に相当すること、四季はなく事実上ただひとつの季節しかないことなどを教えてくれた。また金星の表面には山脈やクレーターあるいは山脈に似たなにかがあるということを発見したが、それ以上はただ金星探査器によるデータを待たなければならなかった。

1962年、アメリカの宇宙船マリナー2号が、金星観測のために打ち上げられ、109日にわたる飛行をつづけ、3万4800キロメートルの距離から金星を観測した。積み込んだ機器は放射線を測定し、表面と雲層の温度をたしかめた〔表面は非常に高温(平均430度)で、雲層はたいへん低温(平均氷点下40度)〕。このため金星の表面の大部分は赤熱していることになった。その後、1967年にマリナー5号が発射し、同年、ソ連の金星4号とともにデータを収集した。つづいて金星5号および6号は失敗。しかし1970年に打ち上げられた金星7号は通信に成功した。着陸後23分間に約453度から495度までの温度と90気圧というデータを電送してきたのである。

金星の観測者は豊富な情報を得た結果、金星の気候や風景につ

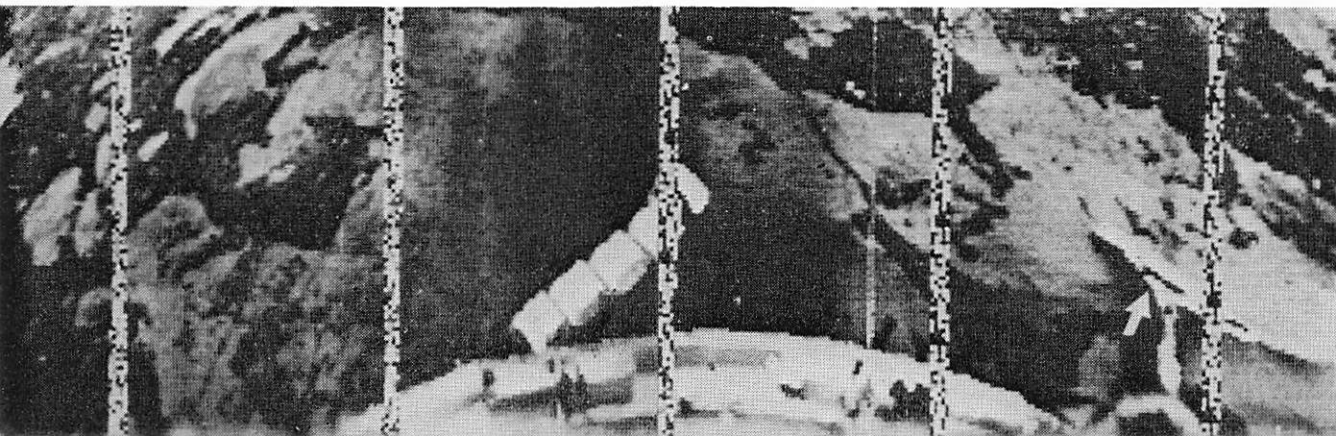
いてある程度推測した。それによると、大気は地球にくらべて30倍ほど濃く重く、そのためそよ風が吹いても砂嵐を巻き起こす。地上64キロメートルあたりにには永遠に消えない雲があり、その上側は氷の結晶で、下側は水滴でできている。その雲のために金星の世界は暗黒であるという。もし雨が降ったとしても、熱い大気中で蒸発してしまい、地面までは落ちてこない。表面の大部分はどちらかといえば平らで、おそらくざくざくしたチリでおおわれ、どんな有機物質も黒こげにするほど熱くなっている。露出した岩肌は風で浸食され、地球の砂漠にある岩のようになっているであろうということになった。

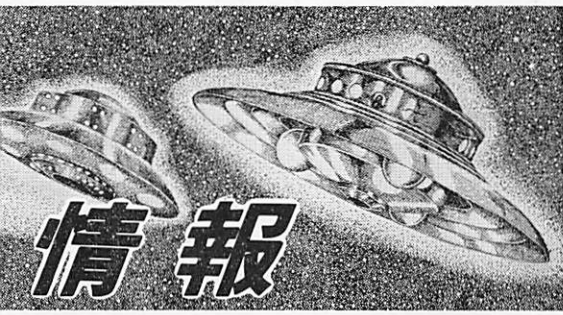
ところが昨年、ソ連の無人探査器“金星9号、10号”から送られてきた着陸地点のパノラマ写真によって、明らかにされた金星の素顔は予想をくつがえすものであった。

金星は生

ソ連の自動惑星間ステーション“金星9号、10号”は昨年10月22日(日本時間同日午後2時13分)、25日(日本時間同日午後2時17分)に金星表面に軟着陸させることに成功した(昨年10月23日、25日タス通信報道)。また9号、10号の本体はそれぞれ金星を回る人工衛星となった。着陸地点は9号、10号間が2200キロ離れたところで、これまで謎に包まれていた金星の地表の写真を地球に送信してきた。発表によると9号は軟着陸後53分間、10号は65分間観測資料を送ってきたと伝えている。なお、観測した降下地点の温度は485度(10号は465度)、気圧は85気圧(同92気圧)、風速は0.5メートル(同3.5メートル)だった。この観測の特筆すべき成果は、その写真が予想以上に鮮明だったことである。金星が厚い雲に覆われている

●金星10号が撮影した金星の表面。9号の着陸地点と2200キロ離れているが、砕かれた岩石が散らばっている。中央下部の明るい爪状は降下船の一部、その上から斜めに伸びる物体は望遠光度計のカバー。矢印は密度計。タテ線は送信のためにできたもの(共同提供)





情報

給橋市でも「UFO展」開催

●直径8メートルの円盤模型を展示
「夏休みの1日、空飛ぶ円盤の勉強ができます」と給橋市の船橋(ヘルセン)ターでUFO展が8月15日まで開かれた。

会場は24のコーナーにわかれ、写真やイラスト、模型などを使って、これまで報告されたデータがわかりやすく展示されている。質問コーナーもあり、UFOに関する疑問に答えられる。直径8メートルの円盤模型に乗り込んでも、宇宙から地球を見て楽しめるようになっている。

主催者側はUFO研究者から資料の提供を受けるなど、教育的な立場から科学的にUFOを子供たちに知ってもらおうと開催したのだが、見学者のなかには「親子断絶」も起こっているようで、興味深げな小学生の後ろで首をかしげた母親の姿もみられた。

(一九七五年8月10日付、埼玉新聞)

埼玉県庁上空にUFO出現?

●野球のボールぐらいの大きさ

一九七五年8月15日午前9時45分頃、県庁わきの県職員会館2階から空を見上げていた

県廃棄物処理公社総務課長、橋立栄期さん(44)は、野球のボールぐらいの大きさに見え

る白っぽい物体がかなりのスピードで飛ぶのを見つけた職員に知らせた。すぐ窓際にかき寄せた業務課の原田優さん(35)も

見つけた。原田優さん(35)も

「怪物体」を確認し、「円盤かもしれない」と大騒ぎになった。

目撃した2人の話によると、その物体は東上空の雲の陰から現れてかなりのスピードで県庁の方へ飛んできたが、県庁上空で南に方向を変え、飛び去ったという。

(一九七五年8月16日付、埼玉新聞)

青森市上空に「怪物体」

●夜空に大きな金色の光彩を放つ
夜空にひととき大きな金色の光彩を放つ青森市上空に一九七五年8月31日未明と夜半の2回にわたって

「怪物体」が出現した。発見者の一人、同市小柳製糖、Nさん(33)は興奮きみに「UFO(未確認飛行物体)では?」。妖気さえ感じさせるその輝きを見上げて「UFOだ」「ただの星だ」と話題ふっとうする市民も多かった。

Nさんによれば最初に出現したのは8月31日午前0時頃。雲に覆われた南東の上空にただひとつ、金色に輝いていた。「星よりちよっと大きく形は夕形。直角に動いたり、円を描くように動いたかと思うとフワフワ浮いている感じに戻る。目を凝らすと約20分、スーッと消滅してしまつたが、その怪しげな軌跡ははっきりわかつたという。

2回目は同日午後10時頃。位置は東側に寄ってほぼ真東の上空。光度は他の星よりぐんぐんと明るく「動きは前回よりずつと少ない」とのこと。今度は消え去ることもなく時の経過につれ西の空へ移って行った。

(一九七五年9月2日付、東奥日報)

仙台市にも「謎の物体」

●オレンジ色に輝く円盤
「あんまり蒸し暑いので目が覚め、何気なく外を見たんです。すると小学校の屋上の給水塔の上に、オレンジ

色に輝く円盤があるじゃないですか。びっくりして主人を起こしたんですが、10秒ぐらいでスーッと沈むように隠れてしまいました」と語るのは仙台市鶴ヶ谷六丁目の市営住宅に住む大原とし子さん(32)。小学校は鶴ヶ谷東小。8月21日午前4時の「怪事件」。

夫の保男さん(36)も「あれは確かに円盤。写真を撮るときはよくあつた」と悔しがらる。

仙台管区気象台は「ラジオゾンデがひっかつたのでは」と言うし、同市天文台も「テレビかマンガの話で出現してしまふか。果たしてUFOの出現でしょうか。」

(一九七五年9月3日付、河北新報)

京都市にUFO出現?

●市内のあちこちで目撃
「あれは、UFOじゃないか!」。

一九七五年9月4日付、京都市内のあちこちで「ナゾの飛行物体」目撃通報。

午後9時頃、右京区太秦津段町で通行人から「20〜30度の角度で上昇する卵大の赤い飛行物体発見」の110番があつたのを皮切りに、京都地方気象台にも「東山上空に、赤い物体」と問い合わせ。また、これと前後して、伏見区醍醐、久世郡久御山町の上空にもUFOらしきものを見たという人も。右京区では、大秦署嵯峨派出所の警官が、上空を仰ぐと、やっぱり赤や青の物体が東山区の花山天文台にも「北一南、東一西にスーッと移動した、色が変わつたりユラユラ揺れているものが」

など、数件の問い合わせも。同天文台では「考えられるのは今夜は夕立のあとで、空気が澄み、星が特に明るく見える。東の空にはいま地球に接近している木星が大きく見える。色が変わるのは星がまたたくからで、それと雲が動くとも星が動くように錯覚したり、不思議に思え

るでしょう。超新星発見ニュースなどでにぎわう秋の夜叉、ロマンがいっぱいでしょう。」

(一九七五年9月5日付、京都新聞)

福島県内でのUFO騒ぎ続く

●家族全員で目撃
県内では相変わらずUFO騒ぎが後を断たないが、一九七五年9月4日夜には原町市内で3回にわたって

ナゾの物体を見たという一家があり、またまたUFOをめぐる話題を呼んでいる。

ナゾの飛行物体を目撃したのは同市北原字前山一三六〇一、商業荒忠儀さん(40)一家4人。荒さん方では家族4人がそろって水まきから約1分間にわたってオレンジ色をした北極星大の物体が、北西から南東方面に飛んでいくのを見つけたのはじめ、同40分頃に西から東の空に、そして同44分から45分にかけてもオレンジ色をしたナゾの物体が飛行しているのを見つた、大騒ぎ。

もちろん、正体は不明だが、短時間内に家族全員が確認しており、近所ではこの話でもちきりとなっている。(一九七五年9月7日付、福島民友)

琵琶湖上空に「葉巻型UFO」が出現!

●オレンジ色の光を放ち爆音もない
琵琶湖上空に「空飛ぶ円盤」が現れた。一九七五年9月5日午後9時頃、大津市本堅田町の臨湖団地に

住む古物商今井賢吾さん(31)から本社へ「今、琵琶湖大橋の上空を飛んでいる光る未確認飛行物体(UFO)を目撃した」と知らせがあつた。本社屋上でカメラをかまえて待っていたところ同10時半から11時にかけて同市音羽山の上空約500メ

ートルのところ葉巻型の円盤のような物体が浮かび上がり、オレンジ色の光を放ちながら南東の方向へ飛んで行くところを目撃、カメラにキヤッチした。

今井さんの話では、この物体は午後8時頃に現れ、一時間以上も琵琶湖大橋上空に浮かんでいたが、同9時すぎから次第に上昇を初め、同40分頃に消えたという。この間、本堅田町、臨湖団地の住民ら10数人が、この物体を見ており、現場取材へ出かけた記者も壁田屋上から同僚員らと共に、この光る謎の物体を確認している。

このあと同10時半頃、今度は大津市内の中心部上空にはっきりとした姿を現した。形は今井さんたちの目撃した物とはほぼ同じ葉巻型をしており、これが空飛ぶ円盤だとすると三つの窓のような光がついていて、一度ゆっくり上昇した後、南東の方向へオレンジ色の光りを放ちながら飛び去った。

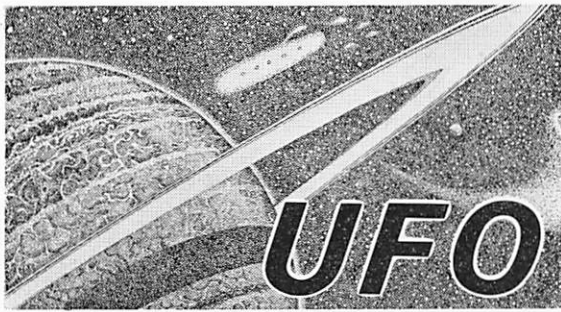
この未確認飛行物体は、その後同11時頃にもう一度、姿を現し、同じ所を飛んで行ったが、ヘリコプターや飛行機が飛んでいるときのような爆音は全くなく、更に「母船」と見られる中心物体の周りにも同じスピードで二層星以上の光りを持つ物体が2つ平行して飛んでいるのが肉眼でもはっきり見えた。

「空飛ぶ円盤」事件は、一九四七年(昭和22年)6月24日、米国ワシントン州レイニア山上空で、米国の実業家で自家用機のパイロットであるケネス・アーノルドが謎の飛行物体を目撃して以来、日本で最近は一〇〇人以上が各地で確認しているが琵琶湖上空で確認されたのは、これが初めて。

(一九七五年9月7日付、滋賀日日新聞)

「UFOブーム」高校生らに人気

「UFOブーム」高校生らに人気



UFO

●書店にもUFO
 コーナ
 昨年沸いたオカ
 ルトブームもすつ
 かり下火。代わっ
 て最近ヤングの間
 で持てはやされて
 いるのがUFO
 (未確認飛行物
 体)。ブームを反
 映してか書店にも
 UFOコーナーが
 設けられ、高校生
 を中心に飛ぶよう
 な売れ行きを見せ
 ている。

UFO一つまり
 空飛ぶ円盤の情報
 はこれまでしほ

しほあったが今春以来情報のひん度が激しくなった。県内でも日夜を問わず、あやしい物体を見た、という電話が多くなった。UFOを目撃した人の年齢、階層はさまざまで、なかには6月下旬頃、東部蟹田町では小学校の教員から町役場職員、国鉄職員、中・高校生ら10数人が一度に目撃した例もあり、いちがいにナゾとか流星、飛行機の誤認と片づけられない要素もある。

それだけに関心も高まるわけだろうが、最近では出版界でもUFOに関する本が相次いで出版されている。UFOその物に関する解説やマヤ、アステカ、古代エジプトなどのナゾの古代文明との関連、UFOの宇宙からの飛来説などと翻訳物も含め実に豊富に出版されている。

青森市内のある書店では7月初め店内の一部にUFOコーナーを設けたが、高校生を中心に着実に売れている。小・中学生やヤングの間で流行した怪物、オカルト物は科学性がないためか今年は陰をひそめた感じがだが、書店側でも「専門のコーナーを設けるのに初めためらったが、設けて以来驚くほど売れている。特

に初めは高校生が多く、コーナーの前はいつも込んでいた。今はやや落ち着いたようだが一日平均10冊は堅い」といっている。

UFO物を手にする女高生は「最近私たちの間にちょっと生じたブームです。今まで出た本を見てもナゾとされてきた古代文明との関係や他の惑星からの飛来など小説以上におもしろく読ませてくださいから」というが、日本沈没、ノストラダムスの大予言など地球終末説に続いてヤングの間ではUFOが静かなブームだ。

(一九七五年9月8日付、東奥日報夕刊)

前橋女子高地学部で「UFO」を撮影?

●「みずがめ座の流星群」を観測中
 UFO(未確認飛行物体)の話題が茶の間をにぎわしているが、前橋高地学部(相原美知子部長、部員32人)でもUFOらしい物を撮影した。同部の指導者、鈴木充教諭は「鳥や飛行機のたぐいとは思われないう。UFOかもしれない」と首をかしげている。

8月2日夜、同部の君島久美子さん(32年)が岩神町の自宅で「みずがめ座の流星群」を観測中、UFOらしきものを見たのが始まり。そこで部として取り組むことを決め4日から3日間同校に泊まり込み観測が始まった。

最初の4日夜、早くもさそり座の近くをオレンジ色の光を出した飛行物体を発見、シャッターを切った。更に一時間後の午後8時50分頃、今度は白い雲のようなものが西の空に現れた。土星のような形をしたまま南に走って消えた。また午後10時頃にも同じ物が現れた。この間約5秒から8秒の出来事だった。

このほか6日午後9時頃には、雲をバックに白い飛行体が登場、30秒ほどさまよっていた。

また「ベルセウス座の流星群」を観測していた11日から13日の夜にも5回現れ、観測していた14人全員が肉眼で確認したという。

鈴木教諭は「私も肉眼で2回見たが何ともいえない。科学的な裏づけのないことだが、もしかしたらUFO(未確認飛行物体)という気もします」と話している。

(一九七五年9月11日付、上毛新聞)

●三角型の物体が音もなく
 一九七五年9月10日夜、鹿児島市伊敷町の国立病院近くの住人から「きょう午後、自宅近くの上空で変な光る物体が飛び去るのを見た」と子供が言うのですが、どこからも連絡はありませんか」と電話があった。

話によると、同日午後3時頃、自宅近くの上空にオレンジ色の光る三角型の物体が南の方から音もなく、スーッと北の方へ飛び去るのをAちゃんが目撃し、近くにいた主婦に「あれは何?と連絡、一緒に目撃した」という。その話を聞いて最初は9日種子島で打ち上げた実用試験衛星「きくく」ではないかと議論したが、三角型の物体で、昼間から発光しているのはどうもと最近騒がれているUFOではないかと結論している。

しかし、Aちゃんと一緒にこの光る物体を目撃した主婦(26)は「音もなく飛び去り、薄気味が悪く、胸がドキドキした」と言い、Aちゃんは「速いな、あんなのに乗ってみたい」と言っているとか。

(一九七五年9月11日付、南日本新聞夕刊)

●UFOや四次元世界を追求
 仙台市内のUFO(未確認飛行物体)や超常現象(超心理現象、心霊現象)が三度の飯より好きだという面々。この人たち、グループを結成し、四次元の世界の追求に明け暮れている。その名も「円盤村」。

お遊び、おふざけ?
 「いや違います。今の世の中には夢も楽しさも何もない。だが、空飛ぶ円盤や幽霊にはロマンがあるでしょう」と怪気炎。重ねて言うが、村長(グループのメンバー)は大まじめなのだ。

この「円盤村」ができたのは先月中旬。広告プランナーの佐藤嘉剛さん(33) 〓同市錦町一丁目2ノ5〓を村長に現在17人の村民、2人の顧問で組織されている。活動の中核はもちろんな「村役場」。その中に空飛ぶ円盤やUFOの情報収集に当たる円盤部、お化け専門の幽霊妖怪部そして超能力の念力開発部など、もつともらしい部局が名を連ねている。村民の本職はデザイナーや学生、会社員とさまざま。だが、共通しているのは、みんな四次元の現象に夢やロマンなどで一家言を持っていることだ。発刊を記念しての「円盤村広報」第一号にも次のように仰々しく書かれている。

「本村は『UFOや超常現象が三度の飯より好きでたまらない』という狂人たちが、未知の力によって招集され、自然発生的に組織されたものである」と。

看板の円盤の方はどうだろうか。村民の一人、東北学院大生広田栄二さん(21) 〓同市郡山六丁目〓の「UFO目撃報告書」によると。

「8月3日午後10時頃、秋保大滝村付近をドライブ中に、突然、明るいだいたい色の円盤がものすけいスピードで山の上方を横切るのを、フロントガラスを通して目撃。あまりの驚きに声も出なかったが、約3秒後には消え去った」

また顧問の一人、山形大学理学部教授中沢信彦さん(57) 〓岩沼市部下2ノ5ノ1〓の報告書には「4年前の12月のある夕方、仙山線奥新

川駅に停車中の列車の中で、ふと空を見ると西南の空に黄金色の小物体が出現。ジェット機ほどの速さで走った後、急にV字形に向きを変え後退し、そのまま消えた」とある。

そして、村民たちが残念がっているのは「UFOを見た人が少ないこと、またその証拠となるような写真がないこと」だ。だからこそ「東北地方ではどこで、どんなときにUFOが出やすいのかを探し出す」のが円盤村の重要な施策で「どんな情報でも欲しい」と村長以下全員が情報集めに躍起になっている。

だが、本当に目の当たりに円盤が飛ぶのを目撃したら。ある村民は「心臓ドキドキでも見つめていられないかもしれないなあ。第一、ないからこそ興味を持つので、そんなに簡単に見たらロマンがなくなるかも」と言う。そう、彼らはロマンの世界に遊んでいるのだから。

(一九七五年9月12日付、河北新報夕刊)

「謎」ブーム続き、目白押し
 の単行本や雑誌

●人気の中心はやはり「UFO」「なぞなぞ」ブームから「なぞ」がひとつとれて、今まさに「謎」ブーム。単行本や雑誌でも、「謎」を扱ったものが、このところ目立っている。「なぞなぞ」を四苦八苦してひねり出すヒマがあったら「謎」をひとつ手に入れ、互いに交換し合う。それが当節「話せる友達」の条件といふことになるらしい。

「謎」と言っても、メニューは盛りだくさんだ。古典的なところでは、耶馬台国に代表される日本の古代史ルスの「海底二万海里」も登場する。アトランティス大陸などの海底大陸も失われた文明などに材を取ったものも多い。

「謎」のニューフェイスといえはな

「謎」ブーム続き、目白押し
 の単行本や雑誌

●人気の中心はやはり「UFO」「なぞなぞ」ブームから「なぞ」がひとつとれて、今まさに「謎」ブーム。単行本や雑誌でも、「謎」を扱ったものが、このところ目立っている。「なぞなぞ」を四苦八苦してひねり出すヒマがあったら「謎」をひとつ手に入れ、互いに交換し合う。それが当節「話せる友達」の条件といふことになるらしい。

「謎」と言っても、メニューは盛りだくさんだ。古典的なところでは、耶馬台国に代表される日本の古代史ルスの「海底二万海里」も登場する。アトランティス大陸などの海底大陸も失われた文明などに材を取ったものも多い。

「謎」のニューフェイスといえはな

んといつても「海洋もの」だろう。海は謎は海底大陸ものと合わせて扱われることが多いが、ことしはこれが純科学的な「謎」に分化した観がある。沖繩海洋博の開催も一役買っているようだ。

海洋もの謎のひとつで、いま若者の話題にのぼっているのはバミューダ三角地帯(トライアングルの謎)。フロリダ・バハマ諸島・プエルトリコを結ぶ三角地帯、いわゆるバミューダ海域。ここで過去100以上の航空機と船、1000人以上もの人間がとたなく消え失せたといい、原因は気象、海流、UFOなどと、諸説ふんぶん。

ある評論家の言によると、「海洋の謎」はこれからますますはやくはされる傾向にあるという。海は謎だらけの世界はないという主張だ。とはいっても、「謎」ブームの花形スターはやはり宇宙もの(天体もの)。昨年、取りざたされている話としては、「ブラックホール」がある。SF小説では「宇宙の墓場」

「宇宙船の墓場」「星の墓場」といった、物騒な名称で呼ばれてきた謎の天体。星の進化の最終段階とされて、その巨大な質量のために周囲のあらゆるものを吸収してしまおうと考えられている。これに科学的アプローチを試みた本も出た。

宇宙もの謎のなかでいかかわらず根強い人気を保っているのはもちろん空飛ぶ円盤(UFO)。これになると「参考書」はゴマンとある。「UFO入門」「日本のUFO」「世界のUFO」など。UFOを扱った雑誌も出ている。

こうした本や雑誌を読んで言えることは、UFOブームもとくに科学的になってきたことだ。もはや「見た」とか「見ない」とかの問題ではないらしい。UFOの観測の仕方、UFOを自撃しやすいつ時間帯と場所として誤認しないための識別法とい

心を向け始めているところから、日本でのこうした傾向もむべなるかなとうなずける。こうした「謎」ブームと表裏一体なのが「予言もの」。「ノストラダムスの大予言」の爆発的な売れゆき以来定着した感がある。一万年後の人類はどうなるか、を書いた「一万年後」(A・ペリー著、光文社)という本も出た。これは科学的知識をまじえて書かれている。

天文コーナーをもうけた本屋もあるが、そのうち「謎コーナー」「予言コーナー」ができそうな気配である(一九七五年9月13日付、北日本新聞夕刊)

高松市の団地では広場に集まり「UFO」観測 ●約150人近くが夜空を仰ぐ 高松市飯田町の香東川左岸にある市営飯田団地でUFO(未確認飛行物体)の飛ぶのが見えるという。7月に団地の人たちが見つけたのが事の始まりで、最近ではわざわざよそから来る人もいれて、100人を超す見物人が、団地広場に集まって毎夜「見えたぞ」「円盤かな」「いや飛行機かも」とやっている。

一九七五年9月12日夜、飯田団地に行ってみた。8時半頃になると、来る来る。双眼鏡をさげた中学生、カメラを持ったオヤジさん、主婦もいれば、お年寄りも。中には三脚を立て、望遠レンズをセットして待ち構える人もいる。ざっと150人にもなっただろうか。

9時22分、北の空にオレンジ色の光が見えた。広場の向かいにある2階建ての上に立つアンテナをかすめるぐらいの角度で、遠いところを水平に西へゆっくり動く。明るさは星ぐらい。速さはちょうど飛行機ぐらいの点滅はしない。右手に見える峰山の上あたりから出て左手の五色台方向でフッと消えるまで、30秒かそ

こらだった。そして約30分後また現れた。さっきとは逆に左から現れ右へ消えた。動いている最中に逆方向に行く飛行機の灯が見えた。こっちは赤と青に点滅し、明らかにそれとわかる。飛行機とは違いうらだ。

このUFO見物、一九七五年7月30日に同団地に住む会社員、森沢建市さん(39)の長男、勝賀中一年、寛君(12)が一家4人でよろから帰る途中に見つけたのが始まり。それから父子で毎日観測を続け、寛君はメモを見つけた。晴れた日ならほとんど毎夜見え、4〜5回飛ぶこともある。時間は9時前から10時頃と決まっている。

高松空港事務所のレーダーは午後8時までしか稼働しないので「確認不能」、高松気象台も「それに該当しそうなラジオンデなどは飛ばしていないし」と確認に動き出す気配はない。見物人たちは「何であるかはつきりしてもらん」と言う人もあれば、「わからん方が夢がある」と言う人も。いずれにしても、みんな結構楽しんでいる。

(一九七五年9月14日付、朝日新聞香川版) 福島にまたもUFO? ●ピカッと光る物体を主婦が目撃 各地でUFOが話題になっているが、福島市南沢下並松、主婦佐藤良美さん(27)も、去る9月7日、UFOらしきものを自撃した。午後6時10分頃、ピカッと光る物体が西の方に飛び、佐藤さん方の前方にある木のかげに入っって見えなくなったという。

「初め飛行機かと思いました。木のかげで見えなくなりました。3〜4秒間見えていました」と言う。7日は会津若松でもUFOを見たという人があり、この「未確認飛行物体」はまだまた秋の夜の話題を集めようだ。

(一九七五年9月14日付、福島民

友

UFOはどんな物体? ●円盤型と葉巻型が一般的 「中学一年の男の子ですけれど、最近UFOというんです。私にはUFOなどとても信じられませんが、息子は絶対存在するものと信じていて、いつも議論が絶えません。聞くところによれば、神戸にもUFOの研究会有りとか。UFOは実在するか。どういふ物体なのか、一度お話を聞きたいと思います」。神戸・北、福井と云い、40歳)

UFOを見たことのない人に、UFOを信じないというのは無理だと思えます。その反対に、どんなに疑い深い人でも、実際に一度UFOを見ればいっぺんに信じるようになるでしょう。私も初めは半信半疑でした。飛行機には疑ってました。UFOを信じるころまではいけなかったのです。

忘れません。昭和34年7月14日の午後10時でした。近所の人たち15〜16人と涼んでいるとき、偶然、葉巻型UFO2機が、神戸の三宮沖に離空しているところをみつけたのです。私はすぐ、ビーンとみて、海洋気象台、大阪空港に電話を入れました。その不思議な物体の正体をつきとめようと思つたのです。話是要領を得ませんでした。後で聞くので雲の中に消えたそうです。

翌日、私は走り回って、それが人工衛星でもなく、航空機でもないか確認飛行物体、つまりUFOではないか考えられないことを、それぞれ専門の機関のデータによつて知つたのです。それ以来、私はUFOを確信し現に幾度となく発見しています。

私たちの研究会は、ソ連、中国、韓国を除いた世界の各国と情勢交換をしています。今までの資料によると、最も一般的なUFOは円盤型

と葉巻型の2種類です。もう少し詳しくまとめると、円盤型は昼間も輝いて見えます。夜は主としてオレンジ色で、青、黄、赤が回転しながらオレンジ色に見えることもあります。円盤の直径は7〜10メートル、高さ2.5〜4メートル。飛行速度はジェット機程度で、たいていは音がしません。

もう一つのスタイルは、旅客機のツバサを取つたような葉巻型で、かなり大型になります。長さは30メートルか、それ以上というものが一般的です。これは私の推論ですが、円盤型をいくつか積んで来て、また回収して行く母船的な働きをするのが大型の葉巻型ではないかと思えます。(日本UFO研究会会長、平田留三さん)

(一九七五年9月15日付、神戸新聞) ●喜多方市にも、炎をふく物体が出現 ●UFO騒動ますますエスカレート 連日、UFO騒ぎが起きている喜多方市だが、一九七五年9月13日夜はついに「UFOと宇宙」の雑誌に掲載されている「炎を噴く不思議な物体」が確認され、UFOファンがカメラにおさめた。喜多方市上空には先月中旬から、UFOらしい物体をよく見かける——と市民が確認、アマメラマンもその物体をキャッチしようとして必死に追いかけている。地元ばかりでなく千葉、秋田、山形県などからもアマメラが訪れて、14日には神戸市からもカメラを携って喜多方入りするほどUFO騒動はエスカレートしている。正体はヘリコプターやYS11型などのうわさも飛び交うが、13日夜キャッチした物体は2本の炎を出した円盤型のような不思議な物体。

13日午後7時半頃、喜多方市関柴町上高領一八八、喜多方商高3年

遠藤誠君(17)は、UFO雑誌に掲載されて、炎を噴く不思議な物体」と同じ物をカメラにおさめた。同夜、この物体を確認したのは遠藤君の家族はもちろんだが、UFOを追って雄国山の方に出かけていた市海竹、カメラ商、堀恒夫さんや耶麻郡塩川町中屋敷、喜多方工3年生芳賀貞治君ら6、7人のグループがいた。

遠藤君は11日夜から円形を変え、不思議な物体を見つけ、12日、13日と追いつけていたところ、13日夜にやっと物体をカメラにキヤッチすることに成功した。

この物体は雄国山が厚い雲に覆われる夜に限って出現(?)。オレンジ色をした、星よりも一段と強い光線を放つ物体だといふ。

円形と三角形のような物体の2つがそれと明らかにオレンジ色の光を放ち、瞬間的に重なり合って厚い雲の中に消えたといふ。この間30秒くらいの時間だったとか。

喜多方地方では、先月中旬から連日、UFOが現れたという情勢が相次いでいる。福島民報社喜多方支局だけに先月18日夜から今月14日までの間に20件に及ぶ情報が出ていふ。特に8月22日付本紙にUFO騒ぎが掲載されてからは県内ばかりでなく、千葉、秋田、山形、神戸などのUFOファンからの問い合わせが殺到している。

これまでも市内のUFO情報は、いずれも雄国山から西吾妻に移動するというものばかり。長方形、三角形そして円盤のような物と形はさまざまだが、カメラ商堀恒夫さん宅に集まったUFO発見者の芳賀、遠藤両君らのネガを見ては撮影されたのは飛行機やヘリコプターなどではないことが確認できる。なかでも堀さんが夜間、撮影した一枚のネガには円盤のようなものが三つキヤッチしてある。(一九七五年9月16日付、福島民報)

UFO研究は「人間学」と同じ

●秋あり尽きぬUFOへの興味

夢が膨らむとUFO(未確認飛行物体)が増えるという。「よく言われますけれどもねえ。気候もいいし、澄んだ夜空を見上げる機会が多くなうことじゃないですか。そんなに関係ないと思いませんよ」

それよりなにより、存在する、イヤ存在しない。そっちの議論の方がかまびすしい。

「もう、存在する、しないの議論は昔のこと。何をいさら、という気持ちです」

一九四七年に最初の目撃ブームが起こって以来、すでに100万人にもものぼる目撃者、そしておびただしい写真。もちろん、それら数多くの目撃者の中には、テスト飛行機、サッチャイト、残像、幻覚、そういつたものも含まれていよう。ならば百歩を譲って、

「宇宙には我々の住む地球のような環境にある惑星が約二千億あると言われます。そして、その中の少なくとも10%、百億に生物が住んでいる可能性がある。だったら、百億のうちにはUFOに乗って地球に飛来する「宇宙人」がいるに違いない。そう考える方がよほど自然じゃないですか」

一気にしゃべって相手を煙にまいてしまおう、というのでは決してなく冷静に、理詰めで、淡々と。中に生物が人類しかないという断言するのは我々の傲慢というものでしょうか。頭からUFOなんてではないと決めつける方がおかしいのではないだろうか。いつしか、こっちはそんなに気にさせてしまおうのは、この人の柄のせいだろう。 昨幸夫、なみと読む。昭和24年2月生まれ。 昨年9月、県内で初めてUFO研

究団体「日本宇宙UFO研究会」を設立。発足後まもなく一年を経たばかりながら、機関紙「UFO」の内容の豊富さなどで、全国35以上の研究団体の中で最も指ののびと認められるまでに成長した。会員約30人。30歳前後の人が多い。現在、一周年記念の「写真展」開催、記念号の発刊の準備に追われていふ。

「もってUFOというだけじゃなく宇宙に目を向けてほしい。あまりにも地球的固定観念が強すぎます。宇宙的な自由な発想で視野を広げてみると、地球と宇宙のかけわり、地球の在り方、ひいては人間というものがわかってくるような気がします。だから、僕はUFO研究会人間学だと思ふんですよ」

まことに残念ながら、まだ見たことがない。見たい、乗りたい、話したいという。海外の古い遺跡。たとえインカ、エジプトその他の遺跡を訪れてUFOとの関連を調べてみたいともいふ。

正直言って、こんな面白い話を聞いたことがなかった。あつという間に2時間。そのひとつを――

ノストラダムスの大予言。一九九九年の七月の月というやつだ。あれはたぶん地球と流星がぶつかるのではないかと。そしてその直前、UFOが現れて地球を救ってくれるのじゃないか。近頃そんな気がしてならないそう。

やっぱりUFOにホレてるネ。宮崎市・フェニックススカントリックラブ勤務。(一九七五年9月17日付、宮崎日日新聞)

札幌市の藻岩山頂で遠足中の小学生がUFOを目撃

●1時間近く空中に静止し消え去る 一九七五年9月18日午前11時半頃札幌市南区の藻岩山頂で遠足で登った札幌小学校の児童たちや観光客らが南東方向の空に、黄色の物体が

浮いているのを見つけた。あれはUFOじゃないか」と大騒ぎになった。引率の先生たちが双眼鏡でのぞいたところ、ナゾの「UFO」は横に細長く、中央部は帯状に光っていたといふ。1時間近く空中に静止していた後、遠方に飛び去るように消えた。

もともと「丸い形をしていた」とか「まるでマンジュウがつぶれるように消滅した」といった証言もあつてはつきりしない点も多い。

観光客からの「UFO発見」の10番通報で札幌南署のバトカーも藻岩山(急行)山頂付近は一時、遠くへ目をこらす人でいっぱい。

結局、正体ははつきりしなかったが、子供たちにとっては、大空への夢をふくらませた遠足になったことだけは間違いないよう。

(一九七五年9月19日付、北海道新聞)

福岡県飯塚市にもUFOか?

●小学児童たち約50人が大騒ぎ 「空飛ぶ円盤を見た」――と9月25日午後4時すぎ、飯塚市の伊岐須小(野見山良成校長)で児童たち約50人が大騒ぎ。

同校の3階から南に5キロ離れた竜王山の上空を薄黒い物体が、静かに下してどこにもなく消えたといふ。児童たちは数日前から授業中に、同じものを同じ方向で度々見たとのこと。

子供たちは「葉巻型円盤だ」と言い張る。同校では「とにかく調べよう」と26日から望遠レンズ付きのカメラを用意、正体を確かめることになった。

(一九七五年9月26日付、毎日新聞筑豊版) 福島県喜多方市の「UFO」ブーム一段と高まる ●毎夜ファンがカメラを構える

UFO騒ぎがエスカレートしている喜多方市では、いま毎夜のようにUFOファンが押しかけ、シャッターチャンスをつかっている。昨秋SLPブームに似た喜多方地方は今度UFOブームになりそうだ。

喜多方市のUFO騒ぎは一段と高まってきた。県内外からのUFOファンが押しかけ何とかがカメラにおさめようと思死だ。UFOらしき物体の撮影に成功した喜多方市海竹、写真商堀恒夫さん、喜多方商3年生遠藤誠君、喜多方工3年芳賀貞治君そして市内のアマチュア写真集団「つくし」の佐々木五郎会長も連日連夜、UFOを追いつけている。

雄国山頂から西吾妻連峰に空を見せる物体だけに同市熊倉町の田んぼにはカメラと三脚、そしてファンが自動車がズラリ。撮影場所は自動車のヘッドライトから完全に遮断された絶好の天体観測場所だけに、折り重なるようにして夜空を仰いでいふ。

9月20日の中秋の名夜の夜には、あるテレビ局も現地を訪れ、UFOらしき物体を追う一方、ファンの動きを撮影したが、熊倉町の観測地では都落ちるみUFOにとりつかれていふ。(一九七五年9月27日付、福島民報)

宇宙人の写真を撮影?

●愛媛県川之江市で 一九七五年10月2日の読売テレビ「木曜スペシャル」(後7・30)では四次元(の入口か?謎のパムューダ三角領域とUFO・宇宙人)と題して、現代の怪奇、シリウスを放送するが、今話題のパムューダ領域とならんで、日本で初めて間近に撮影された宇宙人の写真と、その経験談が登載する。

愛媛県川之江市に住む植田義一氏がその人で、付近にある琴弾神社にひんびんとUFOが出現するところ

から、以前からねらいをつけておいて海軍の埋立地で撮影に成功したもので、その第一報として写真を放映する。

同時に放映される内容に、南米ペルーのナスカ台地の巨大な地上絵とUFOの離着陸地ではないかといわれる滑走路状の線があるが、これは6月半ばに日本テレビがはるばるロケ隊を送って撮影したものだ。

そのときスタッフが実際に絵の上に降り立ち(首都リマから遠く、たいてい小型飛行機で行くためほとんど降りた人がいない)持ち帰った石が、今回分析にかけられた。

石は黒っぽく溶岩のように表面は砂漠の砂で磨かれるため艶がある。品川分析化学の報告によれば、これは安山岩という普通に見られる火山岩で、近くのアンデス山脈から出たものだろう。しかし成分の中に鉄分(Fe2O3)が13.06%含まれており、一般には3%程度であるので、これは異常に多い数字といえる。果たしてこれは地球上の鉱物なのであろうか。

(一九七五年9月29日付、新聞西新聞)

UFO追って12年間、独自で調査、研究を続ける

●茨城県UFO研究グループ

「オレンジ色に光るナゾの飛行物体発見」。つい最近、水戸市内で話題をまいたUFO騒ぎ。結局、観測用風船という結論で、せつかくの「円盤現る」のミステリーもまたまた夏の夜の夢と消えてケリがついた。しかし「なんだ、やっぱりそうか」と考えるのは野次馬。「もし観測用風船でなく、本物だったら……」と、疑問を投げかけ独自で調査、研究している仲間がいる。

12年前、UFOに興味を持つ仲間たちが集まって発足した「CBA茨城サークル」。「新聞やニュースで空飛ぶ円盤の存在を知り、おもしろい」と思っで興味を持っていたところ研究している人もいて聞いて心強くならいろいろ調べているうちに仲間が集まった。20年来、UFOにとりつかれ、研究を続けているというサークルの代表者であり、茨城工専で化学を教える後藤忠氏はこう話す。一番活発だったのは5、6年目頃、メンバーも50人ほどにふくれ上がった。小中、高校生からサラリマン、市内はもちろん土浦、日立遠くは福島からも集まった。

資料を集めて検討し、UFOを見たとの情報をいれれば現地(調査に出かけて事情を聞いて記録を取り事実を確かめる。より多くの情報を得、理解を深めるため市民にアピールするピラも配った。ただ、現在はメンバーも減って活動も停滞気味とちよびり寂しい。というのも、モノがモノだけに「つかみどころがない。いったい研究してどうなるのか」と薬品調査が出てきてしまう。一生懸命調査してもニセものや錯覚だったり、たとえ信びよう性が高かったとしても、目で見て確かめられ手にとっても、目で見るのしか扱われない自然現象で、政界、財界、知識階層のオウエラ方は「空想」「妄想」と一笑いふしてしまふのが常。

こうした中で後藤さんは「UFOは第二の黒船」という説に共鳴している。徳川幕府が崩壊し明治新政府誕生の布石となった黒船「現在星の仲間に入れよう」としているのではない。円盤は単に地球の引力でさまよっているのではなく飛行形態だから運転できるようなものと思われ、飛来して観察しているようにも見える」と言い「UFOの研究が遅れてきた結果として人間にとって将来不利な結果が出ることもあり得る」まだまだUFOについても理解が少ないと顔を曇らせる。そして得ては「世界各国で研究している仲間も含めてバラバラな組織を統一して

一本化したうえ、一足飛びに飛躍した形を進めたい。積み重ねたやり方で研究を進めたい。まあ、何十年かかるかわかりませんが」と果てしなく広がる構想を語る。

●「妄想だ」「錯覚だ」と片づけるには少々気になる円盤。先の市内での出来事は、独自の調査でも「あまり期待した結果は出てない」そうである。同サークルの連絡先は水戸市曙町八二四(後藤方)

(一九七五年10月4日付、いはらき新聞)

福岡県嘉穂町で毎夜のように正体不明の飛行物体が飛ぶ

●ゴザをしいて一家総出で見物人類は小さな球の上で眠り起きそうして動き/ときどき火星に仲間を欲しがつたりする……(谷川俊太郎「二十億光年の孤独」)

嘉穂町で毎晩のようになら正体不明の飛行物体が夜空を飛び、町民はUFO(未確認飛行物体)つまり空飛ぶ円盤じゃないかと騒いでいる。この日は9月16日。その後どうなったか。いや大変な騒ぎなのである。地元の手小学校の児童たちの朝のあいさつ「きのう、みんたか」「うん4回見たとぞ。未知へのロマンが大人も子供もとらえてはなさない。嘉穂町に滑いたのは午後8時すぎ。国道322号線を才田まで行き、県道に折れた。一キロくらい真暗な道を進ると、40ノ50戸の集落があった。そこでまず駐車しており道の両側に車がびびり駐車しており40台以上はあぞ。車のなかには2、3人。家族ずれ、青年のグループ、アベック。車と車の間にゴザを敷いて座り込んでいるお年寄りもいる。道の真ん中にイスを持ち出してたばこをふかしている中年の男も。家で緑側に家族が集まっている。「まさか」と思ったが、通りかかった背

年に聞いてみる。「UFOが出るんです」と当然のような顔で答えてくれた。

最もよく「観測」できるという原田成人同町助役の家を訪ねてみる。広い庭にすでに10数人、三脚つきカメラを置き、双眼鏡、テブプコーダーを持っていて人もいる。天体望遠鏡をひときわ熱心にのぞいているのは原田さんの長男、博臣君(嘉穂中1年生)。

「あつ、出た。話し声が途絶え、全員夜空をにらむ。2等星くらいの明るさの光が、古処山の上空に現れた。ゆっくりと西の方へ移動している。あわてて時計を見た。8時11分音は聞こえない。光が回転しているように見える。「今日のやつはかなり小さいぞ」「ジグザク飛行しているみたいよ」。セキを切ったように議論が始まる。やがて、馬見山の上空で「光」が消えてしまった。

国道を更に南下、八丁峠のふもとへかかると点々と車、車。みんな空を見上げていて。頂上は車の列。合わせてざっと100台。田川、久留米など県内各地から来ている。間もなく、赤いランプを点灯したバトカーがやって来て「交通のジャマにならないようにして下さい」と注意。急に現実的なふん開気になった。

再び、原田さんの家にもどり、集まっている人たちに町のようすなどを聞いてみた。「UFO」がはじめてのは7月中旬。初めは子供たちが騒ぐだけだったが、半信半疑で空を見たら大人も、この小さな光のトリコになった。今では見えない日は「何となくもの足りない」。

いちばんホットなのはもちろん子供たち。夏休みも終わったというのに、毎晩遅くまで見物している。「勉強しなさい」と口ごたえするんですよ」とある母親。もつともこの母親も一緒に見ているわけだから、しかるのにも「ま一つ力が入らない。学校では、たくさん見ている子

供はどいばっている。今のところ最高は70歳前後ぞうだ。

あちこちの反応は――。

「子供たちは大騒ぎしていますが、学習に支障が出るほどじゃなく、まあ傍観ってところですよ(大野篤千手小教頭)」「つい先日聞いたばかりです。交通の混雑はそう大したこともないようですよ(伊藤武則上嘉穂署長)」「ええ、騒ぎは知っています、別に町とどうだということはありません。ヒマができたら一度見に行こうと思っております(金光禎嘉穂町長。みんな意外にクール)」「もう、観測所になつた原田さん方は、それはいかない。日に1、2回は問い合わせの電話があり夜になれば庭先で「観測隊」がワイワイガヤガヤ。「UFOが見えなくなるまで仕方ありませんな」とあきらめられた顔だ。

原田さんの本業は「古処みそ」製造。「古処みそ」をやめて、UFOみそにしよか」と原田さんが冗談をいうと、すかさず奥さん「UFOが出なくなったら売れなくなるじゃありませんか」。

とこそ、正体は? 手当たりしだいに聞いてみると、まず①飛行機説「福岡空港から八女上空を通過して東京。大阪に向かう旅客機便があり光が明滅するの飛行機の駆動機」(反論「音がしない。古処山上空では高度3000メートル以上になりあんなにハッキリ見えるか疑問」)②ヘッドライト説「車の前照灯が、雲に映るか、しん気味のせいで空中に見える」(反論「どちらにしてもあれほど明確な光がはっきりした軌道を描くのは説明できない」)③人工衛星説「周期性、明るさから判断し、人工衛星だ。立方体の物が回っているとしたら明確も説明できる」(反論「それ低明の大型人工衛星がいくつもあるのは疑問」)というわけで、UFO説が登場するわけだが、その夜来ていたUFO研究グループの浅川和彦さん(20)

(直方市、公務員)は「科学的」に
教えてくれた。

一あらゆる点からみてもUFOに間違いない。なぜ毎晩飛行するのか、理由はいつか考えられます。まず地形、地質の調査、次に「毎晩出現することによって人間は何を感じるか」のデータ収集。この場合、もちろんテレパシーによって記録しているのでしょうか。このあたりは火山地帯なので地震が起きないようにエネルギーの拡散をしてくれていると根拠は、とすつこく聞いたら「メタフィジカルな問題なので説明しにくい」との返事だった。

こんな話の合間にもUFOは折飛行した。とうとうこの日は6回も見ることができた。あるオジさんいわく「今日のUFOはサービスマン点じやう」。

帰りに、ふと見上げた。小粒の宝石をバラまいたような夜空があった。こんなふうにして星空を見たのは何年ぶりだろうか。

宇宙はひずんでいる／それ故みんなはともひずむ／宇宙はほとんど膨らんでゆく／それ故みんな不安である(谷川俊太郎・同)

(一九七五年10月5日付、読売新聞)

テレパシー経験の一つや二つはだれでも持っている。

●宇宙人と交感することができた。観測と理論の進歩によって、宇宙はしだいに姿をあらわしはじめていく。パロマ天文台の最近の観測によると、宇宙——この四次元の空間は年齢およそ50億年だといふ。一千億もの星雲をふくみ、その一つ一つの星雲が昔に考えられた宇宙よりもはるかに大きいといふ。

UFO——未確認飛行物体は、あるいは真性飛行物体かもしれない。

地球からの宇宙開発はいよいよ盛んだが、異なる12星からの飛行があったとしても、私はほや驚かない。名古屋市内のデパートでは「UFO展」が開かれ、かなりの人々が集まった。そのほとんどは好奇心の強い人だっただろうが、なかには自分の見たものをしっかりと確かめに来た人もあったのではないかと。展覧会場へ誘った少年は「UFOを見たいなあ」と真剣だった。私は未来学の好きな彼のためにその日の実現することを願っていた。外国から伝えられる報告のなかには、UFOは人間にとって不吉な存在でありそうなる気配もあるけれども……

私はUFOを見たという個々の人々を信用しているわけではない。その多くはサーチライトに照らされた雲を見たというたぐいの間違いだろう。しかし、なぜ世界中のいたるところで似たような話題が持ちあがるのか。

人間とは環境の動物であり、時代と敏感に反応している。そしてその内部の願望やら危機感やらが、理性の統御をすどおりに外部へ放射されることがある。UFOとは、そんな感じやすい人々の内部が見え何かにあり、それは同時に外部にも存在する可能性をはらんだもの。時代の真実とはそのように初めはもう想や狂気のかたちをとってあらわれる。ピンク・フロイドの宇宙遊泳するようなサウンドを聴きながら、宇宙人と交感することができたら、私はふとあらぬことを夢想する。

世の中はオカルトブームである。科学がいくら進歩しても解決しつけない神秘な謎があとと断たないよう、人々は超自然の力に投入しようとしている。現代人の視線は一方で科学へ、もう一方で神秘へと二つにひきまかれていく。

一月へ足跡を印した日であった。月は天心にこうこうとさえていた。そして周囲を見まわすと、口寄せの巫女(いたこ)をかくんで死者たちの霊を呼びだそうと必死になかかわりなく、人間の情念の闇(やみ)はいつか明るかならない。私は自分の耳ではほとんど聞きわけない津軽弁の呪文(じゅもん)を聞きながら月を初めて訪ねた飛行士のことを思い出した。

霊といえ、私はテレパシーについてなら信じ得る。テレパシーは「脳のラジオ」とも呼ばれるが、人間はそのラジオの電波を操ることができると思う。送り手、受け手としての能力はさまざまだが、私はこの働きを疑うことはできない。

テレパシーは遠隔感応というギリシア語だそうだが、文字どおり隔たった2人をつなぐ感応である。たとえば乳飲み子と母親とはほとんど一体で隔ったところにいる赤ん坊が乳を求めて泣くと母親が飛んでいく。母には泣くかど母親が飛んでいく泣き声のどかな距離があったとしても。

母と子という特別な関係でなくとも、テレパシーの一つや二つはだれでも持っているのではないかと。だれかに会う予感がしたらそのとおりになった。向こうを向いてる人はこちらを向かせようとする人。ここに超能力まがいの経験は周囲にいくつらとのおりになった。——そんな超能力まがいの経験は周囲にいくつらとのおりになった。宇宙船は火星への挑戦を初めたがテレパシーは居ながらにして遠い心と交わりあう。

テレパシーは暗示とも切り離せないだろう。透視術、催眠術、あるいは異常な心理洞察とも近い関係にある。『カマラゾフの兄弟』におけるイワンとスメルジャコフの会話の恐ろしい迫力は、てんかんといいない世界を見透した19世紀からのメッセージだ。

世の中には目に見えない世界と目に見えない世界とがある。見える世界を開拓してきた文明人たちは、いま見えない世界ともひたすら交信をはかろうとしている。(春日井 建・詩人)

(一九七五年10月9日付、中日新聞夕刊)

●高校の研究グループが調査

UFOはきょうも飛んでいる。宇宙のナゾを秘めた未確認飛行物体(UFO)が、相変わらず全国的に話題となっている。岡山県下唯一のUFO研究グループ、就実高校(岡山市)の地学部UFO研究室の調査によると、県下でも昨年4月からことし3月までの1年間に、UFOを見た人は47人にもほっている。なかにはカメラを持ち出して夜空とニラメッコ、決定的な瞬間を狙っている人もいた。

UFOは英語の「UNIDENTIFIED FLYING OBJECT」略で、日本語でいえば未確認飛行物体、わかりやすくいえば「空飛ぶ円盤」のこと。UFOが地球上で取り沙汰され始めて長い歴史があつたが、その真偽のほどは明らかにならないまま、現在に至っている。一般の「ブーム」と違ふのは、年々騒ぎが大きくなる点。最近ではUFOの専門誌も発刊され、採算ベースに乗って売れゆきも好調というほどだ。

就実高校の畑野房子教諭が中心になって進めている同校のUFO研究グループは「UFOはどのくらい見られるか」という興味ある調査を行っている。このほど開かれた文化祭でその結果を発表した。資料収集は全国の場合、UFO専門誌からその目撃例を抜き出したものと、日本地図に書き込んで表したものと。また、県下の場合と同グループに寄せられた「信頼のおける」目撃例を県内地図

に書き込んでいく。

調査によると、全国では目撃者は300人にもほっている。このうち約4分の1はカメラにおさめている。目撃者は北海道から沖縄まで平均的に分布している。また、目撃した日の日別に表したグラフで面白い結果が出た。1月15日には24人も目撃者がいること。この点について畑野教諭は「この結果には、驚いている。私の考えでは地球とかわり合いを待とうとしている宇宙人が、これからの世界を待たせようとする。若い人への世界を待たせようとする。この日を選んで近付いたのでは」と分析している。

県下の目撃例は47件。目撃地では岡山市が最も多く23件、次いで久米郡旭町が10件、総社・清音・倉敷地区で9件など。旭町で見られたのは昨年9、10月で、このときは岡山市内からも多くの人が車で、UFO見物に出掛け、旭川上流の静かな田舎町は「時の町」としてクロースアップされたほど。

ごく最近では、同研究グループの茂泉玲子さん(18)「同校3年」が9月24日午後9時25分頃、自転車で帰宅中、岡山市当新田の上空で出会ったという。茂泉さんの見たUFOはくらくら回る円盤型で、上部でオランダ風の灯りが点滅していた。茂泉さんは、これまでに数回目撃しており型はすべて同じ物。

「何か変な気がして上を見ると、飛んでいた」と話しており、畑野教諭は「彼女の身辺に何か起きていたのはたしか。彼女に近づこうとしているのでは」。変な気がするといふのは、多分、UFOから送られるテレパシーのせい」と言っている。

「ブーン」という円盤の回る音も聞いている茂泉さんだが、このたびの宇宙人の接近には迷惑で、興味もあっている。

(一九七五年10月9日付、岡山市新聞)

UFO目撃レポート

「UFOと宇宙」を毎号興味深く読ませていただいております。号を重ねるごとに内容が充実してくるようです。

さて、以下に「UFO目撃報告」をまとめてみました。誤字・脱字があり、文章もまずく、字も読みにくいでしょうが、読んでいただければ幸いです。また、写真3枚とネガ一本を同封しましたのでご覧下さい。

ここではっきりお断りしておきますが、以下のことはすべて写真をも含めて偽作ではありません(もともと、偽作であっても、こう弁解する人がおられるでしょうが)。すべて私・弟・父の三人の体験をまとめたものです。また、フィルムの写真・プリントは自分でやったものではありません。何かのお役に立てばと思います、これを書いているだけです。とるに足りぬものであったら、すなわちUFOでなかったら、即座にゴミ箱行きにして下さっても結構です。

なお、ご面倒でも用が済みしだいネガだけはお返し下さい。そのとき、このレポートに関する貴社の何らかの結論をお知らせ願えれば幸いです。

貴社の発展を祈っております。

一九七五年一月二六日

I

- ①小林嘉夫(21歳) 大阪教育大学3年生
 ②目撃日時 自宅、12/3年前、夏、午後3時頃、約5秒間目撃、曇
 ③葉巻型、黒一色(金属的な光沢なし)、

無音、図Iの物体

④天候 ふと空を見上げた時発見。家の真上をかなりの高度でゆっくりと南から北へ通過。雲の切れ目から見えただけだが、飛行機でないことは確か。また、当時、このようなUFOがあるというようなことはまったく知らなかった。UFOとは円盤型のものだと思っていた。

II

- ①私、弟
 ②目撃日時 自宅、一九七五年6月30日、午後9時15分、曇、約15秒間目撃
 ③黄色の光体、形状不明、無音、図IIの物体

④天候 最初、西の空に静止していた。このとき弟は星だと思ひ、望遠鏡を向けたが、急に西の方へ動き出し、星でないことがわかった。5秒間ほど動くのが見えたが、雲に隠れてしまった。輪郭といったものはわからなかった。音もなく、まっすぐに飛んでいってしまった。この日の午前中に中学生が数人教室から、生駒山の方向にUFOを目撃したそうであるが詳細は不明。

⑤目撃継続時間 この辺を飛ぶ飛行機は、伊丹空港の関係で、南から北へ、もしくは、南東から北西へ向けてのコースをとるのが普通である(ただし、ほんのまれに飛ぶことがあるが、それを見たのは今までに2回ほどである)。何度か、これと同じ時刻に外に出て調べてみたが、同じ飛行機をそとった飛行機は1機もなかった。

III

- ①私、弟
 ②目撃日時 自宅、一九七五年8月25日、午前3時45分、約1分間目撃、晴
 ③黄色の点滅光体、形不明、無音、図IIIの物体。

④天候 図III(1)外に出て東の方を見ると、黄色く点滅する光体が目に入った。それは北から南に向かって、まっすぐに音もなく飛行。また、速度変化もなし。飛行機よりも速かった。ちょうどオリオン座が東からのぼっていた頃で、その光体はベラトリクスあたりを横切った。このときのベラトリクスの仰角は35度。ベラトリクスを過ぎて少ししたところでシャッタースピード1秒で撮ったが、露出不足で何も写っていないようだ。

図III(2)

南を向いた時のようである。このとき
 ④⑤③枚の写真を連続して撮った。3枚とも写真の真中あたりにある上から右下にかけての線が点滅光体の光跡である。カメラの位置はそれぞれ違う。

④に比べて⑤③はかなり明るい、3枚続けて撮ったものである。⑤を撮り終えたところで物体は見えなくなった。④から⑤、⑥から⑦へかけては三脚を移動させたりフィルムを巻いたりしたので少し時間がある。また、図と写真とは構図が違っている。

写真④三脚が少しぐらついたのでブレている。この写真では2本の線が写っている。

凡例

- ①氏名(年齢)・職業・学校名
 - ②目撃日時
 - ③目撃地点
 - ④天候
 - ⑤目撃継続時間
 - ⑥同時目撃者
 - ⑦観測機器・方法
 - ⑧物体について
 - ⑨飛行状態その他
- ()内は目撃者の住所

が、目で見たときはわからなかった。ブレたせいでこうなったのかもしれない。また右の方に何か写っているが、これは電灯のゴーストらしい。

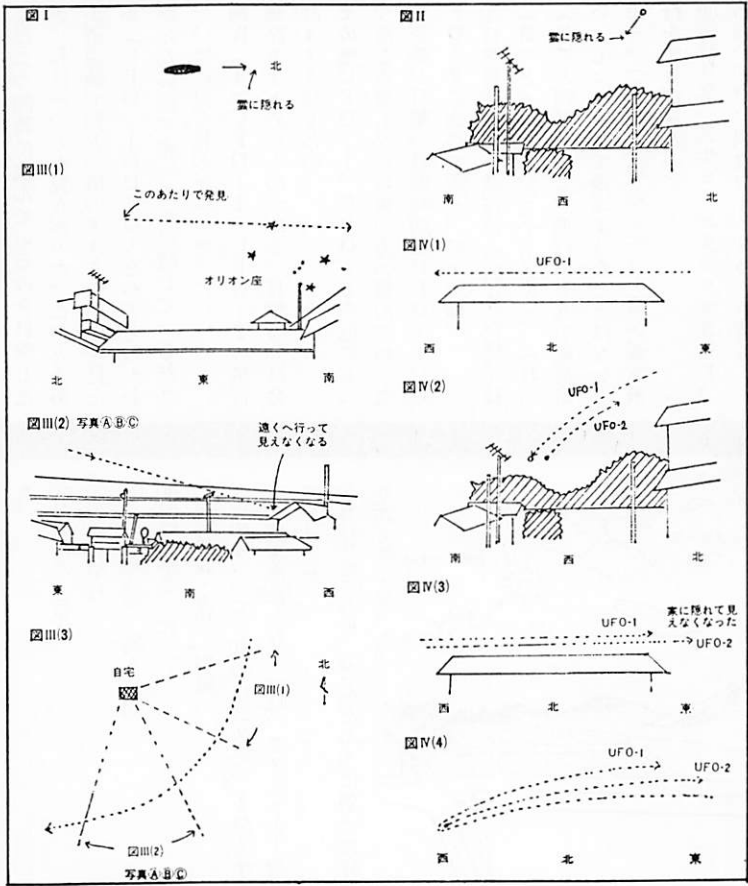
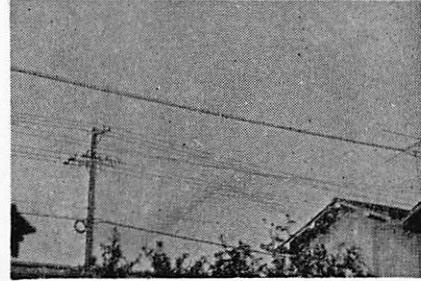
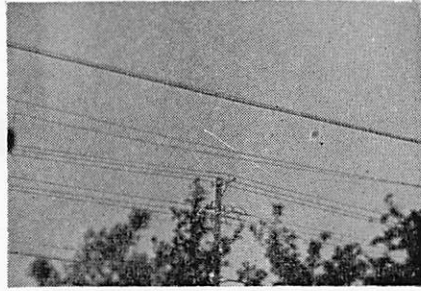
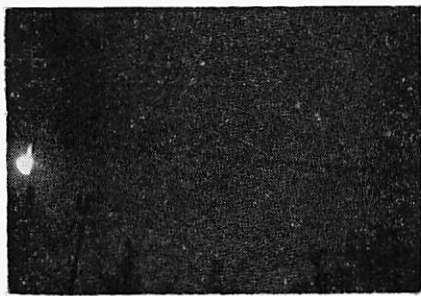
写真③このとき仰角は25度、点滅しているのがよくわかる。ここでは光跡は1本しかない。

写真④物体がかなり遠くへ行ったとき撮ったから、少しわかりにくいと思うが、真中よりやや左側に写っている。

図Ⅲ(3)

これはあくまでもこのように飛んだのではないかと推測の図である。

⑤もし飛行機であったら他にも光を出していると思われるのだが、この物体は黄色い点滅した光しか出していなかった。この光の他には何も見えず、むしろ光の玉そのものといった感じであった。また、この辺では飛行機はそれほど高く飛ばないせいか、必ずといっていいほど爆音が聞こえるのに、これは無音であった。時刻が時刻だけに、あたりに騒音を出すようなものはないもなかった(この「飛行機の爆音」については「UFOと宇宙No.13、P.93の「ある意見」という記事を読んだ上で書いていることをつけ加えておく)。かつて人工衛星を見たが(人工衛星をよく知っている人の確認を得たわけではないが)、それは球体で、金属的な光沢をしているだけで、自らは何の光も出していなかった。そして、この黄色い点滅光体よりもずっと遅かった。人工衛星の軌跡の写真を何枚か見たことがある



が、いずれも点滅などしていなかった。
 (上記の「ある意見」の中には人工衛星とは明滅しないものと書かれている。また「UFOと宇宙」No. 14、P. 42の最下段には、人工衛星は天空を横切るのに約10分かかるということが書かれている) また、時刻が時刻だけに飛行機ではないと思う。飛行機なら機体が見えると思われる。この推論はあくまでも自分の知識の範囲内のことであるから、見当はずれになっているかもしれない。

⑥アサヒペンタックスSPF55mm、F1.8、絞り2.8、10/15秒、三脚とレリーズ使用、コダカラーII

IV

①私、弟、父

②目撃日時 自宅、一九七五年9月4日、午後9時15分/30分、晴

③赤色の点滅光体、青色の点滅光体、形不明、無音、図IVの物体

④天候 図IV(1) UFO-1が東の方から赤く点滅しながら、まっすぐに、飛行機よりも速く西に向かって飛んで行った。このとき、3枚の写真をカメラをヨコにして撮ったが、いずれも露出不足で、ネガフィルムを見た限りでは何も写っていないようだ。(3枚とも露出時間は3/5秒程度)

図IV(2) UFO-1が西の方へ飛んで行くとき、3枚の写真をカメラをタテにして撮ったが、家と木がぼんやりと写っているだけで、UFO-1と断定できるようなものは写っていないようだ。

UFO-1が西の方へ飛んで行き、そこでいったん静止しているように見えた。そのとき新たに、青白い光を点滅させながらUFO-2が現れ、こちらの方へ飛んできた。UFO-1が飛び去ってUFO-2が現れるまで、1分ほど間があった。私はフィルムを入れ替えていたので、この様子はすべて弟が目撃した。

図IV(3) UFO-1がUFO-2を追いかけるようにして飛んで来た。そして二つとも東の方へ飛んで行ってしまった。父と弟は二つ同時に飛んでいるのを目撃したが、私は一つしか見なかった。このとき弟が望遠鏡で約50倍の大きさで物体を見た(UFO-1かUFO-2かどちらかわからないが) 赤い光が点滅しているだけで、他に何も見えなかった。

図IV(4) UFO-1、UFO-2の飛行経路をまとめたものである。目撃時間は合計4/5分くらい。

その他UFO-1、UFO-2の他にも二つほど点滅しながら東の方へ飛んでいったのを弟が目撃した。目撃時間はUFO-1、UFO-2に比べて短く、15/20秒。

⑤目撃継続時間 飛行中の物体の様子は(Ⅲ)とまったく同じであるから、これも(Ⅲ)と同じ理由で、飛行機や人工衛星がいっしょに並んで飛ぶようなことはないと思う。(ただし小型のジェット機が編隊飛行をすれば別だが)

⑥同時目撃 アサヒペンタックスSPF、55mm、F1.8、開放、3/5秒、手持ち

(千577 大阪府東大阪市新家三九二)

①坂野康隆(12歳) 天羽中学校 記録1

一九七四年、午後5時30分頃、ふと西の空を見て、なにか変わった光体が浮いているのに気づいた。はじめは星かと思って見ていると形が変わり、動き始めたので急いでカメラで写した。しかし、なんのミスもないのになぜか写真には写っていないかった。

③目撃地点 自宅

④天候 晴れ

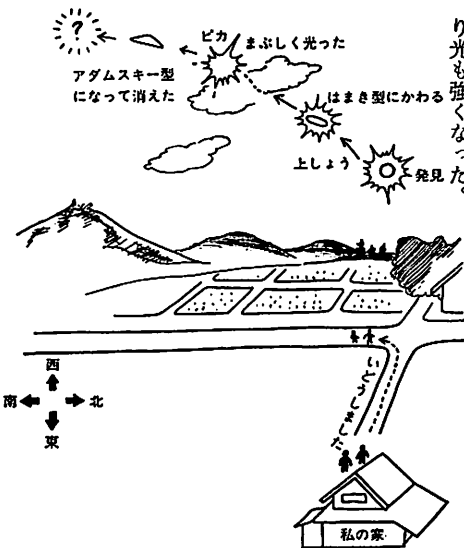
⑤目撃継続時間 約5分間

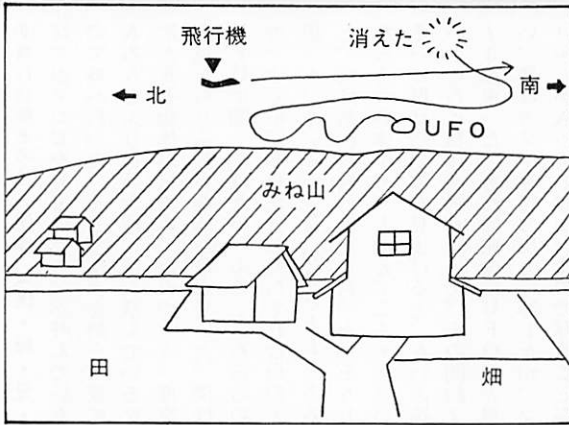
⑥同時目撃者 兄

⑦観測機器・方法 肉眼

⑧物体について 初めは球体で、1分もすると葉巻形になり、一時、アダムスキー型にも見えた。

⑨飛行状態その他 だんだんに斜めに昇り光も強くなった。

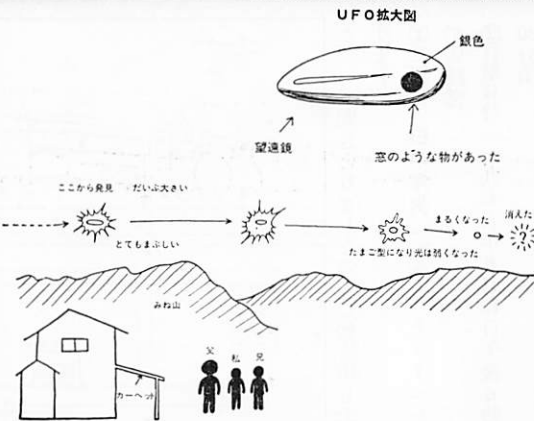




一九七五年五月十八日午後3時30分頃

記録3

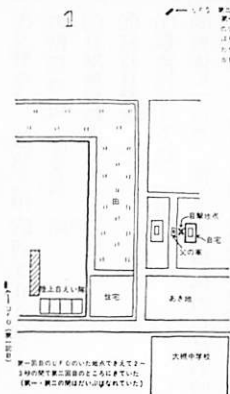
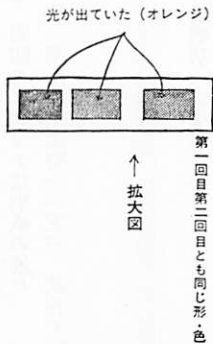
- ① 飛行状態その他 初め山にそってジグザグに飛んでいたが、急に上昇し、カーブして消えた。その際、その上を飛んでいた飛行機の後を追いかけるようにも飛んだ。
- ② 目撃日時 一九七五年七月頃、午後4時35分
- ③ 目撃地点 自宅の前の道
- ④ 天候 晴
- ⑤ 目撃継続時間 15秒ぐらい
- ⑥ 同時目撃者 兄
- ⑦ 観測機器・方法 肉眼
- ⑧ 物体について 赤いだ円形の物体で、ヘリコプターより少し速い。
- ⑨ 飛行状態その他 初め山にそってジグザグに飛んでいたが、急に上昇し、カーブして消えた。その際、その上を飛んでいた飛行機の後を追いかけるようにも飛んだ。



カメラで鳥を写そうとした時、銀色の大きな物体が飛んでいるのを見つけた。物体は飛行機ぐらいの速さで約5分間東から南西にかけて飛んでいった。同じ年の8月1日の同じ時間にも目撃した。やはり同じ物体であった。UFOは、葉巻型から球体に変わって消えた。父もいっしょに見たが、写真は1枚しかとれなかった。2回目の時は望遠鏡で見た。

データ(10×10キングスタイルスコープ)
 (〒299-16 千葉県富津市長崎 二七九の三) 富津市UFO研究会会長

● 物体の形



- ① 富永俊一
- ② 目撃日時 一九七五年1月20日午後6時
- ③ 目撃時点 自宅の玄関前
- ④ 天候 星が少し出ていた。月は出ていなかった。雲量3(風はすこしふいていた)
- ⑤ 目撃継続時間 約4分ぐらい(1回目・2回目とも合わせて)
- ⑥ 同時目撃者 父(国家公務員)・母・兄・僕(郡山市立大槻中学校)・妹(〃)。
- ⑦ 第一回目の目撃者、外で(父・僕)。第二回目家族全員、家の中。
- ⑧ 物体について 約1cm(第一回目) オレンジ色、仰角は60度ぐらい。速さはジェット機よりちょっと速いようだった。方向・北北東↘南南東へ

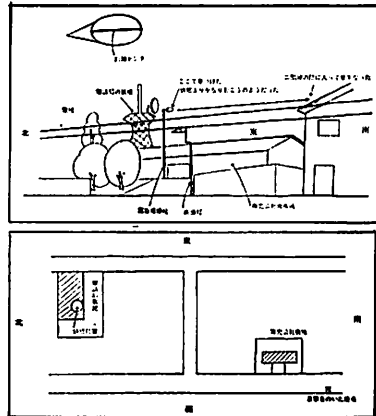
⑨飛行状態その他 僕達、(僕・母・兄・妹)がテレビを見ていたら父が呼んでいたので外へ行った。そして用事を終えて家に入ろうとふりむいた時、空に飛んでいるなにか光る物体が目に入ったのもう一度空を見たら光る長い物体が飛んでいた。僕はUFOに関してはいへんちしきがあるので、すぐにUFOだとしたらそれは母船と思っただ。そして父にそのことをおしえらると、父はあれは飛行機だと言った。そうしたらその物体がバッと消えてしまった。いそいで僕は空全体を見上げると、だいぶ遠いところに物体が飛んでいた。その間約2〜3秒だった。あれは完全にUFOだと思ひ、僕はカメラを持ち出して写したが、フィルムが入っていないので写すことができなかった。すぐに家に入り母・兄・妹達にそのことを話し、急いで兄と妹がガラス戸からのぞくと、遠いかなたに光っているだけだった。それから自分の部屋に入り、そのことでメモをとった。

(〒963-02 福島県郡山市大槻町普門寺垣 北22-13)

過日、知人が輝きながら飛んで行く物体を自撃いたしました。未確認飛行物体には人一倍興味をもっている私にも連絡してくれましたので、すぐ駆けつけましたが、残念ながら見失った後で、私は見る事ができませんでした。

詳細を「UFOと宇宙」の目撃報告にも

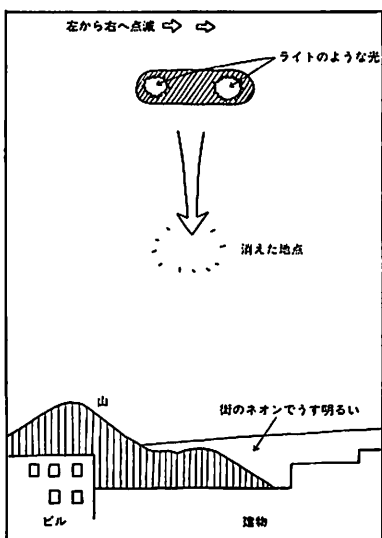
とづいて聞き取りましたのでご報告申し上げます。



- ①目撃者 田中孝男(32歳)、クリーニング店経営
 - ②目撃日時 一九七五年八月十三日午後6時30分頃
 - ③目撃場所 沼田市馬喰町二二三九番地自宅前の路上
 - ④天候 晴れ
 - ⑤目撃継続時間 30〜40秒
 - ⑥同時目撃者 田中規子(妻)、田中ノブ代(妹)
 - ⑦方法 肉眼、仰角約30度
 - ⑧物体について ひじょうに明るいオレンジ色に輝いていた。左四形で後方に短い尾(?)をひいていた。見かけで約30センチくらいの長径だった。
 - ⑨飛行状態 高度、距離などは素人なので推定できない。路上でしゃがんでいたところ、何気なく空を見上げたら、物体を見た。割合ゆっくりとした速度で水平に飛んで行った。音はしなかった。
- 目撃者住所 群馬県沼田市馬喰町二二三九

番地 周囲のスケッチは別紙の通り
(〒98 沼田市上之町一五三 武井てい子)

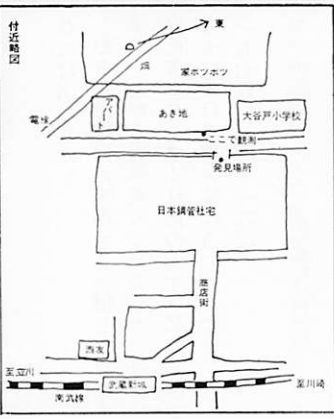
- ①野沢明功(21歳)、デザイナー
- ②目撃日時 50年9月1日午後9時頃
- ③目撃地点 阪急六甲駅西300メートルの踏切の辺
- ④天候 晴
- ⑤目撃継続時間 1分半程
- ⑥同時目撃者 なし
- ⑦観測機器・方法 肉眼
- ⑧物体について 夜なので物体の色は不明。車のヘッドライトのようなものが二つ光り左から右に点滅していた。ライトの色は白色でかなり強い光だった。
- ⑨飛行状態その他 初めヘリコプターか飛行機が低空で飛行していると思っただが、あれだけ低空で飛行するとかかなりの音がするはずなのに、まったく音がなく飛びつづけ、そのまま目をそらすずに見ていたけれど、天頂から約14あたりの東の上空で突然物体のライトが消えてしまった。その





- ① 高橋久美子、(24歳)、主婦
- ② 同時目撃者 なし
- ③ 目撃地点 川崎市中原区上小田中
- ④ 天候 9月4日、晴れか薄雲 空には雲がありませんでした。
- ⑤ 目撃継続時間 3分間位、AM 11時50分。

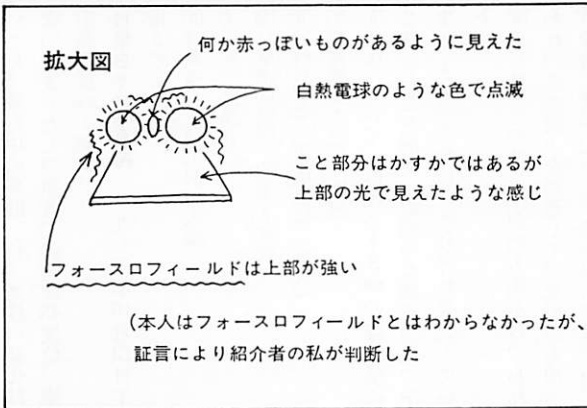
時、あたりに雲はまったくなかったのではゾ
 ーンとした。
 物体全体の大きさからくらべて二つのラ
 イトが大きすぎるので、飛行機のパイロッ
 トランプではないと思う。
 消えたのは雲に隠されたためかと思っ
 たが、雲があるかないかは街のネオン(俗に
 いう百万ドルの夜景)が明るいため、すぐ
 判明できる。なかったことは確かである。
 (〒657 神戸市灘区天城通6丁目3-15)



私は貴社の出版物「UFOと宇宙」の愛

(〒211 川崎市中原区上小田中3の3)

- ⑦ 観測機器・方法 肉眼で観測
- ⑧ 物体について 発見時はアンパン位の大き
 さ。色は黒っぽい。一定のバルスで
 (1秒毎位)、中央が白、まわりが金色に
 全体が輝いていた。そのためはっきりした
 形はわからず、また飛行音はありません。
- ⑨ 飛行状態その他 飛行する時はいつも地
 面と平行に底がむいていました。少し上下
 にフラフラしながらかなりのスピードで上
 昇(東の方向へ)。発見時の高度はよくわ
 かりませんが、UFOが去った後でへりよ
 りは高いところをとんでいたと思います。
 飛行中、光度の変化・色の変化・形態の変
 化はありませんでした。発見時から3分く
 らいで遠くへというより高く上昇したので
 見えなくなりました。上昇角度は左上の図位。
 家の近くの空地(かなり広い)なので山な
 どに邪魔されることなく観測できた。小学
 校とアパートの間のあき地の向こうの畑の
 上空を飛行中に発見。



(本人はフォースロフィールドとはわからなかったが、証言により紹介者の私が判断した)

- ⑩ 飛行状態その他 父が外に出ていて発見
 し、呼ばれたので出てみると、上図のよう
- ① 目撃者 匿名学生(17歳)、国立福島高
 専2年
- ② 目撃日時 一九七五年10月10日午後8時
 10分頃
- ③ 目撃地点 自宅の庭から
- ④ 天候 晴(星がよく見えた)
- ⑤ 仰角 約10度 ⑥ 目撃継続時間 約1分間
- ⑦ 観測機器・方法 肉眼
- ⑧ 同時目撃者 父、弟
- ⑨ 物体について(図の通り)

読者の一人です。日頃UFOに興味をもっ
 ている私のもとへ級友の一人が目撃の情報
 をもってききましたので、紹介致します。

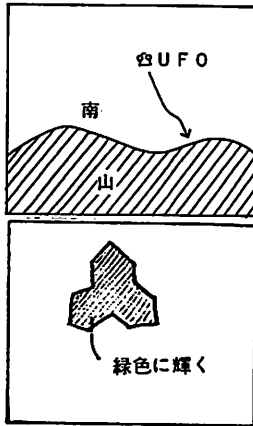
な物体が空にあった。それは、その光の点滅の様子から、ちょうど回転しているように見えた。飛行機その他知っている乗物とはまったく異なっていた。飛行状態にはそれほど急激な変化はなく、遠ざかっていくように消えた。図に示したように消える前に少し揺れたようだった。一緒に見ていた弟も「あれはUFOだ」と言っていた。

なお、弟(15歳中3)は半年前にもUFOを目撃している(図参照)。以下は彼の証言。

「学校の帰り、夕方少し暗くなった頃、自転車で乗っていると、右手の山(道路わき)の上を図のような形・色をした物体が速いスピードで飛んでいた。音についてはよく覚えていない。

(福島県田村郡小野町夏井字高屋敷56)

以上が私に届いた情報です。ここで彼について書けば、成績は優秀(クラス2位)



で真面目であり、決して嘘を言うような人間ではありません。私、本当か、と何度も言う、「嘘なんか言ってる何になる」と少々怒気を含んで反発してくるほどです。私自身も何度かUFOを見ていますが、彼の場合のように確かじゃないので、こ

こには出しません。

UFOは絶対に実在すると信じております。どんな生物が乗っているようにと、彼らは私に夢を与えてくれたのです。私はこれからもUFOを追いつけるつもりです。

一九七五、一〇、一二記。

先日(一九七五年10月13日)友人と2人で確かに「UFO」と思われる物体を目撃しましたので、その目撃レポートをお送り致しました。

①山井一浩(19歳) 県立新津高校卒、現在浪人中

目撃A

②目撃日時 一九七五年10月13日午後5時30分頃

③目撃地点 自宅前の広場

④天候 晴れ

⑤目撃継続時間 約5秒(同時目撃者の近藤君は約10秒)

⑥同時目撃者 近藤高弘(友人)

⑦観測機器・方法 肉眼

⑧物体について 推定の直径30〜50m、周囲のフチが円に近い正多角形で下面の中央部に何か突起物があり、フチは白っぽいシルバーで、下面の中央部は少し濃い灰色。

左右の端がほぼ白に近い黄色に光っていた。

⑨飛行状態その他 発見した時は北東の方

向へゆっくりと飛んでいたが途中で方向を

変えて、しだいにスピードをあげて飛んで

いった。飛行中の形態、色、光度の変化は

ない。まったくの無音、仰角は45度位、推

定高度は500〜800m。

目撃B ②目撃日時 一九七五年10月13日

午後5時57分頃

③目撃地点 自宅前の広場

④天候 薄曇り

⑤目撃継続時間 約7〜8秒

⑥同時目撃者 近藤高弘(友人)

⑦観測機器・方法 肉眼

⑧物体について 直径2〜3mの球が横に

3個ならんだ形で、両端の2個が白色、中

央の1個が赤色に、それぞれ発光してい

た。

⑨飛行状態その他 南西の方角から、われ

われのほぼ真上を通過して、北東の方角へ

直線的に飛び去った。飛行中の形態、色、

光度の変化はない。すごいスピードで、ま

ったく無音だった。

「目撃A」図の位置あたりでUFOを発

見、一瞬「何かな?」というような気持ち

だった。すぐ近藤君に「あれ!」と呼ん

だ。赤い線の範囲で約5秒見たのち自宅へ

双眼鏡を取りに行き、再び外へ出た時

はもう見えなかった。私が双眼鏡をとり

に行っている間に、近藤君は①から②の位置へ

移動して、そこで約10秒見たのち、彼の自宅

へ同じく双眼鏡をとりに行き、再び外へ

出てきたときは、私といっしょに上空を

双眼鏡で見ただけで何も見えなかった。

「目撃B」 目撃時間の午後5時57分頃は

完全に暗く薄曇りで星は見えなかった。近

近

近

近

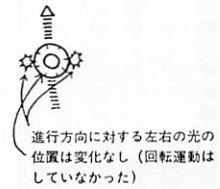
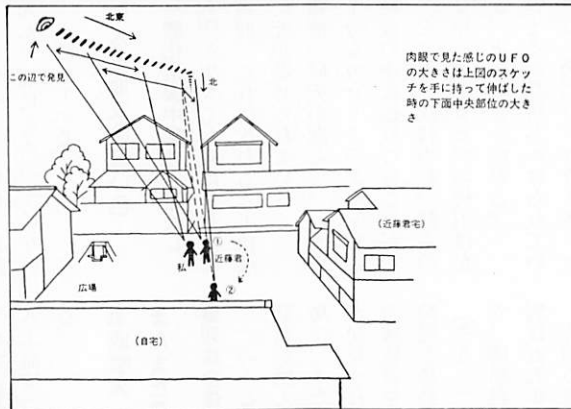
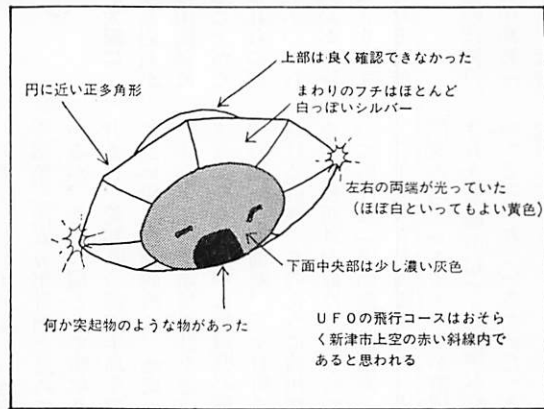
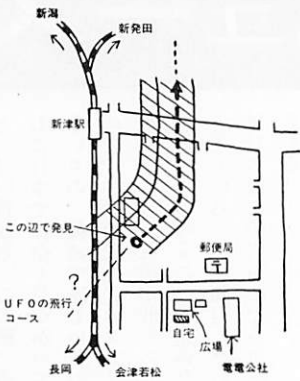
近

近

近

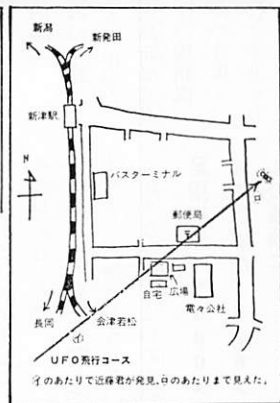
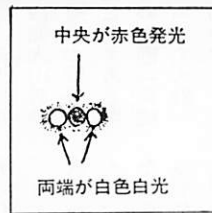
近

“目撃A”のUFOスケッチ



推定の大きさ、速度はよくわからないが、1つの球の大きさは、最低2/3m位あると思う。(千956 新潟県新津市本町3 | 2 | 38)

藤君と先程のUFOのこと(目撃A)を話していると、突然近藤君が「なんだ、あれ!!」と南西の方向を指さしたので、ふりかえって見ると、何か発光物体が近づいてくるのが見えた。双眼鏡で見ようとしたが、あわてたのと物体が凄いスピードなのでピントを良くあわせられず肉眼で見直した。その後近くの家の屋根の影に入り見えなくなった。肉眼で見た大きさは上図の大きさ、推定高度は、雲の下方を飛行していたから1000m位かと思うが、かなり高い所を飛んでいたようだ。



“目撃B”のUFOスケッチ

科学 ニュース

おもな岩石は「ぎくろ石花こう岩」とでも呼ぶ一種の変成岩と「けい質砂岩」の二種。両岩石は日本では全く見つかっていないもの、極めて珍しい質のもので、中島教授は先カンブリア紀（ふつう三五億年前から六億年前まで）のものに間違いないとみている。年代測定しだいで日本最古の岩石になる可能性もある。

遠州灘の大地震予知に 新兵器

●これで地震の被害を最小限に
気象庁などが49年度から地震予知第三次五カ年計画を進めているが、その一環として昨年9月6日、愛知県の渥美半島先端に近い伊良湖測候所に、海底のひずみを調べる新型歪計ひずみ計を完成させた。今年度中に静岡県の静岡石廊崎、御前崎、三ヶ日町に設ける計画。このように遠州灘を中心に歪計を設けることについて同庁は「遠州灘では過去一二〇年間大きな地震がなく、専門家の間で『エネルギーが蓄積され大地震が起る確率が高い』とみられているためだ」と説明している。

また、気象庁末広重二地震課

長は「地震はこれまでの研究結果などから、一万メートルにつき一メートルずれる力が地下の岩盤に働くと、その力に耐え切れなくなり、岩盤が崩れて起こるといわれている。とくに大地震の前には、岩盤に加わる圧力が急激に変化するとみられるので、この歪計である程度、地震予知が可能になるのではないかと話している。

夢の人工血液は白色

●一酸化炭素中毒の心配なし

人間が生きたために欠かせない血液。これに代わる人工血液の研究が進められている。

輸液の研究が進んで、いままで十分なカロリーのある栄養素を血液の中に送りこむことが可能となった。次は当然、酸素の運び屋ヘモグロビンの代用はないか、ということになる。

いまその期待がかけられているのは一般にフロロカーボンと呼ばれる過フッ化炭素化合物だ。フロロカーボンは油性物質で水に溶けないので、適当な界面活性剤でぐるんでやらねばならない。ヘモグロビンなら、酸素は化学的にくっつくが、フロロカーボンでは、酸素や炭酸

ガスは中に溶け込んでいるだけなので、出入りしやすいだろうという。

「血液型はないので、だれにでも使える。一酸化炭素は溶け込まないので、一酸化炭素中毒の心配はないし、血清肝炎もない。発がん性もどうやらなさそうだ」と光野孝雄神戸大学教授は人工血液のすぐれた点をあげ

海底噴火

またまた発見される

●列島全体の火山が噴火か？

このところ、海中火山噴火の話題が絶えない伊豆、硫黄列島で、また新たな海底火山活動が発見された。大噴火で数多くの犠牲者を出したこともある明神礁と鳥島の近くの岩礁「孀婦（そうふ）岩」と「スミス岩」で、孀婦岩は史上初の、スミス岩は五九年ぶりの活動。

今回の活動発見者は東京工大の小坂文子教授（火山化学）。昨年8月13日、西之島新島調査のため、海上保安庁の観測機で南下中、スミス岩のつけ根と、孀婦岩の北約五〇〇メートルの海面が緑色に変化しているのを見つけた。この変色水は火山ガ

スの成分が海水と化学反応を起こして生じるもので、海中噴火の証拠だ。

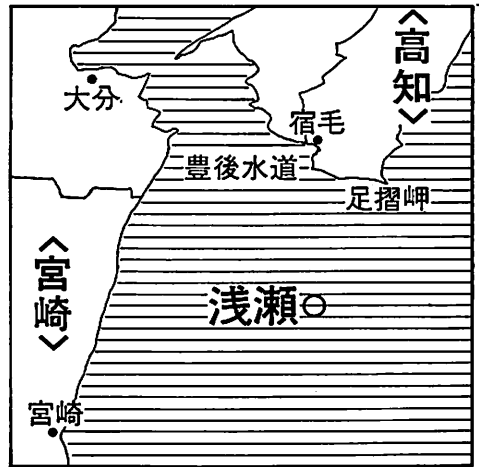
伊豆、硫黄列島で、ここ五年間に活動した火山は、北から伊豆大島三原山（一昨年3月小噴火）明神礁（45年）スミス岩、孀婦岩、西之島、硫黄島（28年頃から年間三、四〇センチと異常隆起中、49年北部で小水蒸気爆発）福徳岡の場（南硫黄島地東約九〇キロ、47年から断続的に活動中）日吉沖の場（同島南東約九〇キロ、昨年8月28日）福神岡の場（同島約三三〇キロ、48年、49年各三回）と九カ所にもおよんでいる。

ここ数年、急激に列島全体の火山が活発化してきたように思える。たまたま活動期が一致したからか、それとも海上交通が多くなったため、発見のチャンスがふえて、活発化しているように見えるのか。

昨今、日本列島に関して無気味な予言が飛びかうおり、何事も起きなければよいのだが。

足摺岬沖、2000メートルのはずが、5〜6メートルの浅瀬に

●海底に造山運動が起こったか



第五管区海上保安本部（神戸）

戸）は昨年10月3日朝、入った連絡では、現場は宮崎市の東一三キロ、足摺岬南南西一〇三キロの日向灘（東経一三三度三八分、北緯三二度五一分）の水深二〇〇メートル前後の海域で、水深わずか五〜七メートルの岩礁を大分県の漁船群が発見した。

この岩礁は海図にはなく、各船が集まって、約一五人の漁民が半信半疑ながらも、確認した結果、岩礁は長さ約一〇メートル、幅七メートルの頂部で、海底からそそり立っている状態。調査は「拓洋」が当たることになり、ロランで岩礁の位置を

確定、音響測深儀で水深などを測定する。

岩礁が実在するとすれば、地殻変動などによる造山運動で、海底が約二〇〇メートルも隆起したことになる。

この海域では、43年4月にマグニチュード7・5の日向灘地震が起きており、地殻変動で海底が隆起したのではないか（？）ともい

う。

（注）本号掲載の「三原市の驚異コンタクト事件」の内容の一部を立証するものかも？

無重量状態なんか平気！

●環境に順応しやすい人体

無重量状態の影響を予防する装置類は、十分な効果があるとこのほどソ連の科学者、ニコライ・グロブスキー博士は述べた。無重量状態に適応するまでに平均四日ほどかかるが、軌道科学ステーション・サリュート4号で六三日間暮らして地上に帰還したビョートル・クリムク、ピタリー・セバスチヤノフ

両宇宙飛行士は、ずっと早く容易に無重量生活に慣れてしまった。また、地上帰還後、以前と同じような生活感覚を取りもどすのに要した期間も短かった。二人は内耳前庭と方向感覚についても興味ある報告をした。無重量状態では内耳前庭は全く役立たず、視覚だけが頼り。目を閉じれば方向感覚はなくなる。そこで、天井が床だと思ひこんでしまえば、あとは仕事の上にも支障はないし、心理的な困難もなかったという。

脈動しはじめた太陽

●太陽内部にできるコブが原因

米アリゾナ大のヒル博士らが、一時間ぐらいの周期をもつ太陽の振動を観測したと、つい最近述べた。これまで太陽表面での局部的な小さな振動（約5分の周期）は観測されていたが、今回観測されたのは全く別の振動で、しかも太陽内部に原因があるとみられている。

これまで太陽は水素の原子核である陽子が二つ融合して重水素になり、この重水素と陽子とで軽いヘリウム原子核ができ、さらに軽いヘリウム原子核同士で重いヘリウム原子核になる、

といった融合反応が起きている。ところが、一つの疑問がでてきた。融合反応の一部では、ニュートリノ（中性微子）と呼ばれる電荷をもたない軽粒子が発生する。この太陽ニュートリノは一九六八年から観測されているが、実際にみられる量は理論値よりはるかに少ない（約五分の一）ということが明らかになったからだ。太陽モデルは基本的にそこで新しい理論が出された。東大天文学科の海野和三郎教授、尾崎洋二助手、大学院生の柴橋博資さんの三人による説だ。

太陽も進化を続けている。しかし、その動きは一枚なものではない。融合反応のある部分が促進されるときと、そうでないときがある。軽いヘリウムから重いヘリウムになると、太陽内部に「コブ」ができることがある。この「コブ」は、平均分子量がムラがある重力的に不安定な層だ。この中には、軽いヘリウム原子核が融合する反応が急に進む。これによって振動が起きると考えるのだ。

また、こうした「コブ」ができてきたり消えたりするくり返しは

一〇〇〇万年から一億年の間隔で起こるとみられている。このような反応のムラがニュートリノの量の増減になってあらわれているのではないかと。そしてこれが地球に周期的に訪れた水河期にも関連しているのではないかと考えられるのである。

謎のシベリア爆発に新説

●宇宙からやってきた大雪塊か

六七年前（一九〇八年）、シベリアで起こった謎の大爆発の原因について、ソ連科学アカデミー会員のゲオルギ・ペトロフ、ウラジミール・スタロフ博士はこのほど「宇宙からやってきた一〇〇万トンもの大雪塊ではないか」と、新説を発表した。

（シベリアの謎の大爆発についての詳細な内容は本誌12号に掲載）

ペトロフ博士たちの新説によると、おそらく、すい星の核だと思われる直径約八〇メートルもあるボールのような雪のかたまりが、時速四万キロのスピードで大気圏に突入し、まさか熱のために約五〇キロ上空で爆発したのだという。しかしこの

理論の根拠については明らかにされてゐない。

肺ガンが自然に治った!

●膿胸による自然治ゆか

死は時間の問題といわれた重症の肺ガン患者が、たまたま、肺にうみのたまる膿胸(のうきよう)という病気を併発したため、ガンが自然に治ったという報告が、昨年10月1日、大阪で開かれた日本肺癌(ガン)学会で発表された。入院患者を膿胸に感染させることは医者にとっては恥とされているが、膿胸のあとガン細胞がきれいに消えうせている例を四つほど上げ、ガン治療に有力な手掛りを与えるものとして注目を集めた。

膿胸を起こした肺ガン患者に生存率の高いことは一〇年ほど前から注目され始めているが、自然治ゆとはっきりした例がどのように多数発表されたのは初めて。肺ガンが治った理由としては①膿胸を起こした化膿菌がガン細胞をも殺してしまふ②化膿菌の出す毒素に対して体の中に抗体ができ、この抗体がガン細胞に作用する——などが考えられるというが、詳しいことは今後の研究課題という。

核戦争による放射能被害は

●交戦国でなければ25年で回復

全米科学アカデミーは北半球で大規模な核戦争が起こることを想定して、次のような報告書を発表した。(昨年10月4日報道)

北半球でTNT火薬計一千万トン相当の核兵器が使用されたとして、フィリップ・ハンドラー科学アカデミー総裁は、交戦国から離れた地域も高濃度放射能に汚染され、激しい気候の変化が起き、米国やカナダが核戦争に巻き込まれれば世界中の小麦の三分の二が失われると述べた。

また、オゾン層の約五〇パーセントが破壊されると予想、これは中緯度地帯で四〇年間にわたって皮膚ガン発生率を一〇パーセント上昇させるだろうと警告している。

しかし戦争に直接巻き込まれない地域については①自然生態系は大きな悪影響を受けるが、全生物が死滅してしまふほどではなく、三〜一〇年で回復し、二五年以内にはほぼ完全に元にもどる。②南半球のオゾン層破壊は二〇〜四〇パーセントで、

約四年間でほぼ回復する。③戦争後に生まれる第一世代では放射能による遺伝的障害が〇・二〜二パーセント増えるが、第四世代までには半分が減ると予測している。

日本人は鳥や虫の声を

言葉と同じように感じる

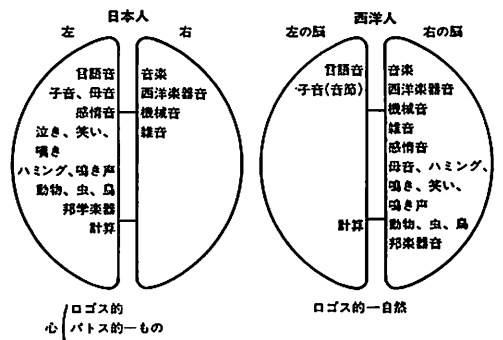
●西洋人にとっては雑音

日本人は、動物や鳥、虫の声を脳の左半球で聴くが、西洋人は逆に右半球で聴くという。左半球には言葉を理解する場所(言語中枢)があるので、日本人は鳥や虫の声を言葉と同じように感じている。しかし西洋人にとって鳥や虫の声は雑音。この違いは日本人と西洋人で先天的に脳のつくりが違うからではなく「子どものときに日本語を話して育ったかどうかで決まる」と東京医科歯科大難治疾患研究所の角田忠信講師が実験によって確認した。

図のように、日本人と西洋人でははっきり違う。西洋人では左半球(優位脳)は言語音と子音を聴き分ける機能だけが高く、そのほかの音は右半球で識別する。

ところが日本人は、言葉のほ

日本人と西洋人では音の聞き方がこんなに違う



だ。だから、日本人は、外国人なら右半球で聴き分けるはずのただの音まで母音で表現することで言語化し、左半球で聴くようになったというのが角田講師の解釈だ。

ブラック・ホールはこれだ

●その存在を光学的に確認

米航空宇宙局のエドワード・ガル博士は昨年10月14日、ロンドンでオリオン座付近のエック線星「A0621マイナス・ゼロ」ガナゾの暗黒天体ブラック・ホールであると発表した。明るさは約一・七等で同観測所の観測では一〜二時間の間隔でまたたいている。明るさの増減は〇・一〜〇・二等。ブラック・ホールは理論的には早くから予言されていたが、光を出さないため実証されず、

わずかに強力なエックス線源がこれに当たるのではないかと推測され、エックス線天文学による解明が続けられているところで、比較的近いものについて光学的確認と距離の測定が急務とされていた。

ブラック・ホールは星が光を失って最後にたどりつくもので、自らの重力によって内側につぶれ、異常な超高密度となるが、そこでは光も外へ出られず、時間も遅れるなどいろいろな興味ある現象が生じているといわれ、現在天文学の最前線の問題となっている。

赤道直下は太陽熱発電に最適の場所

●資源小国、日本が一番乗りか
太陽熱は無公害で、ふんだんにあるエネルギー源である。

米航空宇宙局（NASA）と全米科学財団（NSF）の協力で行ってきた太陽エネルギー検討会も「米国の将来の熱源、動力源の主体は太陽エネルギーだ」という結論を出した。「石油や石炭が豊富で安い米国ではまだコスト高だが、燃料の値上げ、需要増大から、近い将来は石油や原子力と競争できるようにな

る。冷暖房、燃料変換、発電などで二〇二〇年までには、技術的、経済的にかなり実用的になる」としている。

わが国ではどうか。太陽エネルギーの利用を研究する政府のサンシャイン計画は始まったが、太陽熱発電所を設置したくても土地がない。海上に設置しても台風が来る。台風にも耐える設計をしないと、かなり高いものにつく。比較的晴天の多い太平洋岸でも、一年の半分は降ったり曇ったり。せっかくの発電所が一年の半分遊ぶことになる。

気象学の世界的権威、シカゴ大学の藤田哲也教授は「赤道直下の南太平洋、カントン島からガラバゴス諸島にかけての海を利用しなさい」と提案する。同教授は、米国の各衛星が毎日送信してくる地球の宇宙写真を見ているうち、この海域だけが四季を通じて晴れていることに気づいた。

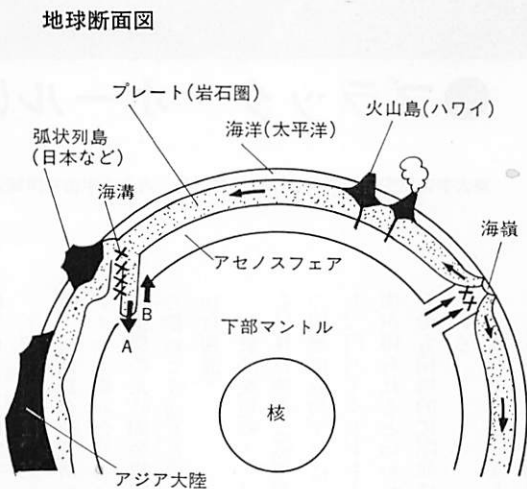
ここは赤道直下でありながら水温二〇度という寒流のため海水の蒸発量が少なく、雨量も少ない。海の砂ばくである。太陽エネルギーの豊富な熱帯で、これほど雨の少ないところは世界に例がない。悪天候を招く赤

道前線もここでは発生せず、台風も絶対にこない。カントン島からクリスマス島にかけては海流もゆっくりしている。

「海上に太陽熱発電所を建設するなら、世界でここしかない。いまに、ここが世界のエネルギーの中心になるように思う。ここを日本の発電所にしたらどうですか。ほうっておく手はないですよ。そのうち米国が乗り出すかもしれません」と藤田教授は、シカゴ大学の研究室で熱っぽく語った。

NASAの調べによると、赤道上空の大気の頂上に差し込む太陽エネルギーは、年間平均で一月一平方センチあたり八五〇カロリー。このうち三五〇カロリーが大気に吸収されて、残り五〇〇カロリーが海面上に届く。幅二キロ、長さ三・五キロの太陽発電イカダを五〇個浮かべれば、わが国が一年間に使う電力を生産することが可能だ。

●海溝部の引っ張る力が原動力
いまや、地球科学の基礎となっているプレート・テクトニクス理論の原動力に新説が登場し



プレートは矢印の方向へ運動する
×印は地震発生地帯

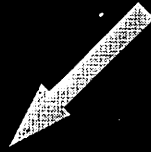
地球断面図
た。今まで、プレートが何を原動力に不断の運動をするのかはつきりしなかった。

東大地震研究所の上田誠也教授は、昨年10月5日、地震学会秋季大会で「プレートの原動力は、海溝で地球内部にもぐり込むプレート先端部の引っ張る力である。これが機関車の役目である。これがプレート全体を引きずっているのだ」という新説を発表し、注目された。

プレート運動の原動力について、これまでもいくつかの説があった。代表的なものに「マントル対流論」がある。し

かし、対流運動を起こし得る比較的軟らかいマントルの層（アセノスフェア）は薄く、小さなウズしかできない。この小さなウズではプレートは動かすことはできないだろうと上田教授は考えている。

そこで、プレートの運動速度と海溝、海嶺の長さとの関係を調べてみた。すると長い海溝を持つプレートほど運動速度は速いが、海嶺の長さや速度との間に相関関係が全く見られなかった。どうやら海溝部の引っ張り力がプレート運動を支えているようだ。



●ブラック・ホールはこれだ

東大宇宙航空研究所が、昨年11月上旬、内之浦宇宙空間観測所の60センチ反射望遠鏡で撮影したもの。(矢印)

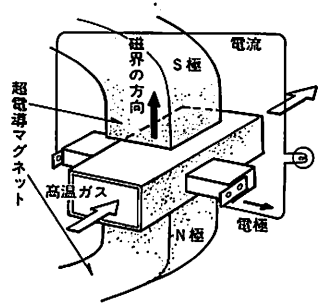
さらに上田教授は、海溝部の引っ張り力、海嶺部の押す力のほか、プレート運動に関係ありそうな海底大断層の「ずれ」の力や各種の低抗力の強さを比較してみた。その結果、海溝部の引っ張り力(図中のAの力)とプレート先端部が沈降するさいの低抗力(同B)が他の力に比べて一〇倍以上大きいことがわかった。この研究から上田教授は、海溝部の引っ張り力がプレート運動の原動力という結論を導き出した。

世界初のMHD発電

●フレミングの右手の法則応用
工業技術院は、東京・田無の電子技術総合研究所で超電導マグネット組み合せによるMHD発電機の長時間発電実験に世界で初めて成功した。(昨年12月10日報道)

省資源発電のエースといわれるMHD発電(磁気流体発電)の開発に成功すれば、火力発電を二〇パーセントも上回る熱効率を得られるといわれ、米ソなどでも積極的に開発に取り組んでいる。

MHD発電というと難しく聞こえるが、原理は簡単にフレミ



MHD発電の原理

ングの右手の法則を使って発電するものだ。つまり、磁石はN極とS極の間に磁場を持っているが、その磁場の方向に垂直に導体が動くとき電流が流れるというもの。

MHD発電のトータルシステムはMHD発電に在来の発電方式を併設したものといえる。実用段階に達したときには両方あわせて熱効率は六〇パーセント程度であると見込まれており、新鋭火力では四〇パーセントが限界といわれているだけに、大幅な省資源発電になる。エネルギー資源の乏しいわが国のエネルギー政策に大きく寄与する研究開発である。

MHD発電の難しいところは安定した強い磁場をつくること、連続して流れる高温ガスに

対する耐熱材料の開発などだ。これまでの実験では、かなりのデータが得られているが、実用化を考えると、まだまだ研究しなければならない点が多い。

謎の古代絵文字を解説

●米国の一七歳の高校生が発表
問題の古代絵文字は、いまはバキスタンになっているインダス川流域に五〇〇〇年前頃居住していた人々が使用していたもので、ヨーロッパ言語や一部アジア言語の祖先とされながら、どの学者も解読できなかった。

この文字を米ロードアイランド州リンカーンの高校生、ジム・ダック君が解読したと胸をはっている。「特別な才能があるわけではない、ただ言語に魅せられているだけ」と謙虚だが、解読の成果は近く考古学雑誌に発表するという。

日本の原研、世界の難関を解決!

●プラズマ安定化と不純物除去
日本原子力研究所はこのほど、世界中の科学者が手を焼いていた核融合装置内でのプラズマ(核融合反応の燃料)の安定化と不純物の除去という二つの難関を世界に先がけて解決した。

現在、このプラズマは思い通り容器の中で静かに浮いてくれない。容器の壁に当たっては壁を溶かし、溶けた金属が不純物としてプラズマに混じり込んでしまう。プラズマ内に不純物がまじると、発光現象が起きて熱が奪われ、プラズマが冷えてしまふ。このため、各国の大型トカマク装置ともプラズマ温度を一〇〇〇万度以上に上げることが困難だった。

JFT-2aは、こうした問題を解決するために一昨年秋季完成した「マシニング」で、内部にトカマク装置としては世界で初めて「ダイバータ」という装置を付けた。これは、ドーナツ状のプラズマの内側に銅線の輪を作り、その上下にチタン合金線

の輪を置いたもの。銅線に電流を流すと、プラズマ内に流れている電流との相互作用で「8の字」型の磁力線で生まれる。この磁力線の力でプラズマの形が整えられ、安定して容器内に浮いていることができる。これでプラズマが壁にぶつかり、不純物の生じる割合は激減する。

また、不純物の混じったプラズマは「8の字」型磁力線に乗ってプラズマ容器の外に出、ダイバータの銅線のまわりを回るが、そのさい吸着性の強いチタンによって不純物が除去され、純度の高いプラズマに「再生」されるというもの。

JFT-2aの今回の成果はプラズマの安定化と不純物除去の問題解消の道を開くもので、五年から建設にはいる日本のJFT-60にはこの成果を十分取り入れ、九〇パーセント以上の高純度プラズマを作って一気に一億度の超高温を達成しようとならっている。

首都圏の活断層が16カ所

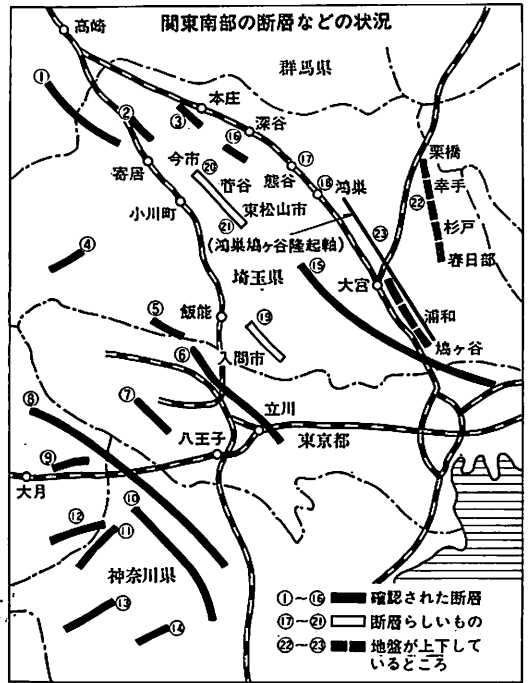
●直下型地震の防災対策に急務
東京とその近県に直下型地震の起こりやすい活断層が一六カ所確認された。東京都防災会議地震部会は中間報告をまとめ、発表した。(昨年10月20日報道)

それによると直下型地震の際、被害を大きくする活断層は、埼玉、神奈川など首都圏一帯にかなり集中していることがわかった。確認された一六の活断層のほか、埼玉県内にさらに五カ所の断層らしいものと二カ所の地殻変動が見つかった。

●米国の学者チームが発表
木星の大気中に一酸化炭素の存在が初めて確認されたと発表された。木星の大気中には水素とヘリウムが大量にあり、メタン、アンモニア、エタン、アセチレン、リン化水素および水蒸気が少量あることが従来から知られているが、今回のこの発表は米国のジェット推進研究所「JPL」とテキサス大学天文学チームによる。(昨年10月14日報道)

一方、東京付近の過去における地震活動状況を調べたが、昭和に入ってから東京での有感地震は二〇七七回(年平均四一・五回)で、微震(震度1)軽震(同2)がほとんど。震度3(弱震)が一四八回、同4(中

木星にも一酸化炭素があった!



震)一九回、同5(強震)三回で、同6(烈震)はゼロ。震度3以上の地震の震源地を見ると、千葉県中部、茨城県南西部、茨城沿岸沖が全体の五〇パーセントを占め、東京直下型はきわめて少なかった。

東京を中心として半径一〇〇キロ圏内に震源をもち、東京に何らかの被害を与える地震は一〇〇年間に一〇個内外発生。そのうち明治二七年の東京地震(マグニチュード六・五)東京、横浜など東京湾沿岸で死者三一人、建物全半壊一三〇戸などを出し、安政江戸地震以来の(強震)程度の被害を生じるもの

は二、三個と推定された。

また半岩石状の軟弱層が地表から地下一・三キロにもおよび東京の地盤は意外に軟らかいことも明らかになった。

金星に人類移住計画(?)

●学者の想像を裏切った金星
金星は地球のすぐ内側の軌道をまわっている地球に最も近い惑星である。いつも厚い雲に包まれていたため、金星の世界は長いことナゾとされてきた。

昨年10月22日、25日の両日、ソ連の惑星間ステーション金星9号、10号が送ってきたパノラマ写真は、学者たちの想像を裏

切った。

写っていたのは、三〇―四〇センチの岩石がゴロゴロした明るい世界だった。ソ連の惑星学者ミハイル・マロフ博士は「9号の写真に写っているカドのところが岩は、金星がいまも活発な地殻運動をしていること、つまり金星がまだ生きていることの動かぬ証拠である。10号の着陸したところは一〇平方メートルもある一枚岩で、9号が着陸したところよりは古い、風化した平らな地域である」と述べている。

人類は金星の上で生命と出会うことができるだろうか。ソ連科学アカデミー学術勤務員のユリー・コレートフ氏は「金星表面から三〇―七〇キロ高いところは、気圧もそれほど高くはないし、気温も地上と同じくらいだ。この雲の層こそ金星の生命のゆりかごである」と述べている。

かりにこの雲の中に生命が存在しなかったとしても、「金星なら人類の住める星に『改造』できる」と本気で計画を練っている学者もいる。たとえばコーネル大のカール・サガン教授。クローラよりも下等な藍藻

(らんそう)類をロケットでこの雲の中にまき散らすと、藍藻類は大気中の二酸化炭素を吸って酸素を吐き出す。二酸化炭素が減っていくと金星表面の温度はしだいに下がり始め、雨が降り……という計画である。

謎のパミューダ海域に米航空局が公式見解

●このミステリーはナンセンス
「謎のパミューダ海域」、いまや、アメリカでも大きな話題を呼んでいるこの問題に、米航空界の統元締め、連邦航空局(FAA)が、ついに同局の機関誌「FAAワールド」に初めて「公式見解」を発表した。それによると「このミステリーはナンセンスだ」と結論付けてはいるが、「特殊な問題」があることも認めている。

飛行機や船の失跡の原因として①天候異常②海洋横断の飛行、航海技術の未熟さ③航行装置の不完全さ④荒天による捜索、救助作業の難しさ……などを指摘している。

とくにパミューダ海域の天候は急変しやすく、飛行機が舞い込むと翼をもぎとられ、海中にバラバラになって墜落するとい

う。また、この海域では、海流と波浪が大変な暴れん坊で、墜落機や難破船の残骸を何キロも遠くへ押し流し、捜索隊に手がかりを残さない」と説明している。

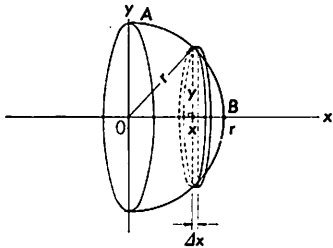
九〇〇万年前
フィリピン海は陸地

●現在の姿は二〇〇万年前から
東大海洋研で開かれた「フィリピン海の構造と地史に関するシンポジウム」の席上、池辺展生大阪市大教授は、四国、九州の南方からフィリピン沖まで広がるフィリピン海は、九〇〇万年前までは広大な陸地で、現在の姿になったのは二〇〇万年前という説を発表した。

池辺教授によると、沖縄、南九州、南四国、紀伊など、南日本の広い地域で、一五〇〇万年前から九〇〇万年前までの地層中に有孔虫がみられないという。

有孔虫がないのは、当時そこが陸地だったことを示す。四〇〇万年前から二〇〇万年前にかけて、海面の上昇が何度か起り、一〇〇〇メートルも上昇して、現在の姿になったというわけだ。

$$\begin{aligned}
 &= \pi \int_0^r (r^2 - x^2) dx = \pi \left\{ \int_0^r r^2 dx - \int_0^r x^2 dx \right\} \\
 &= \pi \left\{ r^2 \int_0^r dx - \int_0^r x^2 dx \right\} = \pi \left\{ r^2 [x]_0^r - \left[\frac{1}{3} x^3 \right]_0^r \right\} \\
 &= \pi \left\{ r^2 (r - 0) - \left(\frac{1}{3} r^3 - \frac{1}{3} \times 0^3 \right) \right\} = \pi \left\{ r^3 - \frac{1}{3} r^3 \right\} \\
 &= \frac{2}{3} \pi r^3
 \end{aligned}$$



球の体積は、その2倍ですから

$$\frac{2}{3} \pi r^3 \times 2$$

で $\frac{4}{3} \pi r^3$ となり、これまでの丸暗記の結果を、なっとくされたことと思います。

〈積分定数〉

不定積分のところ、たとえば、 $\int 6dx$ とは、微分したら6になるモノのこと、つまり、 $6x$ のことだと、一応、のべておきましたが、注意深い方は、もうお気づきのようです。

$$6x$$

もそうですが、

$$6x + 3$$

$$6x - 2$$

$$6x + 1.5$$

$$6x + \sqrt{3}$$

なども、みんな、微分すれば6ですから、

$$\int 6dx = 6x$$

としては、少々、不確定だということになります。正確には、

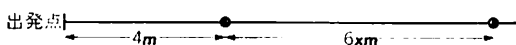
$$\int 6dx = 6x + \text{定数}$$

でなくてはなりません。

「定数」と漢字で書くのはめんどろなので、この定数を c であらわして

$$\int 6dx = 6x + c$$

とするのが普通です。そして、この c を積分定数というのです。



秒速 6 m の自動車の x 秒後の位置を求めるとき、はじめ、自動車が出発点からすでに 3 m 進んでいたとすれば、 x 秒後の位置は出発点から

$$6x + 3 (m)$$

のところであり、はじめ、出発点から 4 m 進んでいたとすれば、 x 秒後の位置は出発点から

$$6x + 4 (m)$$

です。

ですから、前者の場合は

$$\int 6dx = 6x + 3$$

であり、後者の場合は

$$\int 6dx = 6x + 4$$

となりますように、積分定数 c は、はじめの条件でできる値なので、「初期条件」ともいいます。

たとえば、速度 y (m/s) が、時間 x (秒) の関数 $y = 2x$ で走る自動車、はじめ、出発点から 8 m 進んでいたとすれば、 x 秒後の自動車の位置はどこでしょうかという問題を考えてみましょう。

求める位置は、出発点から

$$\int 2x dx$$

ですから

$$\int 2x dx = x^2 + c \quad \dots\dots\dots(1)$$

です。ところが、 x (秒) = 0 (秒) のとき、自動車の位置は出発点から 8 m のところですから

$$0^2 + c = 8$$

$$\therefore c = 8$$

です。したがって (1) 式は

$$\int 2x dx = x^2 + 8 \quad \dots\dots\dots(2)$$

となり、これが求める位置です。

このように、不定積分にはかならず積分定数をつけなければ正確とはいえません。初期条件が与えられていれば、 c はある値に決定されますが、そうでない場合も、一般的には c をつけ加えておいてください。

おわりに

以上で一応この「中学生にもわかる微分積分」を終わります。紙面の都合であまり詳細な説明ができず、初歩の段階で打ち切ることになったのは残念ですが、今までの講座をよく勉強された方は微分と積分の根本的な理論はよくわかったはずで、これさえわかればあとは他の参考書を読んで、もっと高度な微積分の知識を身につけることができると思います。なんといっても数学はあらゆる科学の基礎になる重要な学問であり、特に微分積分は大切です。理科系の道を進もうとする人は必ずマスターする必要があります。しっかり勉強して、燃料をいらない画期的なエンジンでも発明して、宇宙旅行を容易にするような科学者になる人が、この講座の読者から出てくることを期待しています。
(筆者は中学校教諭)

輪切りにしたものを考えれば、その一枚一枚は、厚みのうすい円板(高さが微小な円柱)だと考えられます。

理想的にうすい円板の体積の和が、回転体の体積と考えるわけです。

任意の x のところでできる円板の半径は y ですから、円(底面)の面積は πy^2 です。そうして、厚みを Δx とすると、その円板の体積は $\pi y^2 \Delta x$ です。 Δx をどんどん 0 に近づけて、円板の厚みを理想的にうすくして、これらを全部よせ集めれば、図の体積は

$$\int_a^b \pi y^2 dx$$

つまり

$$\pi \int_a^b y^2 dx$$

である — と考えるわけです。

この考え方で、回転体のひとつ、円すいの体積を求めてみましょう。

直線 $y = \frac{1}{2}x$ を、 x 軸のまわりに回転したときできる円すいを例にとりましょう。

円すいの高さを 6 とします。すると、この円すいは底面の半径が 3 で高さが 6 の円すいですから、この体積は、円すいの体積の公式

$$\text{体積} = \text{底面積} \times \text{高さ} \times \frac{1}{3}$$

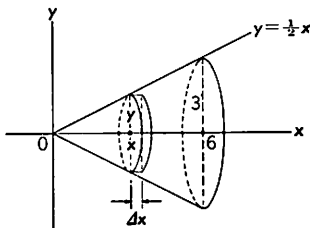
で求められますね。

計算してみると

$$3^2 \pi \times 6 \times \frac{1}{3}$$

$$= 18\pi$$

です。



が、体積の公式にあらわれる $\times \frac{1}{3}$ は、中学校で実験的にはたしかめましたが、なぜなのかについて、あまりさだかではありませんでした。

さて、図をごらんください。

任意の x での円板の半径は y で、微小な厚さは Δx としましょう。すると、この円板の体積は $\pi y^2 \Delta x$ です。

しかも、 $y = \frac{1}{2}x$ ですから、円板の体積 $\pi y^2 \Delta x$ は

$$\pi \left(\frac{1}{2}x\right)^2 \Delta x = \frac{1}{4} \pi x^2 \Delta x$$

になります。

したがって、先ほど説明しましたように、この円すいの体積は

$$\int_0^6 \frac{1}{4} \pi x^2 dx$$

で求められます。計算を続けると、

$$= \frac{1}{4} \pi \int_0^6 x^2 dx$$

$$= \frac{1}{4} \pi \times \left[\frac{1}{3}x^3\right]_0^6$$

$$= \frac{1}{4} \pi \times \left(\frac{1}{3} \times 6^3 - \frac{1}{3} \times 0^3\right)$$

$$= \frac{1}{4} \pi \times \frac{1}{3} \times 6^3$$

$$= 18\pi$$

となって、公式で求めた答えと一致しますね。

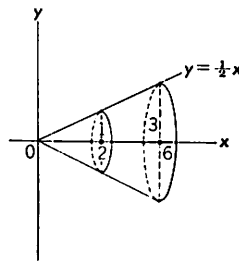
ついでに、同じ図で考えた円すい台の体積についても考えてみましょう。

図のような、両底面の半径が、それぞれ 1 と 3 で、高さが 4 の円すい台とします。

この場合の体積も、全く同じ考えから

$$\int_2^6 \frac{1}{4} \pi x^2 dx$$

で求められることが、おわかりでしょうか。



計算を続けると

$$= \frac{1}{4} \pi \int_2^6 x^2 dx$$

$$= \frac{1}{4} \pi \times \left[\frac{1}{3}x^3\right]_2^6$$

$$= \frac{1}{4} \pi \times \left(\frac{1}{3} \times 6^3 - \frac{1}{3} \times 2^3\right)$$

$$= \frac{1}{4} \pi \times \frac{1}{3} \times 208$$

$$= \frac{52}{3} \pi$$

となりました。

回転体の体積が、積分でかんたんに求められることが、ほぼ、なっとくできたでしょう。

回転体といえば、球も、円を直径のまわりに回転させてできる回転体でしたね。半径 r の球の体積は、

$$\frac{4}{3} \pi r^3$$

で、理由はともかく、丸暗記でおぼえてきました。

ここまで勉強してきたのですから、積分で計算できないものでしょうか。

図は、半径 r の半球の図です。半球の体積を求めて 2 倍すれば球の体積ですから、まず、半球の体積を求めてみましょう。

例によって、 x のところでできる円板を考えますとその半径 y は、三平方の定理から

$$y^2 = r^2 - x^2$$

です。厚みを Δx とすると、円板の体積は

$$\pi y^2 \Delta x$$

ですから $\pi(r^2 - x^2) \Delta x$ です。

ですから、半球の体積は

$$\int_0^r \pi(r^2 - x^2) dx$$

でよいですね。

計算を続行しますと

方が便利です。

例えば

$$\int 6x^2 dx = 6 \int x^2 dx = 6 \times \left(\frac{1}{3} x^3 \right) = 2x^3$$

とか、

$$\int 8x^3 dx = 8 \int x^3 dx = 8 \times \left(\frac{1}{4} x^4 \right) = 2x^4$$

などです。

なお

$$\int 4x dx = 4 \int x dx = 4 \times \left(\frac{1}{2} x^2 \right) = 2x^2$$

や、

$$\int 6 dx = 6 \int dx = 6 \times (x) = 6x$$

なども、この公式の利用です。

いまひとつ、公式として、

$$\int \{f(x) + g(x)\} dx = \int f(x) dx + \int g(x) dx$$

$$\int \{f(x) - g(x)\} dx = \int f(x) dx - \int g(x) dx$$

をあげておく必要があります。

つまり

$$\begin{aligned} \int (12x^2 - 10x + 6) dx \\ = \int 12x^2 dx - \int 10x dx + \int 6 dx \end{aligned}$$

となりますよ — ということです。したがって

$$\begin{aligned} &= 12 \int x^2 dx - 10 \int x dx + 6 \int dx \\ &= 12 \times \frac{1}{3} x^3 - 10 \times \frac{1}{2} x^2 + 6 \times x \\ &= 4x^3 - 5x^2 + 6x \end{aligned}$$

が、求める結果です。

微分の勉強のとき、

$$(f(x) \times g(x))' = f'(x) \times g'(x) \text{ としたり}$$

$$\left(\frac{f(x)}{g(x)} \right)' \text{ を } \frac{f'(x)}{g'(x)} \text{ にしては、絶対いけませんと}$$

注意したのと同じく

$$\int \{f(x) \times g(x)\} dx \text{ を } \int f(x) dx \times \int g(x) dx \text{ としたり}$$

$$\int \frac{f(x)}{g(x)} dx \text{ を } \frac{\int f(x) dx}{\int g(x) dx} \text{ などとしては、絶対}$$

いけません。

たとえば

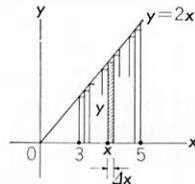
$$\int (x^2 \times x^3) dx \text{ を } \int x^2 dx \times \int x^3 dx = \frac{1}{3} x^3 \times \frac{1}{4} x^4 = \frac{1}{12} x^7$$

などとしてはいけないということです。考えてみれば

$$\int (x^2 \times x^3) dx = \int x^5 dx = \frac{1}{5+1} x^{5+1} = \frac{1}{6} x^6 \text{ ですから、結}$$

果が一致しませんね。

〈積分の考えかた〉



直線 $y=2x$ と x 軸の間で、 x の 3 と 5 にはさまれた部分の面積は、幅が微小 (Δx) な無数の長方形の和の極限だと考えました。

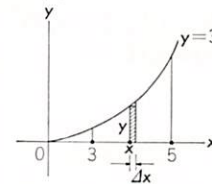
ある任意の x の所にできる長方形は、タテが y でヨコが

Δx ですから、面積は $y \cdot \Delta x$ です。 Δx を、どんどん 0 に近づければ、理想的に細い長方形になります。このような理想的に細い長方形が、3 から 5 までの間に、ぎっしりならんでいるわけで、求める面積は、それらの和です。かんたんに言いますと、 $y \cdot \Delta x$ の Δx を理想的に小さくしたものの全部の和のことを $\int y dx$ と書くと考え

てさしつかえありません。ここでは、3 から 5 までですから、 $\int_3^5 y dx$ と書くことになります。そして、 $y=2x$

ですからこの場合は、 $\int_3^5 y dx = \int_3^5 2x dx$ です。

記号 \int は、英語の Sum (総計, 和) の頭文字の記号化です。



$y=3x^2$ のときも、3 から 5 までの例の面積については、全く同じです。

任意の x の所にできる幅 Δx の長方形の面積は $y \cdot \Delta x$ で、この幅 Δx を理想的に小さくした上での全部の長方形の面積の

和のことですから、求める面積は

$$\int_3^5 y dx$$

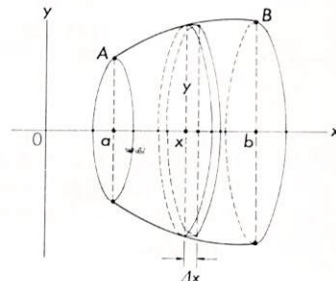
で、 $y=3x^2$ ですから

$$= \int_3^5 3x^2 dx$$

となり、機械的に計算を続ければ、下のようになります。

$$\begin{aligned} &= [x^3]_3^5 \\ &= 5^3 - 3^3 \\ &= 98 \end{aligned}$$

つぎに、回転体の体積について説明しますが、回転体の体積についてもいまままで同じようにかんたんに考えればよいのです。



曲線 AB が x 軸のまわりを回転してできる回転体をごらんください。 x 軸に垂直な平面で、うすくうすく

となりますから、あとは記号 $[\]_a^b$ の約束通り計算して

$$\begin{aligned} &= 6 \times 10 - 6 \times 3 \\ &= 60 - 18 \\ &= 42 \end{aligned}$$

とすればよいでしょう。このようにすれば「 a から 0 まで」と、任意にきめた a は、計算の中で相殺されるので、機械的な計算 $[\]_a^b$ にはあらわれてこないことも、もう、おわかりでしょうか。

速度 y (%)が、時間 x (秒)の関数 $y = 2x$ であるときの自動車が3秒目から5秒目までに走った距離—についても、あらためて考えてみましょう。

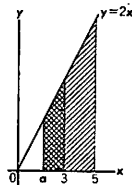
求める距離 — 積分は $\int_3^5 (2x) dx$ でした。

まだ十分でないので、任意の a をきめて考えますと、図からおわかりのように

$$\int_3^5 (2x) dx = \int_a^5 (2x) dx - \int_a^3 (2x) dx$$

で、前述の通り

$$\begin{aligned} &= 5^2 - 3^2 \\ &= 25 - 9 \\ &= 16 \end{aligned}$$



が求められます。

でも、せっかく、 $(x^2)' = 2x$ であることも、 $[\]_a^b$ の記号も勉強したのでですから、それをつかえば

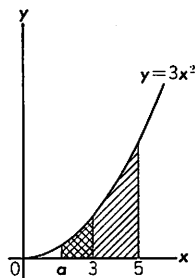
$$\begin{aligned} \int_3^5 (2x) dx &= [x^2]_3^5 \\ &= 5^2 - 3^2 \\ &= 16 \end{aligned}$$

という調子で機械的に求めることができます。さいごに、速度 y (%)が、時間 x (秒)の関数

$$y = 3x^2$$

であるとき、3秒目から5秒目までに自動車が走った距離 — についても再度、考えてみましょう。

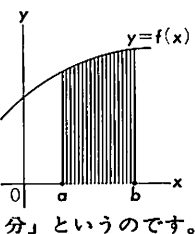
求める距離 — 積分は $\int_3^5 (3x^2) dx$ です。



任意の a をきめて考える考えは、図で理解していただき、ここでは、機械的な計算だけを紹介することにいたします。すると、

$$\begin{aligned} \int_3^5 (3x^2) dx &= [x^3]_3^5 \\ &= 5^3 - 3^3 \\ &= 125 - 27 \\ &= 98 \end{aligned}$$

となります。



以上、勉強してきましたように、関数 $y=f(x)$ があるとき、図のように、曲線と x 軸とではさまれた a から b までの面積を

$$\int_a^b f(x) dx$$

と書いて積分といいましたが、実は、こういう積分は、「定積分」というのです。

<不定積分>

一方、これも先ほど勉強しましたが、微分したら $f(x)$ になるような関数 $F(x)$ を求めること — 微分の逆関数を求めること — を、単に $\int f(x) dx$ と書き、これを

「不定積分」といいます。たとえば、前述のように

$$\int 6 dx = 6x$$

$$\int 2x dx = x^2$$

$$\int 3x^2 dx = x^3$$

などを、不定積分というのです。ただし不定積分の場合は、「積分定数」というものがあらわれるのですが、しばらくの間、それにはふれないでおくことにしておきます。

<不定積分の公式>

$\frac{1}{n+1} x^{n+1}$ を微分すると、どうなりましたか? 一緒に計算してみましょう。

$$\begin{aligned} \left(\frac{1}{n+1} x^{n+1} \right)' &= \frac{1}{n+1} (x^{n+1})' = \frac{1}{n+1} \times \{ (n+1)x^{(n+1)-1} \} \\ &= \frac{1}{n+1} \times (n+1)x^n \\ &= x^n \end{aligned}$$

でした。

これから、微分したら x^n になるモノは $\frac{1}{n+1} x^{n+1}$ だとわかりましたから、

$$\int x^n dx = \frac{1}{n+1} x^{n+1}$$

という公式が得られます。

この公式の意味は、たとえば、

$$n \text{ が } 2 \text{ のときは、} \int x^2 dx = \frac{1}{2+1} x^{2+1} = \frac{1}{3} x^3$$

また

$$n \text{ が } 3 \text{ のときは、} \int x^3 dx = \frac{1}{3+1} x^{3+1} = \frac{1}{4} x^4$$

などということです。

特別な場合として、 $\int x dx$ は、公式の n が1と考え、 $\int x dx = \int x^1 dx$ ですから $= \frac{1}{1+1} x^{1+1} = \frac{1}{2} x^2$

とすればよいし、

$\int dx$ は、 $\int 1 dx$ と考えれば、公式の n が0のときにあてはまりますから、

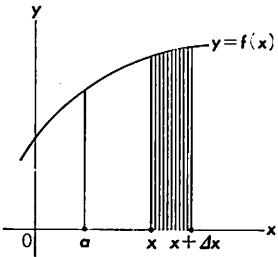
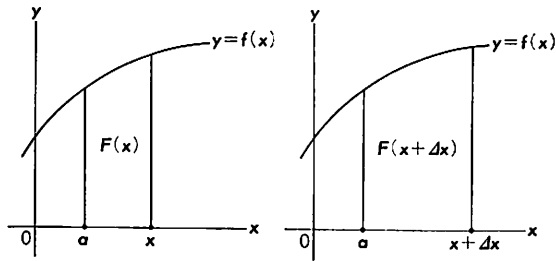
$$\int dx = \int 1 dx = \int x^0 dx = \frac{1}{0+1} x^{0+1} = \frac{1}{1} x^1 = x$$

と考えればよいわけです。

つぎに、 a を定数とすると、

$$\int a f(x) dx = a \int f(x) dx$$

という性質があって、これも公式として覚えておいた



したがって、左図の影の部分 — x と $x + \Delta x$ の間にはさまれた面積 — は、

$$F(x + \Delta x) - F(x)$$

ですね。

ところが、この面積は、下の左図でおわりのように、 $f(x)$ と Δx を 2 辺とする長方形の

面積より小さくはありませんから、

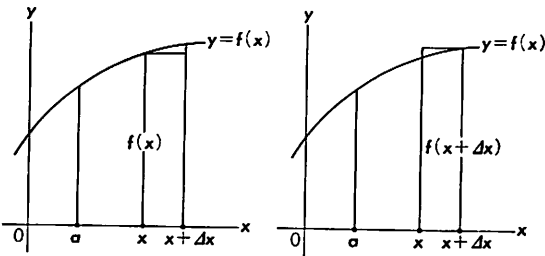
$$F(x) \cdot (\Delta x) \leq F(x + \Delta x) - F(x) \quad \dots\dots(1)$$

です。

同ように、下の右図でおわりのように

$$F(x + \Delta x) - F(x) \leq f(x + \Delta x) \cdot (\Delta x) \quad \dots\dots(2)$$

です。



だから、(1)式と(2)式から

$$f(x) \cdot (\Delta x) \leq F(x + \Delta x) - F(x) \leq f(x + \Delta x) \cdot (\Delta x)$$

が得られます。

$\Delta x > 0$ ですから、この式を Δx で割ると

$$f(x) \leq \frac{F(x + \Delta x) - F(x)}{\Delta x} \leq f(x + \Delta x) \quad \dots\dots(3)$$

になります。

ですから、 Δx がきわめて微小なときのことを考えるには、(3)式の Δx を、どんどん 0 に近づければよいわけです。

そうすると、 $f(x)$ は Δx には関係ありませんから、そのまま $f(x)$ で、真中の $\frac{F(x + \Delta x) - F(x)}{\Delta x}$ は $F'(x)$ — つまり $F(x)$ の微分になり、右側の $f(x + \Delta x)$ は、 Δx が、いくらでも 0 に近づくのですから $f(x)$ になってしまいます。

というわけで、 Δx をどんどん 0 に近づけると、(3)式は

$$f(x) \leq F'(x) \leq f(x)$$

という結果になります。この結果は、

$$F'(x) = f(x)$$

であることを示すものです。

この式の意味は、 a から x までの $f(x)$ の積分 $\int_a^x f(x) dx$ は x の関数だから一応 $F(x)$ とおいてみたところ、この $F(x)$ の正体は、微分したら $f(x)$ になるモノである — という事です。

(ここでは、 x の近くで $f(x)$ が増加している場合を例にとりて説明しましたが、反対に、 x の近くで $f(x)$ が減少している場合でも、不等号が逆向きになるだけで、同じ結論になります。たとえば、

$$f(x) \text{ が } 6 \text{ のときは、} (6x)' = 6 \text{ ですから } \int_a^x 6 dx = 6x$$

$$f(x) \text{ が } 2x \text{ のときは、} (x^2)' = 2x \text{ ですから } \int_a^x 2x dx = x^2$$

$$f(x) \text{ が } 3x^2 \text{ のときは、} (x^3)' = 3x^2 \text{ ですから } \int_a^x 3x^2 dx = x^3$$

などという意味です。

もうすこしくわしく上の式の意味を説明しますと、

$$\int_a^x 6 dx = 6x$$

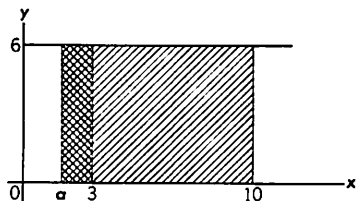
ですから、 $\int_a^3 6 dx = 6 \times 3$ 、 $\int_a^{10} 6 dx = 6 \times 10$ というので、

$$\text{また、} \int_a^x (2x) dx = x^2$$

$$\int_a^x (3x^2) dx = x^3$$

ということは、 $\int_a^3 (3x^2) dx = 3^3$ 、 $\int_a^{10} (3x^2) dx = 10^3$ などということです。

ここで、秒速 6 m の自動車が 3 秒目から 10 秒目まで走った距離を求めた、はじめの例をもういちどふりかえてください。



求める距離は、図のように、3 と 10 ではさまれた面積であって、記号 $\int_3^{10} 6 dx$ であらわす約束でした。

a を任意にきめれば、図から次のことも容易におわかりになると思います。

すなわち

$$\int_3^{10} 6 dx = \int_a^{10} 6 dx - \int_a^3 6 dx$$

これは前述のように

$$= 6 \times 10 - 6 \times 3$$

ですから $= 60 - 18$

$$= 42$$

となります。

ところで、上式のアンダーラインの部分 $6 \times 10 - 6 \times 3$ は、 $6x$ の、 $x = 10$ と $x = 3$ のときの差のことですね。このことを、記号で $[6x]_3^{10}$ と書きます。この記号をつかうと

$$\int_3^{10} 6 dx = [6x]_3^{10}$$

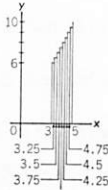
- 3.75秒目から 4 秒目までの0.25秒間7.5%で
 - 4 秒目から4.25秒目までの0.25秒間 8 %で
 - 4.25秒目から 4.5 秒目までの0.25秒間8.5%で
 - 4.5 秒目から4.75秒目までの0.25秒間 9 %で
 - 4.75秒目から 5 秒目までの0.25秒間9.5%で
- 走ったことになるので、

$$6 \times 0.25 + 6.5 \times 0.25 + 7 \times 0.25 + 7.5 \times 0.25 + 8 \times 0.25 + 9 \times 0.25 + 9.5 \times 0.25$$

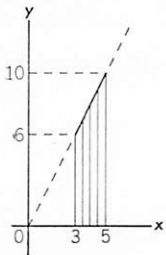
$$= 1.5 + 1.625 + 1.75 + 1.825 + 2 + 2.125 + 2.25 + 2.375$$

$$= 15.5(m)$$

で、右図の影の部分の面積のことで
す。つまり、これが、この場合の積
分です。



以上のことから、本物の積分であ
る $\int_3^5 (2x) dx$ は、次の図の影の部分の
面積のことだということが推察でき
ることと思います。



ですから $\int_3^5 (2x) dx$ の本物の積
分は結局、図の台形の面積にな
りますから

$$\int_3^5 (2x) dx = \frac{2(6+10)}{2}$$

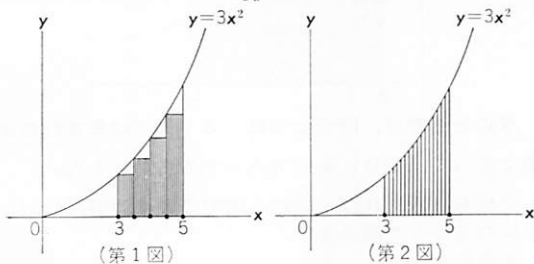
$$= 16(m)$$

です。

同じように考えて、もし、速度 y (%_s) が時間
(秒) の関数で

$$y = 3x^2$$

であるならば、3秒目から5秒目までの2秒間に走っ
た距離 — 積分 — は、 $\int_3^5 (3x^2) dx$ であらわし、やはり



第1図のように、幅が無限に小さい、無数の長方形の
面積のよせあつめ — 和 — の極限と考えますから、
結局、第2図の影の部分の面積になるのです。求め方
はあとで説明しますが、この面積は98なので、正しく
書けば

$$\int_3^5 (3x^2) dx = 98$$

です。

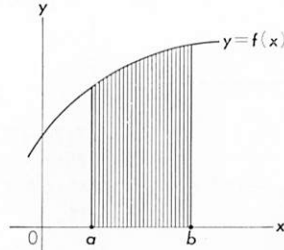
一般的に、 y が x の関数で

$$y = f(x)$$

であるとき、 $x = a$ から $x = b$ までの積分は
(この a と b とかは、何かの数字を仮にあらわした記号)
ですから、どんな数字をあてはめてもかまいません。

$$\int_a^b f(x) dx \quad (\text{インテグラル} \cdot a \text{ から } b \text{ まで} \cdot \text{エフ} \cdot \text{エックス} \cdot \text{ディー} \cdot \text{エックスと読みます})$$

であらわし、グラフでは、図の影の部分の面積を意味
します。

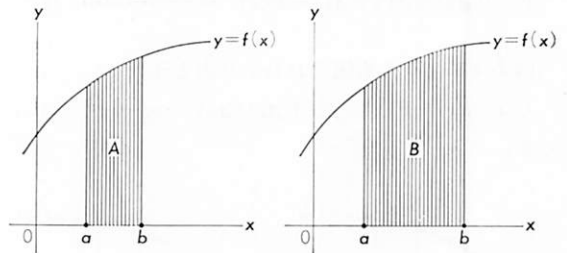


〈定積分〉

さて、関数 $y = f(x)$ を、ある点 a から積分したら
その結果は面積であらわせることがわかりました。

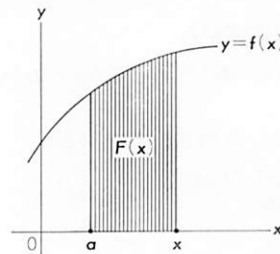
a から b までの積分 $\int_a^b f(x) dx$ は下図の面積 A で、

a から c までの積分 $\int_a^c f(x) dx$ は下図の面積 B です。



a からの積分の結果である面積 A や B は、 a から、
どこまでか — たとえば、 b までとか、 c までとか —
に対応してきまっていますね。

ということは、 a から任意の x までの積分 — つまり
面積 — は、 x のある関数だといえますから、これを
 $F(x)$ と書いてみましょう。



上図で $\int_a^x f(x) dx = F(x)$ とおいたわけです。

x の関数だから $F(x)$ とおいただけで、 $F(x)$ が、どん
な形の関数なのかは、まだ不明です。そこで、これか
ら関数 $F(x)$ の正体を追及しようと思います。

a から x までの積分 $\int_a^x f(x) dx$ は、 x の関数 $F(x)$ でした
から、 x よりも、 Δx だけ大きい $x + \Delta x$ までの積分の
結果である $\int_a^{x+\Delta x} f(x) dx$ は $F(x + \Delta x)$ ということになり
ます。

(この Δ はギリシャ文字のデルタで、「ほんのわずかの」というよ
うな意味です。 Δx はデルタ・エックスと読みます)

のようにつけ加えます。読みかたは、「インテグラル、3から10まで、ワイ・ディー・エックス」です。

そういうわけで、結論だけを、積分の記号であらわせば、 $\int_3^{10} y dx = 42$

というわけです。

また、この場合は $y = 6$ ですから、この式は

$$\int_3^{10} 6 dx = 42$$

と書いてもよいことになります。この $\int_3^{10} 6 dx = 42$ を普通のことばに翻訳すれば、「6を3から10まで積分すれば、42です」ということになります。

それでは、こんどは、はじめから最後まで同じ速度のときでなくて、ときどき速度に変化がある場合のときを考えてみましょう。

自動車が、出発してから10秒目までは6%で走り、10秒目から15秒目までは4%で走り、15秒目以後は8%の速さで走ったとしましょう。この自動車は、出発後の3秒目から21秒目までの18秒間に、何m走ったでしょうか？

3秒目から10秒目までは 6%で7秒間

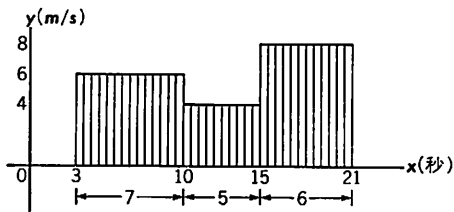
10秒目から15秒目までは 4%で5秒間

15秒目から21秒目までは 8%で6秒間

ですから、3秒目から21秒目までに走った距離は、

$$\begin{aligned} & 6(m) \times 7 + 4(m) \times 5 + 8(m) \times 6 \\ &= 42(m) + 20(m) + 48(m) \\ &= 110(m) \end{aligned}$$

ですね。グラフにしますと、この110mは、図の影の



部分の面積のことで、これは、 y (速度)を、 x (時間)で3から21まで積分したものという約束でしたから、積分の記号で

$$\int_3^{21} y dx = 110$$

と書いてよいわけです。

ところが、こんどは、

x が3から10までは $y = 6$

$x = 10$ から15までは $y = 4$

x が15から21までは $y = 8$

ですから、3つの長方形に分かれて

$$\int_3^{21} y dx = \int_3^{10} 6 dx + \int_{10}^{15} 4 dx + \int_{15}^{21} 8 dx$$

となり、

$$= 42 + 20 + 48$$

$$= 110$$

のように、3つの積分(長方形の面積のこと)の和と考えるとよいことになります。

<関数の積分>

こんどは、速度 y (%)が、時間 x (秒) の、次のような関数になっているとき、出発後3秒目から5秒目

までの2秒間に、自動車が走った距離を考えてみましょう。

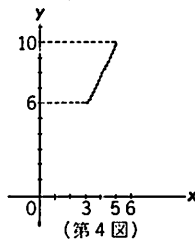
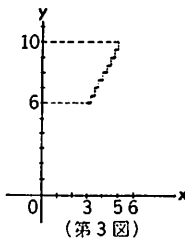
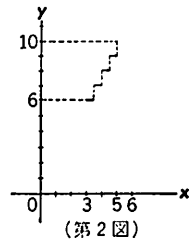
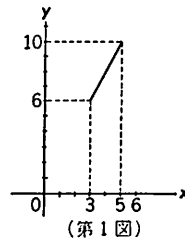
$$y = 2x$$

とします。

式からおわかりのように、時間 x は連続変数ですから、したがって、速度 y (%)も連続に変化します。さきほどの例とはちがって、等速度で走る部分は1ヵ所もありません。

この場合、自動車が走った距離——つまり、積分——は、どう考えればよいでしょう。

時間 x (秒)と速度 y (%)との関係を示すグラフは、下の第1図です。



本当は、等速度の部分は1ヵ所もないのですが、こきざみな等速運動をよせ集めれば、本物とそっくりになると考えるのです。

例えば、第2図は、0.5秒間隔ずつの等速度のよせ集めのグラフで、第3図は、0.25秒間隔ずつのグラフです。第4図は、もっともっと、間隔をこきざみにした等速度の運動のよせ集めたグラフです。

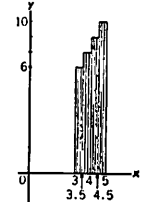
この考えを、いっそうおしすすめて、こきざみ具合をどんどん0に近づけ、全体を「無限に小さい瞬間のつながり——よせ集め」だと考えれば、結局、本物の、 $y = 2x$ に一致することが証明されます。

第2図のような、0.5秒間隔の等速度で自動車が走ったとすれば、3秒目から5秒目までの2秒間の距離は

$$\begin{aligned} & 3 \text{秒目から} 3.5 \text{秒目までの} 0.5 \text{秒間は} 6\% \text{で} \\ & 3.5 \text{秒目から} 4 \text{秒目までの} 0.5 \text{秒間は} 7\% \text{で} \\ & 4 \text{秒目から} 4.5 \text{秒目までの} 0.5 \text{秒間は} 8\% \text{で} \\ & 4.5 \text{秒目から} 5 \text{秒目までの} 0.5 \text{秒間は} 9\% \text{で} \\ & \text{走っているわけですから} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} & 6 \times 0.5 + 7 \times 0.5 + 8 \times 0.5 + 9 \times 0.5 \\ &= 3 + 3.5 + 4 + 4.5 \\ &= 15(m) \end{aligned}$$

で、グラフでは、右の影の部分の面積であらわせます。これは、この場合の積分のことでしたね。



第3図のように、0.25秒間隔の等速度のよせ集めになっているときは、この2秒間に走った距離は、

$$\begin{aligned} & 3 \text{秒目から} 3.25 \text{秒目までの} 0.25 \text{秒間} 6\% \text{で} \\ & 3.25 \text{秒目から} 3.5 \text{秒目までの} 0.25 \text{秒間} 6.5\% \text{で} \\ & 3.5 \text{秒目から} 3.75 \text{秒目までの} 0.25 \text{秒間} 7\% \text{で} \end{aligned}$$

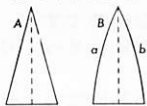
＝科学教養講座＝

中学生にもわかる微分積分(完)

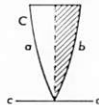
三好要市

積分にはいる前に

今回は積分の説明にはいります。積分というのは微分の逆だとよくいわれていますので、微分が理解できていれば積分もすぐにわかるはずですが、これは曲線で囲まれた面積を計算したりする場合によく応用される実に便利な計算法ですから、ぜひ身につけてください。たとえば下の図Aのような直線で囲まれた三角形ならば(底辺×高さ)割る2という公式で小学生でもかんたんに答が出せますが、図Bのようなものになると、そうはいきません。ところが積分を応用すると、この面積が正確にピタリと出るのですから愉快です。



ただし、この場合は線a、bが関数をあらわす曲線でないとだめで、デタラメな曲線では積分の神通力が発揮できませんから、関数というものがまだよくわからない人は、もう1度本誌13号の講座を読んで勉強し直してください。そしてx軸とy軸とで作られるグラフの性質と、グラフで描かれる関数をあらわす曲線の意味をよく理解してください。フランスの哲学者で数学者でもあったデカルトが考案したといわれるグラフが、いかに重要なものであるかがこれでわかってくるでしょう。上の図Bもよく考えれば、タテの点線はy軸でx軸は底辺とみなせるわけで、曲線aはyのxに対する関数の曲線とみなせます。つまりこの図Bを下図Cのようにサカサにしてみればよいのです。



そうすると下の線分cdがx軸となり、タテの点線はy軸とみなせますから、曲線aはそのグラフで描かれた $y = x^2$ かあるいは $y = x^2$ とかいうような関数となりますので(ただし最初からこのような一定の関数になっているものとします。つまりデタラメな曲線ではないということです)、これを応用して積分でまず右の斜線の部分の面積を出し、それを2倍すれば全体の面積が出せるというわけです。これは積分のほんの初歩にすぎませんが、断面が図Cになるようなロケットの体積をこれをもとにして出せるのです。

積分の記号には \int という記号を用いますが、これは「総和」を意味する英語のSumの頭文字Sを引き伸ばし

て作ったものです。この記号がゴロゴロ出てくる数式を用いて計算できるようになると、自分がエラくなったような気がして、数学の学習にも実がはいられます。(たしかにあなたはそれだけの知識がついてエラくなったのです!)

\int の記号はいかにもむつかしそうに見えますがわかってしまえばナンゲ!というようなかんたんなものです。さあ、それでは積分の勉強を始めましょう。

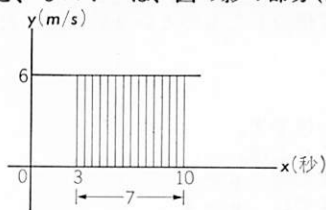
＜定数の積分＞

秒速6mの等速度で走る自動車が、出発後、3秒目から10秒目までの7秒間に走った距離は

$$6(m) \times 7 = 42(m)$$

ですね。このことを、目で見えるようにグラフにしてみましよう。x軸(横軸)を時間(秒)にとり、y軸(縦軸)を速度(m/s)にとります。

すると、 6×7 は、図の影の部分(長方形)の面積



ですから、自動車が走った距離42mは、長方形の面積であらわせることがわかります。

これから、だんだん説明をしてゆきますが、「積分」とは、かんたんに言えば、この面積のことなのです。この場合、速度yを時間xで積分したといい、記号で

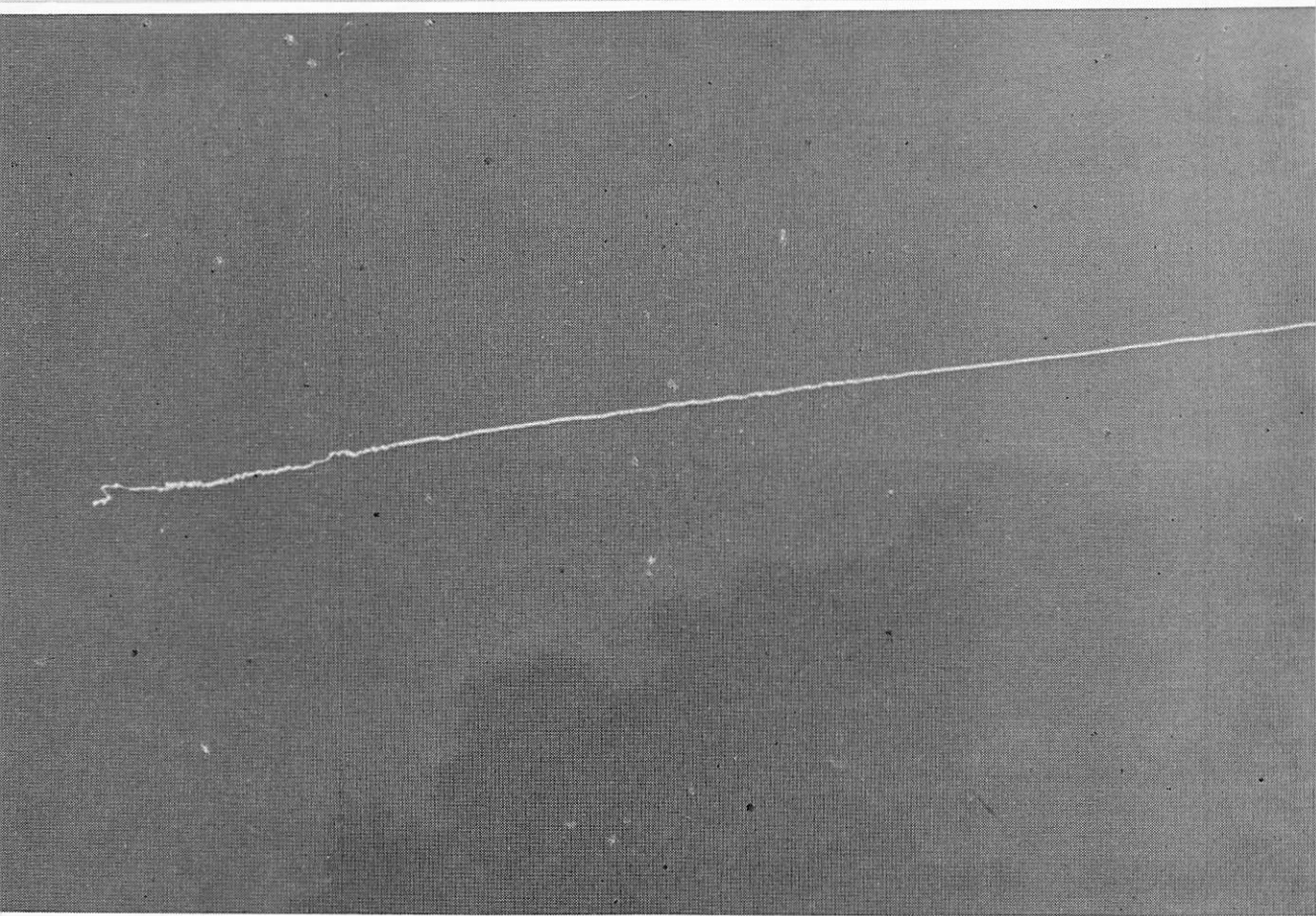
$\int y dx$ と書いて「インテグラル・ワイ・ディー・エックス」と読むことにしています。

しかも、時間は3秒目から10秒目まででしたから、

このことを $\int_3^{10} y dx$ に

菊池市のUFO

中学生が撮影!



●1975年9月24日午後8時、熊本県菊池市の中学生・宮本育明君が1等星より少し大きなオレンジ色（ときどき赤に変わる）UFOを5～6人の友達と発見、見事に撮影した。物体はオビを引いた円形円盤のように見え、北北東から来て、一同のまわりを回るように動き、南東へ飛んだ。同君の報告によるとこの地域には毎日のようにUFOらしき物体が出現し、すでに40～50人の目撃者がいるという。（ベトリFT_{EE}・200mmレンズF4開放・ネオパンS SS・三脚使用）

〈表紙写真説明〉

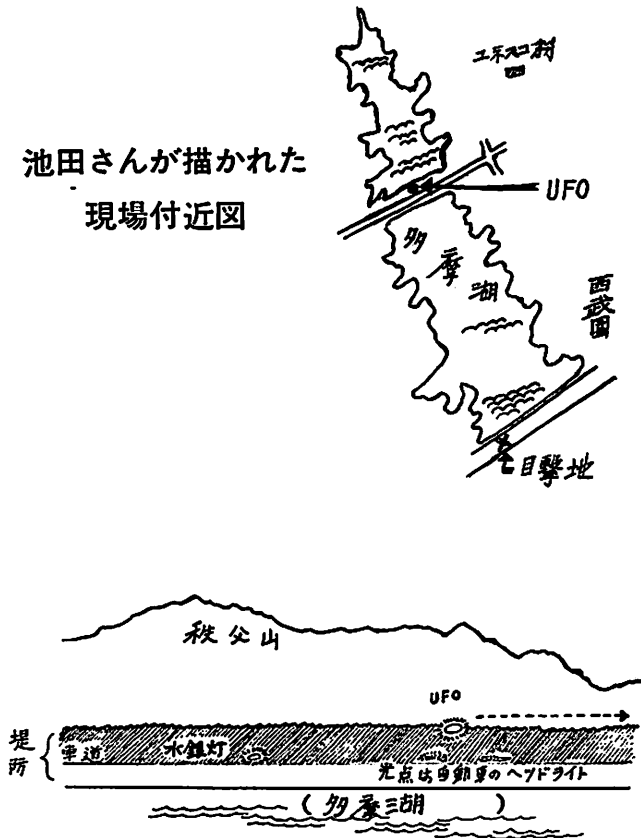
多摩湖畔 の UFO



●1975年9月12日午後6時30分頃、東京中野区の池田雅行さん(26歳・イラストレーター)と東村山市の大学生野沢一郎さん(19歳)東村山市の多摩湖の堤防上よりUFOを目撃、撮影した。物体は多摩湖中央部の堤防上の車道上空約40~50mに停止していた。白色光に輝き、少しピンクを帯びており、直径は4~5mあり、約16~17分間空中に停止した後、右方へ飛び去ったが、スピードを上げるとオレンジ色に変化した。当日の多摩湖には入間基地の自衛隊機が多数見られたが、ヘリ・ジェット・プロペラ機等に使用される航空灯火とは明らかに違っていったという。池田さんは本誌第14号に「円盤をよく見る人」と題して特異な体験談が紹介された人である。

●オリンパスOM-1・ズイコー200mmF4開放・橋のらんかんに固定して露光は1秒・コダカラー)

池田さんが描かれた
現場付近図



宇宙問題探求者必読の書

★★なぜ空飛ぶ円盤は来るのか★★

フレッド・ステックリング/久保田八郎訳
好評発売中! ￥650 円120

宇宙人から伝えられた人間の生き方を詳述
テレパシー ■ 生命の科学

ジョージ・アダムスキー/久保田八郎訳

￥400 円120

￥550 円120

文久書林

東京都文京区白山1-29-12
振替・東京2521 Tel. (813) 2495

UFOs & SPACE

No. 16 January-February, 1976

Price ¥ 390

Published by Universe Publishing Co., Ltd.

© 1976 All rights reserved

Captions for Color Photographs

UFO FLIES OVER LAKE TAMA

Cover

On September 12, at around 6:30 in the evening, an object in pinkish white, apparently a UFO, was witnessed and photographed from an embankment of Lake Tama in the outskirts of Tokyo by Masayuki Ikeda, a young illustrator, and his friend. The object, having a diameter of 4 to 5 meters, rested in the air over the lake at altitudes of about 50 meters and, 16 minutes later or so, flew away turning rightwards. It became orange when it increased the speed, Ikeda says. He also added that it evidently differed from the kind of lights on airplanes, though many planes of the Self-Defense Force from the Iruma Air Base were seen around there on the day.

UFO HALF WAY UP MT. FUJI

Page 2

Kazuya Sato, a high school boy of Ito, Shizuoka Prefecture, went up Mt. Fuji from Gotenba on August 29, 1974, often taking photographs of the scenes around on the way with his small size camera. Back home, he had the film developed and in one of the frames, he found a UFO-like image. This was taken on the path to the sixth uphill station from the fifth at around 3:00 p.m., he says. Sato, after having doubts about the image for a fairly long time, sent the photo to the editor asking to judge if it is a UFO or some other thing.

ORANGE LUMINOUS OBJECT CAUGHT AT MIDNIGHT

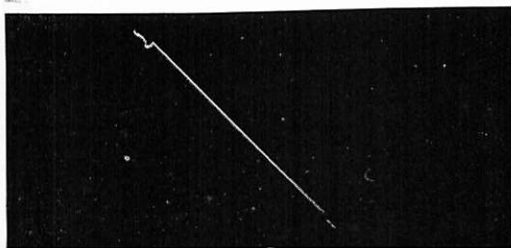
Page 3

Many UFO sightings are reported from the Kofu Basin near Mt. Fuji. One of the eyewitnesses in the area is Katsura Dobashi, 36, an executive of a company of Ryuo-machi, Yamanashi Prefecture. Seeing a luminous object flying on the night of February 2, 1975, he tried to photograph it, but in vain. Next evening, he set his 6 x 7 camera in the garden of his house and waited for the object to come again. Several hours later, he successfully got a luminous object. It rested in the sky for a while emitting reddish-violet light and, a moment later, flew away as quick as lightning, according to him.

UFO WATCHING AN ATHLETIC MEET - ?

Page 4

On October 10, 1974, an annual athletic meet had been held at Nishi-Kokubu Elementary School in Kurume City, Kyushu. A fifteen-year-old schoolboy who lives nearby, Matsuno (first name unknown), came to watch the game and took some photos with his own 16mm pocket camera. Later, he noticed a UFO-like shape at the upper right in one of the several pictures he had taken at the school ground. Did the UFO come to watch the game on the ground?



BLACK SHADOW SOARS UP ABOVE MT. SHOWA-SHINZAN . . . ?

Page 5

During his school excursion to Lake Tohya and its vicinity, a junior high school boy from north-eastern part of Hokkaido, Masuo Kawase, 14, took many pictures of the scenery with his camera. After returning home, he had the film developed and, in one of the pictures, found a curious black shadow appearing as if it is soaring up above Mt. Showa-Shinzan (centering-left). If he remembered rightly, the photo was taken from inside a cable car on a hillside near Lake Tohya at about 3:30 p.m. on June 2, last year.

"FIRE BALL" FLIES OVER HAKODATE

Page 5

At the height of taking astronomical photographs, Akira Koyama, a hair dresser in Hakodate, Hokkaido, came across a "fire ball" flying in the sky from the West and took some snapshots of it with a camera which had been set on his telescope nearby. After about five minutes moving to the East from the West at the speed of two to three times faster than a jet plane, it vanished all of a sudden, he says.

FIGHTER PHANTOM AND UFO

Page 7

It was on October 10, when they had held the Aviation Show at the Hyakuri Air Base of the Air Self-Defense Force in Ogawa-machi, Ibaragi Prefecture. A high school student and also an aviation enthusiast, Osamu Tsugane, came to the base to see the show all the way from Kofu City and took some snapshots, while back home, he had the film developed and found a strange object in one of the photographs he had taken. Since the airplane which appears in the scene is a jet fighter "F4EJ Phantom" demonstrating an anti-ground offense discipline which started at 1:00 p.m., this photo is thought to have been taken at around the same time.

LUMINOUS OBJECT HOVERS OVER IBUSUKI

Page 7

A luminous object which flew over Ibusuki City, Kagoshima Prefecture, was witnessed by a town office clerk of the city, Akira Kamihigashi, 26, at around 6:30 p.m., on October 12. Taking advantage of the opportunity, he set his camera with a 135mm lens on a tripod and shot twenty frames only two of them successfully caught the luminous object. He said that the sombrero-shaped object had hovered in the sky for a while as if it were dancing, and then disappeared into the sky over the Ohsumi Peninsula.



X博士の怪UFO事件

南フランスにおけるUFO目撃事件調査

エーメ・ミシエル

一九六八年一月一日、フランス南部の小さな町でUFO目撃事件がおきた。目撃者は「X博士」である。筆者は同博士とは古い知り合いであり、博士から連絡を受けて事件の詳細な調査を行った。そしてUFOの奇怪な行動、移動速度、大きさなどを計算から割り出した。その結果は――

はじめに

これからお話しする事件は、過去二一年間にフランスのUFO研究者が知っていた事件のうち、もっとも複雑で、また多くの調査がなされたものである。しかし、私は推測できる物理的現象のみをここでとり上げるつもりである――おそらく重要性はいちばん小さいのであるが――。

これ以外の、とり組みの一層困難な側面については、現在まだ分析が進展

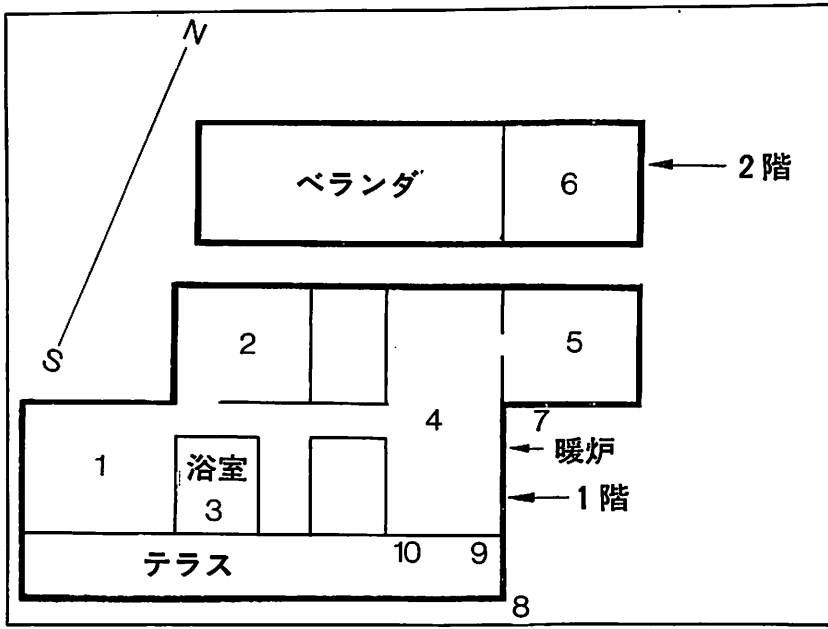
中であるし、その研究者がどれほどの成果を得るかは別としても、今後またとり上げねばならないだろう。

私はまた歴史的・地理的経緯についても除外したい。「X博士」が記述した物体と似かよった物体がいくつも、同じ日と前日の夕刻スペインで、また一月七日にモロッコで、さらに二月九日にベルギーでも目撃されたという調査は興味深い。更に、これらの事件が同じ日の夜、同時刻に発生したに違いないという事実も印象的である。今

回の記事では、これらの共通性について検討はしないつもりである。

目撃者

a X博士はフランス南東部の小さな町で重要な公的地位にあるため、氏名の公表を望んでいない。彼は一九三〇年に生まれ、大学教育のほか生物学の一分野で高度の資格を身につけた。また音楽にも大いなる才能もっている（このことが無意味でないことは後にわかる）。しかし、数学に関する知



● X博士の家の間取り

一九六八年一〇月二九日午後二時頃、X博士は自宅の敷地の切り株をオノで

肉の変調によってピアノを弾くことはほとんどできなくなり、彼はこのことを非常に残念に思った。しかし、結婚し一九六七年六月二七日には一児の父となった。

同時に、右手の筋肉の変調によってピアノを弾くことはほとんどできなくなり、彼はこのことを非常に残念に思った。しかし、結婚し一九六七年六月二七日には一児の父となった。

臍はない。
私は長年X博士を知っており、私の子供時代の友人が会員になっており、クラブで彼と友人になった。彼は感受性が強く思慮深い。また知的な面で活動的であり、同時に内省的な人物である。視力は両眼とも非常によい。
アルジェリア戦争中の一九五八年五

月一三日、彼は地雷に吹きとばされた。二四時間の昏睡状態の中で、X線検査の結果、おそらくは左後頭部骨折による血腫と診断された。また異常感覚を伴う左側局所マヒによって筋肉の状態に交調をきたし、断続的に危篤状態に陥った。そのため、一九五八年一〇月まで病院を転々とした。この間に彼の体重は七〇kgから五〇kgへと減少したが、退院後は徐々に元の体重へと回復、しかし左半身のマヒ状態、極度の疲れやすさなどは残り、右足だけで安定して立つことはできなかった。

彼は妻が眠っているので電灯をつけずそっと起き出し、廊下を横切って一号室から二号室へ行った。そのとき、彼は風がおきそうな気配を感じた。息子はベッドに立ち上がり、ロー、ロー

彼の息子の呼び声（泣き声ではなく、呼び声）で目を覚まし、息子が「ロー、ロー」というような擬態音を発して何もかもが光っていると言おうとしていることを知った。私自身も数日後、その赤ん坊が暖炉の火を示して同じ声を発するのを耳にした。

◆事件はこうして起きた

一月一日の夜半遅く、X博士は彼の息子の呼び声（泣き声ではなく、呼び声）で目を覚まし、息子が「ロー、ロー」というような擬態音を発して何もかもが光っていると言おうとしていることを知った。私自身も数日後、その赤ん坊が暖炉の火を示して同じ声を発するのを耳にした。

と叫びながら非常に興奮して窓を指差していた。
シャッターは堅い材質でできており閉じられていたが、上部と横にスキマがあったので、博士はそこから点滅する光を見た。初めはイナズマかと思った。後に彼は、閃光の間隔がイナズマよりずっと短く、規則的であったことを思い出したが、そのときは足の痛みに気をとられ、また子供をなんとか落ち着かせて寝かしつけようとしていたのでそのことにはまったく注意を払わなかった。

切ろうとして滑り、左足の向こうズネのくるぶしから二三cm上を切り株に打ちつけた。骨折はしなかったが、大きな血腫ができて足がはれあがり、激痛のため失神してしまった。
この事故の夜まで、キズの経過を追ってみることは重要である。化膿どめと抗生物質、鎮静剤による治療によってはれはおさまった。というより、正確にいうと、足首の下の方へ下がっていった。その後、医者の指示で足を伸ばしたまま四日間休んでいた。
一九六八年一〇月三日の水曜日、足ははれ、重く、ひりひりと痛み、そしてだるさ。
一〇月三日木曜日、足は鉛のよう

うだ。立つことはできず痛みが走る。
一月一日金曜日、はれはひきはじめるが、痛みは変わらず続く。ふくらみはぎにけいれん。
一月一日の夜から二日の午前三時五五分まで、変化なし。
b 彼の子供が二人目の目撃者である。興味深いことに、事件当時生後一四カ月であった。奇妙に早熟な赤ん坊で、九カ月と一週間て歩き、最初の歯は六カ月ではなく、三カ月半ではえた。そして、六本が普通より早くはえた。

彼は部屋の電灯をつけながら、外では強い風が吹き、雨が壁やカワラや雨戸を強く打っていることに思いをやっていた。

b 彼は赤ん坊のベッドから空の哺乳ビンをとり、バスルーム(図1の部屋番号3)へ行って水を四〇g入れ息子が飲ませた(息子はすぐに落ちついた)。そして電灯を消し、部屋を出てドアを閉め、風でガタガタと音を立てているドアを見回った方がいいかなとひとりごとを言った。

結局、彼はそこへ行くことにした。電灯をつけて廊下を横切り居間(4)に入ると、そこでは家の中の音がすべて聞こえた。彼は居間の電灯をつけ、カワラがゆるんでいるのではないかと、思って煙突に耳を寄せてみた。音は二階の、居間(5)の上から聞こえていた。

居間からは階段が二階のベランダに通じ、ベランダの一方は第6室で、ここが台所の上になる。博士はゆっくり階段を昇り、第6室に着くと、すぐに戸外の景色を見た。この窓は閉じていたが雨戸は開いており、家の正面に対し水平になっていた。

そこで彼は窓から見渡せる景色の一部が規則的な間隔で光に照らし出されているのを見た。だいたい一秒位の間隔で強力な閃光が三、四回隔てた川の

向こうの谷合いと山を照らし出していた。光の色と強さは満月のそれとほぼ同じであった。

彼はすぐに、その光がイナズマではないことに気づいた。というのは、雷鳴はもう聞こえなかったからである。しかし、相変わらず発光源は見えなかった。彼の印象では閃光は瞬間的ではなく一秒ぐらい続き、閃光と閃光の間は真暗になった。

雨はまだ降り続けている。博士は窓を開け、身をのり出して雨戸をつかみながら、光がどこからくるのか正確につかもうとした。光源は依然として見えなかったが、陰のできかたからみて光は家の背後から西の方に向けられており、位置は非常に高くも、また低くもない様子だった。

博士は雨戸を締め、居間(4)に降り、足に激痛を感じながら台所(5)へ行った。

この時点では彼の注意力もまた好奇心もさして高まっていた。あの光が何なのか知りたいとは思ったがそれよりもとにかく早くベッドに戻り眠りたかった。しかし、台所の南南東向きの窓(7)のところへ行けば、雨戸もないし谷の方を向いているので(6)の部屋からは見えなかった光源が見えるのではないかと思った。

台所に入って彼が最初に見たものは電気時計で、時刻は午前三時五五分を

指していた(このとき彼は初めて時刻を知った)。この時点の彼の行動は、彼の好奇心がまだ高まっていたことを示している。窓際へ行く前に、彼は冷蔵庫を開け、冷やした水をグラス半分ほど飲んでみる。

その窓(7)から眺めても光源はまた家の角(8)に隠れて見えなかった。光源はかなり局地的なもので、それほど距離はなかに遠いかなかった。というのは数km以内の範囲は明るく照らしだされるが、10kmほど先の景観は暗いままなのである。

彼はびっこをひきながら居間(4)に帰った。居間には観音開きのドアが二カ所(9、10)、これらのドアは両方とも締まっており、木製の雨戸も締まっていた。博士は(10)の窓に近づいて大きく開いた。

ここで注意しなければならないのは

◆X博士の目撃報告

またこれらの写真は事件がどんな順序で発生したかを理解する上で役立つ。写真は、一九六八年一月一日から二日にかけての夜半三時五五分にX博士が立っていたその場所から、事件の六日後に撮影したものである。正確に順序を追ってみよう。

X博士は、こうして観音開きのドアを開けた。彼が台所にいるときにまだ

X博士が息子の部屋を出てからの行動がすべて明るい光の中で行われたということがある。彼がテラス側の二重窓を開いたとき、当然屋外からは大きな長方形の光が見えたわけである。

ここで読者の理解のため、この家の正確な位置を説明しよう——この地域の地図は公表できないが——。

X博士は丘の急斜面に住んでいる。南面の下方数十mには広さ数平方kmの小さな平野が広がり、古い農場が点在し、また近隣の町がふもとまでのびてきている。平野の北には小さな尾根が走り、博士の家はこの上に立っている。南側には複雑な地形をした丘のふもとが走り、この丘陵は南南西の方向へ高くなる。西側には彼の家の立つ丘陵が広がっていき、高度を下げて川で区切られている。

写真を見れば概要が把握できよう。

降り続いてきた雨は今はほとんど止んでいた。博士はバジヤマを着て、その下にはメリヤス肌着を着こんでいた。彼の頭部は禿げている。

すぐに彼は右方を見て、そこに写真1のような光景を目撃した。二つの同じかたちをした光る物体があり、右の物体はいくらか小さく、もう一つの物体のやや後部上方にあるように見え



●写真1 X博士が最初に目撃した物体の位置

た。

(a) 写真1の位置における物体

目撃者には二つの物体が葉巻タバコか円型の物体の側面のように見えた。(この時点では彼は二つの仮定のどちらとも決めかねている) 両方とも二枚重ねのような構造で左右は完全に対称であり、上部がいくらか厚いように見えた。

上部の色は、光輝く銀白色だが、満月よりはずっと暗い。下部は深い日没のような赤で、下端より上端の方が明るい。白と赤のいずれの部分にも構造物は見られない。

(b) アンテナ

写真1の時点で、目撃者は四本のアンテナを識別できた(各物体は二本ずつ)。はじめに、物体上部と同じ色、同じ明るさの垂直アンテナが二本あった。見た目の長さは物体上部の厚みと等しく、アンテナの基部は太くなっていた。

別のもう二本のアンテナも同じ色と明るさで、長さも明らかに同じであったが細く、基部も太くはないように見えた。これらは赤い部分の中にシルエットとなって見え、わずかに外へ突き出していた。アンテナの基部は赤と白の両部分の接合位置にあり、二本は平行で先端は目撃者から見てやや左に向いていた。この時点では、横

に突き出ているアンテナはそれぞれ一本しか見えず、ほかにもあったかもしれないが、物体の陰になって見えなかった。

(c) 光線

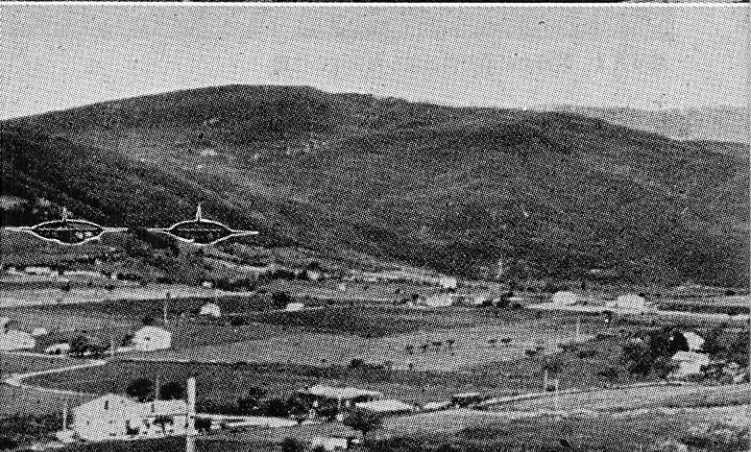
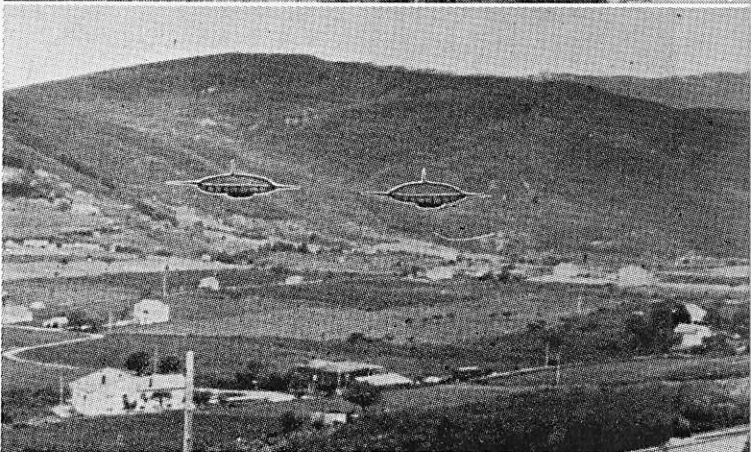
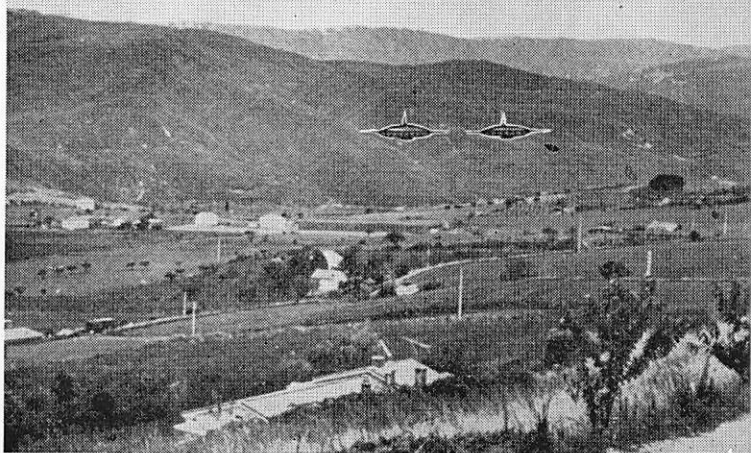
各物体は下部中央から垂直に筒状の白い光束を出していたが、目撃者には通常の光線よりも明るく見え、谷間にたちこめていたモヤを照らし出していた。二本の光線の発光源は確認できなかった。また光線は丘陵の背後、木立の右の尾根向こうに消えていたので光線の先端の様子はわからなかった。

(d) 行動

二つの物体が約一秒と思われる周期で同時に発光した。最初、白い光を発し、目撃者にはその光がアンテナから「入っていった」ように思われた。この発光は短かったが、瞬間的というわけではなかった。

ほぼ同時に——博士にはそう思えたのだが——新たな閃光が二つの物体の間を走り、右手の物体の水平アンテナ先端と左手の物体の見えない部分を結んだ。

目撃者の説明によれば、二つの物体間を走った閃光は外側でおきた閃光に対する「結果反応」ではないかという強い印象を受けた。というのは、二つの発光が呼応するようにおきたからである。彼はまた、外側でおきた発光による照射は全面同時ではなく、中心に



●(上)写真2、(中)写真3、(下)写真4

の「吸入」機能を果たしていることとして四本の水平アンテナは二物体の軌道方向に向かって平行に並んでいることを発見した。

我々は1の位置では光束の先端が見えないことを確認している。この位置に移る直前、突如左側の光束の先端が兵陵の右手遠方に見え始めた。この瞬間、二物体は作戦行動をとって目撃者の視界に現れ、横に同じ大きさとなって並んだため、水平アンテナが左右対称に見えた。

それと同時に、物体の底部に光束の発光源が見えたが、それは物体底部より暗いと同じ色を呈し、突出していた。底部にはやはり何の構造物も見えない。そして発光は相変わらず続いている。

写真2から写真3へ

物体は互いの位置関係を保ちながら左方への移動を続けたが、見た目のサイズははつきりわかるほど大きくなった。左の光束の先端は明瞭に見え、目撃者は地表を移動する光を追った。そして、発光がおきるたびに彼の記憶に焼きついた。

二物体が写真3の位置にくる前、二本の光束は同時に見えるようになった。この瞬間、二物体は新たな作戦配置をとり始め、互いに近づいた。先刻

向けて発光が伝播したようだという印象をもっている。彼はこう言っている。「私の見たところでは二つの物体が大気中の電流を吸入しており、それはアンテナから入って両物体の間で激しく発光し、全体がひとつの光体となっているようだった」。

外側でおきた閃光と両物体の間でおきた閃光はいずれも白く、明滅はせず、そして何の音も発しなかった。彼らはアンテナを真っすぐにいくらか伸ばしたが、わずかに震えたものの横には広げなかった。それらの明るさは、

垂直に下に向けられた光束と同じであった。

(e) 移動

目撃の初めに、二つの物体は一体となって右の方へ、と同時にいくらか目撃者の方向へ近づくように移動していた。これについては、この事件の調査によって実際の正確な速度、軌道が判明している。

写真1から写真2

二物体は同一方向、明らかに同速度で移動を続けた。それから二つの物体

相互の位置関係は変化してゆき、右手の物体が徐々に仲間の物体より前方に出ていった。この移動によっておそらくはじめはバースベクトタイプの差によるものだろうが、両物体の位置関係が変わり、二つ目の物体の水平アンテナが一番目のものと同じ形状で見えてきた。それから二つの物体は両側から水平アンテナを突き出して、同軸上で回転して位置を変えた。このときになって目撃者は、外側の水平アンテナが発光によって各発光サイクルの後半の閃光支援を行い、内部アンテナと同様



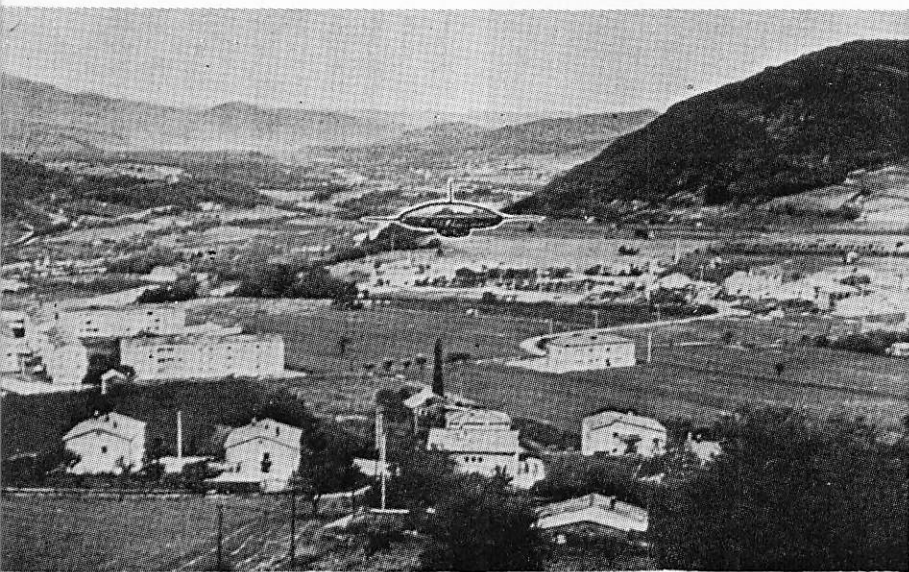
●写真5 2つの物体が合体を始めた。

両者間の距離は広がったにもかかわらず、二本の光束の先端は相互に近づき始めた。両者が接近する間も、左へ移

動し、発光を続けていた。物体は著しく大きくなったが、X博士は依然として何の構造物も見なかった。

(1)の位置では物体は博士のところより下方に見えたが、(2)

じ高さに見えるようになった。写真3から写真4へ
物体は相変わらず左方への移動、サイズの増大、相互接近を同時に続けていた。X博士は地表をほう光束の先端を目で追いながら、物体が大きくなったいくのは博士の方に近づいているた



●写真6 この位置で物体は一つになった。

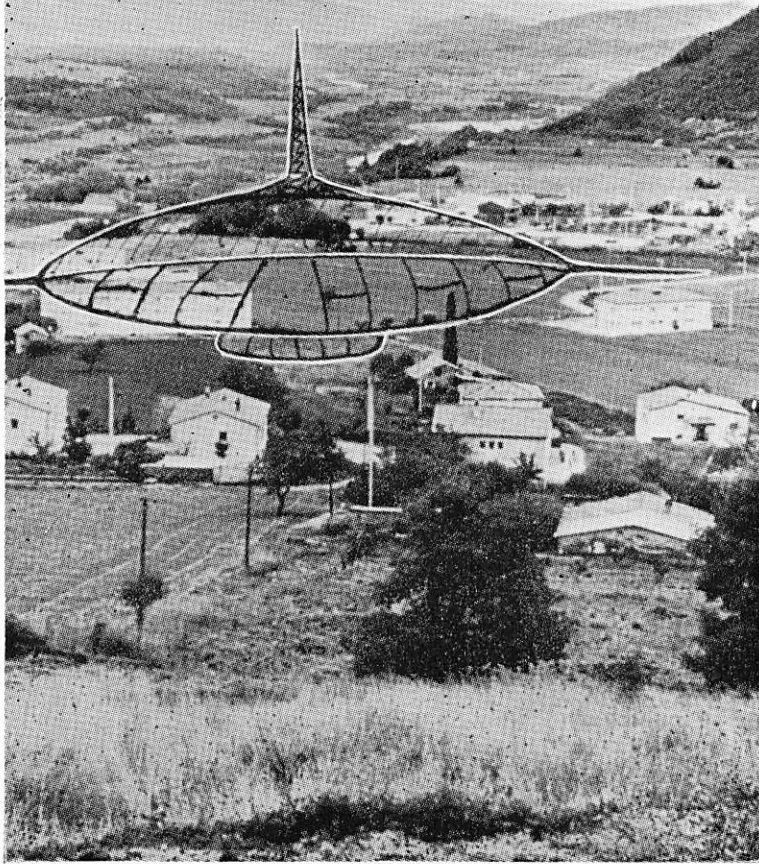
めだということに気づいた。発光は続いてきたが、相互間の発光は徐々に短くなっていった。写真4では、内側アンテナが接触しそうになっている。
このとき、目撃者は光束の先端が互いに接近し、重なり、そしてひとつになってしまふのを観察した。その直後か、ないしはそれと時を同じくして内側のアンテナは接触し、その瞬間、すべての発光は止まった。物体はまだ輝いてはいたが、あたりはふたたび暗闇となった。

写真4から写真5へ

二つの物体はさらに互いに接近を続けた。内側アンテナは重なり合い、両方の物体が接触した途端にアンテナはこつぜんと消え失せてしまった。接触すると、今度は連続的に変形して両物体が重なり、合体しながら、なおかつ左方への移動を続け、光束は先端をますます左へ向け、軌道方向を斜めに照射して目撃者に接近、物体は(写真5以降)平地上空で一層大きくなった。

写真6

今や物体は完全に合体し、合体前とある一点を除いては見分けがつかなくなった。その一点というのは、X博士が物体の合体時に初めて見たもので、赤色の下側部分に「何かが動いていた」というのである。同時に物体は左



●写真7 合体した物体はX博士に近づいて停止した。

方への移動を止めて目撃者に近づいてきた。そして急速に大きくなり、光束は平地を真っすぐ突っ切って目撃者の家の方向に向けられた。赤色部分の作動構造物は一層明瞭に見えるようになり、物体は巨大な大きさとなった。

写真7

物体と光束は静止した。光束は左側の家、一軒目と二軒目の屋根の間を丸

く照らし出した。物体のスケッチは目撃者が描いたものだが、彼はその位置が実際より左遠方、それも下方になりすぎたと考えている（ここで忘れてならないのは、写真4以後、景色は暗闇のため見えていないということだ）。

光束の周囲の家々と木々は光束と物体が発する光にぼんやり照らし出された。X博士が見ていると、物体は左の家の屋根の近く、そして小窓が三つあ

る家のすぐ下に移ってきた。

その物体

物体が静止すると、上下二つの部分の接合線の延長上に側方アンテナが見えたが、それは「焼き串にさしたニワトリ」のような格好であった。しかし目撃者の印象では、赤色の下部は突出しており、白色の上部は色・明るさとも何の変哲もなかった。上部アンテナは単に上方に伸びているだけであっ

た。筒状の光束を発している装置は環状のコロナのような外観で、X博士は黒色の線に接している六つのセクションを数え上げることができた。これらのセクションはパースペクティブのため歪んで中央部が広く両端はせまく見え

た。しかし、もっとも印象的な性状を示したのは赤色の下半分であった。ここもまたいくつかの「部分」に分かれていたが、遠近法の影響を受けていた。視野に入った一セクションの先端から下端にかけて暗い横線が約四秒かけて走った。それはちょうどTV調整中に画面を横切る線に似ていた。周期的に流れる線は、その周囲の色を非常に暗くしたような色合いで辺縁部はぼやけていた。目撃者には五本の線の動き

にどんな相互関係があるのかわからなかった。ただ彼には一本が下端に達して消えると別の一本が上端から現れるように思われた。物体の赤色部分は白熱した金属か、あるいは発光しているように見えた。

これらの動きの説明はすべて遠近法に影響されていると思われるが、タテに走る縞模様は中心寄りが幅広になっていた。

スポットライト

赤色部の動きはしばらく続いたが、どのくらいか時間だったか目撃者は覚えていない。彼は横線の動きにすっかり気をとられていたのだ（後段で私の質問に対する彼の答に触れる）。さて、物体はしばらく微動だにしなければが光束の先端（スポットライト）が彼の方に向いてはじめはゆっくりと数m動き、電信柱を一本一本照らし出し、そして電信柱のつべんに届いた。この光の動きは、物体が近くに移動してきただけではなく、二本の水平アンテナが形成する軸線上を物体が回転したため、物体の上部が谷側に向き、腹部が一層見えるようになった。

そのとき、突如として驚くべき方法で回転スピードが上がり、博士は光束を全身に受けた。家の正面全体も照らし出されたようであった。回転動作に要した時間は短く、おそらく一秒前後

だった。しかし、その間に目撃者は物
体腹部を充分観測する余裕があった。
それは円形で放射状に分割されてい
た。その際にも横線が走っていたかど
うか目撃者は記憶していない。

消滅

物体が腹部を見せた瞬間、目撃全体
を通じて初めて「パン」というような
音がし、目撃者によれば「物体は非物
質化し、何もあとに残さず、ただ雲

◆UFOはキズを治した!

谷間に暗闇が戻り、目撃者は精神的
ショックを受けていた。震えながら室
内に戻ると、さっきの時計を見た。時
刻は午前四時五分であった。彼が台所
に来てから一〇分経っていた。彼はノ
ートをとり出し、目撃したことの詳細
とスケッチを書いた。それから妻を起
こして今見たことを話した。二人とも
ひどく興奮した。突然X夫人が叫ん
だ。「あなたの足が……」

X博士は興奮して喋りながら前へ後
ろへと歩いたが、もはやびっこはひい
ておらず、足の負傷のことはすっかり
忘れていた。彼は仰天してバジヤマの
スソをたくし上げた。するとキズは治
り、はれはひいて痛みもなくなってい
た。そして再び悪化することはない。
五日後に我々が最初に訪れたと

のような白っぽい、もやもやした形を
残し、それもたちまち拡散して風で東
方に運び去られてしまった。

そのとき、つまり「パン」という音
がして物体が消滅すると同時に、今ま
で物体が占拠していたあたりの空中か
らキラキラした細く白い直線状の糸く
ずが何分の一秒か空中に吹き出し、そ
して地上数百mのところまで白く輝く小
さな点となったかと思うと、花火のよ
うな音とともに消滅した。

き、彼の治癒したキズに手を当ててみ
たが、それは古キズのように無感覚に
なっていた。医者はその事件の直前ま
ではキズがあったことを証言してい
るにもかかわらず――。

二月二日の彼の眠り

X博士夫妻は約三〇分間、事件につ
いて話し合い、それからベッドに戻っ
た。一〇分後、彼はふたたび眠りにつ
き、寝言に彼の人生で経験していない
ことを何やら喋り始めた。夫人はしば
らく耳を傾けていたが、その内容が彼
の見た現象と関係あることに気づき、
電灯をつけてノートをとった。とりわ
け、彼女は次のことばを書きとった。
「一月二日、階段を駆け落ちるとふ
たたびコンタクトが行われよう」。午

前七時頃、博士は話すことをやめ、夫
人は消灯して眠りについた。

彼女は午前〇時頃に再度目を覚ま
し、夫がまだ眠っているのを見て、彼
を起こさずにベッドから起きた。彼は
午後二時まで眠り続け、やっと起き出
したとき、夫人は彼に大丈夫かと聞いて
みた。彼は「気分は上々だよ」と答
えた。

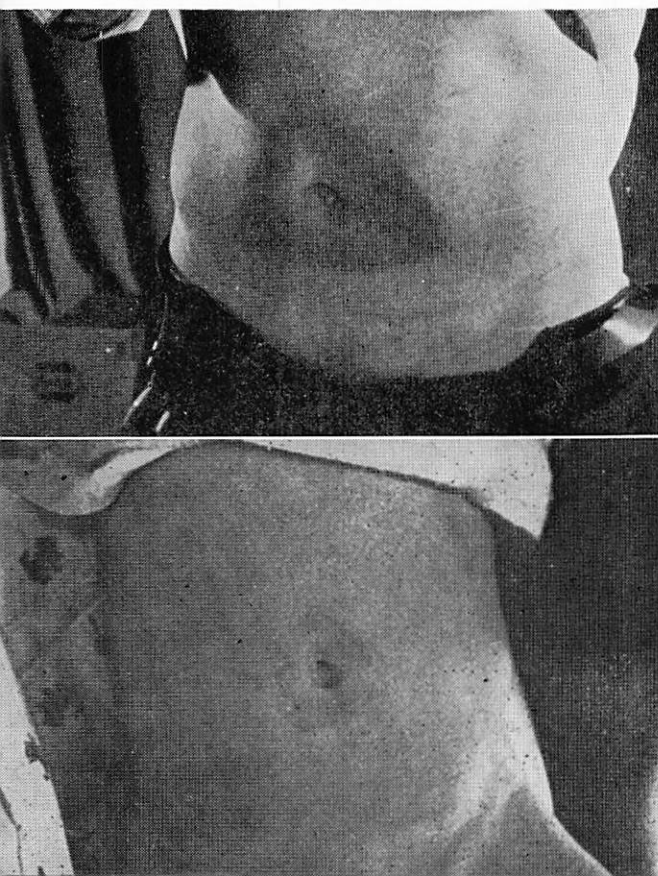
「あなた、ミシエルに手紙を書いて会
いに来てくれるように頼みなさいよ」と
と彼女は言った。彼は、夫人がエーメ
・ミシエル（筆者）のことではなく別
のミシエルという男のことを言ってい
るかのような返事をした。夫人は困惑
して、彼が見たことをエーメ・ミシエ

ルに話すべきだといった。しかし、彼
は夫人のいう意味がわからなかった。

彼は何も覚えていないのだ。そこで彼
女は夫が自分で書いたノートやスケッ
チを見せた。彼は不安気にそれらを見
て、どうしてこんな異常なことを思い
出せないのかいぶかった。彼女もまた
不安な気持ちになっていたためそれ以上
は言わず、彼が寝言で喋ったことも彼
に黙っていた。

その日の午後、X博士は居間の階段
で原因不明の転落をした。「足がひっ
かかったような気がした」と彼は言っ
ている。そして頭を打ちつけ、その途
端に前後夜起きたことをすべて思い出し
た。

●X博士(上)と彼の息子(下)の腹部に斑紋が……



三角形の斑紋

その日以降何日かの間に、博士は過去一〇年間交わらずに残っていたアルジェリア戦争の負傷後遺症が、信じがたいことだが、すべて消え失せてしまったように感じている。しかし、一月二日の出来事による精神的ショックと疲労が大きく、彼は健康状態が悪くなって傷の消滅が信じがたかったが、それは事実らしいのであった。一月八日に私が訪ねたとき、彼は瘦せて顔はひきまつっていた。

同じ日、けいれんと痛みがヘソのあたりにあらわれた。それ以後何週間もその状態は強まったり弱まったりしながら続いた。一月一七日の夜、今度（ヘソの周囲の）あちこちに痒みとちくちくする痛みを感じ始め、それから皮膚に赤い斑紋が現れた。

一八日の正午までにこの斑紋は輪かくのはっきりした二等辺三角形となった。底辺は二四〜一五㎢、他の二辺は一七㎢であった。それと同時に、痒みと痛みは突然、完全に消えた。博士と夫人はこのような症状が非常に心配になり、私に電話をかけてきた。これまでのUFO学の歴史上このような三角形は知られていないが、私は数度の報告のある発光事例を思い出して、彼に医学的検査を受けるようすすめた。その日のうちに検査は行われ、この記事

を実証する写真が撮られた。

検査結果は否定的で、皮膚学者はこの現象について何も知り得なかったが非常に驚き、学界と連絡をとりたいたと考えた。X博士はそのように公けにすることを望まず、何とかこれを思いとどまらせ、そして私に結果を知らせてきた。私はイチかバチかで彼に心理的要因の説明を試みた。彼は事実、一月三日から一四日にかけての夜、非常に奇妙な夢を見ており、その中で三角形の物体が一月二日の物体と関連のある役割を果たしていた。私は彼にこう言った。「確かにあなたの不安がこのような形となつてあなたの身体に跡を残し、何らかの理由でこの数日痛みを感じたのです。こういう斑紋はよくあることで、研究もされています。彼は神経質で不安な状態になっていた

◆調査の方法は…

夫人にせかされたX博士は一月五日、私に手紙を書いた。私はすぐに彼に会いに行くという返事を出した。また一五年來私を助けてくれているバリのある物理学者に連絡して、一月八日にX博士の家に行くよう手配した。その日、博士は我々にこの話をしてくれたのだ。物理学者はここに掲載した写真を撮影した。また博士は我々の質問に答えて次のような話をしてくれ

ので私のことばを受け入れたが私自身はまったくそうは思っていないかった。

しかし、翌日彼は私に電話をよこしてこう言った。「あれは心理的要因ではないと思いますよ。昨夜、息子の腹にも同じような三角形が現れたのです。私のとそっくりで位置もまったく同じです。しかし息子はまるで気にしていないので痛みはないようですが。この事件についてはまだ続くのだからここで中断しよう。というのは、これまで読者にいつてきたように、目撃者を明らかにしないため残念ながらこの物語全部を公表できないのだ。

私がX博士の友人でなかつたらこの事件が明るみに出るとは決してなかつたであろう。私は彼の友人であるが、それでもなお部分的にしか公表できない。

た。

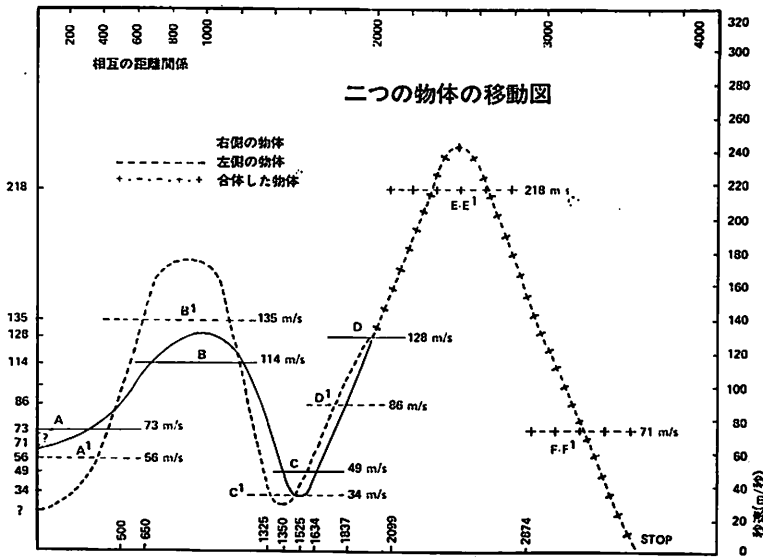
写真1から写真7までの経過中、彼は最初は驚き、次に当惑し、そして物体が彼の方に向かってきたとき恐怖を感じた。「私は、もし物体が停止しなかつたら屋根にぶつかるだろうという気がしました」。しかし、この時、彼はまだ自制を働かせていた。

物体が停止してから状況は変わってきた。巨大な大きさが印象強かつたばかりでなく、赤い部分を走る横線の動きが彼を一種魅了した。彼は何度か叫んで妻を呼ぼうとし、また走って行ってシネ・カメラとスチール・カメラをとって来ようとした。しかし彼はやめた。彼がいけない間に何か起きるかもしれないし、また自分でもよくわからない理由があつたようだ。

我々はX博士が出来事の顛末を細部まで正確に、とくに時間関係をよく記憶していたことに満足した。そこで、二月月の間隔をおいて二度にわたり違つたやり方で彼に話をさせ、書きとつた。一九六八年一月八日以来、我々はしばしば連絡し合い、私はその後数カ月間に起きた経過―物理的、心理的、心霊的現象―を追跡した。

一九六九年三月、私は事件に関するほぼ完全な記録を終えて、モードン研究所の天文学者グループにこの話をした。彼らは多くの有用な助言を私に与えてくれた。私はまたバリにいる大ぜいの心理学者、生物学者に相談をした。ポルドーからはフランスでも有名な催眠術の大家がやってきて、X博士の町に二日間滞在し、三度にわたつてX博士を深い催眠状態に落とし、彼の指先に針を突き刺して話をした。これらの実験結果の結論はまだ出ていないが、テープレコーダーにすべて記録されている。

最後に、X博士の匿名希望を尊重し



注：图中、秒速(m/S)はAからFまでの各地点間の平均速度、曲線は物体の移動コースである。UFOは瞬間的に加速・減速ができるにしても、曲線の連続性が事実と一致するかどうかは確かでない。ただ次のことはいえる。(1)目撃者が最初の光束端を見た途端に両物体は加速した。(2)彼が二つの光束端を見ると、今度は減速した。(3)それから両物体は加速し合体した。(4)合体した物体は加速を続け、家の真正面まで来て停止した。(5)物体の実際の動きは複雑である。この図は目撃者の説明から作成したものの。

計測、評価、計算

て、私はフランスとイギリスにおいて調査の物理的現象面のみに関する記事を発表する決意をした。X博士も、私の調査協力者も、そして私も、この記事の発表によってUFO研究者が元気づけられ、同種の事件を調査してFSR(英誌フライング・ソーサー・レビュー)の編集者に送ることを希望するものだ。分類と比較という方法によって自然史研究に大きな進歩がもたらされると我々は考えているのである。

注意深い読者はお気づきと思うが、UFO研究においてはまれな幸運に恵まれ、X博士の見聞によって物体の寸法から動きに至るかなり正確な判断ができる。

物体は直径65m
左側の家の屋根の端から右側の家の端までは六四mである。物体の長さは水平アンテナを除いて約六五mである。

る。

垂直アンテナを除いた物体の厚みは目撃者が長さの四分の一といるところから、約一六mである。

光束端の大きさは写真7における地表面の測定によると直径一七m。

アンテナ長は目撃者の意見によれば水平垂直とも物体の厚みとはほぼ等しい。

目撃者から停止位置までの距離 (写真7)

光束端の中心から家のテラスまでは二四〇m。物体はテラスと同じ高さであった。したがって物体中心からテラスまでも二四〇mで、斜面の傾斜度は二度、したがって $240 \times 0.97 = 232$ mとなる。物体が円形であったとすると、目撃者から物体手前までは約二〇〇mとなる。

この測定と計算をする前に、私は博士に物差しを手にもち物体が停止したときの長さを測るように頼んだ。彼はその通りにやり、物差しで一五二mmを指して私に見せた。そして私が物差しから彼の目までの間隔を測ると六七〇mmであった。

これらの測定をもとに計算すると、まず最初のチェックが可能である。一五二mmを物体の直径としてタンジェント計算をすると、X博士が腕をのびしたときに見たはずの物体の直径rは、

$$\frac{d}{67} = \frac{64}{232}, \quad d = 184(\text{mm})$$

となり、かなり近似値である。しかし見た目の直径よりは小さいし、目撃者の説明はいくらか食い違っている。

また、物体をあらゆる角度から計算してみると興味深い。

目測と計算による直径の比較

写真3において、目撃者から二本の光束端までの距離はわずか一、六二五mである。地図を見ると配置がはっきりする。右手の物体が接近して左の物体と同じ距離に来る。これは目で見ても風景の中でははっきりわからぬ。右手の光束端の方が遠く見える。しかしこの場合は違う。博士は見た目の直径を一七四mmとっている。計算による直径は一七四mmではなく、

$$\frac{d}{670} = \frac{64}{1625}, \quad \text{ゆえに } d = 25(\text{mm})$$

となる。

ここでもまた目測値が下回った。目測値と計算値の関係は写真7では一・二一、写真三では一・四七である。

写真4では直径の目測値は二二四である。実際の距離は一五〇〇mmなので直径rを計算すると、

$$\frac{d}{670} = \frac{64}{1500}, \quad \text{つまり } d = 28(22\text{ではなく})$$

$$28 = 1.27\text{となる。}$$

写真5では距離は一、四二五mであり目測直径は二四四mmなので同様に計

算すると、

$$\frac{d}{67} = \frac{64}{875}, \quad \text{つまり } d = 30, \text{ 比較 } 1.26$$

ここで気づくことは、この現象の初めからずっと目測値が常に小さくとうことである。

これは写真6についても同様で、実測値八七五mに対し目測直径は三三mm、したがって計算すると、

$$\frac{d}{67} = \frac{64}{875}, \quad d \text{ は } 49\text{mm}, \text{ 比較は } \frac{49}{32} = 1.5$$

これらの計算で大変興味深いことに

表 1				
写真	3から4	4から5	5から6	6から7
右側の物体	287m ± 10 49m/秒	462m ± 10 128m/秒	675m ± 10 218m/秒	712m ± 10 71m/秒
左側の物体	200m ± 10 34m/秒	312m ± 10 86m/秒		

表 2				
写真	1から2	2から3		
右側の物体	650m 73m/秒	700m 114m/秒		
左側の物体	500m 56m/秒	825m 135m/秒		

ごとく一・五〇から一・二〇の間で小さく目測されているのである。これを実験的に確かめる方法がある。一冊の本を距離を変えて二二m、二〇m、一七m、一五mの位置から見ると、それぞれ目測で長さを測るのである。すると変化がごくわずかであることに気づくはずである。このことから、物体の移動についての説明に関する限り、首尾一貫しているといえるのである。

物体の移動速度計算

X博士は前述のように音楽の才能が豊かなので、私は彼の時間感覚が確かかどうかを知ったうえで物体の移動速度を計算しようと思った。すでに写真3から写真7で各位置の距離は正確にわかっているのである。

このために種々の心理実験で時間記録をとった。例えば、事前に知らせずに、椅子に坐っているX博士に目を閉じさせ、彼が息子の呼び声を最初に聞いたときから、初めてテラスで物体を見たときまでの時間に相当するだけ冥想させた。その時間をストップウォッチで計ると四分九秒であった。

次に、今度は彼に同じことを実際に行動しながらやってもらった。その結果は四分一七秒で誤差は八秒、三%であった。

私は同様にして写真1から写真2、写真2から写真3までの経過時間を一

〇分の一秒単位で数度測定した。そしてそれぞれについて一〇分の何秒かの誤差しかないことを見つけた。こうして最終的に非常に事実と近い数値を得たのである。測定結果は次の通りである。

写真1から2まで 〇八・九秒

〃 〃 2から3まで 〇六・一秒

〃 〃 3から4まで 〇五・八秒

〃 〃 4から5まで 〇三・六秒

〃 〃 5から6まで 〇三・一秒

〃 〃 6から7まで 〇九・九秒

写真1および2における物体の位置については直接はわからない(しかし後述する方法で推定することはできる)。

他方、写真3、4、5、6、7については位置がわかっている。それによって第1表のような距離と平均速度を得ることができる。

表中、最初の目撃時(写真1および2)の距離と速度は欠けている。しかし、目撃者は写真2における物体の目測直径を一六mm、また写真1における左手の物体の直径を一mmとっている。もし、写真3、4、5、6、7における彼の推定値に従って平均一・三という縮小効果を受け入れるとすると、写真1における実際の距離は、二、〇〇〇m、写真2では二、一四〇m、誤差を見込むともう少し遠いかも

これらをもとにして表2が作成できる。この表と表1を合わせると七地点全体の速度がわかる。

これは別に物体の移動図を作成する必要がある。つまり二つの物体の実際の動きを追うものである。(図2)

物体は目撃者に向かって…

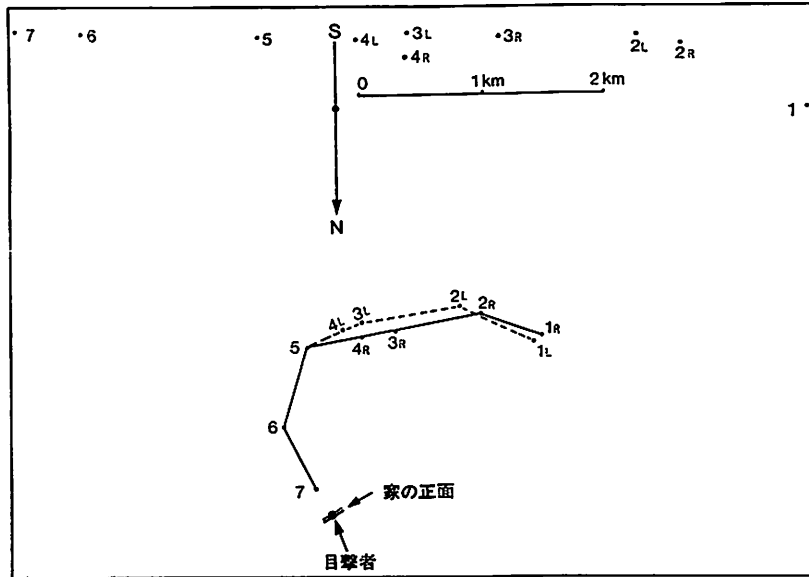
速度表と移動図を比較してみると、不可解な物体の飛行行動の意味が理解できる。これは目撃後数ヶ月経ってあらゆる測定、計算が終わるまで判明しなかったことである。もう一度、物体の移動と位置についての目撃者の説明に立ち戻って、図上でその跡を追ってみよう。

位置1では、二つの物体は左方に移動している。1Rはやや右にあって1Lの後ろに位置している。この時に目撃者がテラスに出てきたのである。

位置1と2の間で物体は最初の変化隊形を見せ、目撃者から等距離となり、彼は側方アンテナを同じような位置に見た。

位置2では左手の光末端が視界に入り、同時に次の隊形に移り始める。両物体は平行に左に移動を始める。

しかし、ここで左の物体は急に加速し、それも、やはり加速した右の物体に追いつくためだけでなく、ちょうど両物体が目撃者から絶えず等距離になるような方法で進行する。



さらに、この瞬間から図中の5で合体するまでに右の物体は直線コースをとる(地上や目撃者の位置からでは見分けがつかないが)。2から3までの平行移動も視覚的には見分けがつかない。

位置3では二つの光束端が目撃者から見えるようになる。すぐに物体はコースを変え、右の物体の進行方向に接近する。このコース変更も目撃者からは見えない。これは3から5の合体まで続く。

位置4で、目撃者は両物体が引き合ひ、同時に光束の先端が近づいて重なることに気づく。この行動とともに右手の物体は6の位置まで加速するが、これも計算によって判明したことである。両物体が合体した後のスピードは、右手の物体の軌跡とスピードから判断できる。というのは、合体後も、右の物体の加速がそのまま続いたからである。

むすび

位置5で、一個となつた物体はコースを変えるが6の位置まで加速を続ける。

位置6で物体は目撃者の家の正面に直角に進んでくる。そして、この最後のコース変更と同時に急減速を行い目撃者の方へまっすぐ近づいてくる。

これらの事実は計算によって判明したものであるため、目撃者には見分けがつかなかったし、また目撃者の推定とは誤差があるが、複雑な相互一貫性をもっている。それにしてもX博士の記憶との誤差は僅かなものである。この事件と同じような十分な調査をもう二〇例も行ったなら、UFOに関してこれまでの何百件もの調査結果以上に多くを知ることができよう。この一貫性という点が多くの場合、等閑視されているのである。

この場合、目撃の初めから、すべての動きがX博士と関連して行われたかのように推移している。

- 1 位置2から、物体は直線的な動きをしながらも、まったく停止することなく彼の方に向かってくる。
- 2 彼から等距離を保っている。
- 3 彼の家の真向かいにくるまで合体状態で加速を続け、その位置から彼に向かってくる。
- 4 非常に興味深いのは、目撃者が光束の先端を見ている時の物体の動きで、彼が光束のひとつを見た途端に右手の物体が合体位置に向かって直線コースをとり、左の物体はそれと平行して進んだ。また、彼が両方の光束を見た途端に両方は接近を始め、九・四秒後に合体した。

残念ながら、この分析によっても、子供が最初に泣いた時点から博士がテ

ラスに現れるまでの両物体の行動については何もわからない。前述のようにその間四分以上経過している。子供の腹部の三角形はどこからやってきたのだろうか。

このレポートを書いている時点(一九六九年五月三〇日)で、X博士のアルジェリア戦争における負傷後遺傷はすでに治っている。

最後に付け加えておくと、一九六八年二月九日付のフランスの新聞フランス・ソワールにはロイター電として次のような記事がのっている。

「一八日・水曜日、ベルーのリマ発。円盤の発した光線を受け九・ベルーの税関吏の近視眼とリニューマチが治った。彼は水曜日自宅のテラスで円盤を目撃し、紫色の光線を顔面に受けたが、以来、厚い眼鏡をかけていた彼の近視眼とリニューマチは治癒した」

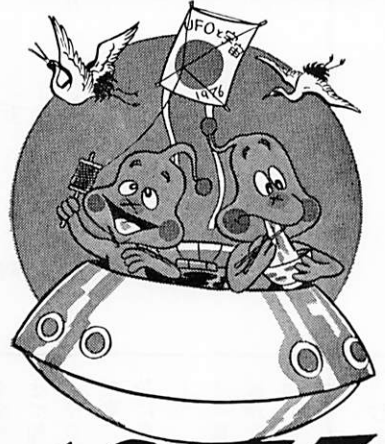
リマ在住のAPRO通信員エルマニョ・マニエロはこの事件に関して次のような手紙をくれたが、奇妙にX博士の事件と似ている。

「事件は一九六八年二月九日午前三時に起きた。その物体は暗い赤と紫色に変わる光線を放射し、距離は目撃者から二、三kmであった。彼は恐怖で動くことができなくなり、二、三分間エクスタシーの状態にあった」。

OPINIONS

声

投稿歓迎！ 編集部「声」係宛
匿名可（但し、住所・本名明記のこと）



1976

●阪上清久(画) 茨城県土浦市

「UFOと宇宙」14号の増野一郎さんの記事に深く感銘いたしました。彼はどうしてこのようなすばらしい内容の文を書く知識があるのだろうかとびっくりしました。それは貴社の編集体制の良さのあらわれとも思えます。いろいろな種類の雑誌が店頭にはんぱしてありますが、その内容たるや広く浅くメチャクチャで何を主張しているのだろうと言うようなものが多いためです。「UFOと宇宙」は実に専門的に深く追求し高度な雑誌だと思われ、それ故におそらく読者の大半を占めるであろう中・高校生諸君には理解しがたい点もあると思われ、利益ばかりを追求する商業雑誌のように読者にコピを売ることなく常に高度な内容にあることは実に理にかなったと思えます。科学的専門的分野の専門は理解がたいと思うが、この本を読むものはこまごまと「上つて来い」というその姿勢は実に理にかなった。そして、実際にそうあるべきです。私は「UFOと宇宙」を読むたびに科学的知識や情報を得られることをとてましたし、今、専門の学問を得られるのは「UFOと宇宙」に知識をみいかにして、それに世界各々と取材した知識たるやその努力は実に大変なことと思ふに、常に世界に目を向けているこの態度は他の雑誌に類をみいかにして、それに「UFOと宇宙」が爆発的売れ行きをするときも来ると思いますが、そのとき利益に目をくらむことなく、今のよに密度の高い専門雑誌の線を崩すことなく独走されまますことを切に願ひ致します。

「黄金のサチュレ」は既に変わりました。と申すように自動車、その他の公害により地球は、人類は絶滅の危機にきているという人間はそれに気付くべきときではないのです。いつか人類はその最後のときをむか

え、人類に代って他のモノが地球を支配するときが来るかもしれませんが、それが宇宙人であるとは知りませんが、人間の心と宇宙は密接なつながりがあると思っております。現在はずっとも宇宙に目を向けてきて来ていると思えます。そこで、唯一の手引きである「UFOと宇宙」に心よりご期待致します。編集部の方様お身に気をつけてすばらしい記事を私たちにお伝えくださるよう心よりお祈り致します。

匿名女 (東京都大田区)

DEAR、UFOファン、そして「UFOと宇宙」の愛読者の皆さま、私も皆さまと同じくUFOに魅せられているのでありますが、その口火となしたのは偉大なる社長久保田八郎殿のこの偉大な雑誌「UFOと宇宙」なのでした。

ところで今年の夏、私がつとてよくやしい思いをしたことを是非お聞きくださいませ。八月も半ばちょうど中学校の部活動がなかったので、お昼頃までベッドの中でダラダラと過ごしていたときのことでした。近所の子供たちが突然「円盤くわん」と呼び合っていたのであります（それもかなり長時間の間、でも私は外に飛び出すことはもちろんでないのでした（私はバジャマ姿だったので）。私は絶望的になって家の中でウロウロしているだけでした。ショック、5号から愛読してきて感じたことですが、初めUFOに興味をもつて写真をとっても見たがさうです。まあ人それぞれ違うけど……。私も現に最初は写真はかり見ただけで内容の方はあまり読まなかった。でも時がたつにつれて内容に目を向けるようになりました。そして今のように

に写真だけで満足するようになったり、ますますもちろん他にも感じたりとはあるけれど……。皆さまはどうでしょうか。最後に私たちの仲間が一人でも増えるようにがんばりましょう。

関口智子（14）（千葉県松戸市）

「憧憬」
俺達が行かなければならぬことをあの人は気付かせてくれたこの苦しき美しき地球に生まれた歌をあの人は気付かせてくれたあまりにでっかすぎる夢を見ることを恐れてはならない。あきらめちゃならない。失敗ばかりだけれどいつかきっと、この地球も平和になるだろう人々がみな愛しあえるあのジェン・レノンの「イヌジン」の世界がきっとやってくることを俺達は忘れちゃならない。今日もまたアダムスキーの本を持って俺達は駆けずりまわる水邊に生きること。神に誓って

高梨和明（静岡県田方郡）

「UFOと宇宙」の皆さま、僕は昭和四年の七月頃、初めて本誌7号を見ましてムズカシそうだなあと第一に思いました。でもそのムズカシさに引かれて買おうと思いました。しかし母がうるさいので買えませんでした。友だちが8号を学校へ持って来て僕の前でチラツカせるのです。そんなこととて黙っている僕ではありません。頭に入れてその日の学校の掃り小屋に寄つてとうとう手に入れました。それからというものの毎号買ひ。UFO関係の本を小づかいははいたいて数十冊手に入れ、本箱に並んだUFO関係の雑誌群を見ては羨しむものです。今、中二でUFO、宇宙人の存在を信じるのは三九名。たつた一人男のA君は信じませんですよ。学校に行く度に存在するかどうかの言い合いです。僕はいつも「何兆といくさんの星の中で地球だけに生物がいて他の星に生物がない訳がない。しかもその生物が僕らの呼んでいる円盤を作れないとは限らない」と言い張るのです。すると彼は「まあ、生

物の存在は信じよう！、しかし、そいつらがその乗り物を作つてキーンと飛んで来ると言うのか？「Iホラしい」と言うもんだから僕は泣けてきましたよ！、ところで話が変わるけど「UFOに興味のある地球人よ、よく聞け！、こんな俺の所へお手紙ちょうだい！！」待ってます。

井上安里（13）
（千葉県国分寺市高木町二八二二）

私は「UFOと宇宙」を知ってから、まほ何週間にもなりません。今までUFOに関する本は何冊か買いました。でも長野県の田舎ではなかなか見付けないのです。「UFOと宇宙」も私の見付けたときは二冊しかありませんでした。これは私にとって、とても残念なことです。でもこれからはがんばって買つつもりです。

話は変わりますが、長野県という所、しかも私の住んでいる田舎では「円盤を見た」という話は聞いたことがないのです。でも私は外に出たり、家の中で暇なときはたえず望遠鏡とカメラを持って三階の屋根へ出てがんばっているのです。そんな私にとって「UFOと宇宙」などの本はとても力になってくれるのです。私たちのまわりには、UFOに興味をもつ人がほとんどいません。だから話す相手もいず、寂しいのです。それから何でも地球上の常識で宇宙のことを解き明かすとしても、それは無理なことだと思ひます。もつとつと地球の人が宇宙のナゾにたいだんてくれるのを願ひたいと思ひます。そして、私たちが滅亡する前に、宇宙人と交流できるように……。

こんな私にペンを取ってください方、いろんな相談や話のついでください。

林田明美
（〒388 長野県大町市仁科町三三〇〇）

UFOファンの皆さま、こんにちは！、僕は再び僕の研究を知られるべく、ペンをとりました。今回の僕の研究は余りUFOとは関係がないのですが、惑星直列のことについての重大なことです。惑星が直列するのは一九八二年頃ということになっていきますが、研究の結果たいだんてきなことが地表上起こるかということがわかってきました。本誌6号に「ドクター・ケイシー」の大事業が載っていました。それを解釈したある人によると、日本は一九五八、一九八二年の間に沈むということになっていきます。その年がちょうど一九八二年までと間とありますが、それがたつたろうでしょうか。恐ろしい話の説がびつたりと合っているように思ひます。二つはありませぬか。しかし恐ろれるべきことはこれだけではありません。一九五八、一九八二年までには北

ヨーロッパのほとんどや、アメリカ大陸のほとんどが海に沈んでしまふのです。そしてそれがまた一年違いで一九九九年となる。その説を信じない人でもちよつと苦しくなってくるでしょう。更にこのよふな異常が起こるのは、エドガー・ケイシーによる「極が移動するため」となっています。極が移動するには巨大な引力（磁気）を必要とします。とすると思い浮ぶのは惑星直列です。ここまで裏付けの説が出て来ると、どうやら惑星直列説は動かし固くなってきます。そこで再びムー帝国の話が出てきますが、古代ムー帝国の植民国にアトランティス（大西洋にあったと考えられる）とウイグル（北ヨーロッパからアジアまで広がっていた）の二つがあります。いずれも何かによって滅びてしまひ、伝説の帝国とされています。この滅び方が、アトランティスは海底に沈んでしまひ、ウイグル（モンゴル人の国のことではない）は謎の大洪水に襲われたといふことです。ところで、なぜこのことを持ち出したかという点、エドガー・ケイシーが出現するといふのです。そして、もし惑星直列といふことが何年あるいは何万年という周期ごとと回つて来るとすれば、アトランティスが海底に沈んだのも、ウイグル帝国が大洪水に襲われたのも全部説明がつくのです。以上が僕の今回の研究の結果です。

小島隆夫（埼玉県大宮市）

初めでお便り出します。私は貴社の「UFOと宇宙」をたしか高校三年の春頃、天文部の友たちが読んでいたのを見て貸してもらって初めて知ったのです。それからもう二年近く経ちました。毎号買っています。買ったばかりに充実していますね。それに読者の方々がどんどん増えているような気がしています。それにもう一つ、読者の精神が確実に向上しているのがわかるような気がします。私ももっともって読者が増えることに努力しようと思つています。そして、地球人君を孤獨し「自閉症から救い出さしよう！」として、一度話しかけて「その人に「UFO」を試みて下さい。でも試みる際、私たちがUFOを認める者はUFOの持つ意義をしっかりとらなければならぬと（教える人が不確かだといつまでか）からでない」と話しかけた人々の中には「オプンマインド集団」となつて、どんな人でも話しかけて下さい。話しかけた人々の中には「オプンマインド」の持ち主がきちり組み込まれていゝ。ガンジーは言いました。「物語は初めはきまらずに少数の人によつて、時にはただ一人で始められる」と。この貴社の「UFOと宇宙」をよく読んで、いふまでもなく、スカウトシップのようにどこまでも人々に TRV ししてください。私もがんばりますからね！私がおんなに深くUFOについて宇宙の同胞に感銘したきっかけは、ある本屋さんに一冊だけ置いてあったG氏の「空飛ぶ円盤同乗記」を読んだからなのです。あ

●本田伸三(画) 広島島高田郡



なぜ私を信じないのだ!

以外には休まず一気読み通したのです。一冊の本を数時間で読み切ったなんて生まれて初めてのことで、しかし、読んだ後しばらくを忘れてしまいました。心の中でこれは何だろう？小説なのか？架空の物語なのか？事案なのか？という意識が交互に浮かびました。そして最後に「これは事実だ！互に浮くことに心が満ちて来るのがわかりました。頭の内部をガーンと一発なられたような気がしました。それから何カ月と一発なられたような気がして、エゴに走りまわりました。空想ばかりしていたのです。そう、女の子ならだれでも（かどうかわかりませんが）、宇宙から円盤に乗って自分だけに会いに来ようか？を空想し、自分のまわりの人々を私は優越感に満ちた目で見て下りたりもしました（今改めて時と）。そしてまた本を読み重ねていゝうちに自分の振舞いに気が付いてきたのです。

話は変わりますが、再び驚いたのは本誌14号の「大気圏外生命体とのコンタクト？」の所で、ローレンス氏の実験による大発見のことです。ここでもガーンと一発くらったやうなことです。この記事により私は、この宇宙の何もかもすべてが生きていて、しかも人間以外の生物にしても少し人間と変わりないものであると思つました。つまりすべてが人格をもっているのだと考えました。ですから、どんな動物、生き物、何でもすべてに対して尊敬した心もちを抱かなければと思つました。いつも踏みつけている大地にも感謝しましょう！私たちが夜、宇宙を遠く見つめるとき、同時に足元もジワッと見つめてください。そこも宇宙だから。

私はUFOを三回見ましたが最近ほとんどごぼさたのです。最初に見たのは確実な円盤です。かなり大きかったよ。初め、気象観測用の気球かと思

つたのですが、段々こちらへ来るので「あれ？どうして気球が真横になって来るんだろう？変だなあ」と、そのうち「まさか？！と気が付いたのです。それは、私が高校三年の春、球技大会で応援しているときで、そこにいた多数の人々（13名）が目撃しているのです。色は灰色といふか銀色みたいな

さて最後に皆さん、初めてUFOを見たときも、持ちし、それからUFOに対する真剣な気持ち。をいつまでもいつまでも忘れないでください。そして一日でも早く宇宙の友と会えるような心をもつようにならん張って下さい。それと本社の方々の多大な努力に感謝します。今後も宇宙の広い心を持つ友と共にすばらしい活動を続けてください。

大岡葉子（19）（神奈川県鎌倉市）

皆さん、こんにちは。私は一四歳の中学二年の女の子です。先日、新聞を開くとまず私の目についたのは「UFO」という文字です。私は13号として食い入るように見ると「UFOと宇宙」13号、たけな、発売中」とあるではありませんか、値段は？と見る小づかいを持って本屋へ全力疾走して、さっそくお小づかいを持って帰りました。ところが、注文の本しかとってないといふので、ガッカリし、しかしそこであきらめる私ではありません。本屋を四軒回つて五軒目でやっと「13号の表紙を見た」と喜びました。私は以前に友だちに借りて10号を見たときがありました。そのときは思わず返すのがイヤになったくらいです。そして今、13号の「声」を読みながらこうしてペンをとっています。もっと早くから気が付いていればなあ……。とにかくとにかくこの「UFOと宇宙」をもっともっと面白く読んで欲しいと思つています。がんばって下さいね。それでは、まず私に本を貸してください。A君、ありがとう下さいました。

それから、いつでも私を楽ませてくれる「UFO」と宇宙、本当にありがとう。これからもしつかりな。

匿名希望（北海道函館市）

アダムスキーの「空飛ぶ円盤同乗記」で宇宙人とアダムスキーの会話の中に、男性の宇宙人（金星人だそうです）がアダムスキーに「地球の軸がしたいに傾くといふ事実は現在でも起こりつつある」と申し上げれば、あなたに興味を惹かれるでしょう。これはいつでも起こり得ることなのですが、万一、その周期を一巡して完全に傾けば、今、海底にある土地は大部分隆起するかも知れません。以上、後略）しかも、アダムスキーがそれは地球に大変な災をも

たらすのかという質問に「必ず起こります」ときっぱり言ったということ。これについて興味深い資料を紹介いたします。それは「宇宙人についてのまじまじな話」(平野威馬雄著)に記載されているのです。それによると「テレビのブラウン管を発明したブラウン博士は、南極の水がもし除去されることなく堆積し続けたら、早晩、地球は大震動を起こし、斜めに傾き、巨大な荷をつみ過ぎた船のようにひっくり返ってしまうだろう」というとても面白い説を発表しました。さらに、この説を証明するようなことも書いてあります。たとえば地質学者たちは、アルプス、アンデス、ヒマラヤ、その他の火山脈はかつて海面下にあったことを認めており、何回となく海と陸が急激に入れ替わったことを意味しているそうです。また海底探検家たちには、海底の沈殿物の厚みが海の推定年代を考慮に入れると、当然あべき深さに達していないことを発見して熱心な議論を戦わせた。その岩の持つ磁力線の配置は、あちこち地球の磁極の配置が、今日とは全く反対のところにあったかのように、現在の方向とは全く逆であったからです。この謎への解答は唯一でした。溶岩は冷えたら磁性を持ちます。その磁気方位はその岩石が地球の磁極をもち、地球から受けるのです。たとえ地球の磁性が岩石の冷却後、変化してもその岩石が磁極の回転した後、たまたま溶岩状にならぬ限り、岩石は絶対に磁気の影響を受けるからです。また穴居時代このかた、絶滅しているマンモスの冷凍体シベリアのツンドラ地帯で今世紀の初めに発見されました。その体は新鮮に保存されており、それを引く犬がその肉を食べましたが、無害でした。最大の謎は彼の死の原因とその肉体の保存でした。彼らのあるものは骨折しており、死の直前、猛烈な打撲を受けたりしています。彼らは動けなくなったか凍死したらしいのです。彼らをもたぬくした破局が何であれ、それは全く、彼らの寒気を作ったものであつたのです。なぜならば、彼らの体はあつたかも突然に巨大な冷凍庫に投げ込まれたものなのです。普通の環境のもとでは、彼らの体は冷凍作用によって保存される前に腐敗してはいたはずなのです。

●阪上清久(画) 茨城県土浦市



これは考えられません。石化された足跡は、それが動物によって残された直後、気候の突然による急激な変化のために、あつたという間に凍化しに違いないでしょう。凍った泥は足跡を残したまま石化したのです。——といった内容のことが記載されています。

また、この宇宙人はアダムスキーにこんなことも語っています。アダムスキーの同乗記より引用させていただきます。即ち、全世界は混乱に巻き込まれてまわっています。その前兆はこれこれです。そして神の子たちが天国から地球人を救いに来るとも。地球人が外宇宙を呼ぶときは天と言ひ、私たちがまた神の子なのですから、現在ある古代の予言を実現しつつあるということも果して、あつたかといふことでよいか」といふこと果して、あるいはここを讀んで思ひよれることがありました。それは本誌6号「エドガー・ケイシーの予言による世界の大変動」という章で44ページ上から三段目、右から14行目「この世界的大変動は一九五八年から一九九八年の間に始まるが、この時期の到来は、主の光がふたたび雲の中に見えるときに広く示されるであろう」ということです。すなわち主は神、主の光は光り輝く宇宙船。雲の中に見えるというものは地球の大気圏内に宇宙船が現れることと「考えられませんか。そして宇宙人の語った『全世界は混乱に巻き込まれる』ということ、ケイシーの予言した『この世界的

的大変動』というのは、ブラウン博士の唱える地球の地軸が傾くことにゆつて引き起こされる数々の人災や天災を意味しているのではないかと思うのです。また、時期が一九九八年という点、ノストラダムスの予言と多少関係があるのでは? また、今度ムスケーに「私たち宇宙人は過去七〇〇万年にさかのぼる地球の歴史を知っています。地球人が繰り返した多くの似たような歴史は自滅した文明と共に失われています。……後略」と語っています。これについてまた興味深い資料を紹介します。それによるとアメリカ・オクラホマ州のフランク・メサという高い台地から、人間の足型そっくりの化石が発見されたのです。化石の出発地は中生代白亜紀の砂岩層でこれほど恐竜の骨が発掘されているところ、人類の出現はせいぜい四〇〇万年前後というのが定説なのに、少なくとも七〇〇万年以上前の恐竜時代の地層から人間の足跡が発見されたというので大騒ぎなそうです。発見者のタッカーさんという牧場主は人間の足跡に間違いない。足の甲まで残っているのや、靴をはいているようなものもある」と断言したのです。(なお、オクラホマ州立大のドン・ワイコフ博士は人間の足跡説を否定しています)もし、これが真実なら、女性の宇宙人の語ったことを証明しているように思います。なおこの資料は少年マガジン第45号28ページに記載されておりました。また、これは最近読んだ本本何であったかは忘れましたが、これに載っていたのですが、南アメリカの遺跡から恐竜(たとえはプロトザウルス)によく似た粘土の像が発掘されたのです。恐竜を知らないはずの古代の人々があつたような物を作ることができたのでしよう。

いろいろ書きましたが、ボクもUFOもしくはUFO盤を数度目撃したことがあります。絶対に存在を信じています。宇宙人の存在が社会に公認されるまでが来るときです。「UFO」と宇宙」の著者の皆さん、ガンバラマシヨウ。そして「UFO」と宇宙」を編集なさっている皆さんも……。(長野県早稲市)

皆さんお元気? 7号に載った年齢書きを忘れたDジンの女の子です。いろいろな方々からお便りいただき、ありがとうございます。UFOと宇宙」つてむずかしいヨネ。でも自分のわかる範囲で理解しようかと頑張っています。UFOは目撃「ゼロ」なのですよ。UFOや古代大陸にしか興味のない私が、今ではESPも四次元も心霊にも興味もつたし、パンチャイ、問題では勉強の方、もっとガンバラナクツナイ。古代大陸は特にアトランティス大陸がお気に入り、大西洋に行ってみたいな。なにしろさっかにはTVマンガ「海のトリトン」を見てからなのですから……。ギリシャ神話にはトリトンという首から下がへびだったとか。でも私のトリトンはもっと理想の高い人物なのです。だって彼は同じ年齢なもん。大西洋行つたら会えるからしくれるんではないのです。夜を空をガタガタ震えて見ているけど……現れないです。でも相棒のワノコ(犬)がお気に入りので、ひとりと一匹で「ねえ、今日はUFO無理ねえ」……「ワノコ」なんて……。これからは「UFO」と宇宙」の発表をお祈りします。さようなら。(青森県十和田市)

初めまして、「UFO」と宇宙」愛読者の皆さん。皆さんの中にはすでにUFOを目撃された方や、目撃しようとして張り切っておられる方もいると思います。私もいまだに目撃したことがない者です。中学生時代に宇宙の魅力に取りつかれて以来、空を見るようになり、今では毎晩必ず空を見る習慣がついてしまいました。しかし、UFOはあつたことを証明してくれないのです。宇宙人は私を避けているのではないかと思うこともしばしばです。ところで昨年九月二二日の朝日新聞に次のような記事が出ていました。

「三年前、米アリゾナ州で清涼飲料を売っていたジョージ・アダムスキー氏が「アリゾナ砂ばくに金星から空飛ぶ円盤が着陸。金星人と握手をした」と発表したが、世界中に「円盤ブーム」を巻き起こしたが、英米確認飛行物体(UFO)協会のロジャーズ会長は「円盤はなんと旧式の金属製のびん冷却器だ」とのショックな発表を行った。アダムスキー氏が当時、その証拠として発表した円盤の写真は銃眼、動力線、着陸用車輪などが詳細に写っていたため、本物かという想像力をかきたてた。同氏は「真空掃除機の写真ではないか」との反論もモノとせず、世界中を講演して回り、ロイ・マガネズ氏は「昔、英北部の工場で作られたことのあるびん冷却器をロンドン的小さなカフェで偶然発見、同氏がこれを写真にとり円盤だと偽ったことがわかった」と語っている(私「UFO」共同)以上です。皆さんどう思いますか。私はアダムスキー氏の撮った写真は本物だと確信できます。なぜならアダムスキー型円盤は他のどのタイプのびん冷却器に撮られていません。わざわざ人間たちから写真を使ってトリック撮影したとは思えないから最後一言「アダムスキー型円盤は実在する」。編集部の方々、これからがんばってくだ

持の方は、写真の場合は焼くし、プリントまたはネガ（ネガは責任を持ってお返しします）。切り抜きの場合はコピーまたは切り抜き、実物（実物は当方でコピー、すぐお返しします）を是非お送りください。お願い致します。

編集部より

先般、各新聞に掲載された「空飛ぶ円盤、実はニセモノ」と題して二十三年前、米アリゾナ州で清涼飲料を売っていたジョージ・アダムスキー氏が……と始まる小文で英UFO協会のロジャー・スミス会長が、アダムスキー撮影の円盤写真は英北西部の工場で作られた冷卻器を写真にとり、円盤だと偽ったことがわかったと発表した件で本社宛に各地から照会がありました。ところが、あいにくアダムスキー氏は二十三年前にアリゾナ州に住んでおらず、清涼飲料を売った事実もなく、当時はカリフォルニア州の山中のパロマー・ガーデンズで弟子達と共同生活を営みながら天体観測や宇宙哲学の指導をやっていた。今もその跡が残っており、ア氏が自分で建てた小屋等が見学者のために管理人によって大切に保存されています。ロジャー・スミスの説明が間違っていることはこれでわかります。またア氏が冷卻器を撮影したとすれば、以後二十三年間世界各地で目撃された撮影されているアダムスキー型円盤はすべてこの冷卻器を撮影したということになります。むしろ逆にア氏の円盤写真からヒントを得て各種の製品に円盤型のデザインが応用された形跡がありますので今後この種のデマは絶えないでしょう。

本誌先号に掲載された「アダムスキー型円盤、豊田市に出現」と題する連続写真の内「写真③」と「④」の日光の照射角度から計算して時間のズレが五秒といるのはおかしい。少なくとも五分以上は経過している筈だ、という意見が数名の読者からありました。これについて本誌は十二月三日と五日に電話で長時間にわたって撮影者の杉浦氏へ質問しましたところ、大要次のようなご回答がありました。「事件当日カメラを三脚にのせて待機していたというは報道側の誤りで、実際は火花を撮影するために三脚やカメラを取り出して部屋であぐらをかいたままレンズを拭いていた。最初に物体が出現したときは風船か何かだろうと思って、部屋の同じ位置で連続撮影した。これが消えてもまた葉巻煙草が見えただけで、これらも同じ位置で撮影しながら、連続写真全部を撮り終えるのに二分もかかってはいないの



●徳田亮太郎(画) 東京都府中市

●「円盤についてのマジメな話」宇宙の使者「空飛ぶ円盤を追って」写真で見える空飛ぶ円盤200集「空飛ぶ円盤騒ぎの発端「空飛ぶ円盤の謎」空飛ぶ円盤と宇宙人」を一括5000円で譲ります。叶健二(千鶴) 京都府舞鶴市長浜宿舎(一五号) ●本誌No.5/No.9まで各2500円。(送料別)

●本誌No.12までの8冊を千共35000円で……また日本円盤研究会製作のUFOスクラップシリーズNo.1/No.2までの40枚を千共7000円で譲ります。両方まとめて40000円でも構いません。詳しくはハガキで……

で、③から④までに五分も要したことは絶対でない。日光の照射角度が相違することは(本誌から)指摘されて初めて気がついた。撮影中は終始タミの上であぐらをかいたり立てひざになったりして手持ちで写したので各写真の角度が異なるのは当然だが、③と④の日光の照射角度が違ふような写真がどうして撮れたのか、自分にも全くわからない。しかしこれらの写真は実際に空中に出現した二種類の物体をこの眼で目撃して撮影したものである。それが疑惑をもつてもこれは絶対に真実なのである。以上のとおり杉浦氏は強く断言されました。とすると写真④は不可思議な謎の写真ということになり、写真④は不可思議な謎の写真ということになり、現在技術教育課の組長としてトヨタ自動車高等学園で先生をしておられる誠実な方で、そのような氏が社会的地位を失うかもしれないような幼稚なトリック写真をねつ造して発表されたとは考えられません。ひとつとすると外部から何かの不可視な力が作用して氏を五ノ六分間交差のまま意識が連続して、覚醒してから④の物体を見たと、意識が連続して、覚醒して思わせたのか、それとも五ノ六分先の「未来の光景」を撮影したのか、謎は深まるばかりです。

★譲ります

●天体望遠鏡(屈折、倍率30×200×100×60×) 4年前32000円で買ったのを190000円で。木箱、星座早見盤つき。手渡し可能な方。鈴木健一(千鶴) 神奈川県相模原市本松四一六一五 電04277-7114(835) ●天体望遠鏡(アストロL N 4E) 新品。付属品をつけてこちらの希望する値段を往復ハガキに書いてください。内田 信(千鶴) 01 神奈川県足柄北郡山崎原二六九

●電話被アマチュア無線の免許を取りたい方、教科書(国家試験問題集と指導書付) 94000円を35000で……(送料は負担します)。天体望遠鏡と交換も可能(1000倍以上)。よろしく願います。門野由宏(千鶴) 静岡県富士市荒田島一五二二 ●本誌No.3/No.8まで適価で譲ります。(切りぬき折り目とものにナシ) 希望値段を記入の上、往復ハガキで連絡ください。葛岡玲子(千鶴) 宮城県仙台市福室宇高砂五一五 ●本誌No.5/No.12までの8冊を千共35000円で……また日本円盤研究会製作のUFOスクラップシリーズNo.1/No.2までの40枚を千共7000円で譲ります。両方まとめて40000円でも構いません。詳しくはハガキで……

九四四―)
●私の持っている月球儀(新品)を6000円(送料別)でお譲りします。また、特大虫メガネと軍用コンパス(高級品)の2つで4000円(送料別)で。連絡は往復ハガキでお願いします。一番早く注文した人には、とてもおもしろい本を無料で差し上げます。本誌No11/No13もあります。各700円(送料別)で!

●「UFOと宇宙」No10、No11 本誌別冊「UFO写真集」写真を見る空飛ぶ円盤200集(1200円)写真で見る空飛ぶ円盤・宇宙人200集(1000円)を譲ります(バラ売り3冊以上なら可)。高値優先します。ご希望の価格を往復ハガキに記入してご連絡してください。
上野英雄(〒140 東京都大田区南蒲田二一六―三旭ビル)

●カメラ(ハイコンパクト35、無キズ)と「メシエ天体アルバム」(新品同様)共5500円。他に「天体写真の写し方」藤井旭著(美本)もあり。お早目に往復ハガキで希望の品、希望の価格を!

●「謎の三角領域」(ジョン・W・スペンサー著)大陸書房 9500円を6000円で譲ります。連絡はハガキまたは電話で(9PM以後)!

●「謎の三角領域」(ジョン・W・スペンサー著)大陸書房 9500円を6000円で譲ります。連絡はハガキまたは電話で(9PM以後)!

●「謎の三角領域」(ジョン・W・スペンサー著)大陸書房 9500円を6000円で譲ります。連絡はハガキまたは電話で(9PM以後)!

●「謎の三角領域」(ジョン・W・スペンサー著)大陸書房 9500円を6000円で譲ります。連絡はハガキまたは電話で(9PM以後)!

●「謎の三角領域」(ジョン・W・スペンサー著)大陸書房 9500円を6000円で譲ります。連絡はハガキまたは電話で(9PM以後)!

●「謎の三角領域」(ジョン・W・スペンサー著)大陸書房 9500円を6000円で譲ります。連絡はハガキまたは電話で(9PM以後)!

●「謎の三角領域」(ジョン・W・スペンサー著)大陸書房 9500円を6000円で譲ります。連絡はハガキまたは電話で(9PM以後)!

●本誌別冊No4まで。あなたの希望の値段に応じます。ハガキ、または夜間のみTELしてください。

●「UFOと宇宙」No4まで4冊まとめて(1冊でも可)2000円前後で譲ってください。新品同様のものを希望します。もちろん送料は当方で負担です。まずは住所、TELを忘れずに書いて、往復ハガキで連絡してください。

●「UFOと宇宙」No4まで4冊まとめて(1冊でも可)2000円前後で譲ってください。新品同様のものを希望します。もちろん送料は当方で負担です。まずは住所、TELを忘れずに書いて、往復ハガキで連絡してください。

●「UFOと宇宙」No4まで4冊まとめて(1冊でも可)2000円前後で譲ってください。新品同様のものを希望します。もちろん送料は当方で負担です。まずは住所、TELを忘れずに書いて、往復ハガキで連絡してください。

●「UFOと宇宙」No4まで4冊まとめて(1冊でも可)2000円前後で譲ってください。新品同様のものを希望します。もちろん送料は当方で負担です。まずは住所、TELを忘れずに書いて、往復ハガキで連絡してください。

●「UFOと宇宙」No4まで4冊まとめて(1冊でも可)2000円前後で譲ってください。新品同様のものを希望します。もちろん送料は当方で負担です。まずは住所、TELを忘れずに書いて、往復ハガキで連絡してください。

●「UFOと宇宙」No4まで4冊まとめて(1冊でも可)2000円前後で譲ってください。新品同様のものを希望します。もちろん送料は当方で負担です。まずは住所、TELを忘れずに書いて、往復ハガキで連絡してください。

●「UFOと宇宙」No4まで4冊まとめて(1冊でも可)2000円前後で譲ってください。新品同様のものを希望します。もちろん送料は当方で負担です。まずは住所、TELを忘れずに書いて、往復ハガキで連絡してください。

●「UFOと宇宙」No4まで4冊まとめて(1冊でも可)2000円前後で譲ってください。新品同様のものを希望します。もちろん送料は当方で負担です。まずは住所、TELを忘れずに書いて、往復ハガキで連絡してください。

●「UFOと宇宙」No4まで4冊まとめて(1冊でも可)2000円前後で譲ってください。新品同様のものを希望します。もちろん送料は当方で負担です。まずは住所、TELを忘れずに書いて、往復ハガキで連絡してください。

●「UFOと宇宙」No4まで4冊まとめて(1冊でも可)2000円前後で譲ってください。新品同様のものを希望します。もちろん送料は当方で負担です。まずは住所、TELを忘れずに書いて、往復ハガキで連絡してください。

●「UFOと宇宙」No4まで4冊まとめて(1冊でも可)2000円前後で譲ってください。新品同様のものを希望します。もちろん送料は当方で負担です。まずは住所、TELを忘れずに書いて、往復ハガキで連絡してください。

●「UFOと宇宙」No4まで4冊まとめて(1冊でも可)2000円前後で譲ってください。新品同様のものを希望します。もちろん送料は当方で負担です。まずは住所、TELを忘れずに書いて、往復ハガキで連絡してください。

●「UFOと宇宙」No4まで4冊まとめて(1冊でも可)2000円前後で譲ってください。新品同様のものを希望します。もちろん送料は当方で負担です。まずは住所、TELを忘れずに書いて、往復ハガキで連絡してください。

●「UFOと宇宙」No4まで4冊まとめて(1冊でも可)2000円前後で譲ってください。新品同様のものを希望します。もちろん送料は当方で負担です。まずは住所、TELを忘れずに書いて、往復ハガキで連絡してください。

●「UFOと宇宙」No4まで4冊まとめて(1冊でも可)2000円前後で譲ってください。新品同様のものを希望します。もちろん送料は当方で負担です。まずは住所、TELを忘れずに書いて、往復ハガキで連絡してください。

●「UFOと宇宙」No4まで4冊まとめて(1冊でも可)2000円前後で譲ってください。新品同様のものを希望します。もちろん送料は当方で負担です。まずは住所、TELを忘れずに書いて、往復ハガキで連絡してください。

●「UFOと宇宙」No4まで4冊まとめて(1冊でも可)2000円前後で譲ってください。新品同様のものを希望します。もちろん送料は当方で負担です。まずは住所、TELを忘れずに書いて、往復ハガキで連絡してください。

●「UFOと宇宙」No4まで4冊まとめて(1冊でも可)2000円前後で譲ってください。新品同様のものを希望します。もちろん送料は当方で負担です。まずは住所、TELを忘れずに書いて、往復ハガキで連絡してください。

●「UFOと宇宙」No4まで4冊まとめて(1冊でも可)2000円前後で譲ってください。新品同様のものを希望します。もちろん送料は当方で負担です。まずは住所、TELを忘れずに書いて、往復ハガキで連絡してください。



●阪上清久(画) 茨城県土浦市

●「UFO写真またはUFO関係の資料を譲ってください。」

●「UFO写真またはUFO関係の資料を譲ってください。」

●「UFO写真またはUFO関係の資料を譲ってください。」

●「UFO写真またはUFO関係の資料を譲ってください。」

●「UFO写真またはUFO関係の資料を譲ってください。」

●「UFO写真またはUFO関係の資料を譲ってください。」

●「UFO写真またはUFO関係の資料を譲ってください。」

●「UFO写真またはUFO関係の資料を譲ってください。」

●「UFO写真またはUFO関係の資料を譲ってください。」

●「UFO写真またはUFO関係の資料を譲ってください。」

●「UFO写真またはUFO関係の資料を譲ってください。」

●「UFO写真またはUFO関係の資料を譲ってください。」

●「UFO写真またはUFO関係の資料を譲ってください。」

●「UFO写真またはUFO関係の資料を譲ってください。」

●「UFO写真またはUFO関係の資料を譲ってください。」

●「UFO写真またはUFO関係の資料を譲ってください。」

●「UFO写真またはUFO関係の資料を譲ってください。」

●「UFO写真またはUFO関係の資料を譲ってください。」

●「UFO写真またはUFO関係の資料を譲ってください。」

●「UFO写真またはUFO関係の資料を譲ってください。」

- UFOの写真を送ってください。UFO情報も教えてください。なお写真を送ってくれた方に先着五名様まで、記念切手(額面100円分)を差し上げます。
- 菊地欣哉(千羽) 53 福島県東白川郡矢祭町大字内川字真木野九)
- UFOの写真のネガを持っている方、私に貸してください。(偽物のUFOと本物のUFOの区別ができるように。責任をもってお返しします)
- 賀川 正(千羽) 02 北海道美幌市茶志内八八七通五) 身体障害者更生指導所)
- UFOの写真を送る方、焼き増しをお願ひください。(トリック不可) また、不思議な体験をされた方、教えてください。雑誌や新聞に載ったものでも大歓迎)
- 高橋 誠(千羽) 神奈川県鎌倉市極楽寺三十七二一) 電0467-2418003)
- UFOを撮影された方、ネガをお貸しください。責任をもってお返しいたします。また、どなたか本誌No2/No10までの内どれでも結構ですから、UFOキチガイの僕に無代でお譲りください。お願ひします。
- 小野寺典之(千羽) 01 宮城県気仙沼市宇松崎片浜二二〇)
- 本誌創刊号/No4を適価でお譲りください。(1冊でも可。落書き、切り抜きなどのない物をお願いいたします。美品でしたら高く買います。希望の値段を適価で連絡してください)
- 滝沢 隆(千羽) 神奈川県川崎市多摩区菅六二二)
- 本誌創刊号/No6までを4500円で譲ってください。(美本希望。何冊でも結構です。一冊ずつのときは創刊号13000円、No2/No4各7000円、No5/No6各5500円です(送料共)。どうかよろしくお願ひください。なお連絡は往復ハガキでお早目に。なるべくなら6冊まとめて譲ってくださいる方にお願ひします)
- 食料 弘(千羽) 東京都江東区白河一七一一六)
- 本誌No1/No4まで1冊でもかまいません可。適価で譲ってください。(落書き、切り抜きを不可)
- 須藤浩一(千羽) 神奈川県川崎市多摩区菅六二七二)
- 本誌創刊号/No4をお譲りください。別々でも構いません。値段適価。ハガキまたは電話で。連絡をお願ひします)
- 光永 生(千羽) 神奈川県座間市緑ヶ丘四四八五一) 電0462-5419892)
- 本誌創刊号/No4までとNo6を譲ってください。1冊ずつでも結構です。またUFOについての資料なども譲ってください。値段などを書いてハガキで連絡してください)



地球上2つある物があつた
この本この酒だ
この本この酒だ
この本この酒だ

- 中村恭二(千羽) 06 長野県埴科郡坂城町南条八二二一六)
- 本誌創刊号/No4、No6をなるべく低価格でお譲りください。美品を希望。希望の価格を書いてハガキで連絡してください)
- 長森稔明(千羽) 千葉県銚子市三崎町二二二四二七)
- 本誌創刊号/No4を定価で譲ってください。どれか1冊でも結構です。なるべく美本を。送料は当方負担します。ハガキをください)
- 山崎雄幸(千羽) 北海道千歳市日ノ出丘九四二 電01232-31648)
- 宝塚歌劇四九年年度月組公演「ペルサイエのぼら」のプログラムを譲ってください。お礼は相談の上、現金または本誌No1/No13までの中から換取券と交換(No1、2はサイドライン有り)。往復ハガキ(普通ハガキはTELを書いて)で連絡ください(送料は負担します)
- 藤井鏡子(千羽) 奈良県桜井市粟殿七三三四)
- 本誌創刊号/No5を5000円くらいで譲ってください(切り抜きがなければ多少の汚れ可)。送料は当方が負担。なお美品であれば価格の相談に応ず)
- 真柴田敏秀(千羽) 大阪府門真市上島町三〇一二一)
- UFO、心霊、その他不思議な写真をなるべく安く譲ってください)
- 後藤英治(千羽) 北海道札幌市白石区東札幌二二四電011-8822-1884)
- UFOの写真(本の切り抜き可)とブルワーカーを2000円前後で譲ってください。付録に「UFO追跡」アストラの「大宇宙」タイムマシーンの話「S.F.小説「エドワード部隊」(「スヌーバー」の3冊「世界の不思議」を付けます(全部

- 新同、3160円相当) 連絡はハガキで!!)
- 浜地 豊(千羽) 31 新潟県中頸城郡大潟町波柿 電0255341-3064)
- 双眼鏡(少々古くても構いませんから良い物)を2000円くらいで譲ってください。また、UFOに関する資料を適価で譲ってください。連絡はハガキでお願いします。お待ちしています)
- 宮路康彦(千羽) 04 兵庫県三木市所野町石野七二六 電079481-216631)
- UFOを撮影した方、ネガをお貸しください。責任をもってお返し致します。送料当方負担(トリック不可)
- 越智張揮(千羽) 愛知県岡崎市井六三一三六)
- 本誌創刊号/No8までをできれば一括して6000円(送料共)以内で譲ってください。美品に越したことはありません。読むのに支障のない程度のキズなら構いません。どうか私に譲ってください(安価優先とします)。いつまで気長に待っています。心やさしいあなたへ是非々私に。連絡は往復ハガキで。よろしくお願ひします)
- 竹本弘子(千羽) 01 神奈川県津久井郡相模湖町小原六八五)
- 本誌No1/No4がありません。どなたか次の本と交換してもらいたいです。「靈感入門」池田書房「空飛ぶ円盤製作法」大陸書房「地球空言説」大陸書房「空飛ぶ円盤同乗記」高文社「大宇宙」祥伝社「実説大宇宙」祥伝社「超能力者ユリ・ゲラ」二見書房などを。往復はがきを希望する本と交換して下さる号名を書いて連絡してください(キズ、汚れ少々可)。ただしコピーは不可)
- 角田正英(千羽) 神奈川県横浜須野野一八九八)
- 本誌No6をあなたの「空飛ぶ円盤とアダムスキ」と交換。またはハガキで)
- 加藤悦子(千羽) 北海道函館市赤川通り四九一五四)
- どなたか僕の本誌No9とあなたのNo10を交換してください。ハガキで連絡ください)
- 後藤 一郎(千羽) 岩手県水沢市東大通り二〇一八)
- 本誌No1/No4を僕の「写真で見える空飛ぶ円盤・宇宙人200集」平安書店100円「宇宙の使者」大

● 阪上清久(画) 茨城県土浦市

- 陸書房70円「空飛ぶ円盤同乗記」高文社G・アダムスキ著御田「空飛ぶ円盤の真相」高文社G・アダムスキ著御田の4冊と交換してください)
- 大前俊昭(千羽) 兵庫県姫路市城北新町七八一三)
- 本誌No1/No4を僕の高文社円盤シリーズ7冊(350円)と交換してください(ただし、いずれもカバーなし)
- 赤浦公洋(千羽) 兵庫県伊丹市野間字笠松九四一六 関電塚口社宅A棟三〇四)
- 本誌No1/No9までを刑事コロンの本1号/13号までと交換してください。なおNo1/No4はコロンの本2冊とします。またはハガキで連絡してください)
- 八木泰雅(千羽) 東京都調布市染地三二一 多摩川住宅101-51-104 電04241841-7289)
- 本誌No1/No12、UFOに關係する本、バイナリ、UFO探知機などを僕の持っている物(左記)と交換してください。「DX受信テクニック」(「世界の放送局ガイド」)「ラジオオ」74年8月/75年2月「ラジオの製作」(「初歩のラジオ」、それから切手に關する本、「マンガコミック」)などがある。切り抜き、破れがあっても可)
- また、S社のICF5800を僕のナショナル・ク1ガ115(ヘッドホン付き)と交換してください。なるべく早くハガキで連絡)
- 飛田正仁(千羽) 福島県郡山市芳賀三二五一一)
- 光文社のカッパ・ブックス「零戦」を持っている方、本誌No4と交換してください。往復ハガキで連絡)
- 大野正博(千羽) 03 秋田県男鹿市船越本町二二五)
- 本誌創刊号/No3を「人間滅亡の記録」(「パパ、スプーンが曲がっちゃった」)「S.Fに何ができるか」と交換してください。または連絡)
- 大城文和(千羽) 01 沖縄県那覇市宇栄原六二一)
- 本誌No10、11をトランプ手品(500円)と「なぜぞ大事典」(550円)と交換してください。ハガキで連絡があれば、こちらから送ります)
- 遠藤裕一(千羽) 68 山形県飽海郡松山町中牧田谷地七一一)
- 本誌創刊号を私のデニケンの著書「宇宙人の謎」(「未来の記憶」の2冊、計520円)と交換しませんか。誠意のある方をお願いします)
- 石井貴忠(千羽) 東京都葛飾区水元小合町一七〇一八二一〇九)
- UFO、異次元、超能力関係の本21冊を1万円+「空飛ぶ円盤とアダムスキ」と交換しよう。詳しくはハガキで。手渡しは有りし。佐川尚文(千羽) 東京都練馬区南大泉三六)

★交換して下さい

- 本誌No1/No4がありません。どなたか次の本と交換してもらいたいです。「靈感入門」池田書房「空飛ぶ円盤製作法」大陸書房「地球空言説」大陸書房「空飛ぶ円盤同乗記」高文社「大宇宙」祥伝社「実説大宇宙」祥伝社「超能力者ユリ・ゲラ」二見書房などを。往復はがきを希望する本と交換して下さる号名を書いて連絡してください(キズ、汚れ少々可)。ただしコピーは不可)
- 角田正英(千羽) 神奈川県横浜須野野一八九八)
- 本誌No6をあなたの「空飛ぶ円盤とアダムスキ」と交換。またはハガキで)
- 加藤悦子(千羽) 北海道函館市赤川通り四九一五四)
- どなたか僕の本誌No9とあなたのNo10を交換してください。ハガキで連絡ください)
- 後藤 一郎(千羽) 岩手県水沢市東大通り二〇一八)
- 本誌No1/No4を僕の「写真で見える空飛ぶ円盤・宇宙人200集」平安書店100円「宇宙の使者」大

会員募集

★UFOと宇宙哲学の研究グループ★

日本GAP

わが国UFO研究界の先駆者久保田八郎はジョージ・アダムスキー研究者としても著名であるが、1961年よりアダムスキー主宰の世界GAP（知らせる運動）組織の日本代表となり、日本GAPを設立。以来あらゆる困難と障害を乗り越えて、アダムスキーの特異な体験と宇宙的哲学の促進活動を展開してきた。機関誌「GAPニューズレター」をすでに57号まで発行。毎月上野公園の東京文化会館で月例研究会を開催。「生命の科学」講義、テレビ番組練習、研究発表などを行い、宇宙の法則と人間の真の生き方を探求。また英語研究会を設け、UFO関係原書を無料で講義し、奉仕的個人活動として啓蒙運動を続行中である。真剣な探求者のご参加を歓迎いたします。

不定期刊機関誌
「GAPニューズレター」
 第57号発行中!!
 (主要記事) (第56号は品切れ絶版)
 進歩した思索家のために(未公開遺稿)……ジョージ・アダムスキー
 アダムスキーに関するコメント……デズモンド・レスリー
 米国GAP訪問記(写真多数掲載)……久保田八郎
 (改訳)空飛ぶ円盤同乗記(10)……ジョージ・アダムスキー
 その他満載

入会希望者は20円切手を貼った宛名明記封筒を同封の上、「UFOと宇宙」16号で見たとき書き添えてまず案内書をお申し込み下さい。高度な哲学的研究グループにつき、入会は高校生以上に限ります。非会員に機関誌の1冊売りはしません。

〒133東京都江戸川区本一色町365-818 日本GAP(代表) 久保田八郎

UFO探知機

超高感度 国産唯一の本格的磁気探知機!

冬の長い夜のUFO観測に必携!!
 既に100台が全国で活躍中!!



- T-5型……¥9,000
- T-3a型……¥18,000
- T-3b型……¥19,000

■■■■■■■■
 ■その他、連続観測用のACアダプター及び、補助電池ボックス(新製品)があります。

T-3b型

申込先: 〒213 神奈川県川崎市高津区長尾1606

折田 至
 Tel. 044-866-8347

●カタログ請求は100円切手をお送り下さい。

TAMA SOUL BOOKS

宇宙哲学

地球人類より数万年も進化した他惑星人から伝えられた宇宙の真実 アダムスキー著 久保田八郎訳 四八〇円(税込)

UFOは第二の黒船だ

宇宙的ルネッサンスと逆産業革命によって、公害、戦争、大変動の危機を回避する。坂元ツトム著 六八〇円(税込)

念力スプーン 真実だ

ゲラー効果はトリックか真実か。日本の超能力少年達による実験証明 市村俊彦 内田秀男 芝山輝共著 六八〇円(税込)

ソ連圏の四次元科学

80億円の国家予算でUFOテレパシー、念力の研究を軍事や宇宙開発に応用しようとする共産圏アカデミー上巻(ソ連前編) 下巻(ソ後ブルガリア・チェコ編) オストランダー他著 照洲みのる訳 各巻1150円(税込)

ノストラダムス大予言原典

大地震、パニック、第三次大戦への宇宙人の介入など世界三大予言者の未来を集約。西暦3000年までの予言書「諸世紀」の全訳と解説 ノストラダムス著 ロバート編 内田秀男監修 大乗和子訳 保存版2400円(税込)

異色考証 キリストは日本で死んでいる

日本の古代遺跡に刻まれた神代文字が物語る驚異の歴史。神武天皇以前の太古の記録、シヤカ、キリストの来日、古代大陸文明の世界的交流を多数の遺跡写真で解説する。宇宙考古学の原典復刻。山根キク著 九五〇円(税込)

世紀の千里眼能力者の記録

超能力捜査官 クロアゼ

迷宮入犯罪の解決、古代遺跡からの過去透視、大学での未来予知実験等 Jポラック著 山下仁訳 950円(税込)

エドガー・ケイシー秘密シリーズ

夢予知の秘密 一三〇〇円(税込)
 転生の秘密 二五〇〇の生まれ変わり例 九五〇円(税込)
 超能力の秘密 超能力開発の原理と実践法 九五〇円(税込)

●本書はユニバース出版社国内独占販売のため一般書店ではお求めできません。ご購入の場合は、代金を現金書留または振替で直接当社業務部までお送り下さい。なお5日間無料で本書をご覧になれる方法もあります。ご希望の方は資料(無料)をご請求下さい。

国内総販売元

株式会社ユニバース出版社

〒110東京都台東区秋葉原3-3アキハビル 振替東京119478

最大の冒険

ADVENTURE

BRM SELAH 社版

月面と宇宙

アポロ計画 大写真集!

●世紀の大偉業“アポロ計画”の全貌公開。アメリカ航空宇宙局(NASA)提供による驚異のカラー写真119点、モノクロ写真11点があなたを未知の大宇宙へご案内します。

●本書(BRMセラー社版)は横25.5cm、タテ34.3cmの特大版で本文極上アート紙使用、極厚手表紙・カバーつき、総頁数128の豪華写真集です。詳細な英文解説に別冊日本語版(全訳)がつかます。

●科学研究者・天文ファン、学校・図書館等の公共施設はもちろん、ご家庭の教養図書としてもぜひ一冊おそなえ下さい。

定価11,000円(梱包発送料500円)

米国直輸入

超豪華版
人類の
**MAN'S
GREATEST**



品質保証

◆MOP高性能天体望遠鏡(通産省光学検査合格品)

◆MOP本格派双眼鏡(通産省光学検査合格品)

新春特別セール!

製造元 武蔵光学株式会社

MOP 607型

入門用60%屈折型

規格・性能 焦点距離
700mm 有効径60mm (ア
クロマートレンズ使用)
分解能1.9秒 極限等級
10.7等星 集光力73倍

付属品 サングラス
6×24mmファインダー
天頂プリズムHM6mm
H20mm 木製2段伸縮
三脚



特価15,000円
(送料800円)

MOP 610型

研究観測用高級機
60%屈折赤道儀式

規格・性能 焦点距離
1,000mm 有効径60mm
(アロマートレンズ
使用) 分解能1.9秒 極
限等級10.7等星 集光
力73倍

付属品 サングラス
6×30mmファインダー
天頂プリズムHM6mm
HM12.5mm K20mm
バランスウェイト2 フ
レキシブルハンドル2
木製2段伸縮三脚



特価41,000円
(送料1,500円)

MOP M108型

アクティブな入門用
100%反射型

規格・性能 焦点距離
800mm 主鏡レンズ有効
径100mm(主鏡アルミナ
イズメッキ)分解能1.16
秒 極限等級11.8等星
集光力204倍

付属品 サングラス
6×24mmファインダー
HM6mm H20mm 木製
1段式三脚



特価21,000円
(送料1,000円)

MOP M109型

研究観測用高級機

100%反射型赤道儀式

規格・性能 焦点距離
900mm 主鏡レンズ有効
径100mm(主鏡アルミナ
イズメッキ)分解能1.16
秒 極限等級11.8等星
集光力204倍

装置 直進ヘリコイド
式繰出(接眼レンズ口
径24.5mm用)赤道儀兼
経緯台 微動装置ウォ
ームギヤー使用 赤経
・赤緯目盛付き



特価42,000円
(送料1,500円)

●UFOシリーズ

MOP双眼鏡

規格・性能 倍率16倍
対物レンズ有効径50mm
実視界3.7度 ひとみ径
3.1mm 重さ1,020g
付属品 ハードケース
保証書 使用説明書



超ワイドで明かるい!
UFO観測に最高!

16×50
特価11,500円
(送料800円)

全機種特価

6×30 8,500円
8×30 8,800円
7×35 9,300円
7×50 10,500円
10×50 11,000円
12×50 11,300円
16×50 11,500円
20×50 11,800円

●ミクロンシリーズ

MOP双眼鏡

ポケットにピッタリ!



8×20 特価14,000円(送料800円)
10×40 特価17,000円(送料800円)

8×20
規格・性能()内は10×40
倍率8倍(10倍)対物レ
ンズ有効径20mm(40mm)
実視界5.5度(7.1度)ひ
とみ径2.5mm(4mm)重さ
265g(500g)付属品ソ
フトケース(ハードケ
ース)

光学製品のパイオニア!

ご注文方法

広告価格はすべて現金価格です。ご注文の場合は品名
住所・氏名を明記し、現金書留でお申し込み下さい。

あて先

〒193 東京都八王子市小比企町2957-9 ☎0426-25-7941(代表)
(株)インテル 光学事業部UFO係

当社製品の販売代理店を募集します。当社まで資料をご請求下さい。またこの広告につい
てのお問い合わせは当社・調査室(TEL0426-25-7941)まで電話でお願い致します。

カタログ無料進呈

当社全製品満載のカタ
ログ・双眼鏡の入門手びき
一式を無料で差し上げます
下の請求券をはってお
申し込み下さい。

カタログ請求券
UF-016

望遠鏡

初めての人はこちらだ!!

★扱いやすく、便利なズーム式 (30~90倍連続可変)
 ★地上の観測や天体 (月、星座) の観測ができる万能型
 ★持ちはこびが簡単な小型卓上用型式

レンズは本格的
 60%アクロマート使用



●クレーターもバッテリー
 入門者向天体の観測にも



●地上用としては最高!
 ビックリするくらい
 大きく見える!

注文番号82-691
ニコルスR-6098

〔価格〕
 分割払価格
 2,800円×8回
 現金払価格
 20,000円千共



7倍と14倍
 一生の宝になる!

ZM-14 注文番号83-014
高級ズーム双眼鏡

初めて望遠鏡を扱う方に本格的な天体の観測はかなりむずかしいものです。そのため入門者向けに、扱いがカンタンで付属品のいらない望遠鏡をえらびました。地上用としてはレジャーを始め、いろいろの観測に使い、又天体としても月や彗星などの観測に充分な高倍率が得られる用途の広いものです。性能も口径60%のアクロマートレンズ、ラックピニオン式のピント調整など本格的なもの。そしてワンタッチで倍率が変化するズームの迫力はバグンです。

〔定 格〕
 口径60%アクロマートセミコーティング、倍率30~90倍連続可変でズーム式、鏡筒直径63%、三脚上下調整付金属製、重量1.5kg、全長630%

スポーツ観戦に…… 彗星発見のガイドに……
 ショー観劇に…… 自然界の観察に……

ズームだから万能に使える!

ワンタッチレバーで映像の倍率が7倍から14倍まで連続してわかるこの迫力!自由自在なこのズームによって、そのときその状態に応じていろいろに使いわけができる本格的最高級ズーム双眼鏡ノ一台備えて一生の愛機となるでしょう。

〔定 格〕
 倍率7~14倍ズーム、レンズ有効径35%、実視界4.40~3.10、明るさ25~6.25、ひとみ径2.5~5、高さ135%、横巾175%、重量825g、付属品・携帯用ハードケース、レンズキャップ、ベルト及びシリコンクロス

月づきわずか(分割払金) 2,500円×10回
 ●分割払価格25,000円 (支払期間10ヵ月)
 ●現金払価格23,000円 (支払回数10回)

お申し込み方法

- 右図のようにハガキに書いてお申込みくだされば現品をお送りします。
- 品物をたしかめ、気に入りましたら5日以内に第1回目の分割払金をお送りください。
- もし、品物が気に入らないときは、そのまま5日以内に返品してくだされば代金はおりません。

郵便はがき

東京〒113 3
 東京都小岩3
 私書箱48号局
 ニコー技研
 L係

●品名
 ●住所
 ●氏名印
 ●年齢
 ●電話番号
 ●保護者のしよ名と印

※20歳未満の方が注文するときは、保護者のしよ名と印が必要です。
 ※気に入らないときの返品送料だけはご負担願いますのでご諒承ください。

電話注文は、東京03(659)8531 ニコー技研L係へ

まず品物を見てからきめて下さい。気に入らなければお返し下さい(5日以内)

お申込みは ↓ はがきで気軽に

初回金 $\frac{1}{10}$ でおて均等10ヵ月払



ご不満のときは交換・解約・返金自由

注文番号82-001
ニコルスMS-1149
114反射型、経緯台
上下水平微動付
月つきわずか
3,000円!

**人気
第1位**

【定 格】
対物主鏡 114mmアル
ミナイズ済、焦点距
離900mm、集光力265
倍、分解能1.00秒、
極限等級12.0等星

【附属品】
接眼レンズHM6(1
50倍)、HM12.5(72
倍)、6×24ファイ
ンダー、サングラ
ス、木製三脚、
フレキシブルハ
ンドル1個

初回金3,000円 千1,500円
分割払金(月)3,000円×9回
分割払価格30,000円
現金払価格26,000円

注文番号82-002
ニコルスMK-1149
114反射型、赤道儀式
本格反射型!

【定 格】
対物主鏡 114mmアル
ミナイズ済、焦点距
離900mm、集光力265
倍、分解能1.00秒、
極限等級12.0等星

【附属品】
接眼レンズHM6(150
倍)、HM12.5(72倍)、
HM20(45倍)星野写
真雲台付6×24ファ
インダー、サングラ
ス、ムーングラス、
木製三脚、バランス
ウエイト2個、フレキ
シブルハンドル2個

初回金5,500円 千1,500円
分割払金(月)5,500円×9回
分割払価格55,000円
現金払価格49,500円

双眼鏡大特価セール中!

注文番号83-016

サターン16

16倍双眼鏡
16×50mm

【定 格】
対物有効径……50mm
倍 率……16倍
実 視 界……3.5°
明 る さ……9.6
ひとみ 径……3.8
重 量……1050g

初回金3,500円 千800円
分割払金(月)1,000円×10回



分割払価格13,500円
現金払価格12,000円

注文番号83-020

サターン20

グリーンと
せまって
すごい迫力

【定 格】
実視界3°、倍率20倍
明るさ6.3、有効径50mm
重さ1050g

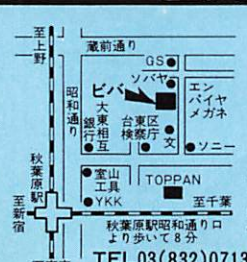


初回金3,800円 千800円
分割払金(月)1,000円×10回
分割払価格13,800円
現金払価格12,300円

ニ光カタログハウスチェーン
営業時間 AM10:00-PM7:00

ビバ店

（印鑑をご持参下さい）
帰りのOK！
来店下さい。初回金をお持ち
販売中！お急ぎの方は、展
告の商品はビバ店にて展



ビバ光電店 秋葉原店
年中無休

TEL03(832)0713

今すぐのご注文は

- ご注文番号か品名を紙に書いて、月賦は初回金と送料を現金書留封筒でお送り下さい。
- 一時払いは同じ方法で現金価格と送料をお送り下さい。

あて先

〒133・東京都小岩局48号
ニコー技研(株)
74係

カタログのお申込は

只今無料進呈中
商品をよりくわしく知りたい方は、カタログをお申込み下さい。下記のカタログ進呈券をハガキのうらにはってお送り下さい。無料でお送りいたします。



カタログ進呈券74係

〒133 東京都江戸川区南小岩 3-7-10 **ニコー技研 74係** 03(650)0405

(苦情相談) この広告についての商品未着や商品苦情は、ご遠慮なく申し出下さい。東京都江戸川区西小岩3-31-11 新井ビル2Fニコー消費者相談室 ☎03(672)8558

高性能精密器ニコルス

お求めやすい均等／分割クレジット

たしかな品質・合理的良心価格

扱いやすい短焦点

【定格】

対物レンズ60mmアクロマート、焦点距離500mm、集光力73倍、分解能1.93秒、極限等級10.7等星

【付属品】

接眼レンズHM6(83倍)、HM12.5(40倍)、HM20(25倍)、星野写真雲台付6×24ファインダー、天頂プリズム、サングラス、ムーングラス、木製三脚2段台、バランスウエイト2個、フレキシブルハンドル2個

注文番号82-606

ニコルスRK-6050

60%屈折型、赤道儀式

初回金4,400円 円1,000円
分割払金(円)4,400円×9回
分割払価格44,000円
現金払価格38,800円

注文番号82-613

ニコルスRJ-6092A

60%屈折型、上下微動装置付

【定格】

対物レンズ60mmアクロマート、焦点距離900mm、集光力73倍、分解能1.93秒、極限等級10.7等星

【付属品】

接眼レンズSR4(225倍)、HM12.5(73倍)、5×24ファインダー、天頂プリズム、サングラス、木製三脚

入門者に
圧倒的人気

初回金1,950円 円900円
分割払金(円)1,950円×9回
分割払価格19,500円
現金払価格16,500円

注文番号82-615

ニコルスRS-6091A

60%屈折型、経緯台

【定格】

対物レンズ60mmアクロマート、焦点距離900mm、集光力73倍、分解能1.93秒、極限等級10.7等星

【付属品】

接眼レンズHM6(152倍)、HM12.5(73倍)、5×24ファインダー、天頂プリズム、サングラス、木製三脚、フレキシブルハンドル1個

上下・水平
微動

初回金2,300円 円900円
分割払金(円)2,300円×9回
分割払価格23,000円
現金払価格20,000円

注文番号82-611

ニコルスR-6070S

〈サンスクリーン付〉鏡筒のブレが少ない700mm焦点、扱いやすいストレート型サンスクリーン

【定格】

対物レンズ60mmアクロマート、焦点距離700mm、集光力73倍、分解能1.93秒、極限等級10.7等星

【付属品】

接眼レンズH6、H12.5、5×24ファインダー、三脚、サンスクリーン、天頂プリズム

入門者
向き
地上用にも
便利

初回金1,780円 円800円
分割払金(円)1,780円×9回
分割払価格17,800円
現金払価格16,000円

注文番号82-617

ニコルスRK-6091A

60%の赤道儀の標準型

【定格】対物レンズ60mmアクロマート、焦点距離900mm、集光力73倍、分解能1.93秒、極限等級10.7等星

【付属品】

接眼レンズHM6(152倍)、HM12.5(73倍)、HM20(45倍)星野写真雲台付5×24ファインダー、天頂プリズム、サングラス、ムーングラス、木製三脚2段式、バランスウエイト2個、フレキシブルハンドル2個

初回金4,500円 円1,000円
分割払金(円)4,500円×9回
分割払価格45,000円
現金払価格39,800円

★本誌バックナンバー

(第9号までの旧題が「コスモ」)

★わが国唯一の《空飛ぶ円盤》専門誌「UFOと宇宙」は今や世界のトップクラスを行く専門誌！ 全国のUFOファンに大反響！ ★バックナンバーは貴重な記事と写真の宝庫！ 品切れ後はすべて絶版となる。在庫あるうちにぜひ入手し、UFO研究資料として保存しよう！ 今すぐユニバース出版社業務部へ直接注文しよう！
★1・2・3・4・5・6号は売切れ、絶版。7号・8号は残部僅少！

送料1冊¥160 2~3冊¥200 4~6冊¥240 注・郵便料金値上げのため送料が左記のとおり変更になりました。

第8号(1974年9月発売) ¥330

●マンテル大尉の悲劇 荒井欣一 ●イタリアの不思議な小人出現事件 セルジオ・コンティニ ●千葉県に出現した大型円盤 ●ネス湖における悪魔ばらいの儀式とUFO着陸 ●天体オーラと宇宙電界の謎 内田秀男 ●宇宙・引力・空飛ぶ円盤(3) レナード・クランプその他

第9号(1974年11月発売) ¥400

●UFOによる米軍機追跡事件 別冊 ●スペインに出現した円盤と乗員 ●ジョージ・アダムスキーはまだ影を投げかけている！ ●ゴードン・クレイトン ●地震の謎をにぎるマンテル対流！ 竹内均 ●宇宙・引力・空飛ぶ円盤(4) レナード・クランプその他 特大号

第10号(1975年1月発売) ¥360

●銀色の服を着た宇宙人 高梨純一 ●科学を曲げる男、ユリ・ゲラー ●ゴードン・クレイトン ●月世界の謎を探る 宮本正太郎 ●NASAの活動とその未来 中村政雄 ●宇宙・引力・空飛ぶ円盤(5) レナード・クランプその他

第11号(1975年3月発売) ¥360

●月面は円盤の中継基地か 重沢潤一郎 ●ニューヨーク州の着陸事件 テッド・フリーチャー ●UFO情報 ●UFO目撃レポート ●1980年代の宇宙連絡船 河島信樹 ●アダムスキー型円盤、尾道市に出現！ ●宇宙・引力・空飛ぶ円盤(完) レナード・クランプその他

第12号(1975年5月発売) ¥360

●甲府市にUFO着陸！ ●オーストリアの光るカタツムリ状物体 ●ベルギー ●古代の天空人 エーリッヒ・フォン・デンニケ ●UFO情報 ●UFO目撃レポート ●科学ニュース ●重力波とは何か 千葉二郎 ●ソ連圏のUFO現象(1) シベリアの謎の大爆発 その他

第13号(1975年7月発売) ¥360

●千葉市にアダムスキー型円盤出現！ ●円盤に乗った宇宙人を見た！ ●炎をふく不思議な物体 ●UFO情報 ●UFO目撃レポート ●宇宙通信のためのテレパシ通信 市村俊彦 ●中学生にもわかる微分積分(1) 三好要市 ●ソ連圏のUFO現象(2) ルーマニアのUFO出現事件 その他

第14号(1975年9月発売) ¥390

●円盤をよく見る人 ●私は金星文字を解読した！ パシル・バン・デン・バーグ ●マルセル・オム教授の不思議な発見物 ●大気圏外生命体とのコンタクト？ ●実在する超感覚と念力 ●中学生にもわかる微分積分(2) ●ソ連圏のUFO現象(3) 「ユーゴスラビアのUFO出現騒動」 その他

第15号(1975年11月発売) ¥390

●ステラ・ランシング夫人の不思議な写真 ●ドラギニャンの怪事件 ●フルムントンの奇怪な口占 ●UFO情報 ●聖書の予言とスペース・プログラム(1) ●原子エネルギーの秘密 ●中学生にもわかる微分積分(3) ●ソ連圏のUFO現象(完)(続) ルーマニアのUFO出現事件 その他

豪華版 わが国最初の《空飛ぶ円盤》写真集

UFO写真集

—第①集—

絶賛発売中！ カメラでとらえた驚異の記録！
¥1300 千300

戦後世界各地で目撃され、日本にもひんばんに出現して重要問題となった神秘的飛行物体の正体は？ 全国のUFOファンの要望にこたえてUFO研究界の第一人者久保田八郎が和英両文で解説 ★世界のめずらしい貴重な写真の集大成 ★カラー写真21点、白黒写真33点・大画面 ★ワイドな画面からグーッとくる迫真感！ ★A4版(21cm×29.7cm)・極上アート紙使用 ★美麗カバー付き豪華版・長期保存可能

バインダー

荷造1~2個 ¥350
送料3~4個 ¥700
☆☆☆ ¥400 ☆☆☆
●1カ年6冊分一括保存用必需品
●極厚手紙紙、布装、表面背共金文字箔押。本社宛直接ご注文下さい。

■当社刊行物が書店にない場合は、振替・現金書留・小為替・低額切手等で当社宛直接ご注文下さい(収入印紙は不可)。代金あと払いの注文はおことわりします。
■最近、住所不明で返送される郵便物が増えています。ご注文の際は必ず郵便番号・住所(アパート名なども記入のこと)・氏名・電話番号・注文品名・号数・冊数を明記して下さい。ユニバース出版社

●UFO目撃報告と写真募集
UFO(未確認飛行物体)の目撃報告と写真募集します。左に掲げた各項目を参考に、なるべく正確な詳細な報告をお送り下さい。掲載された分には薄謝を呈しします。写真の場合は、できればネガもいっしょにお送り下さい。ただし本誌に掲載後に偽作であることが判明してトランプが生じた場合、本誌は一切の責任を負いませんので、その点をあらかじめご了承ください。その他、各種新聞雑誌などに掲載されたUFO関係の記事・写真類の切抜きも歓迎します。

●UFO目撃報告用参考事項
(1)目撃者住所氏名(できれば本人の写真も添える)・年齢、職業(学生の方は学校名・学年)・電話番号(匿名を希望の場合は本名明記の上、その旨を付記すること) 同時目撃者の有無、その他。
(2)目撃場所(地名、付近略図、時刻、天候、目撃継続時間、その他)。
(3)物体(飛行物体の形(スケッチを添えること)、大きさ、色、その他)。
(4)飛行状態(仰角、方向、飛行中の形態の変化、飛行中の色の変化、飛行中の光度の変化、推定速度及び高度、その他)。
(5)観測機器(使用の場合はその機器名、性能その他を付記する)。
(6)撮影用具(カメラを使用の場合はカメラ名、使用フィルム、レンズ名、絞り、シャッタースピードその他のデータ)を付記する。

注意)UFO目撃報告に添付された写真は、信憑性の高いものにのみ掲載いたしますから、厚目の白い紙に黒インクか黒ボールペンを使用して描いてください。(ケイの印した便箋紙は不可) 送り先 東京都台東区秋葉原三の三、ユニバース出版社UFO資料調査部 アキバビル

●UFO関係記事の原稿も募集
四百字詰原稿用紙(四〇枚)四〇枚まで。採用分には稿料をさしあげます。

Across the Editor's Desk

★あけましておめでとうございます。本誌も創刊以来三年目にはいり、ますます充実してまいりました。今年はずっと驚くような企画の実現化をめざして社内一同張りきっています。ご声援をお願いいたします。

★「三原市の驚異コンタクト事件」は本誌が放つ大ヒット！ 深遠な問題を含んだすばらしい記事です。あの不思議な宇宙人の言葉を解読した方は原稿をお送りください。優秀な内容ならば本誌に掲載し、規定の稿料をさしあげます。

★本号は記事がふえたために連載ものは次号より掲載します。ご期待ください。

★「UFO目撃レポート」は次号より報告者の手になる図面をそのまま載せることにしましたので、添付図面は黒インクか黒ボールペン等できれいに描いてください。

★日本にUFOが集中しているかのような噂、遠くから宇宙に重大な現象が発生するのでは、警戒すべきはそのために起こる混乱です。本誌読者はあわてず騒がず、冷静に科学的に成行きを分析してゆこうではありませんか。(K)

UFOと宇宙 一九七六年二月号 第16号

編集発行人 久保田八郎
発行所 株式会社ユニバース出版社
〒110東京都台東区秋葉原三の三 アキバビル
電話(2555) 8784(代表)

振替 東京11119478
印刷所 大日本印刷株式会社
昭和五二年二月一日発行
(隔月刊・奇数月一〇日発売)
定価三九〇円・送料共三三〇〇円
年々め講読料・送料共三三〇〇円
(地方の書店で入手できない場合は本社へ直接ご注文下さい)

●本誌掲載記事・写真の無断転載を禁じます。
●海外の記事はすべて翻訳転載権取得済。

スリーピーチUFOシリーズ

・UFOシリーズは正立像です。天体用(倒立像)はUFOシリーズより価格が安く成ります。

No.MTZ40S アクロマートレンズ
口径 40mm
倍率 ズーム変倍
15×~40×
¥9,000
送料 ¥600
(¥7,200)



No.ST60A-UFO アクロマートレンズ
D60mm F800mm
倍率 100×
44×
上下微動装置
特価 ¥18,000
送料 ¥1,000
〔天体地上兼用〕
性能 1.93秒・10.7等星・73倍



No.ST63A-UFO アクロマートレンズ
D60mm F1,000mm
倍率 125× 55×
上下微動装置
特価 ¥19,500
送料 ¥1,000
〔天体地上兼用〕
性能 1.93秒・10.7等星・73倍



ビクトリー701-UFO アクロマートレンズ
D60mm F700mm
倍率 114× 56×
上下微動装置
水平微動装置
特価 ¥25,800
送料 ¥1,200
〔天体地上兼用〕
性能 1.93秒・10.7等星・73倍



No.ST67A-UFO アクロマートレンズ
D60mm F1,000mm
倍率 125× 50×
上下微動装置
水平微動装置
特価 ¥30,500
送料 ¥1,200
〔天体地上兼用〕
性能 1.93秒・10.7等星・73倍



グレートビクトリー700-UFO
屈折赤道儀 アクロマートレンズ
D60mm F700mm
倍率 117× 56×
経緯微動装置
経緯目盛環
特価 ¥35,800
送料 ¥1,200
〔天体地上兼用〕
性能 1.93秒・10.7等星・73倍



No.ST1000-UFO アクロマートレンズ
屈折赤道儀
D60mm F1000mm
倍率 167× 80×
40×
経緯微動装置
経緯目盛環
特価 ¥43,800
送料 ¥1,500
〔天体地上兼用〕
性能 1.93秒・10.7等星・73倍



No.SST600 アクロマートレンズ
屈折赤道儀
D60mm F910mm
倍率 150× 73×
45×
経緯微動装置
経緯目盛環
特価 ¥42,000
送料 ¥2,000
〔天体地上兼用〕
性能 1.93秒・10.7等星・73倍



No.SST76 アクロマートレンズ
屈折赤道儀
D76mm F910mm
倍率 151× 73×
36×
経緯微動装置
経緯目盛環
特価 ¥55,000
送料 ¥2,000
〔天体地上兼用〕
性能 1.5秒・11.2等星・118倍



No.SST80 アクロマートレンズ
屈折赤道儀
D76mm F1,250mm
倍率 208× 100× 50×
経緯微動装置
経緯目盛環
特価 ¥62,000
送料 ¥2,000
〔天体地上兼用〕
性能 1.5秒・11.2等星・118倍



プリズム双眼鏡(アクリルマートレンズ・ケース付)

← **No.SB1030** 倍率10× D30mm
特価 ¥8,000 送料 ¥500

← **No.SB1050**
倍率 10× D50mm
特価 ¥11,000 送料 ¥600

← **No.SB2050**
倍率20× D50mm
特価 ¥12,000 送料 ¥600

← **No.KB3070**
特大型高さ26cm
倍率30× D70mm
特価 ¥33,000 送料 ¥1,000



()内は学生特価
くわしくは 切手180円
同封の上、総合
カタログNo.12
お申込み下さい

屈折式望遠鏡
反射式望遠鏡
望遠鏡部品
双眼鏡
顕微鏡
〒121東京都足立区
平野3-7-17
K.K.スリーピーチ
サービスセンター
UFO係



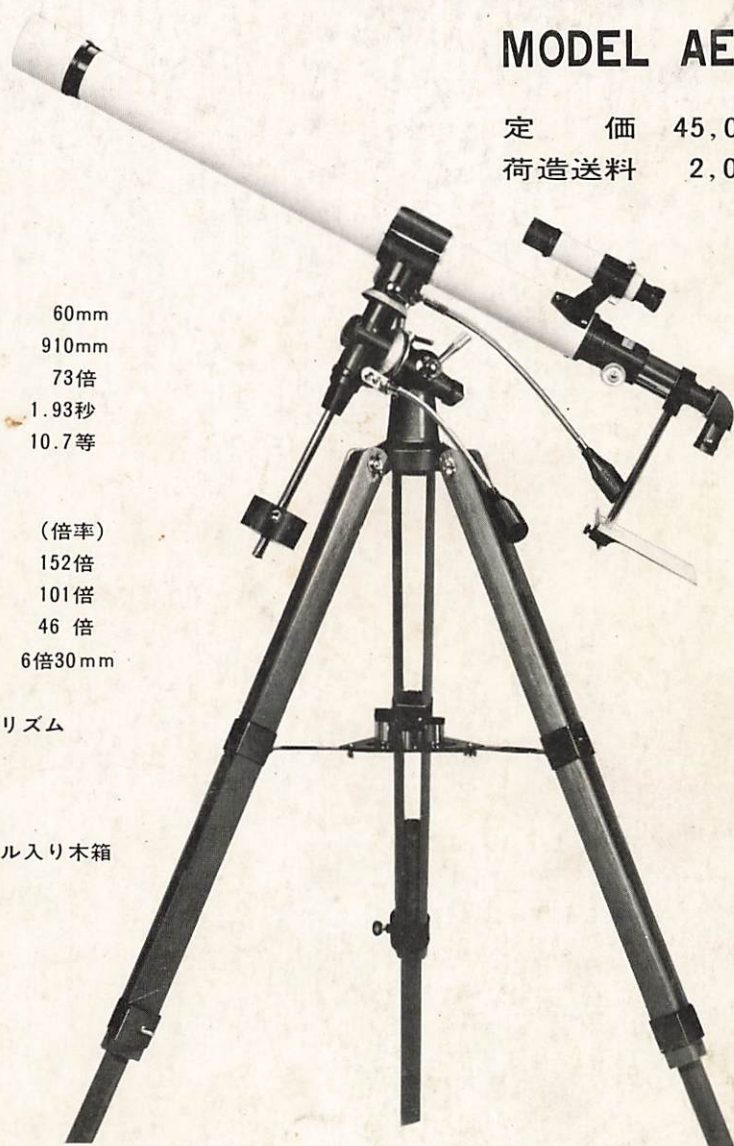
サテライト天体望遠鏡

60mm屈折赤道儀

MODEL AE-61

定 価 45,000円
荷造送料 2,000円

ヤマモトの天体望遠鏡は海外で絶賛を博しております



●光学的性能

有効径	60mm
焦点距離	910mm
集光力	73倍
分解能	1.93秒
極限等級	10.7等

●付 属 品

接 眼 鏡	(倍率)
HM-6mm	152倍
HM-9mm	101倍
H-20mm	46倍
ファインダー	6倍30mm
天頂プリズム	
地上用正立プリズム	
太陽投影板	

格 納 箱

発泡スチロール入り木箱

メーカーからユーザーへ！
通信販売のお知らせ！

●上記の他各種あります。詳しくは115円切手同封の上カタログをU係へ御請求下さい。

株式
会社

山本製作所

東京都板橋区大原町5-3
電話 966-2408 郵便番号 174